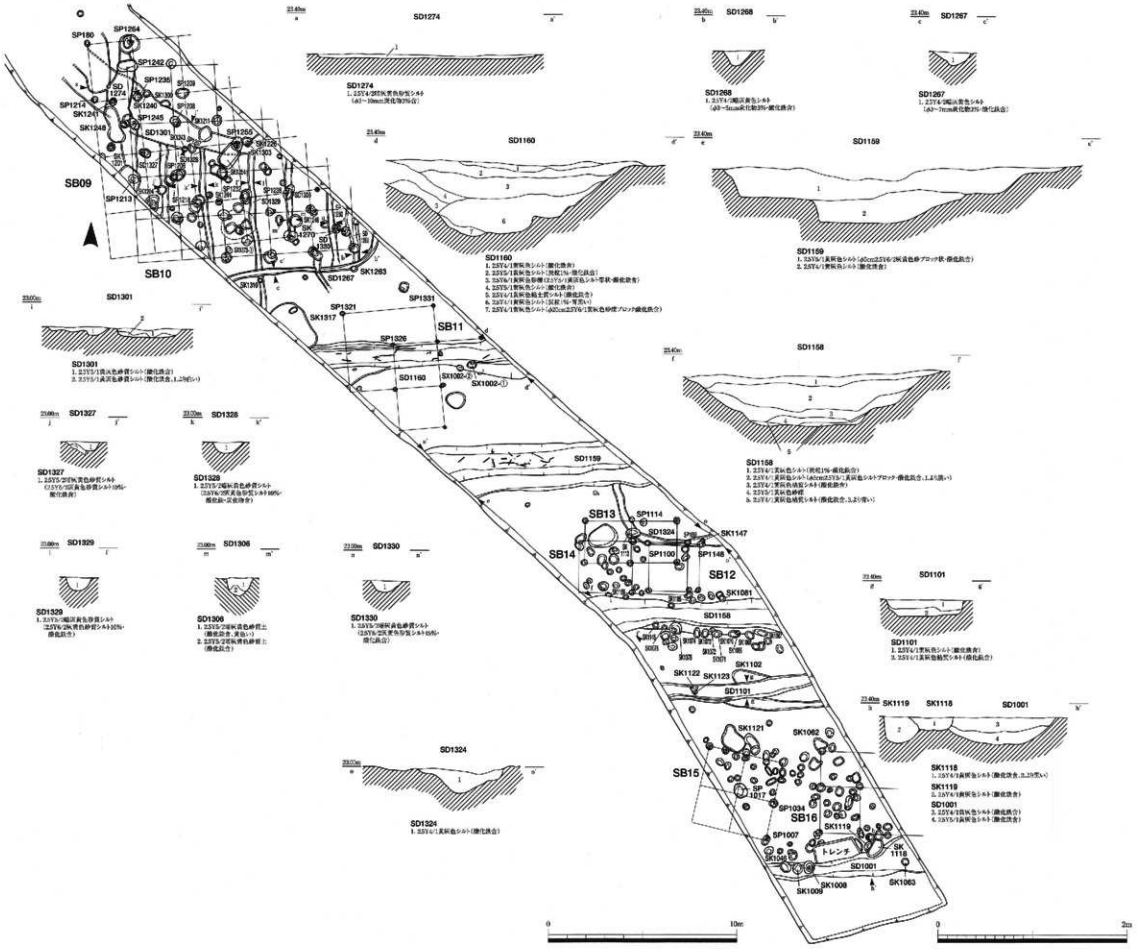
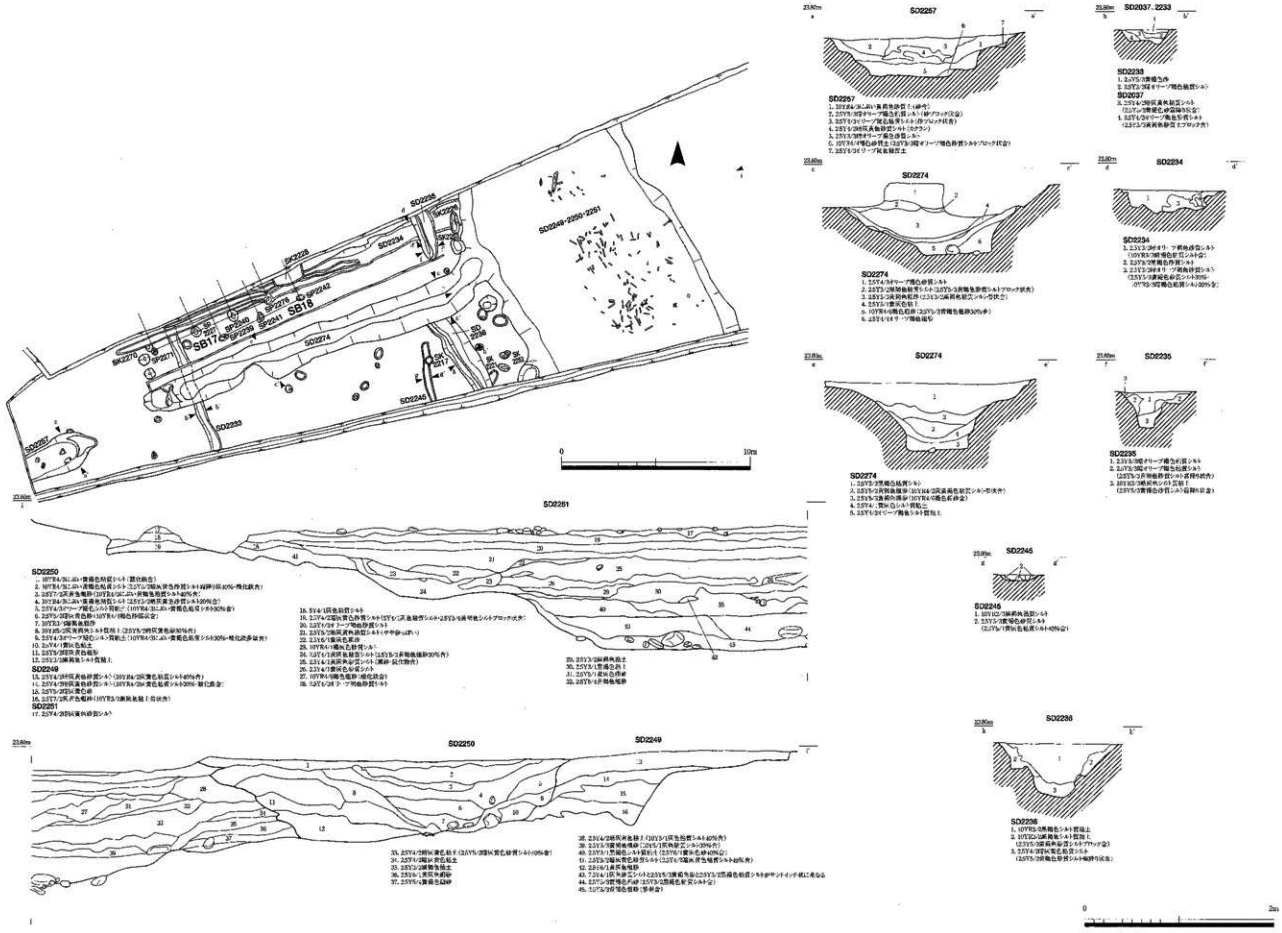


第96図　遺構実測図

SD1274　SD1268　SD1267　SD1160　SD1159　SD1158　SD1101　SK1119　SK1118　SD1001
SD1301　SD1327　SD1328　SD1329　SD1306　SD1330　SD1324



第97図　遺構実測図

SD2257　SD2233　SD2274　SD2234　SD2235　SD2245　SD2236　SD2251　SD2249　SD2250

混入する土である。

1324号溝（ＳＤ1324、第96図）

Ｅ１地区中央に位置する。北から東へ屈曲する溝で、北はＳＤ1159に切られ、東は調査区外へ延びる。切り合いからＳＤ1159・ＳＰ1100・1148（ＳＢ12）・ＳＰ1114（ＳＢ13）・ＳＰ1098（ＳＢ14）・ＳＫ1113・1147より古い。幅50cm、深さ28cm。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。

2257号溝（ＳＤ2257、第97図）

Ｆ１地区西に位置する。西側は調査区外へ延びている。幅200cm、深さ57cm。埋土はにぶい黄色砂質土や暗オリーブ褐色、オリーブ褐色など7層に分けられる。

2233号溝（ＳＤ2233、第97図）

Ｆ１地区内に位置する。南北方向に流れる溝で、切り合いからＳＤ2234・2274より古い。北側、南側とも調査区外へ延びている。中世後期には同じ場所にＳＤ2037が流れている。幅60cm、深さ17cm。埋土は上層の暗灰黄色粘質シルトに黄褐色砂が混入する土と、下層のオリーブ褐色砂質シルトに黄褐色砂質土が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

2274号溝（ＳＤ2274、第97図）

Ｆ１地区中央に位置する。東西方向の溝で、東側のＳＤ2249・2250・2251に流れ込んでいる。中世後期には同じ場所にＳＤ2237が流れているため上層の南側は削られている。幅216cm、深さ56cm。埋土はオリーブ褐色や黄褐色の土で、6層に分けられる。切り合いからＳＤ2233・2236より新しい。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

2234号溝（ＳＤ2234、第97図）

Ｆ１地区中央に位置する。東西方向に流れる溝で、切り合いからＳＤ2235・ＳＫ2226・2228より古く、ＳＰ2240（ＳＢ17）、ＳＤ2233より新しい。幅170cm、深さ25cm。埋土は暗オリーブ褐色砂質シルトに暗褐色粘質シルトが混入する土や黒褐色砂質シルトなど3層に分かれる。

2235号溝（ＳＤ2235、第97図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向に流れる溝で、切り合いからＳＤ2234より新しい。幅120cm、深さ27cm。埋土は基本的に上層の暗オリーブ褐色粘質シルトと下層の暗褐色シルト質粘土に分けられる。遺物は珠洲が出土している。

2245号溝（ＳＤ2245、第97図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北に走る溝。南側は調査区外へ延びている。切り合いからＳＫ2217よりも古い。幅41cm、深さ13cm。埋土は上層の黒褐色粘質シルトと下層の黄褐色砂質シルトに黄灰色粘質シルトが混入する土とに分けられる。

2236号溝（ＳＤ2236、第97図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向に流れる溝で、北はＳＤ2274に切られ、南は調査区外へ延びている。切り合いからＳＤ2274より古く、ＳＫ2221より新しい。幅182cm、深さ61cm。埋土は基本的に上層の黒褐色シルト質粘土と下層の暗灰黄色粘質シルトに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

2251号溝（ＳＤ2251、第97図、図版52・53）

Ｆ１地区東に位置する。南北方向の溝で、西からＳＤ2251・2250・2249が一条となって検出された。切り合いからＳＤ2250より古い。幅1010cm、深さ111cm。埋土は黄灰色土や黒褐色土で29層に分けら

れる。遺物は土師器、中世土師器・珠洲・白磁、越中瀬戸・白磁・伊万里、砥石・舟形木製品・棒状・箸などの木製品、クリ・モモ・トチノキなどの種子が出土している。舟形木製品や箸は身の穢れを乗せて運ぶもの、斎串の代用として祭祀に使われたのではないかという例があることから、ＳＤ2251で祭祀が行われた可能性が考えられる。

2250号溝（ＳＤ2250、第97図、図版52・53）

Ｆ１地区東に位置する。南北方向に流れる溝で、切り合いからＳＤ2249・2251より新しい。幅380cm、深さ101cm。埋土はにぶい黄褐色土や暗灰黄色土で13層に分けられる。遺物は土師器、中世土師器・珠洲・八尾、越中瀬戸が出土している。

2249号溝（ＳＤ2249、第97図、図版52・53）

Ｆ１地区東に位置する。南北方向に流れる溝で、切り合いからＳＤ2250より古い。幅233cm、深さ75cm。埋土は基本的に暗灰黄色砂で４層に分けられる。遺物は珠洲が出土している。

土坑

418号土坑（ＳＫ418、第98図）

ＳＢ02の南側に位置する。切り合いからＳＤ411より新しい。楕円形で長径82cm、短径43cm、深さは27cmである。埋土は単層で黒褐色粘土質シルトににぶい黄色シルトと炭が混入する土である。

401号土坑（ＳＫ401、第98図）

ＳＤ411南側に位置する。楕円形を呈し、長径55cm、短径36cm、深さは15cmである。埋土は上層は黄灰色粘土質シルトに褐色粒とにぶい黄色シルトが混入する土で、下層は黒褐色シルトににぶい黄色シルトと褐色粒が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

406号土坑（ＳＫ406、第98図）

ＳＤ411南側に位置する。円形を呈し直径60cm、深さ22cmである。埋土は基本的に黄灰色シルトに褐色粒とにぶい黄色シルトと炭が混入する土で２層に分かれる。

404号土坑（ＳＫ404、第98図）

ＳＤ411南側に位置する。楕円形を呈し、長径76cm、短径51cm、深さ18cmである。埋土は上層は黄灰色粘土質シルトに暗褐色粒が混入する土で、下層は上層よりやや明るい黄灰色粘土質シルトに黄褐色シルトが混入する土である。

405号土坑（ＳＫ405、第98図）

ＳＤ411南側に位置する。楕円形を呈し長径53cm、短径42cm、深さ10cmである。埋土は単層で黄灰色砂質シルトに暗褐色粒と黄灰色ブロックと炭が混入する土である。

396号土坑（ＳＫ396、第98図）

ＳＤ411南側に位置する。円形を呈し、直径60cm、深さ30cmである。埋土は黄灰色粘土質シルトににぶい黄色シルトが混入する土と黄灰色粘土質シルトに褐色粒が混入する土である。

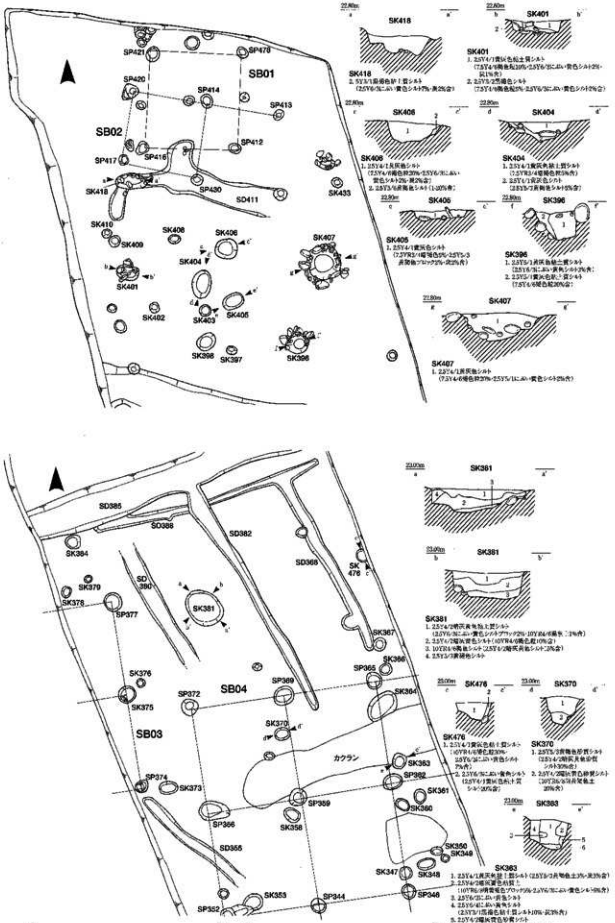
407号土坑（ＳＫ407、第98図）

ＳＤ411南側に位置する。円形を呈し、直径91cm、深さ29cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに褐色粒とにぶい黄色シルトが混入する土である。

381号土坑（ＳＫ381、第98図）

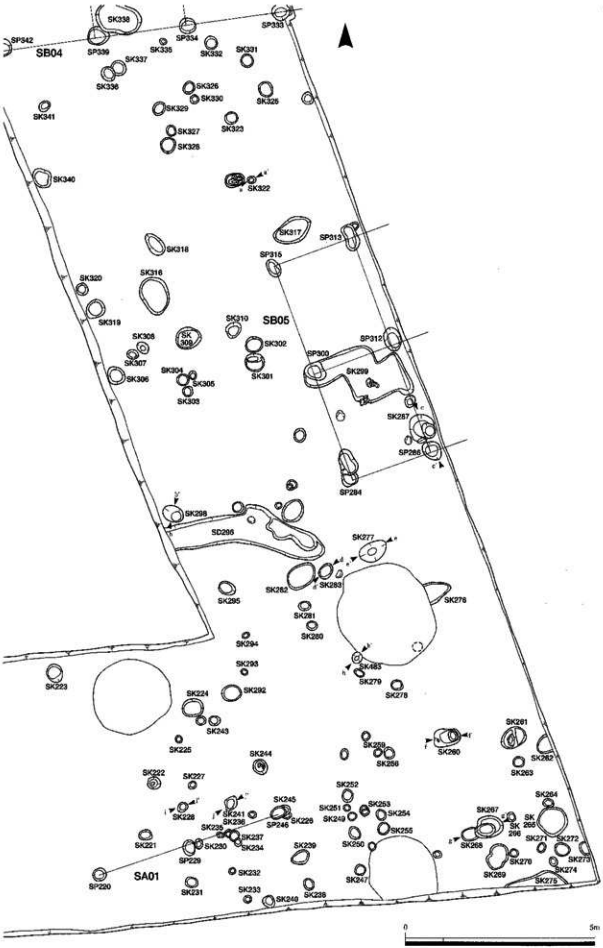
ＳＤ380とＳＤ382の間に位置する。円形を呈し、直径105cm、深さ29cmである。埋土は基本的に上層は暗灰黄色シルトで下層が褐色シルトである。

476号土坑（ＳＫ476、第98図）



第98図　遺構実測図

SK418　SK401　SK406　SK404　SK405　SK396　SK407　SK381　SK476　SK370　SK363


SB04
SB05
SA01
SP342
SP339
SK338
SK335
SP334
SK332
SP333
SK331
SK337
SK336
SK326
SK330
SK325
SK329
SK341
SK327
SK323
SK328
SK340
SK322
SK317
SP313
SK318
SP315
SK320
SK316
SK319
SK310
SK308
SK309
SK302
SP312
SK307
SP300
SK304
SK301
SK299
SK306
SK305
SK303
SK287
SP286
SP284
SK298
SD296
SK277
SK282
SK283
SK295
SK276
SK281
SK280
SK294
SK293
SK483
SK279
SK223
SK278
SK224
SK292
SK243
SK261
SK225
SK259
SK260
SK262
SK244
SK256
SK263
SK222
SK227
SK252
SK264
SK245
SK251
SK253
SK228
SK241
SK254
SK267
SK236
SK226
SK249
SK266
SK235
SK246
SK255
SK237
SK271
SK272
SK221
SK230
SK234
SK239
SK250
SK268
SK273
SK229
SK270
SK274
SK232
SK269
SK247
SK275
SP220
SK231
SK233
SK238
SK248
0
5m

第99図　遺構実測図

ＳＤ368の東に位置し、東半分が調査区壁にかかっている。直径37cm、深さ23cmである。埋土は黄灰色粘土質シルトに褐色粒とにぶい黄色シルトが混入する土と、にぶい黄色シルトに黄灰色粘土質シルトが混入する土の２層に分かれる。遺物は白磁が出土している。

370号土坑（ＳＫ370、第98図）

ＳＢ04内に位置する。円形を呈し、直径40cm、深さは36cmである。埋土は上層は黄褐色砂質シルトに暗灰黄色砂質シルトが混入した土で、下層は暗灰黄色砂質シルトに明黄褐色土が混入した土である。

363号土坑（ＳＫ363、第98図）

ＳＢ04内に位置する。円形を呈し、直径42cm、深さ51cmである。埋土は基本的には黄灰色粘土質シルトに黄褐色土が混入した土で、暗灰黄色土やにぶい黄色シルトなど６層に分かれる。

322号土坑（ＳＫ322、第99・100図）

ＳＢ05北に位置する。円形を呈し、直径19cm、深さ15cmである。埋土は黄灰色シルトに灰黄色シルトが混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

298号土坑（ＳＫ298、第99・100図）

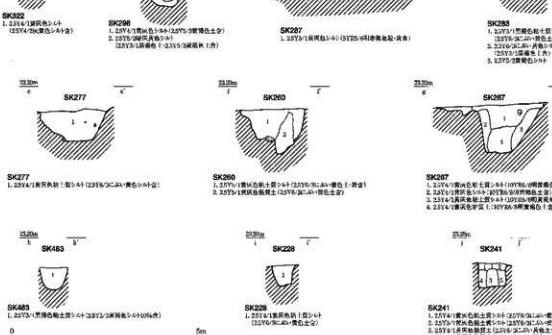
ＳＤ296の北に位置する。楕円形を呈し、長径55cm、短径35cm、深さ25cmである。埋土は上層が黄灰色シルトに黄褐色土が混入する土で下層が暗灰黄色シルトに黒褐色土と黄灰色土が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

287号土坑（ＳＫ287、第99・100図）

ＳＢ05内に位置する。円形を呈し、直径64cm、深さ26cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに明赤褐色粒と炭が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

283号土坑（ＳＫ283、第99・100図）

ＳＤ296の南に位置する。楕円形を呈し、長径40cm、短径31cm、深さ13cmである。埋土は黒褐色粘



第100図　遺構実測図

SK322　SK298　SK287　SK283　SK277　SK260　SK268　SK267　SK483　SK228　SK241

土質シルトににぶい黄色土が混入した土とにぶい黄色シルト黒褐色土が混入した土と黄褐色シルトの3層に分かれる。遺物は中世土師器が出土している。

277号土坑（SK277、第99・100図）

SD296東に位置する。楕円形を呈し、長径71cm、短径51cm、深さ59cmである。埋土は単層で黄灰色粘土質シルトににぶい黄色シルトが混入する土である。

260号土坑（SK260、第99・100図）

SA01東に位置する。不整形を呈し、長径68cm、短径47cm、深さ49cmである。埋土は2層に分かれ、真ん中に黄灰色粘質土ににぶい黄色土が混入した土、その周りに黄灰色粘土質シルトににぶい黄色土と炭が混入した土があり、真ん中の部分には柱状のものがあったと推測できる。

267号土坑（SK267、第99・100図）

SA01東に位置する。楕円形を呈し、長径76cm、短径58cm、深さ49cmである。切り合いからSK268より新しい。埋土は基本的に上層の黄灰色粘土質シルトに明黄褐色土と炭が混入する土と下層の黄灰色粘質土に明黄褐色土が混入する土で、4層に分けられる。

483号土坑（SK483、第99・100図）

SD296南に位置する。東側は中世後期のSE23に切られる。円形を呈し、直径29cm、深さ23cmである。埋土は単層で黒褐色粘土質シルトに黄褐色シルトが混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

228号土坑（SK228、第99・100図）

SA01北に位置する。円形を呈し、直径28cm、深さ31cmである。埋土は単層で黄灰色粘土質シルトににぶい黄色土が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

241号土坑（SK241、第99・100図）

SA01北に位置する。不整形を呈し、直径34cm、深さ34cmである。埋土は基本的に黄灰色粘土質シルトににぶい黄色土が混入する土と、黄灰色粘質土ににぶい黄色土が混入する土で、5層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

449号土坑（SK449、第101図）

SB06南に位置する。円形を呈し、直径30cm、深さ9cmである。埋土は基本的に黄灰色粘土質シルトににぶい黄色シルトと炭が混入する土で2層に分かれる。遺物は中世土師器が出土している。

441号土坑（SK441、第101図）

SB06東に位置する。不整形を呈し、長径133cm、短径55cm、深さ29cmである。埋土は基本的に上層の黄灰色粘土質シルトににぶい黄色シルトが混入する土と下層の黒褐色粘質土ににぶい黄色シルトが混入する土で3層に分かれる。遺物は中世土師器が出土している。

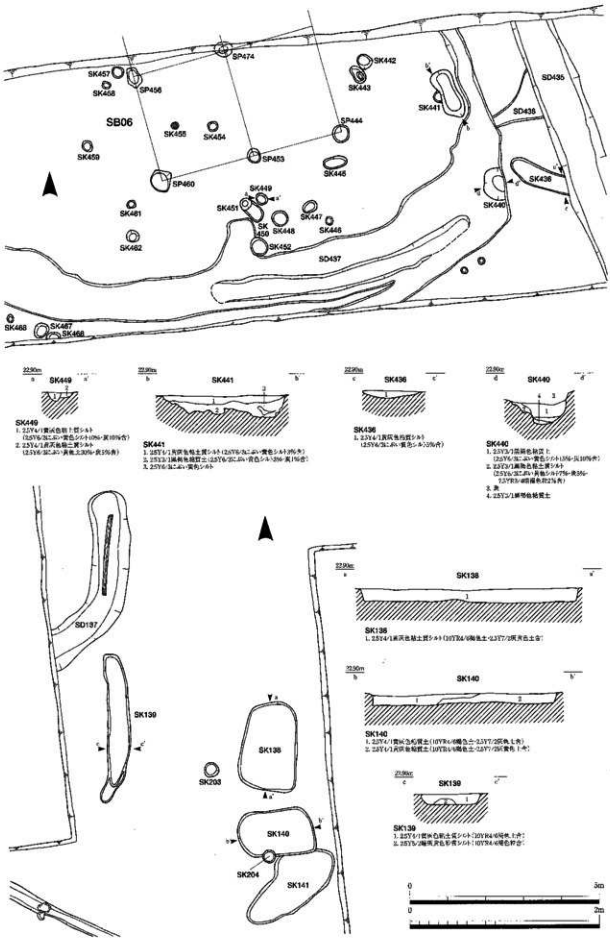
436号土坑（SK436、第101図）

SD437とSD435の間に位置する。切り合いからSD435より古い。楕円形を呈し、長さはSD435に切られているためわからないが、幅は58cm、深さは8cmである。埋土は単層で黄灰色粘土質シルトににぶい黄色シルトが混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

440号土坑（SK440、第101図）

SD437内に位置する。楕円形を呈し、長径は86cm、深さ27cmである。埋土は基本的に黒褐色粘質土ににぶい黄色シルトと炭が混入する土で、4層に分かれる。遺物は鉄滓と種子が出土している。

138号土坑（SK138、第101図）



第101図　遺構実測図

SK449　SK441　SK436　SK440　SK138　SK140　SK139

ＳＤ137東に位置する。不整形を呈し、長径240cm、短径155cm、深さ17cmである。埋土は単層で黄灰色粘土質シルトに褐色土と灰黄色土が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

140号土坑（ＳＫ140、第101図）

ＳＫ138南に位置する。切り合いからＳＫ204より古く、ＳＫ141より新しい。楕円形を呈し、長径203cm、短径124cm、深さ13cmである。埋土は黄灰色粘質土に褐色土と灰黄色土が混入する土で、２層に分けられる。

139号土坑（ＳＫ139、第101図）

ＳＤ137南に位置する。楕円形を呈し、長径392cm、短径62cm、深さ14cmである。埋土は上層の黄灰色粘土質シルトに褐色土が混入する土と下層の暗灰黄色砂質シルトに褐色粒が混入する土に分けられる。

194号土坑（ＳＫ194、第102図）

ＳＢ08西に位置する。西側は調査区壁にかかっている。直径104cm、深さ33cmである。埋土は上層の黒褐色砂質土に炭が混入する土と下層の黒褐色砂質土に暗灰黄色土と炭が混入する土との２層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

183号土坑（ＳＫ183、第102図）

ＳＢ08西に位置する。切り合いからＳＫ481より新しい。西側は調査区壁にかかっている。直径175cm、深さ109cmである。埋土は黒褐色シルトと暗灰黄色シルト、黄灰色シルトの３層に分かれる。遺物は中世土師器と砥石が出土している。

481号土坑（ＳＫ481、第102図）

ＳＢ08西に位置する。切り合いからＳＫ183より古い。西側は調査区壁にかかっている。調査区内で確認できる範囲で長さ625cm、深さ60cmである。埋土は基本的には黄灰色粘土質シルトに褐色土と炭が混入する土と黒褐色粘土に褐色粒と炭が混入する土と黒褐色粘土質シルトに黄褐色シルトが混入する土の３層に分けられる。

184号土坑（ＳＫ184、第102図）

ＳＢ08内に位置する。円形を呈し、直径50cm、深さ39cmである。埋土は基本的に黄灰色粘土質シルトで５層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

202号土坑（ＳＫ202、第102図）

ＳＢ08西に位置する。円形を呈し、直径45cm、深さ27cmである。埋土は上層の黒褐色シルトに黄色土が混入した土と下層の黄灰色シルトに褐色土と黒褐色土が混入した土に分けられる。遺物は砥石が出土している。

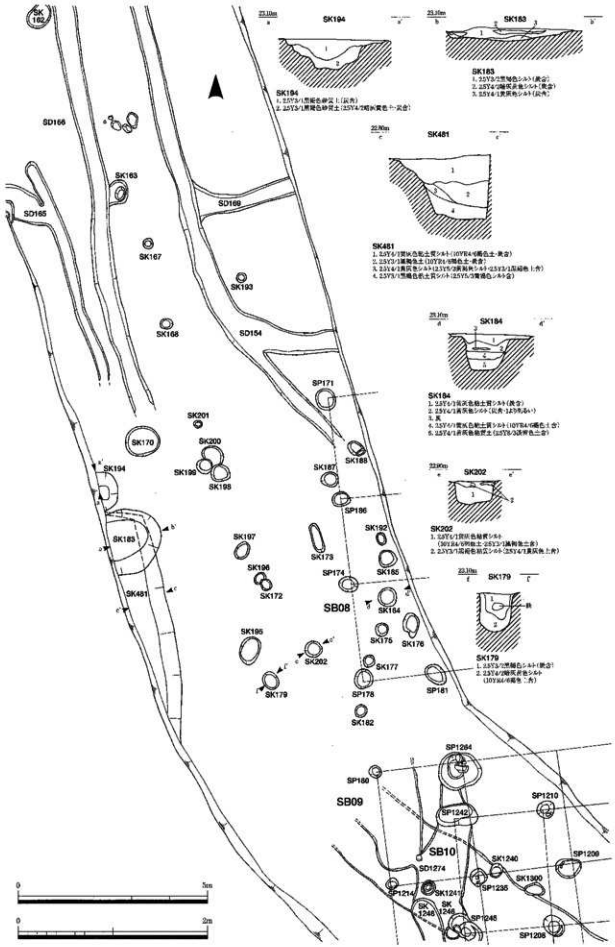
179号土坑（ＳＫ179、第102図）

ＳＢ08西に位置する。円形を呈し、直径47cm、深さ49cmである。埋土は上層の黒褐色シルトに炭が多量に混入する土と下層の暗灰黄色シルトに褐色土が混入する土とに分けられる。遺物は鉄滓が出土している。

1247号土坑（ＳＫ1247、第103図）

ＳＤ1301内に位置する。切り合いからＳＫ1246より古く、ＳＤ1301より新しい。直径40cm、深さ８cmである。埋土は単層で暗灰黄色シルトににぶい黄色土が混入する土である。遺物は鉄滓が出土している。

1211号土坑（ＳＫ1211、第103図）



第102図　遺構実測図

SK194　SK183　SK481　SK184　SK202　SK179

ＳＢ09・10内に位置する。切り合いからＳＤ1301より新しい。楕円形を呈し、長径86cm、短径70cm、深さ29cmである。埋土は上層の暗オリーブ褐色シルトに炭化物が混入した土と下層の暗灰黄色シルトに酸化鉄が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

1254号土坑（ＳＫ1254、第103図）

ＳＢ09・10内に位置する。切り合いからＳＰ1255（ＳＢ09）、ＳＤ1301より新しい。不整形を呈し、短径85cm、深さ14cmである。埋土は上層の暗灰黄色シルトに炭化物と焼土が混入する土と下層の暗灰黄色粘質シルトに焼土が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器と炉壁が出土している。

1220号土坑（ＳＫ1220、第103図）

ＳＢ09・10内に位置する。切り合いからＳＰ1219（ＳＢ10）より古く、ＳＫ1302より新しい。円形を呈し、直径59cm、深さ７cm。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。

1221号土坑（ＳＫ1221、第103図）

ＳＢ09・10内に位置する。円形を呈し、直径33cm、深さ22cm。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1305号土坑（ＳＫ1305、第103図）

ＳＢ09・10内に位置する。切り合いからＳＰ1233（ＳＢ10）より古い。埋土は基本的に黄灰色シルトで３層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

1201号土坑（ＳＫ1201、第103図）

ＳＢ09・10内に位置する。切り合いからＳＰ1213（ＳＢ10）より新しい。西側は調査区壁にかかっている。確認できる範囲で長径は131cm、深さ14cmである。埋土は単層で黒褐色シルトに炭化物と酸化鉄が混入する土である。遺物は白磁が出土している。

1236号土坑（ＳＫ1236、第103図）

ＳＤ267北に位置する。切り合いからＳＰ1237（ＳＢ10）より新しい。楕円形を呈し、長径65cm、短径60cm、深さ12cmである。埋土は暗灰黄色シルトに酸化鉄が混入した土と黒褐色粘質シルトに分けられる。遺物は中世土師器と鉄滓と羽口が出土している。

1259号土坑（ＳＫ1259、第103図）

ＳＢ09・10内に位置する。切り合いからＳＰ1258（ＳＢ10）より古い。深さは17cmである。埋土は単層で暗灰黄色シルトに炭化物と酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1263号土坑（ＳＫ1263、第103図）

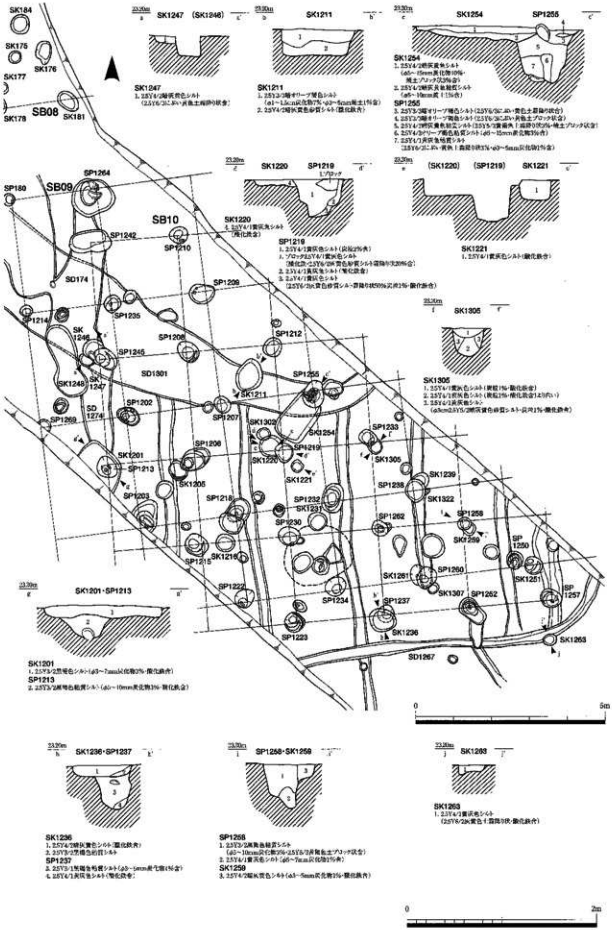
ＳＢ09・10南に位置する。切り合いからＳＤ1267より新しい。円形を呈し、直径36cm、深さ10cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに灰黄色土と酸化鉄が混入する土である。遺物は珠洲が出土している。

1080号土坑（ＳＫ1080、第104図）

ＳＤ1158南に位置する。切り合いからＳＫ1079より新しい。楕円形を呈し、長径34cm、短径27cm、深さ25cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1074号土坑（ＳＫ1074、第104図）

ＳＤ1158南に位置する。切り合いからＳＤ1158より新しい。楕円形を呈し、長径53cm、短径31cm、深さ16cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに炭と酸化鉄が混入する土である。遺物は土錘が出土している。



第103図　遺構実測図
SK1247　SK1211　SK1254　SP1255　SK1220　SP1219　SK1221　SK1305　SK1201　SP1213
SK1236　SP1237　SK1258　SK1259　SK1263

1073号土坑（ＳＫ1073、第104図）

ＳＤ1158南に位置する。切り合いからＳＤ1158より新しい。楕円形を呈し、長径45cm、短径35cm、深さ15cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1070号土坑（ＳＫ1070、第104図）

ＳＤ1158南に位置する。切り合いからＳＤ1158より新しく、ＳＫ1069より古い。楕円形を呈し、長径58cm、短径36cm、深さ24cmである。埋土は基本的に黄灰色シルトで２層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

1054号土坑（ＳＫ1054、第104図）

ＳＢ15内に位置する。楕円形を呈し、長径47cm、短径31cm、深さ23cmである。埋土は基本的に黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土で上下２層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

1053号土坑（ＳＫ1053、第104図）

ＳＢ15内に位置する。楕円形を呈し、長径39cm、短径28cm、深さ９cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1061号土坑（ＳＫ1061、第104図）

ＳＤ1101南に位置する。切り合いからＳＫ1121より新しい。楕円形を呈し、長径49cm、短径42cm、深さ14cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器と珠洲と鉄滓が出土している。

1059号土坑（ＳＫ1059、第104図）

ＳＤ1101南に位置する。楕円形を呈し、長径40cm、短径32cm、深さ28cmである。埋土は基本的に黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土で上下２層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

1043号土坑（ＳＫ1043、第104図）

ＳＢ15とＳＢ16の間に位置する。楕円形を呈し、長径50cm、短径45cm、深さ19cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1028号土坑（ＳＫ1028、第104図）

ＳＢ16内に位置する。円形を呈し、直径31cm、深さ27cmである。埋土は基本的に黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土で上下２層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

1128号土坑（ＳＫ1128、第104図）

ＳＢ16内に位置する。楕円形を呈し、長径46cm、短径41cm、深さ25cmである。埋土は単層でオリーブ褐色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1039号土坑（ＳＫ1039、第104図）

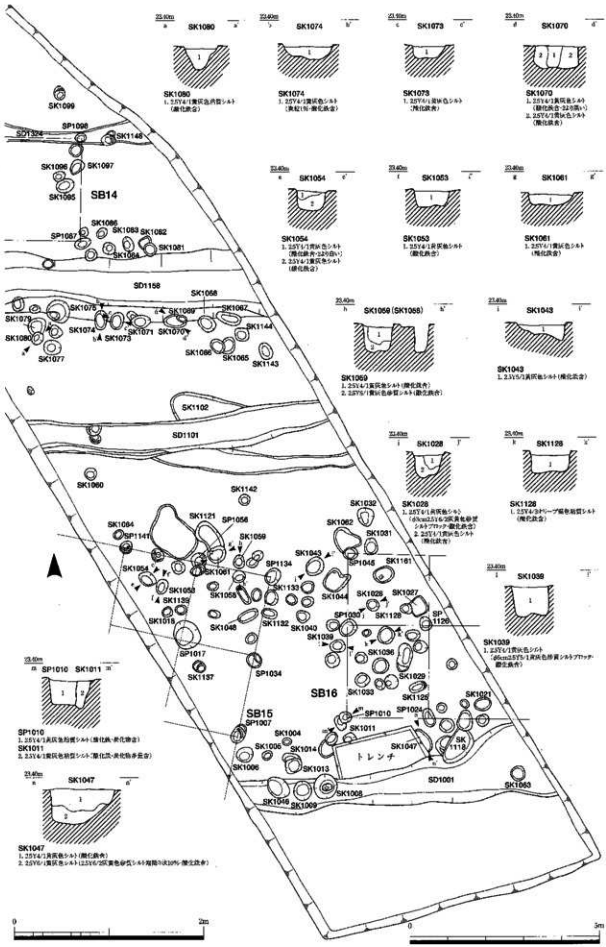
ＳＢ16西に位置する。円形を呈し、直径40cm、深さ33cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに黄灰色砂質シルトと酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1011号土坑（ＳＫ1011、第104図）

ＳＤ1011北に位置する。切り合いからＳＰ1010（ＳＢ16）より古い。楕円形を呈し、長径40cm、短径22cm、深さ30cmである。埋土は単層で黄灰色粘質シルトに酸化鉄と炭化物が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1047号土坑（ＳＫ1047、第104図）

ＳＤ1011北に位置する。西側をトレンチに削られている。確認できる範囲での長径は67cm、深さ37



第104図　遺構実測図

SK1080　SK1074　SK1073　SK1070　SK1054　SK1053　SK1061　SK1059　SK1043　SK1028
SK1126　SK1039　SP1010　SK1011　SK1047

cmである。埋土は上層の黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土と下層の黄灰色シルトに灰黄色砂質シルトと酸化鉄が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

2253号土坑（SK2253、第105図）

SD2249西に位置する。切り合いからSD2249より新しい。円形を呈し、直径68cm、深さ29cmである。埋土は上層の黒褐色粘土質シルトと下層の黄褐色粘土質シルトに黄灰色砂が混入する土に分けられる。

2256号土坑（SK2256、第105図）

SD2249西に位置する。切り合いからSK2255より新しい。不整形を呈し、長径61cm、短径47cm、深さ13cmである。埋土は基本的に暗オリーブ褐色粘質シルトで2層に分けられる。

2252号土坑（SK2252、第105図）

SD2236東に位置する。切り合いからSD2249より古い。南側は調査区壁にかかっている。確認で

第105図　遺構実測図

SK2253　SK2256　SK2252

きる範囲での長径は105cm、深さ29cmである。埋土は単層で暗オリーブ褐色粘質シルトである。

鍛冶関連遺構

1002－①号鍛冶関連遺構（ＳＸ1002－①、第106図、図版51）

ＳＤ1160内に位置する。切り合いからＳＤ1160より新しい。楕円形を呈し、長径48cm、短径40cm、深さ12cmである。埋土は上層は黄灰色シルトに黒褐色シルトと焼土と酸化鉄が混入する土で、下層は黄灰色シルトに炭と焼土が混入する土である。遺物は中世土師器、叩き石、鉄滓・砂鉄が出土している。

1002－②号鍛冶関連遺構（ＳＸ1002－②、第106図、図版51）

ＳＤ1160内に位置する。切り合いからＳＤ1160より新しい。円形を呈し、直径30cm、深さ10cmである。埋土は上層の黒色シルトに炭が混入する土と中層の黒色砂質シルトに焼土が混入する土と下層の黒色砂質シルトに焼土と酸化鉄が混入する土とに分けられる。遺物は鉄滓と砂鉄が出土している。ＳＸ1002－①とＳＸ1002－②はセットで鉄滓や砂鉄、炭化物、焼土などがみられ、製鉄関連の遺構と考えられる。

1273－①号鍛冶関連遺構（ＳＸ1273－①、第106図、図版52）

ＳＢ09・10内に位置する。不整形を呈し、長径53cm、深さ５cmである。埋土は単層で暗灰黄色シルトに炭化物が混入する土である。遺物は中世土師器と鉄滓、鍛造剥片、砂鉄が出土している。

1273－②号鍛冶関連遺構（ＳＸ1273－②、第106図、図版52）

ＳＢ09・10内に位置する。楕円形を呈し、長径60cm、短径46cm、深さ８cmである。埋土は単層で暗灰黄色シルトに炭化物と鉄滓と焼土が混入する土である。遺物は中世土師器と鉄滓、鍛造剥片、砂鉄が出土している。

1273－③号鍛冶関連遺構（ＳＸ1273－③、第106図、図版52）

ＳＢ09・10内に位置する。切り合いからＳＰ1230（ＳＢ10）より古い。直径18cm、深さ５cmである。埋土は黒色シルトに炭化物と鉄滓が混入する土と暗灰黄色砂質シルトに炭化物が混入する土とに分けられる。

1272－①号鍛冶関連遺構（ＳＸ1272－①、第106図、図版51）

ＳＢ09・10内に位置する。円形を呈し、直径62cm、深さ17cmである。埋土は上層の暗灰黄色シルトに炭化物と酸化鉄が混入する土と中層の黒色粘質シルトに炭化物と焼土と暗灰黄色土が混入する土と下層の黄灰色シルトに炭化物が混入する土とに分けられる。

1272－②号鍛冶関連遺構（ＳＸ1272－②、第106図、図版51）

ＳＢ09・10内に位置する。不整形を呈し、長径57cm、短径39cm、深さ９cmである。埋土は上層の暗灰黄色シルトに炭化物と鉄滓が混入する土と下層の黄灰色粘質シルトに炭化物と酸化鉄が混入する土とに分けられる。遺物は鉄滓が出土している。

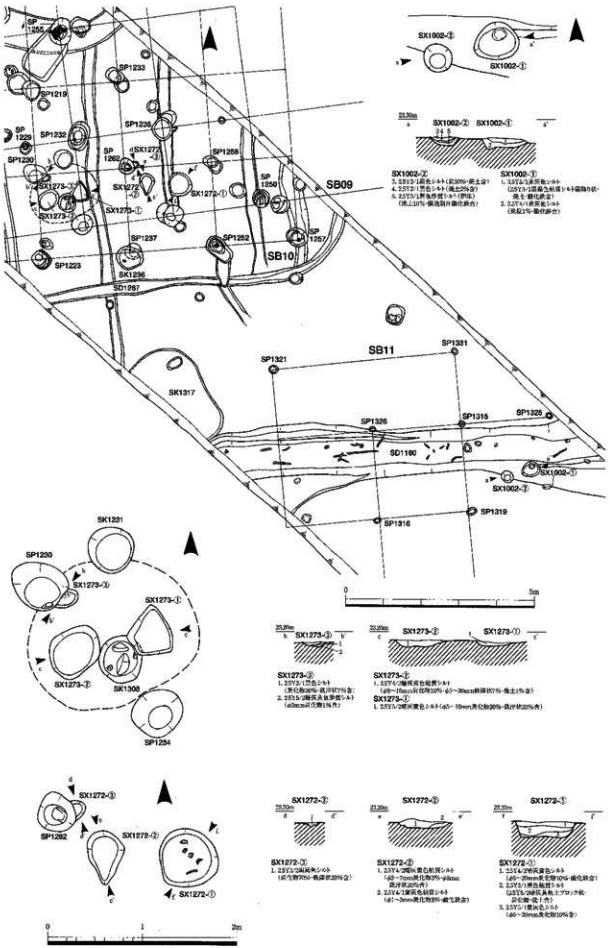
1272－③号鍛冶関連遺構（ＳＸ1272－③、第106図、図版51）

ＳＢ09・10内に位置する。切り合いからＳＰ1262（ＳＢ10）より古い。直径19cm、深さ４cmである。埋土は単層で黒褐色シルトに炭化物が混入する土である。遺物は鉄滓と砂鉄が出土している。

Ｃ　中世後期

中世後期の遺構はＥ２・Ｆ１地区で掘立柱建物６棟、溝、井戸４基、土坑、石列が検出され、Ｅ１地区では遺構は確認できなかった。

掘立柱建物



第106図　遺構実測図

SX1002-① SX1002-② SX1273-① SX1273-② SX1273-③ SX1272-① SX1272-② SX1272-③

19号掘立柱建物（ＳＢ19、第107図）

Ｅ２地区北に位置する。調査区内で確認できる範囲で南北３間、7.8mで柱間は北から2.6m、2.6m、2.6mである。東へ調査区外へ延びると思われる。建物の向きはＮ－28°－Ｗ。遺物は中世土師器（ＳＰ70）が出土している。

20号掘立柱建物（ＳＢ20、第107図）

Ｅ２地区北に位置する。調査区内で確認できる範囲で南北２間、4.6mで柱間は北から2.3m、2.3mである。東へ調査区外へ延びると思われる。建物の向きはＮ－24°－Ｗ。

21号掘立柱建物（ＳＢ21、第108図）

Ｅ２地区北に位置する。調査区内で確認できる範囲で南北２間、7.2mで柱間は北から3.6m、3.6mである。東へ調査区外へ延びると思われる。建物の向きはＮ－23°－Ｗ。遺物は中世土師器（ＳＰ57・71）が出土している。

22号掘立柱建物（ＳＢ22、第108図）

Ｅ２地区中央に位置する。南北２間、東西１間、南北3.2mで柱間は北から1.6m、1.6m、東西は３mである。ＳＫ100・101などをはさんで西側に延びる可能性がある。建物の向きはＮ－８°－Ｗ。遺物は中世土師器（ＳＰ14・17・20・22・104）、鉄製品（ＳＰ14）が出土している。

23号掘立柱建物（ＳＢ23、第109図）

Ｆ１地区西に位置する。南北２間、東西２間、南北4.9mで柱間は北から2.6m、2.3m、東西4.3mで柱間は西から2.1m、2.2mである。真ん中のＳＰ2012に対応する柱穴は北側・南側ではみられない。面積は21.1㎡である。南の２基の柱穴は平成６年度に郷中町教育委員会によって調査された範囲である。建物の向きはＮ－18°－Ｗ。遺物は珠洲（ＳＰ2144）が出土している。建物の内にＳＫ2153が検出されているが、ＳＫ2153と重なるＳＰ2012の底部がＳＫ2135の底部より高い位置にあるため、ＳＫ2153はＳＢ23より古い遺構であり、建物に伴うものではない。

24号掘立柱建物（ＳＢ24、第110図、図版57）

Ｆ１地区中央に位置する。東西３間、南北２間、東西は6.9mで柱間は西から2.4m、2.4m、2.1m、南北は4.8mで柱間は北から2.4m、2.4mである。建物の東端は間に柱穴がみられず、１間である。面積は33.1㎡である。建物の向きはＮ－20°－Ｗ。遺物は中世土師器（ＳＰ2205）、珠洲（ＳＰ2264）が出土している。ＳＢ24に重なるＳＤ2229・2230・2231・2232は検出面がＳＢ24より高く、ＳＢ24より新しい遺構である。

溝

123号溝（ＳＤ123、第111図）

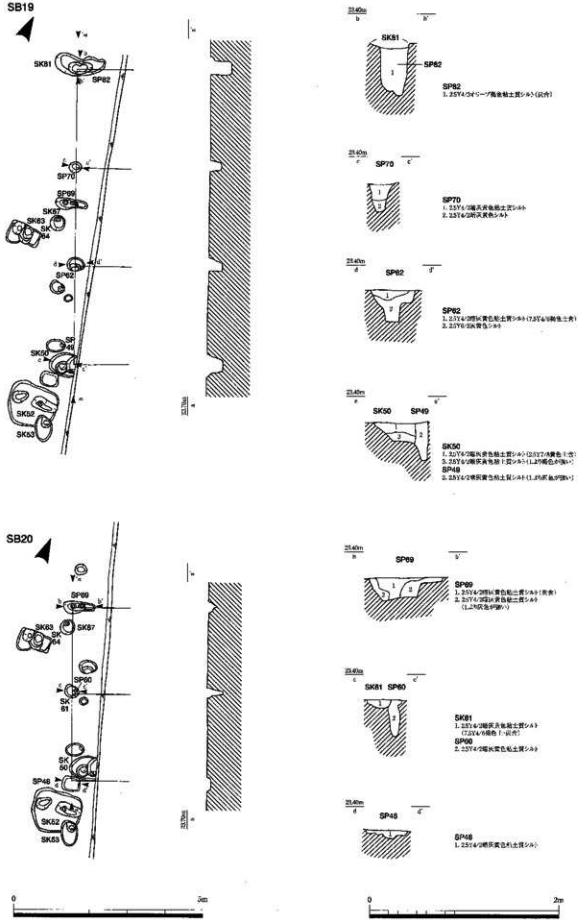
Ｅ２地区北に位置する。南北方向に走る溝で、北側、南側とも調査区外へ延びる。幅35cm、深さ８cm。埋土は単層で暗灰黄色粘質土に褐色土と黒褐色土が混入する土である。

121号溝（ＳＤ121、第111図）

Ｅ２地区北に位置する。ＳＤ123とほぼ並行に南北方向に走る溝で、北側、南側とも調査区外へ延びる。幅102cm、深さ13cm。埋土は単層で黒褐色粘質土に暗灰色土が混入する土である。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

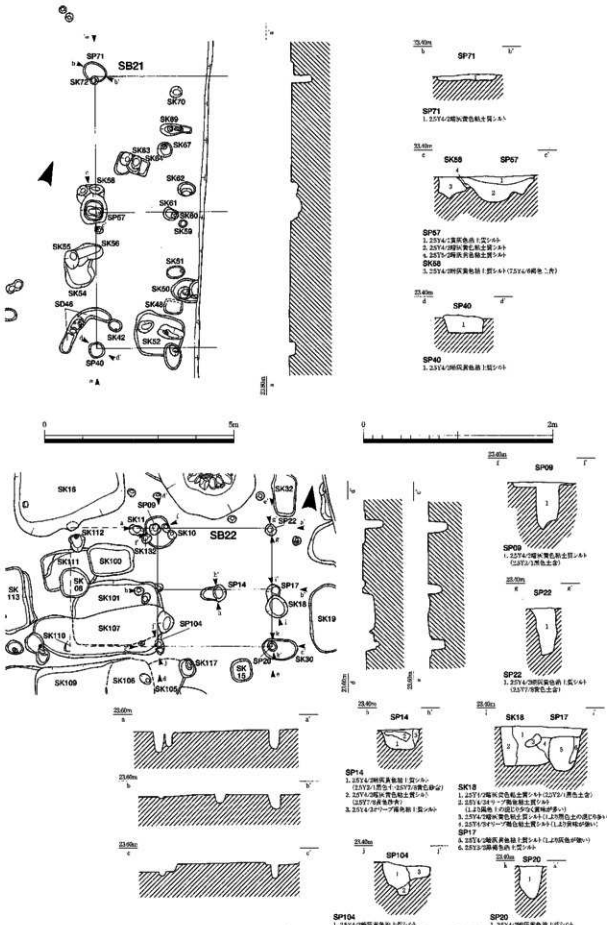
120号溝（ＳＤ120、第111図）

Ｅ２地区北に位置する。東西方向に走る溝で、切り合いからＳＤ99より古い。幅32cm、深さ19cm。埋土は単層で黒褐色粘質土に暗灰黄色土が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。



第107図　遺構実測図

SB19　SB20



第108図　遺構実測図

SB21　SB22

99号溝（ＳＤ99、第111図）

Ｅ２地区北に位置する。北から南へ延び、東側へ屈曲する溝で、北側と東側は調査区外へ延びる。幅66cm、深さ10cm。埋土は暗灰黄色シルト、灰黄色シルト、褐灰色シルトなど４層に分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

125号溝（ＳＤ125、第111図）

Ｅ２地区北に位置する。東西方向に走る溝で、南側はＳＤ98に切られる。切り合いからＳＤ98より古い。幅31cm、深さ５cm。埋土は上層の暗灰黄色粘土質シルトに黄灰色砂と炭が混入する土と下層の褐灰色粘質土に暗灰黄色粘質土と炭が混入する土とに分けられる。

126号溝（ＳＤ126、第111図）

Ｅ２地区北に位置する。東西方向に走る溝で、東側は調査区外へ延びている。幅は27cm、深さ３cm。埋土は単層で黒褐色粘土質シルトに暗灰黄色シルトと炭が混入する土である。

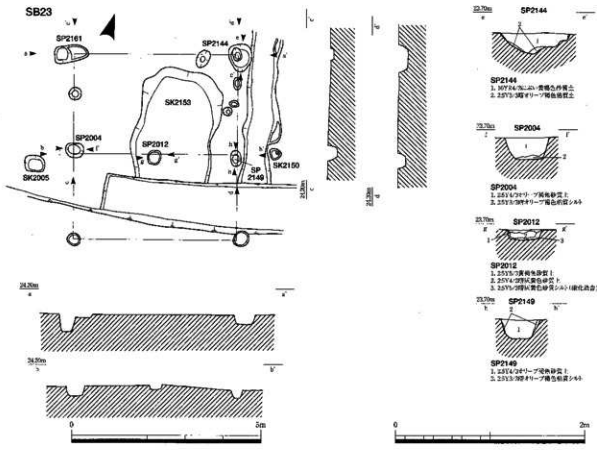
98号溝（ＳＤ98、第111図）

Ｅ２地区北に位置する。東西方向に走る溝で、東側、西側とも調査区外へ延びている。切り合いからＳＤ125より新しい。幅52cm、深さ９cm。埋土は上層の黒褐色粘土質シルトと下層のオリーブ褐色粘土質シルトに灰白色砂が混入する土とに分けられる。

124号溝（ＳＤ124、第111図）

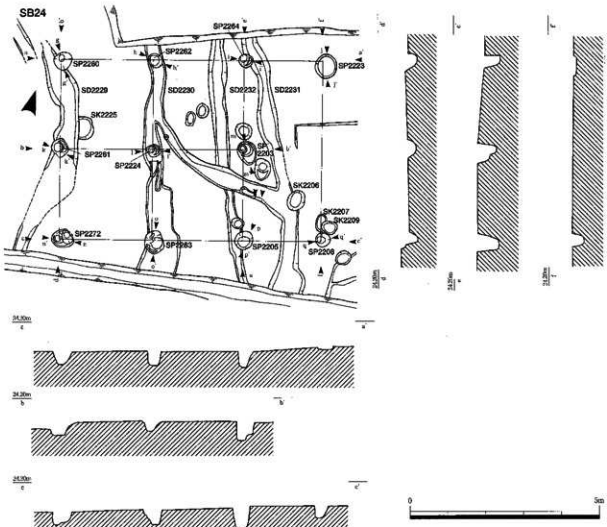
Ｅ２地区北に位置する。東西方向に走る溝で、幅30cm、深さ３cm。埋土は単層で暗灰黄色シルトに橙色土と炭が混入する土である。

96号溝（ＳＤ96、第111図）



第109図　遺構実測図

SB23



第110図　遺構実測図

SB24

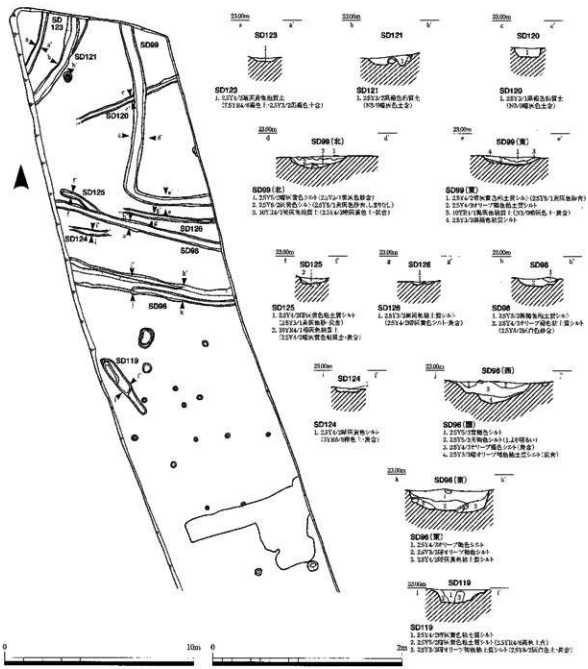
E2地区北に位置する。東西方向に走る溝で、東側、西側とも調査区外へ延びる。幅90cm、深さ27cm。埋土は黄褐色シルト、オリーブ褐色シルト、暗オリーブ褐色粘土質シルトで4層に分けられる。遺物は須恵器、中世土師器が出土している。

119号溝（SD119、第111図）

E2地区北に位置する。南北方向に走る溝。幅60cm、深さ13cmである。埋土は基本的に暗灰黄色粘土質シルトで3層に分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

03号溝（SD03、第112図）

E2地区中央に位置する。南北方向に走る溝で、北側、南側とも調査区外へ延びる。幅340cm、深さ81cm。埋土は暗灰黄色シルトや黄灰色シルトで9層に分けられる。遺物は中世土師器・珠洲・八尾・瀬戸美濃・白磁・青磁、唐津、石製品が出土している。遺物からみて中世から近世まで流れていた溝と思われる。溝を埋めるために直径20～30cm程度の石が多数投げ込まれていた。



第111図　遺構実測図

SD123　SD121　SD120　SD99　SD125　SD126　SD98　SD124　SD96　SD119

136号溝（ＳＤ136、第112図、図版55）

Ｅ２地区中央に位置する。東西方向に走る溝で、西側は調査区外へ延びる。切り合いからＳＤ135より古い。幅81cm、深さ14cm。埋土は黄灰色粘質土や黒褐色粘土で何層かに分けられる。遺物は土師器、中世土師器・珠洲が出土している。中世前期から中世後期にわたって流れていた溝と思われる。

135号溝（ＳＤ135、第112図）

Ｅ２地区中央に位置する。南北方向に走る溝で、北側は調査区外へ延びる。南側は石列（ＳＸ65）とぶつかる。幅53cm、深さ５cm。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトである。

134号溝（ＳＤ134、第112図）

Ｅ２地区中央に位置する。東西方向に走る溝で、東側、西側とも調査区外へ延びている。幅50cm、深さ11cm。埋土は単層で暗灰黄色シルトである。遺物は須恵器と中世土師器が出土している。北側の石列（ＳＸ65）はＳＤ134に沿っていることからＳＤ134に伴う遺構と考えられる。

2140号溝（ＳＤ2140、第113図）

Ｆ１地区西に位置する。南北方向に走る溝。切り合いからＳＫ2152より古く、ＳＫ2143より新しい。幅86cm、深さ20cmである。埋土は基本的にオリーブ褐色シルトである。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

2154号溝（ＳＤ2154、第113図）

Ｆ１地区西に位置する。南北方向に走る溝。長さ188cm、幅21cm、深さ２cmである。埋土は上層のにぶい黄褐色砂質土と下層の暗オリーブ褐色粘質シルトに分けられる。

2155号溝（ＳＤ2155、第113図）

Ｆ１地区西に位置する。南北方向に走る溝。長さ253cm、幅31cm、深さ７cmである。埋土は単層でにぶい黄褐色砂質土である。

2156号溝（ＳＤ2156、第113図）

Ｆ１地区西に位置する。南北方向に走る溝。長さ184cm、幅22cm、深さ４cmである。埋土は単層でオリーブ褐色粘質シルトである。

2139号溝（ＳＤ2139、第113図）

Ｆ１地区西に位置する。南北方向に走る溝。南側はＳＫ2135に切られている。切り合いからＳＫ2135より古い。幅100cm、深さ17cm。埋土はオリーブ褐色砂質シルトと明黄褐色砂とオリーブ褐色粘質シルトの３層に分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

2157号溝（ＳＤ2157、第113図）

Ｆ１地区西に位置する。南北方向に走る溝。平行に走るＳＤ2158・2159・2160とともに畑の可能性がある。長さ157cm、幅25cm、深さ４cmである。埋土は上層のにぶい黄褐色砂質土と下層の暗灰黄色粘質土に酸化鉄が混入する土とに分けられる。

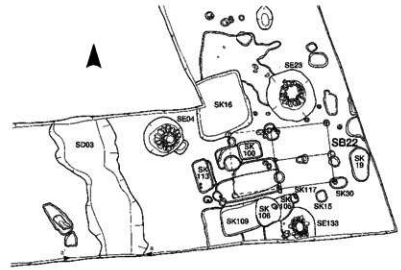
2158号溝（ＳＤ2158、第113図）

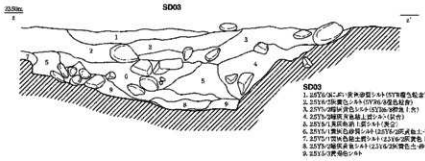
Ｆ１地区西に位置する。南北方向に走る溝。長さ114cm、幅25cm、深さ５cmである。埋土は単層でにぶい黄褐色砂質土である。

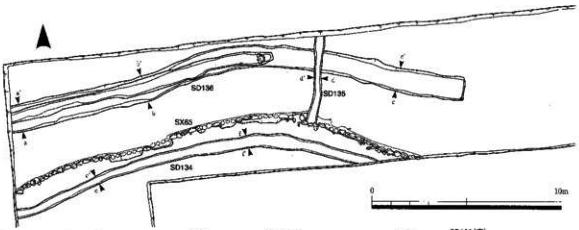
2159号溝（ＳＤ2159、第113図）

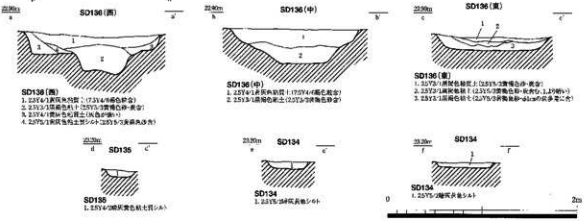
Ｆ１地区西に位置する。南北方向に走る溝。長さ97cm、幅17cm、深さ４cmである。埋土は単層でにぶい黄褐色砂質土である。

2160号溝（ＳＤ2160、第113図）



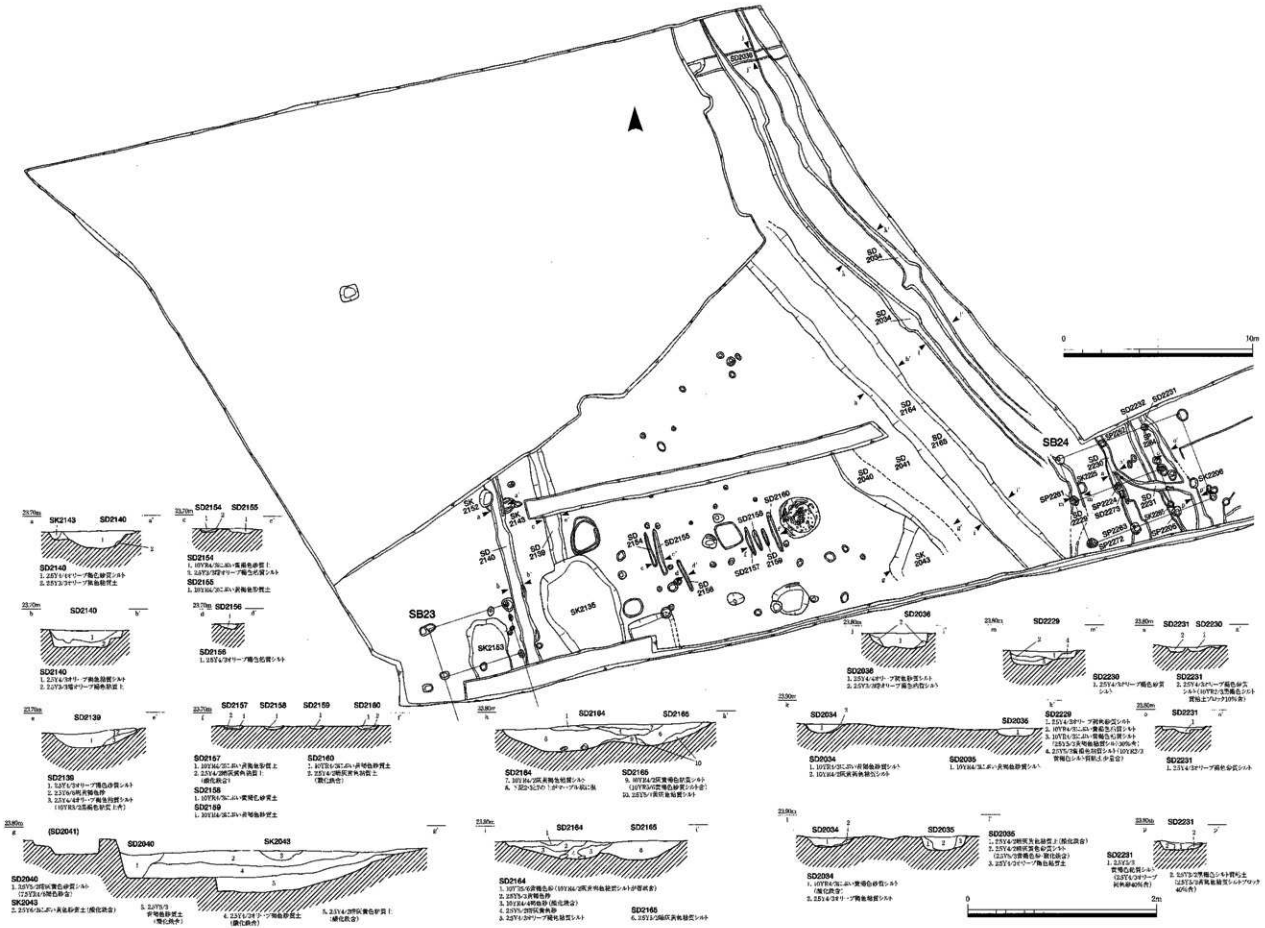






第112図　遺構実測図

SD03　SD136　SD135　SD134　SX65


SB23
SB24
SD2039
SD2034
SD2035
SD2036
SD2229
SD2230
SD2231
SD2232
SD2233
SD2234
SD2235
SD2236
SD2237
SD2238
SD2239
SD2240
SD2241
SK2135
SK2163
SK2206
SK2207
SK2208
SK2209
SK2210
SK2211
SK2212
SK2213
SK2214
SK2215
SK2216
SK2217
SK2218
SK2219
SK2220
SK2221
SK2222
SK2223
SK2224
SK2225
SK2226
SK2227
SK2228
SP2261
SP2262
SP2263
SP2264
SP2265
SP2266
SP2267
SP2268
SP2269
SP2270
SP2271
SP2272
SP2273
SP2274
SP2275
SP2276
SP2277
SP2278
SP2279
SP2280
SP2281
SP2282
SP2283
SP2284
SP2285
SP2286
SP2287
SP2288
SP2289
SP2290
SP2291
SP2292
SP2293
SP2294
SP2295
SP2296
SP2297
SP2298
SP2299
SP2300

Ｆ１地区西に位置する。南北方向に走る溝。長さ220cm、幅25cm、深さ３cmである。埋土は上層のにぶい黄褐色砂質土と下層の暗灰黄色粘質土に酸化鉄が混入する土とに分けられる。

2040号溝（ＳＤ2040、第113図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向に走る溝。南は平成６年度の婦中町教育委員会による調査のＳＤ104につながる。東側はＳＤ2041に切られる。切り合いからＳＤ2041より古く、ＳＫ2043より新しい。深さは21cm。埋土は単層で、暗灰黄色砂質シルトに褐色砂が混入する土である。

2164号溝（ＳＤ2164、第113図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向に走る溝。南は平成６年度の婦中町教育委員会によって行われた調査でのＳＤ106につながる。ＳＤ2165と重なり、切り合いからＳＤ2165よりも新しい。深さ21cm。埋土は黄褐色や褐色の砂やシルトなどで７層に分けられる。

遺物は須恵器、中世土師器・珠洲・青磁、越中瀬戸が出土している。

2165号溝（ＳＤ2165、第113図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向に走る溝。南は平成６年度の婦中町教育委員会による調査のＳＤ106につながる。ＳＤ2164と重なり、切り合いからＳＤ2164よりも古い。深さ25cm。埋土は基本的に暗灰黄色粘質シルトで３層に分けられる。遺物は須恵器、中世土師器・珠洲が出土している。

2036号溝（ＳＤ2036、第113図）

Ｆ１地区北に位置する。東西方向に走る溝。切り合いからＳＤ2034・2035よりも古い。幅70cm、深さ17cmである。埋土は上層のオリーブ褐色砂質シルトと下層の暗オリーブ褐色粘質シルトに分けられる。遺物は珠洲が出土している。

2034号溝（ＳＤ2034、第113図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向に走る溝で北は調査区外へ延びる。切り合いからＳＤ2036より新しい。幅104cm、深さ18cm。埋土は基本的ににぶい黄褐色砂質シルトで３層に分けられる。遺物は中世土師器・珠洲、唐津・伊万里、砥が出土している。

2035号溝（ＳＤ2035、第113図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向に走る溝で北は調査区外へ延びる。切り合いからＳＤ2036より新しい。幅145cm、深さ30cm。埋土はにぶい黄褐色砂質シルトや暗灰黄色砂質シルトで４層に分けられる。遺物は中世土師器・珠洲、磁器が出土している。

2229号溝（ＳＤ2229、第113図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向の溝で切り合いからＳＰ2260・2261（ＳＢ24）、ＳＫ2225より新しい。幅77cm、深さ15cm。埋土はオリーブ褐色砂質シルトやにぶい黄褐色粘質シルトで４層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

2231号溝（ＳＤ2231、第113図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向の溝で、北側は２条に分かれる。切り合いからＳＫ2206よりも古く、ＳＰ2264（ＳＢ24）、ＳＤ2232よりも新しい。幅90cm、深さ９cm。埋土はオリーブ褐色砂質シルトや黄褐色粘質シルトで３層に分けられる。

2230号溝（ＳＤ2230、第113図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向の溝。ＳＰ2224・2262・2263（ＳＢ24）、ＳＤ2273よりも新しい。埋土は単層でオリーブ褐色砂質シルトに黒褐色シルト質粘土ブロックが混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

2237号溝（ＳＤ2237、第114図）

Ｆ１地区中央に位置する。東西方向の溝。東側はＳＤ2249・2250・2251に合流し、西側は南に屈曲し、平成６年度の縄中町教育委員会によって行われた調査でのＳＤ108につながる。同じ場所に流れる中世前期のＳＤ2274を切っている。幅106cm、深さ50cm。埋土は暗灰黄色やオリーブ褐色のシルトで何層かに分けられる。遺物は中世土師器と白磁が出土している。

2247号溝（ＳＤ2247、第114図）

Ｆ１地区東に位置する。南北方向の溝。北側は調査区外へ延びる。幅96cm、深さ17cm。埋土は上層の黄灰色粘質シルトと下層のオリーブ褐色砂質シルトに分けられる。

2246号溝（ＳＤ2246、第114図）

Ｆ１地区東に位置する。南北方向の溝。北側、南側とも調査区外へ延び、東側も調査区壁にかかっているため幅は不明。深さ16cm。埋土は上層の暗灰黄色砂質シルトに黄褐色砂質シルトが混入する土と中層のオリーブ褐色砂質シルトと下層のオリーブ褐色砂質シルトに黄褐色砂質シルト粒が混入する土とに分けられる。

井戸

04号井戸（ＳＥ04、第115図）

Ｅ２地区中央に位置する。石組で、水溜に曲物を使用している。掘形の平面形はほぼ円形で径は約200cmである。深さは123cmで礫層まで掘り込んでいる。礫層の上はシルトだが、裏込めに小石などを用いず、直径30～50cm程度の石を側として積み上げ、掘った土で間を埋めている。東南にＳＫ115があるが、水を汲みやすくするため、一段下がった場所を作った可能性も考えられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

133号井戸（ＳＥ133、第115図）

Ｅ２地区中央に位置する。切り合いからＳＫ105より古く、ＳＫ108より新しい。南壁に近いところで検出しており、掘形の南部分は調査区外になっていたが断ち割りの際に南側も確認した。掘形の平面形はほぼ円形で直径は約180cm。深さは107cmで礫層まで掘り込んでいる。側は石組で直径20～40cm程度の石を使っている。裏込めには10～25cm程度の石を使っている。埋土は基本的に上層の褐灰色粘質土と下層の黒褐色粘土で３層に分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

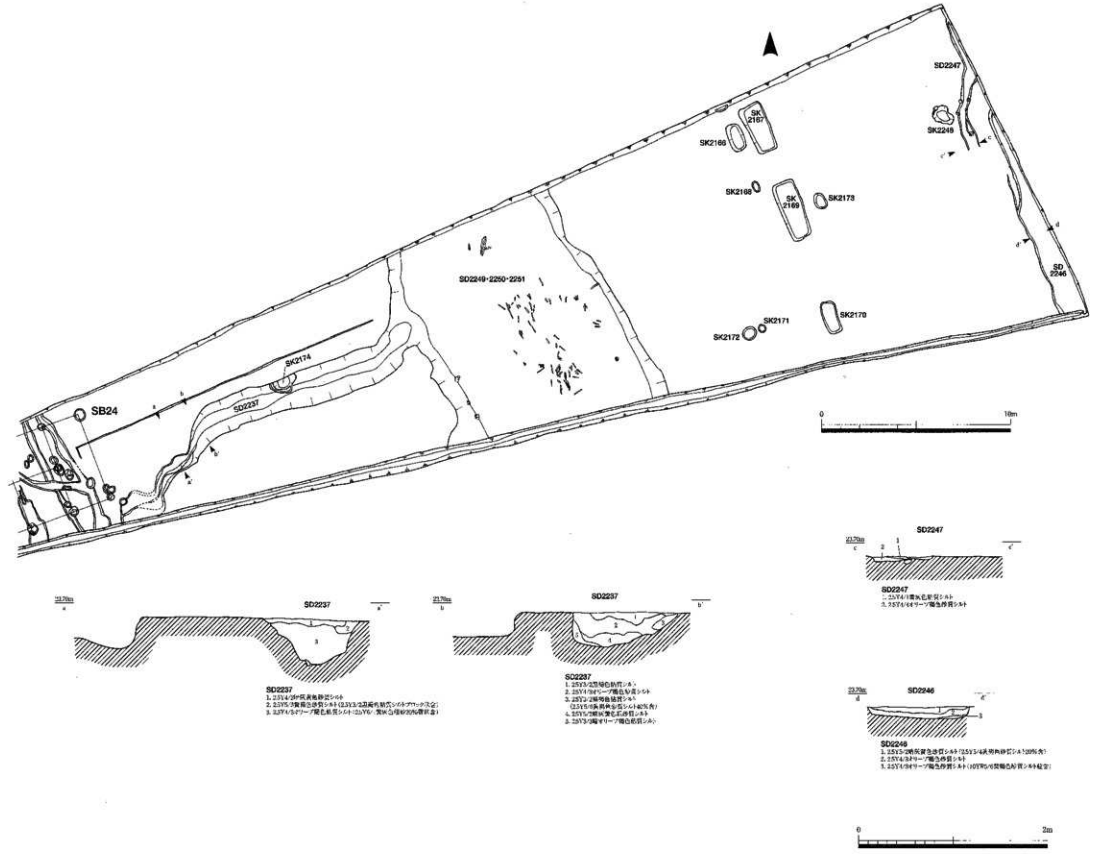
23号井戸（ＳＥ23、第116図、図版57）

Ｅ２地区中央に位置する。掘形の平面形はほぼ円形で直径約270cmである。深さは121cmで礫層まで掘り込んでいる。側は石組みであるが東側の残りが悪く、西側も検出面まで石が残っていないことから井戸が廃棄された際に抜き取られた可能性がある。埋土は基本的に上層の暗灰黄色粘土質シルトと中層の暗灰黄色粘質土、下層の黒褐色粘質土で５層に分けられる。遺物は中世土師器・珠洲・木製品が出土している。

2100号井戸（ＳＥ2100、第116図、図版57）

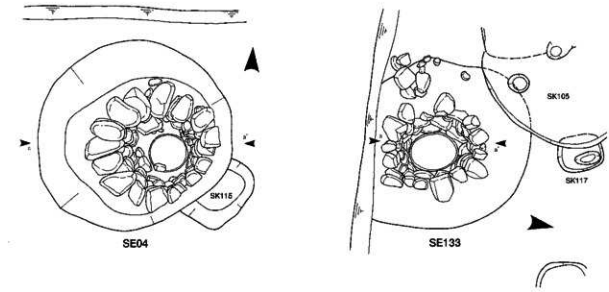
Ｆ１地区中央に位置する。掘形の平面形はほぼ円形で直径約220cmである。深さは140cm。水溜に曲物を使用している。側は石組で、廃棄される際石は抜き取られたと思われる。埋土は基本的に上層のにぶい黄褐色砂質土、中層のオリーブ褐色砂質土、下層の暗灰黄色砂質シルトで、５層に分けられる。裏込めは西側でみられ、オリーブ褐色や明褐色、暗灰黄色の砂とともに直径３～５cmの小石が使われている。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

土坑



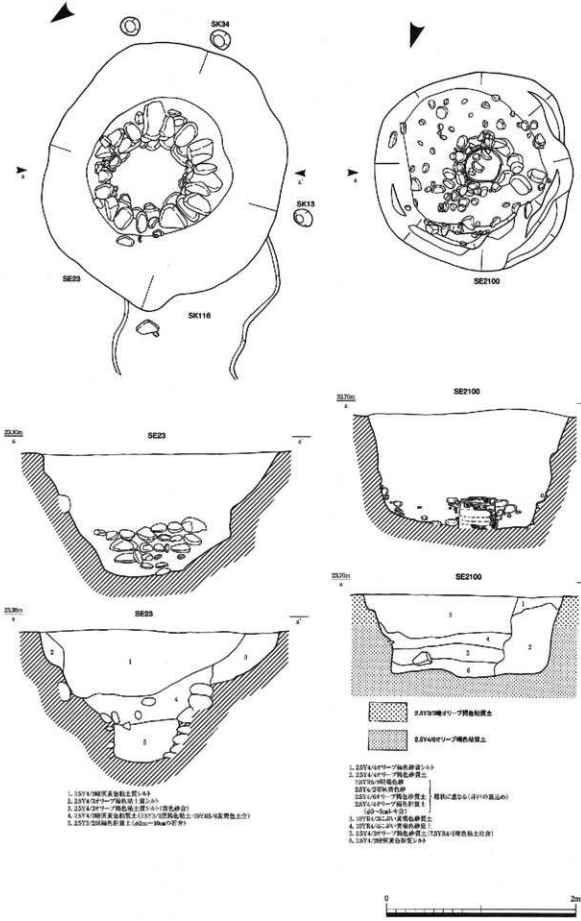
第114図　遺構実測図

SD2237　SD2247　SD2246



第115図　遺構実測図

SE04　SE133



第116図　遺構実測図

SE23　SE2100

72号土坑（ＳＫ72、第117・118図）

Ｅ２地区北に位置する。切り合いからＳＰ71（ＳＢ21）より新しい。円形を呈し、直径21cm、深さ68cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに黄色土と炭が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

58号土坑（ＳＫ58、第117・118図）

Ｅ２地区北に位置する。切り合いからＳＰ57より古い。直径70cm、深さ25cm。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに褐色土が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

54号土坑（ＳＫ54、第117・118図）

ＳＢ21西に位置する。切り合いからＳＫ55・56より古い。直径75cm、深さ13cm。埋土は上層の暗灰黄色粘土質シルトと下層のオリーブ褐色粘土質シルトに炭が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

42号土坑（ＳＫ42、第117・118図）

ＳＢ21内に位置する。円形を呈し、直径36cm、深さ18cmである。埋土は単層でオリーブ褐色粘土質シルトに炭が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

52号土坑（ＳＫ52、第117・118図）

ＳＢ21内に位置する。切り合いからＳＫ53より古い。隅丸方形を呈し、長径131cm、短径108cm、深さ46cmである。埋土はオリーブ褐色粘土質シルトで２層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

26号土坑（ＳＫ26、第117・118図）

ＳＢ21南に位置する。楕円形を呈し、長径124cm、短径84cm、深さ31cmである。埋土は上層の灰黄色粘土質シルトと中層の暗灰黄色粘土質シルトに炭が混入する土、下層の暗オリーブ褐色粘土質シルトに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

118号土坑（ＳＫ118、第117・118図）

Ｅ２地区中央ＳＫ116内に位置する。隅丸方形を呈し、長径72cm、短径66cm、深さ17cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに炭が混入する土である。遺物は中世土師器と鉄製品が出土している。

25号土坑（ＳＫ25、第117・118図）

ＳＥ23北に位置する。円形を呈し、直径50cm、深さ14cmである。埋土は上層の暗灰黄色粘土質シルトと下層の黒褐色粘土質シルトに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

45号土坑（ＳＫ45、第117・118図）

ＳＢ22東に位置する。東側は調査区壁にかかっている。切り合いからＳＫ44より新しい。確認できる範囲での直径は31cm、深さ27cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトである。

44号土坑（ＳＫ44、第117・118図）

ＳＢ22東に位置する。東側は調査区壁にかかっている。切り合いからＳＫ45よりも古い。確認できる範囲での直径は79cm、深さ19cmである。埋土は単層でオリーブ褐色粘土質シルトである。

43号土坑（ＳＫ43、第117・118図）

ＳＢ22東に位置する。東側は調査区壁にかかっている。確認できる範囲での直径は145cm、深さ18cmである。埋土は単層で黄灰色粘土質シルト。遺物は中世土師器が出土している。

19号土坑（ＳＫ19、第117・118図）

ＳＢ22東に位置する。楕円形を呈し、長径180cm、短径105cm、深さ14cmである。埋土は暗灰黄色粘質シルト、灰黒色粘質シルト、オリーブ褐色粘質シルトなどで、４層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

116号土坑（ＳＫ116、第117・118図）

ＳＢ22西に位置する。切り合いからＳＥ23・ＳＫ16より古い。不整形を呈し、長径403cm、深さ29cmである。埋土は暗灰黄色粘土質シルトである。遺物は中世土師器が出土している。

16号土坑（ＳＫ16、第117・118図）

ＳＢ22北に位置する。切り合いからＳＫ116より新しい。方形を呈し、長径291cm、短径215cm、深さ16cmである。埋土は基本的に上層の暗灰黄色シルトと下層の暗灰黄色粘土質シルトで３層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

100号土坑（ＳＫ100、第117・118図）

ＳＢ22内に位置する。切り合いからＳＫ111より新しい。方形を呈し、長径116cm、短径83cm、深さ５cmである。埋土は基本的に上層のにぶい黄色シルトと中層のオリーブ褐色粘土質シルトと下層の黄褐色シルトに分けられる。

101号土坑（ＳＫ101、第117・118図）

ＳＢ22内に位置する。切り合いからＳＫ107より古い。方形を呈し、長径218cm、短径84cm、深さ36cmである。埋土は上層のにぶい黄色シルトに褐色土と炭が混入する土と下層の暗灰黄色粘土質シルトに炭が混入する土とに分けられる。ＳＫ101はＳＫ16の南端にある番号を付けていない土坑とＳＫ110がＳＰ09とＳＰ104の延長上にあり、そのなかにおさまることから、ＳＢ22に伴う竪穴状土坑の可能性がある。他にＳＫ116・16・100・111・101・107・106・109・114などが竪穴状土坑として挙げられ、複数の建物の存在が想定されるが、ＳＢ22以外明確な柱穴の並びはない。

107号土坑（ＳＫ107、第117・118図）

ＳＢ22内に位置する。切り合いからＳＫ07・102より古く、ＳＰ104・ＳＫ101より新しい。方形を呈し、長径350cm、短径136cm、深さ41cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに黄色土と炭が混入する土である。遺物は中世土師器と白磁が出土している。

105号土坑（ＳＫ105、第117・118図）

ＳＢ22南に位置する。切り合いからＳＫ106・117より古く、ＳＥ133より新しい。深さは25cmである。埋土は基本的に暗灰黄色粘土質シルトで３層に分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

113号土坑（ＳＫ113、第117・118図）

ＳＢ22西に位置する。方形を呈し、長径173cm、短径82cm、深さ17cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに黄色土と炭が混入する土である。遺物は中世土師器と白磁が出土している。

08号土坑（ＳＫ08、第117・118図）

ＳＥ23西に位置する。切り合いからＳＫ100・101・111より新しい。楕円形を呈し、長径90cm、短径78cm、深さ13cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに黒色土が混入する土である。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

07号土坑（ＳＫ07、第117・118図）

ＳＢ22西に位置する。切り合いからＳＫ06・107より新しい。円形を呈し、直径49cm、深さ10cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに褐色土が混入する土である。

06号土坑（ＳＫ06、第117・118図）

ＳＢ22西に位置する。切り合いからＳＫ07より古い。円形を呈し、直径43cm、深さ６cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに褐色土と黄褐色砂が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

10号土坑（ＳＫ10、第117・118図）

ＳＢ22内に位置する。切り合いからＳＰ09（ＳＢ22）より新しい。円形を呈し、直径23cm、深さ41cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトである。遺物は中世土師器が出土している。

106号土坑（ＳＫ106、第117・118図）

ＳＢ22南に位置する。切り合いからＳＫ105・109より新しい。深さは10cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに炭が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

109号土坑（ＳＫ109、第117・118図）

ＳＢ22南に位置する。切り合いからＳＫ106より古く、ＳＫ114より新しい。短径は164cm、深さ20cmである。埋土は上層の暗灰黄色粘土質シルトに炭が混入する土と下層の暗灰黄色粘土質シルトに黄褐色砂が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

114号土坑（ＳＫ114、第117・118図）

ＳＢ22南に位置する。南側は調査区外へ延びる。切り合いからＳＫ109より古い。深さは14cmである。埋土はオリーブ褐色土に黄色土と黒褐色土が混入する土と、暗灰黄色粘質土に黄褐色砂が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器と鉄製品が出土している。

2005号土坑（ＳＫ2005、第119図）

ＳＢ23西に位置する。隅丸方形を呈し、長径54cm、短径40cm、深さ15cmである。埋土は単層でオリーブ褐色砂質土に黄褐色砂質シルトと暗灰黄色粘質シルトが混入する土である。遺物は青磁が出土している。

2145号土坑（ＳＫ2145、第119図）

ＳＫ2153北に位置する。楕円形を呈し、長径49cm、短径32cm、深さ51cmである。埋土はオリーブ褐色砂質土と暗オリーブ褐色粘質土で３層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

2146号土坑（ＳＫ2146、第119図）

ＳＢ23内に位置する。楕円形を呈し、長径33cm、短径20cm、深さ７cmである。埋土は単層で暗オリーブ褐色砂質土である。遺物は中世土師器が出土している。

2150号土坑（ＳＫ2150、第119図）

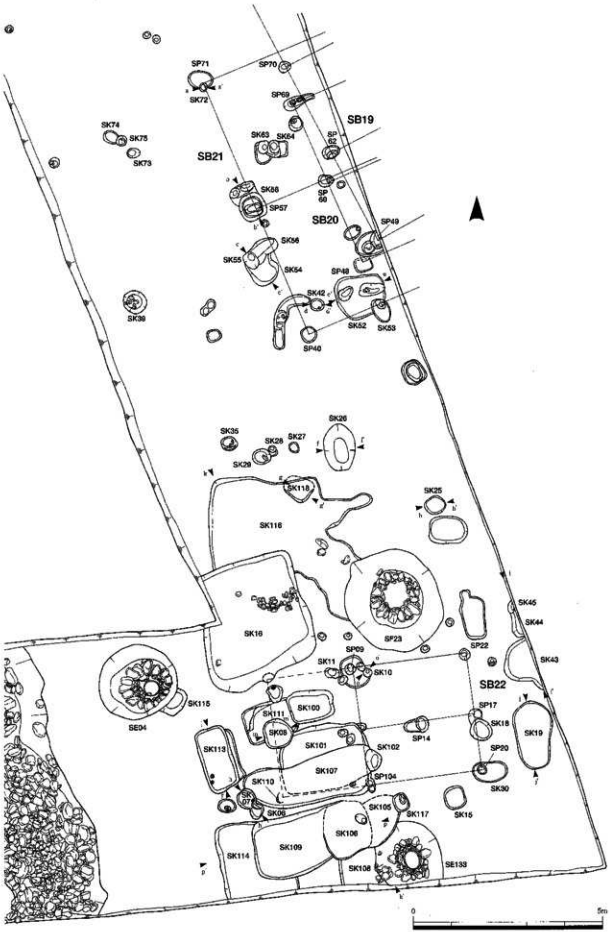
ＳＤ2140東に位置する。円形を呈し、直径33cm、深さ23cmである。埋土は単層で黄褐色砂質土である。遺物は中世土師器が出土している。

2153号土坑（ＳＫ2153、第119図）

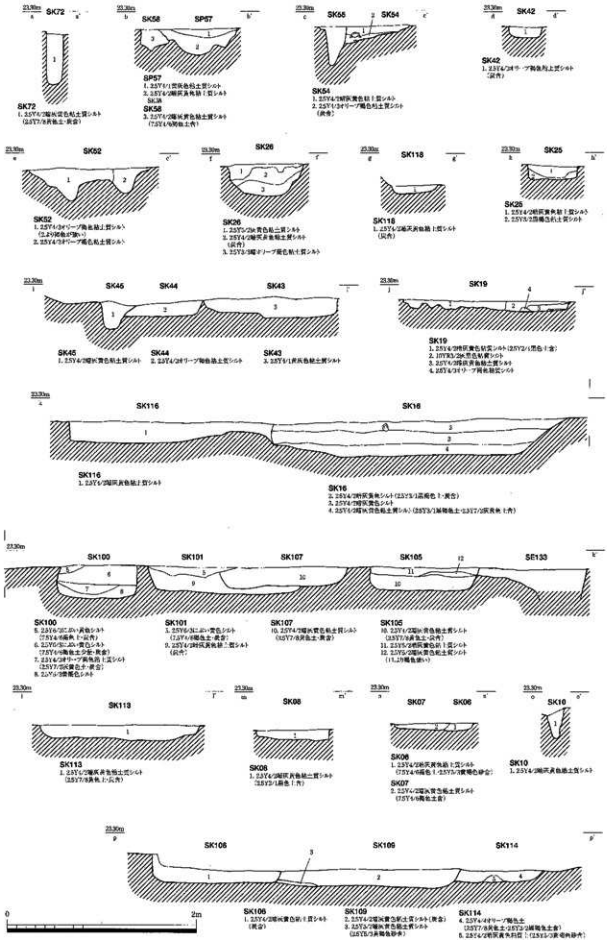
ＳＢ23内に位置する。方形を呈し、幅215cm、深さ21cmである。埋土は上層のにぶい黄褐色砂質土と下層の暗オリーブ褐色粘質土に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。ＳＢ23の項でも触れたが、ＳＰ2012の底部はＳＫ2153の底部より高い位置にあるため、ＳＢ23よりＳＫ2153のほうが古い。

2136号土坑（ＳＫ2136、第119図）

ＳＫ2135北に位置する。楕円形を呈し、長径192cm、短径155cm、深さ９cmである。埋土は上層のオリーブ褐色砂質土と下層の暗オリーブ褐色粘質土に分けられる。遺物は珠洲が出土している。

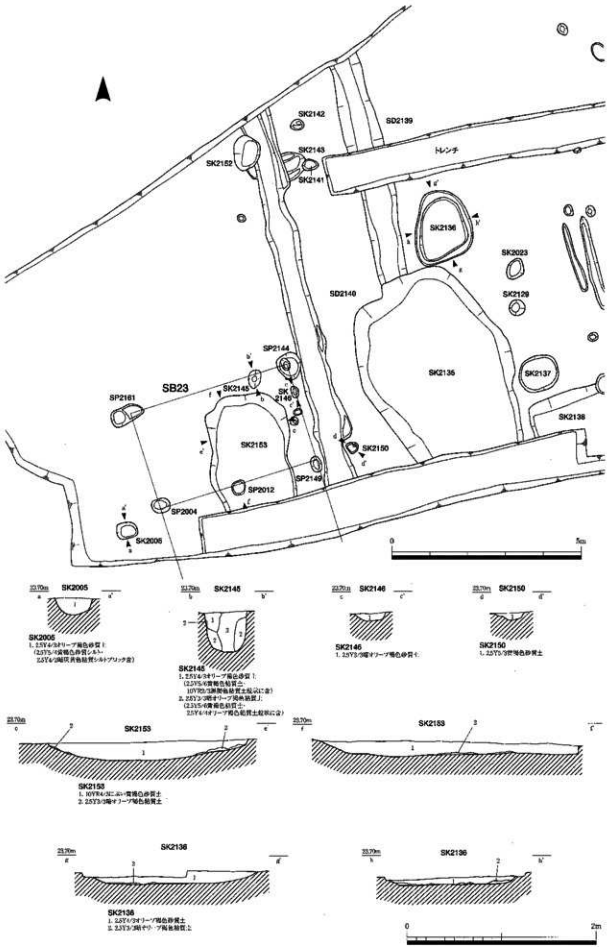

SP71
SP70
SK72
SP69
SB19
SK74
SK75
SK73
SK83
SK84
SP
62
SB21
SK88
SP
60
SP57
SB20
SP49
SK56
SK55
SK54
SP48
SK39
SK42
SK52
SK53
SP40
SK35
SK28
SK27
SK26
SK29
SK118
SK25
SK116
SK45
SK44
SK16
SP23
SP22
SK43
SP09
SK11
SK10
SB22
SK115
SED4
SK111
SK100
SP17
SK18
SK19
SK08
SP14
SK113
SK101
SK102
SP20
SK110
SK107
SP104
SK30
SK09
SK105
SK117
SK15
SK106
SK114
SK109
SK108
SE133
0
5m

第117図　遺構実測図



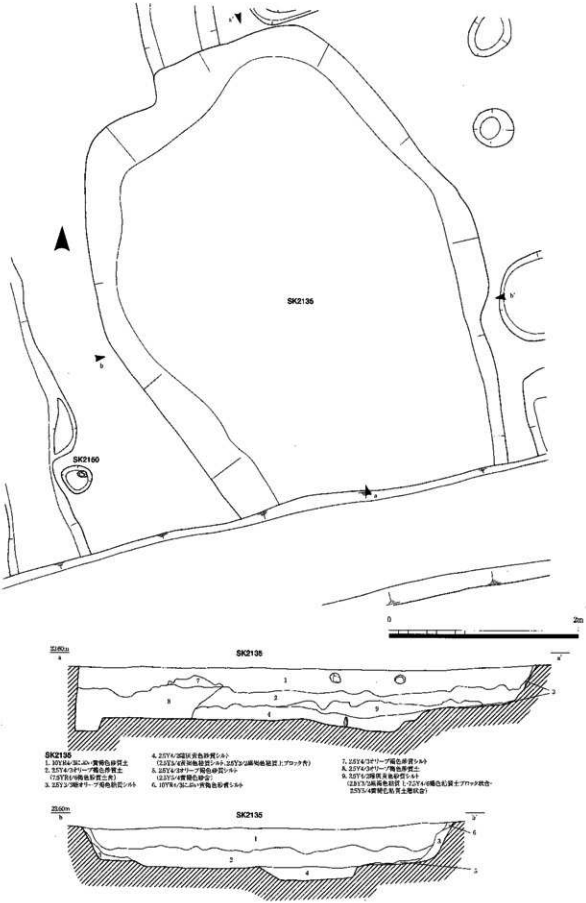
第118図　遺構実測図

SK72　SP57　SK58　SK54　SK42　SK52　SK26　SK118　SK25　SK45　SK44　SK43　SK19
SK116　SK16　SK100　SK101　SK107　SK105　SK113　SK08　SK06　SK07　SK10　SK106
SK109　SK114



第119図　遺構実測図

SK2005　SK2145　SK2146　SK2150　SK2153　SK2136



第120図　遺構実測図

SK2135

2135号土坑（ＳＫ2135、第119・120図）

ＳＢ23東に位置する。南側は調査区外へ延び、平成６年度の緋中町教育委員会による調査のＳＤ101Ｂにつながる。方形を呈し、短径403cm、深さ68cmである。埋土は基本的にオリーブ褐色や暗灰黄色などの砂質土や砂質シルトで９層に分けられる。遺物は中世土師器・珠洲、木製品、釘が出土している。

2133号土坑（ＳＫ2133、第121図）

ＳＥ2100南に位置する。切り合いからＳＫ2132より古い。円形を呈し、直径197cm、深さ36cmである。埋土は上層のにぶい黄褐色砂質シルトと中層のオリーブ褐色砂質シルト、下層の黄褐色砂質シルトに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

2132号土坑（ＳＫ2132、第121図）

ＳＥ2100南に位置する。切り合いからＳＫ2133より新しい。円形を呈し、直径52cm、深さ22cmである。埋土はオリーブ褐色砂質土とにぶい黄褐色砂質シルトの２層に分けられる。遺物は珠洲と金属製品が出土している。

2043号土坑（ＳＫ2043、第121図）

ＳＥ2100南東に位置する。切り合いからＳＤ2040より古い。平成６年度の緋中町教育委員会による調査のＳＫ179につながる。深さ40cm。遺物は磁器が出土している。

2167号土坑（ＳＫ2167、第122図）

Ｆ１地区東に位置する。方形を呈し、長径271cm、短径132cm、深さ24cmである。埋土はオリーブ褐色粘質シルトと暗灰黄色粘質シルトで４層に分けられる。ＳＫ2167・2169・2170はＳＤ2249・2250・2251の東に溝と平行に３基の方形の土坑が南北に並んでいる。遺構の性格はわからないが、何らかの関係があったと考えられる。

2170号土坑（ＳＫ2170、第122図）

Ｆ１地区東に位置する。方形を呈し、長径173cm、短径81cm、深さ19cmである。埋土は単層でオリーブ褐色粘質シルトに暗オリーブ褐色シルトと黄褐色砂が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

2169号土坑（ＳＫ2169、第122図）

Ｆ１地区東に位置する。方形を呈し、長径323cm、短径126cm、深さ20cmである。埋土は単層でオリーブ褐色粘質シルトに黄褐色砂が混入する土である。

石列

65号石列（ＳＸ65、第112図、図版55）

Ｅ２地区中央に位置する。東西に伸び東側、西側とも調査区外へ延びる。直径約20～45cm程度の石が並べられているが、ＳＤ135とぶつかる所では一段南側に並べられている。地面の高さは石列の南側が高く、北側が低い。方向がＳＤ134・136と平行であることから両者と何らかの関連があったと思われる。

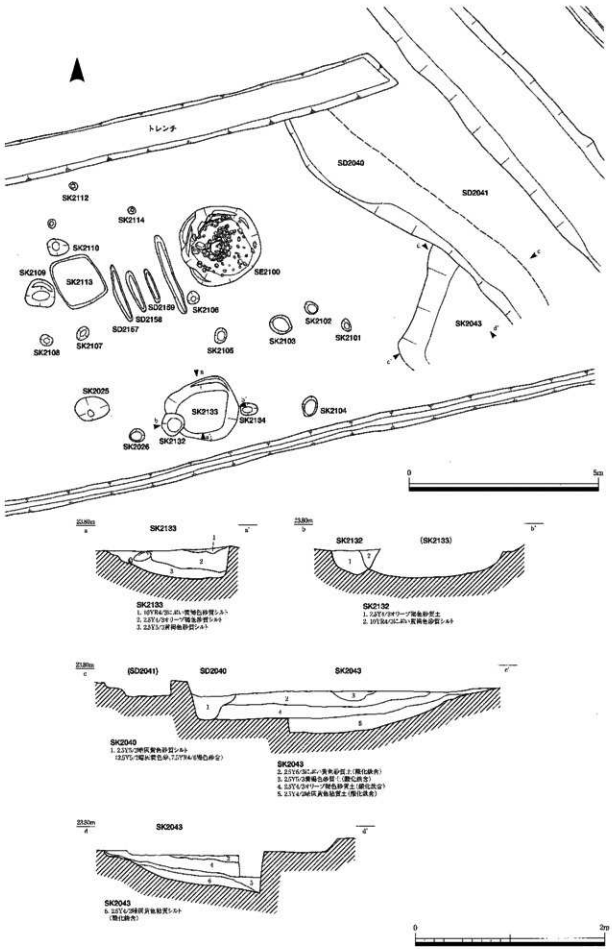
D　近世

近世の遺構はＦ１地区で溝、土坑が検出された。

溝

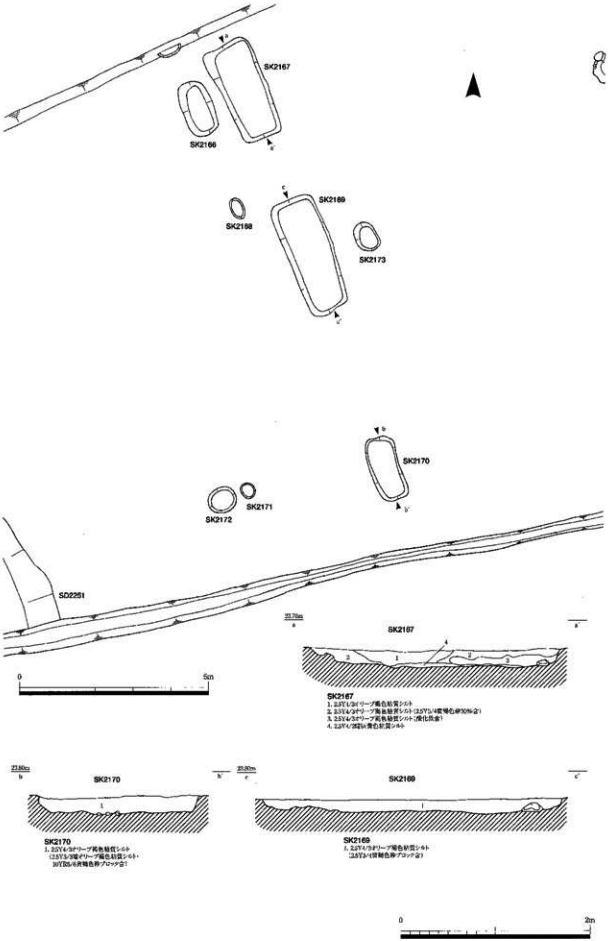
2041号溝（ＳＤ2041、第123図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向の溝。幅80cm、深さ13cmである。埋土はにぶい黄色砂、黄褐色



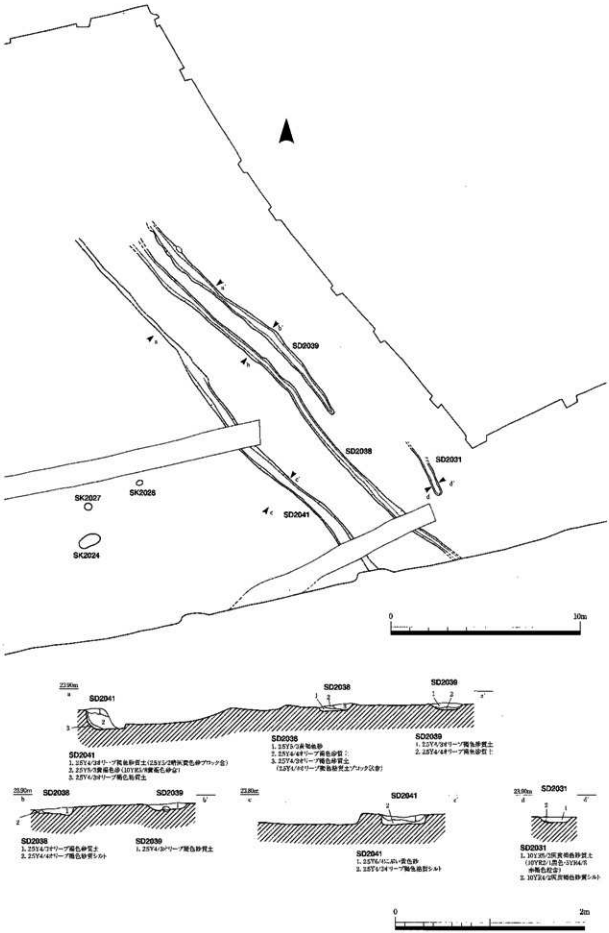
第121図　遺構実測図

SK2133　SK2132　SD2040　SK2043



第122図　遺構実測図

SK2167　SK2170　SK2169



第123図　遺構実測図

SD2041　SD2038　SD2039　SD2031

砂、オリーブ褐色粘質シルトなどで、5層に分けられる。遺物は伊万里が出土している。

2038号溝（ＳＤ2038、第123図）

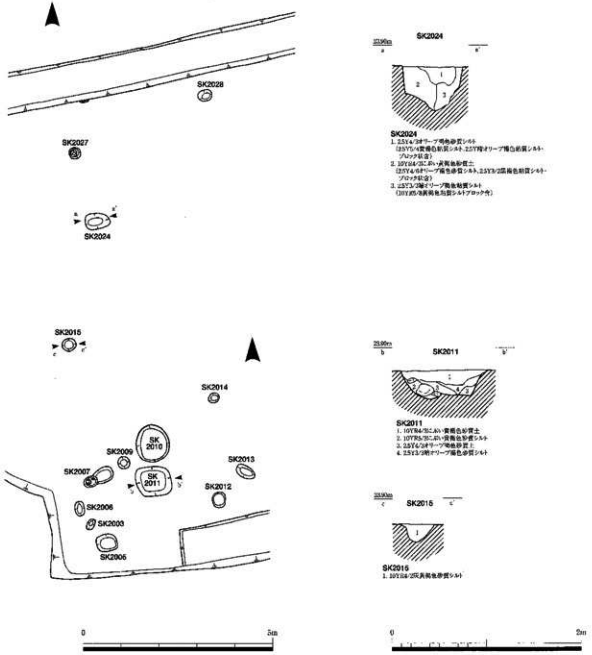
Ｆ１地区中央に位置する。南北方向の溝。幅40cm、深さ５cmである。埋土は基本的にオリーブ褐色砂質土と黄褐色砂で３層に分けられる。

2039号溝（ＳＤ2039、第123図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向の溝。幅50cm、深さ11cmである。埋土はオリーブ褐色砂質土で２層に分けられる。

2031号溝（ＳＤ2031、第123図）

Ｆ１地区中央に位置する。南北方向の溝。幅40cm、深さ６cmである。埋土は上層の灰黄褐色砂質土に黒色粒と赤褐色粒が混入する土と下層の灰黄褐色砂質シルトに分けられる。



第124図　遺構実測図

SK2024　SK2011　SK2015

土坑

2024号土坑（ＳＫ2024、第124図）

Ｆ１地区西に位置する。楕円形を呈し、長径64cm、短径45cm、深さ45cm。埋土はオリーブ褐色シルト、にぶい黄褐色砂質土、暗オリーブ褐色粘質シルト、暗オリーブ褐色粘質土の３層に分けられる。

2011号土坑（ＳＫ2011、第124図）

Ｆ１地区西に位置する。隅丸方形を呈し、長径92cm、短径79cm、深さ27cmである。埋土はにぶい黄褐色砂質土とにぶい黄褐色砂質シルト、オリーブ褐色砂質土、暗オリーブ褐色砂質シルトの４層に分けられる。

2015号土坑（ＳＫ2015、第124図）

Ｆ１地区西に位置する。円形を呈し、直径37cm、深さ18cmである。埋土は単層で灰黄褐色砂質シルトである。

3　遺物

A　古代

竪穴住居

424号竪穴住居（ＳＩ424、第125図、図版58）

１～10は土師器の坏である。底部まであるもので高台が付くものはない。体部がやや丸みを帯びる１～６と直線的な７～10がある。１と５は底に回転糸切り痕がみられる。11は須恵器の坏である。底は回転糸切り痕を残し、高台を貼り付けている。

包含層（第125図）

12～14は土師器である。12は坏で体部は直線的に伸び、口縁部がやや直立する。13は碗で体部はゆるやかに内弯し、口縁部は外反する。14は甕で口縁端部は直線的に内傾する。

15・16は須恵器の坏である。15は体部はゆるやかに内弯し、口縁部はふくらみを帯びる。16は底でヘラキリされており、高台はつかない。

B　中世前期

掘立柱建物

05号掘立柱建物（ＳＢ05、第126図）

17はＳＰ284から出土した中世土師器の皿である。ロクロ成形で底には回転糸切り痕がみられる。

09号掘立柱建物（ＳＢ09、第126図、図版59・63）

18～20はＳＰ1202から出土した非ロクロ成形の中世土師器の皿である。18・19は体部にやや強いナデを施し、口縁端部に面取りをするものである。20は体部に強いナデが施されている。

21～23はＳＰ1209から出土した遺物である。21は中世土師器の皿でロクロ成形である。22・23は鉄滓である。

24～30はＳＰ1214から出土した遺物である。24～29は中世土師器の皿で体部は強いナデを施し、口縁端部は面取りをしている。30は鉄滓である。

31・32はＳＰ1218から出土した中世土師器の皿である。体部には強いナデが施される。

33はＳＰ1222から出土した中世土師器の皿である。体部に強いナデを施し、口縁端部は面取りされる。

34～39はＳＰ1232から出土した遺物である。34～38は中世土師器の皿で、34は器厚はうすく、体部

をゆるいナデで内弯させ、口縁端部には面取りが施される。35は平底で、器厚は厚く口縁端部はやや内傾している。36・37は器厚は厚く、口縁端部に面取りが施されている。39は鉄滓である。

40はＳＰ1234から出土した鉄滓である。

41はＳＰ1238から出土した中世土師器の皿で底面中央部はやや上がり、体部から口縁部は外反する。

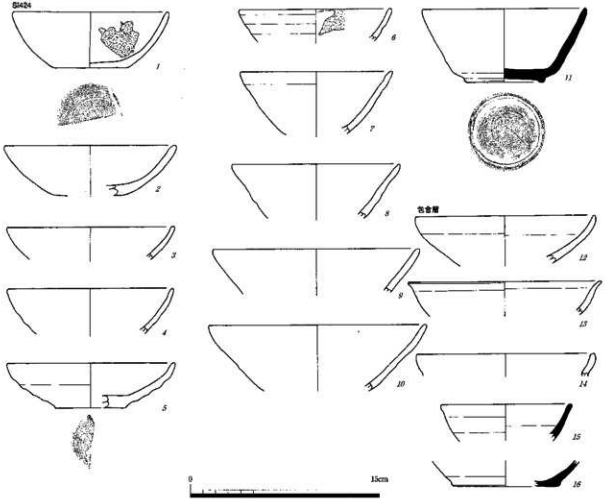
42～49はＳＰ1255から出土した遺物である。42～48は中世土師器の皿で、42～46は体部に強いナデを施し口縁端部を面取りするタイプ。47は器厚が薄く体部に強いナデを施し、口縁端部はつまみ上げている。48はロクロ成形で器厚は厚く、口径は14.4cmとやや大きい。49は鉄製品で刀子の茎から刃の部分と思われる。

50～54はＳＰ1264から出土した中世土師器の皿である。50～53は体部に強いナデを施し、口縁端部を面取りしている。54はロクロ成形で底部が1.2cmと厚く、口縁端部は平らに成形されている。底部には回転糸切り痕が残る。

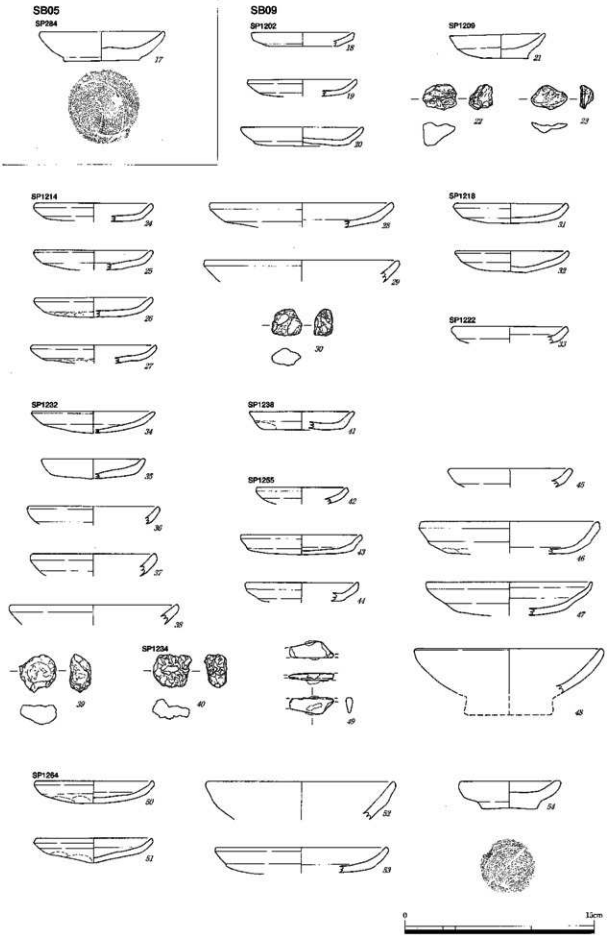
10号掘立柱建物（ＳＢ10、第127図、図版62・67・77）

55～58はＳＰ1210から出土した遺物である。55・56は中世土師器の皿である。どちらも非ロクロ成形である。57は珠洲の鉢である。58は礎石に使われていた可能性がある石だが、一部磨れており砥石を転用したと思われる。

59はＳＰ1213から出土した柱である。断面は楕円形である。残りは悪い。

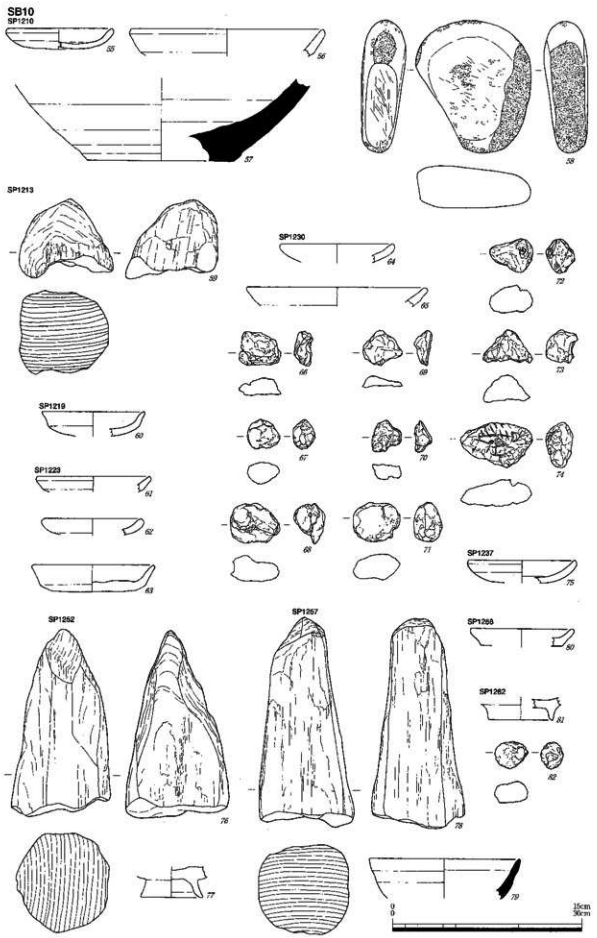


第125図　遺物実測図（1/3）
SI424（*1～11*）　その他包含層



第126図　遺物実測図（1/3）

SB05　SP284（17）
SB09　SP1202（18～20）　SP1209（21～23）　SP1214（24～30）　SP1218（31・32）　SP1222（33）
SP1232（34～39）　SP1234（40）　SP1238（41）　SP1255（42～49）　SP1264（50～54）



第127図　遺物実測図（*55～57・60～75・77・79～82* 1/3、*58・59・76・78* 1/6）

SB10　SP1210（*55～58*）　SP1213（*59*）　SP1219（*60*）　SP1223（*61～63*）　SP1230（*64～74*）
SP1237（*75*）　SP1252（*76・77*）　SP1257（*78・79*）　SP1258（*80*）　SP1262（*81・82*）

60はＳＰ1219から出土した中世土師器の皿である。非ロクロ成形で体部にやや強いナデを施す。

61～63はＳＰ1223から出土した中世土師器の皿である。非ロクロ成形である。63はＳＫ1254から出土したものと接合している。

64～74はＳＰ1230から出土した遺物である。64・65は中世土師器の皿でどちらも非ロクロ成形である。66～74は鉄滓である。

75はＳＰ1237から出土した中世土師器の皿である。非ロクロ成形で体部にナデを施し、口縁端部を面取りするもので、ＳＫ1236から出土した土器と接合している。

76・77はＳＰ1252から出土した遺物である。76は柱で直径16.5cmの円柱である。77は中世土師器のロクロ成形の皿で、高さ1.4cmの高い高台が付く。

78・79はＳＰ1257から出土した遺物である。78は直径15.2cmの楕円柱である。79は須恵器の坏である。体部は内弯し、口縁部ではやや外反する。

80はＳＰ1258から出土した中世土師器の皿である。ロクロ成形で、底部には糸切り痕が残る。

81・82はＳＰ1262から出土した遺物である。81は中世土師器の皿で高さ0.9cmの高台が付く。82は鉄滓である。

11号掘立柱建物（ＳＢ11、第128図、図版73）

83はＳＰ1319から出土した木製品である。長さ11.2cm、幅10.4cm、厚さ7.5cm、断面は四角い板状のものである。

16号掘立柱建物（ＳＢ16、第128図）

84はＳＰ1010から出土した中世土師器の皿である。器厚は厚く、平らな底から短く立ち上がる。

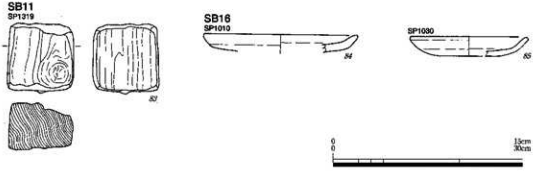
85はＳＰ1030から出土した中世土師器の皿である。体部にナデを施し、口縁端部は面取りがされている。

溝

136号溝（ＳＤ136、第129図、図版59・65）

86～95はＳＤ136から出土した遺物である。86～94は中世土師器の皿である。86・87は非ロクロ成形である。共に器厚が薄く、体部にナデを施し、口縁端部は面取りされている。88～94はロクロ成形である。93・94は径が大きく、口縁端部は面取りされている。95は陶器の壷で頸部は短く肩は外に大きく張り出す形になると思われる。外面、内面とも釉がかかり、外面は基本的に黄味がかった灰白色で肩部にはその上に青灰色の釉が、内面は刷毛塗りの暗オリーブ色の釉がかかっている。胎土は灰色で直径１㎜程の石英が多く含まれる。

137号溝（ＳＤ137、第129図）



第128図　遺物実測図（*84・85* 1/3、*83* 1/6）

SB11　SP1319（*83*）
SB16　SP1010（*84*）　SP1030（*85*）

96～99はＳＤ137から出土した遺物である。96～98は中世土師器の皿で96・97は非ロクロ成形。98はロクロ成形である。99は板状の木製品である。

385号溝（ＳＤ385、第129図）

100・101は中世土師器の皿である。100は非ロクロ成形で器厚は厚く、平らな底部から緩く立ち上がる。101はロクロ成形である。

386号溝（ＳＤ386、第129図）

102は中世土師器の皿である。ロクロ成形で底部に回転糸切り痕が残る。

395号溝（ＳＤ395、第129図）

103は中世土師器の皿で厚手の体部から斜めに立ち上がる。

411号溝（ＳＤ411、第129図、図版60）

104～107は中世土師器の皿である。４枚ともほぼ完形でまとまって出土した。104はやや体部のナデが強いが、105～107は緩いナデが施されそのまま立ち上がり、口縁端部に面取りはされない。

435号溝（ＳＤ435、第129図）

108・109は製塩土器である。108は平らな底からまっすぐ上に立ち上がっている。色調は橙色で内面にはまだ粘土が乾いていない状態でおおざっぱに施されたナデがみられる。外面と底面の肌があれている。胎土には長石と骨針が含まれる。また、わずかであるが直径２㎜程度の小石もみられる。109も平らな底からまっすぐ上に立ち上がる器形である。外面の凹凸はナデによるものである。色調は明赤褐色で胎土には長石と骨針が含まれる。肌あれは特に底面と内面にみられる。

1158号溝（ＳＤ1158、第129図）

110は中世土師器の皿である。非ロクロ成形の中型の皿で器厚は薄い。

1159号溝（ＳＤ1159、第129・130図、図版71）

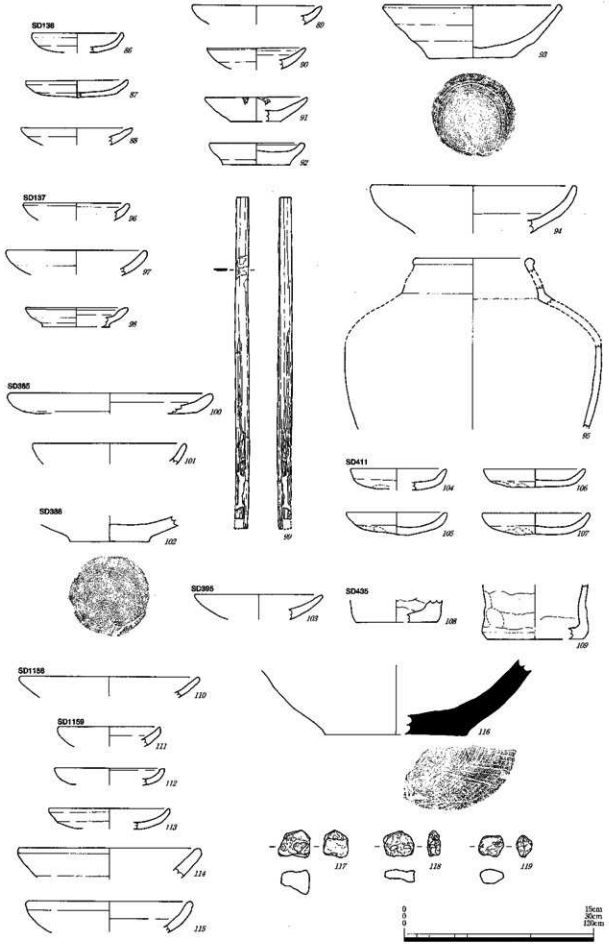
111～123はＳＤ1159から出土した遺物である。111～115は中世土師器の皿で111・112はロクロ成形、113～115は非ロクロ成形である。111は体部は斜めにのび、口縁端部外側が直に立ち上がる。112は体部は内弯し、口縁端部をほぼ水平に面取りしている。113は口縁端部に弱い面取りが施されている。116は珠洲の鉢で底部には回転糸切り痕が残る。117～119は鉄滓である。120・123は板状の木製品である。121は茸である。122は棒状で片方の端のみ加工されている。

1160号溝（ＳＤ1160、第130・131図、図版62・68・70・73・74）

124～149はＳＤ1160から出土した遺物である。124～132は中世土師器の皿である。124～130は非ロクロ成形で124・125は器厚が薄く、口縁端部に面取りを施す。128は中型で器厚は厚く、体部に強いナデを施している。129は体部に強いナデを施し、高台が付く。器厚は薄い。131・132はロクロ成形で131は体部から口縁にかけて斜めにつまみあげているだけである。底部には回転糸切り痕が残る。132は体部にやや強いナデを施し、高台が付く。133～146は木製品である。133は漆器の皿で底部以外内外面とも黒色漆が塗られている。134は片方が厚く、もう片方は薄いくさび状である。135は板状で端が加工されているが、用途は不明である。139は曲物の蓋と思われる。147・148は鉄滓である。149は叩き石と思われる。

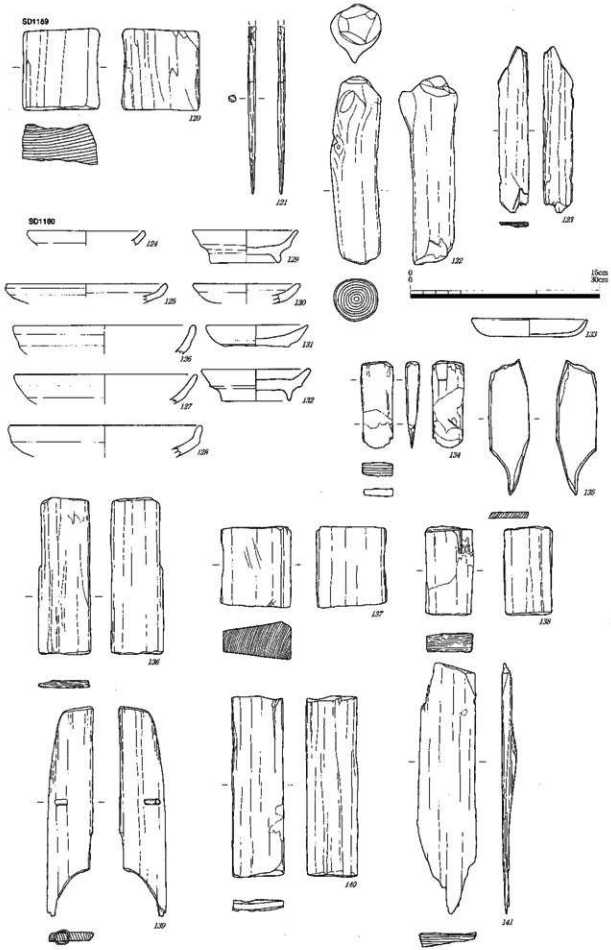
1267号溝（ＳＤ1267、第131図、図版66）

150～152はＳＤ1267から出土した遺物である。150・151は中世土師器の皿である。152は青磁の皿である。内面は櫛状のもので施文されている。釉はオリーブ灰色であるが、外面の接地面まではかかっていない。

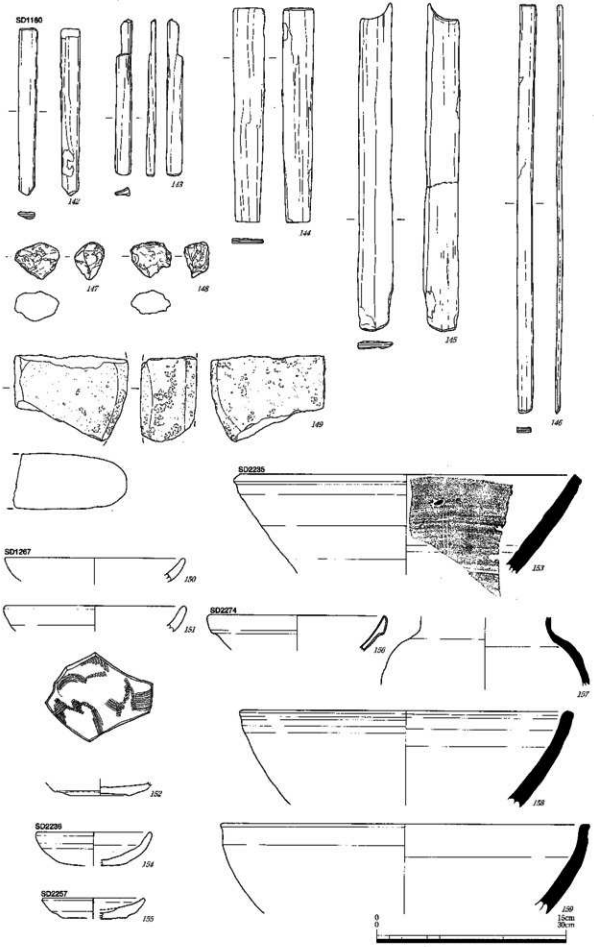


第129図　遺物実測図（*86～94・96～98・100～119* 1/3、*95* 1/6、*99* 1/24）

SD136（*86～95*）　SD137（*96～99*）　SD385（*100・101*）　SD386（*102*）　SD395（*103*）
SD411（*104～107*）　SD435（*108・109*）　SD1158（*110*）　SD1159（*111～119*）



第130図　遺物実測図（*120～122・124～141*　1/3、*123*　1/6）
SD1159（*120～123*）　SD1160（*124～141*）



第131図　遺物実測図（*142～156・158・159*　1/3、*157*　1/6）

SD1160（*142～149*）　SD1267（*150～152*）　SD2235（*153*）　SD2236（*154*）　SD2257（*155*）
SD2274（*156～159*）

2235号溝（ＳＤ2235、第131図）

153は珠洲の鉢である。口縁は断面が四角く、Ⅲ期である。

2236号溝（ＳＤ2236、第131図）

154は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で体部は緩く内弯している。

2257号溝（ＳＤ2257、第131図、図版61）

155は中世土師器の皿である。ロクロ成形で底部に回転糸切り痕が残る。

2274号溝（ＳＤ2274、第131図、図版63・66）

156～159はＳＤ2274から出土した遺物である。156は白磁の碗である。口縁は玉縁状で胎土に黒い粒が混じり、釉は黄味がかった灰色である。157は珠洲の壺である。ＳＤ2249から出土したものと接合した。158・159は珠洲の鉢である。158はⅠ期からⅡ期で包含層出土のものと接合した。159はⅠ期。

土坑

110号土坑（ＳＫ110、第132図、図版76）

160は銅銭である。「皇宋通寶」で初鋳は1039年である。

138号土坑（ＳＫ138、第132図）

161～163は中世土師器の皿である。161は底部が平らで立ち上がりが短い非ロクロ成形のコースター型。162・163はロクロ成形である。

158号土坑（ＳＫ158、第132図）

164は珠洲の鉢である。包含層出土のものと接合した。

179号土坑（ＳＫ179、第132図、図版76）

165は鉄滓である。

181号土坑（ＳＫ181、第132図）

166～172は中世土師器の皿である。166は器厚が薄く体部をナデ、口縁端部を面取りしている。167は器厚はやや厚く平らな底部から短い立ち上がりで、口縁端部は面取りをしている。168はロクロ成形である。口縁端部に緩い面取りを施している。169は非ロクロ成形で体部にやや強いナデを施し屈曲させている。172はロクロ成形で口縁端部は丸みを帯びる。底部に回転糸切り痕が残る。

183号土坑（ＳＫ183、第132図、図版79）

173は砥石である。

202号土坑（ＳＫ202、第132図、図版79）

174は砥石である。四面が使用され、中央部がくぼんでいる。

241号土坑（ＳＫ241、第132図）

175は中世土師器の皿である。器厚は厚く、口縁端部は丸みを帯びた三角形である。

260号土坑（ＳＫ260、第132図）

176は中世土師器の皿である。底部から口縁部まで内弯し、口縁端部は緩い面取りがされている。

267号土坑（ＳＫ267、第132図、図版76）

177は鉄滓である。

277号土坑（ＳＫ277、第132図）

178は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は厚く、底部は平らで立ち上がりは短い。

299号土坑（ＳＫ299、第132図）

179～181は中世土師器の皿である。179・180は非ロクロ成形。180は器厚が厚く体部に強いナデを

施し、屈曲させている。181はロクロ成形で底部に回転糸切り痕が残る。

363号土坑（ＳＫ363、第132図）

182は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は厚く平らな底部から短く立ち上がる。

401号土坑（ＳＫ401、第132図）

183は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は薄く口縁端部はつまみ上げる。

449号土坑（ＳＫ449、第132図）

184は中世土師器の皿である。ロクロ成形で、口縁は外反し器厚は厚い。

481号土坑（ＳＫ481、第132図）

185・186は中世土師器の皿である。ともにロクロ成形で口縁端部がやや内側に屈曲する。

1054号土坑（ＳＫ1054、第132図）

187は中世土師器の皿である。ロクロ成形で体部上半にやや強いナデを施している。

1059号土坑（ＳＫ1059、第132図）

188・189は中世土師器の皿である。188は非ロクロ成形で体部に強いナデを施し口縁を外反させている。189はロクロ成形である。

1061号土坑（ＳＫ1061、第132図）

190・191はＳＫ1061から出土した遺物である。190は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で体部に強いナデを施し、屈曲させている。191は珠洲の鉢でⅠ期。包含層出土のものと接合している。

1073号土坑（ＳＫ1073、第132図）

192は中世土師器の皿である。ロクロ成形で平らな底部から短い立ち上がりで口縁端部はつまみ上げている。底部に同転糸切り痕が残る。

1074号土坑（ＳＫ1074、第132図）

193は土錘である。細身のタイプである。

1201号土坑（ＳＫ1201、第133図、図版66）

194は白磁の碗である。高台は高く、釉は内面と外面の高台の上までかかっている。

1211号土坑（ＳＫ1211、第133図）

195～197は中世土師器の皿である。195・196は非ロクロ成形で体部に強いナデを施し、口縁端部に面取りをしている。197はロクロ成形である。口縁端部に外傾の面取りを施している。

1221号土坑（ＳＫ1221、第133図）

198・199は中世土師器の皿である。ともに体部に強いナデを施し屈曲させ、口縁端部に面取りがされている。

1231号土坑（ＳＫ1231、第133図）

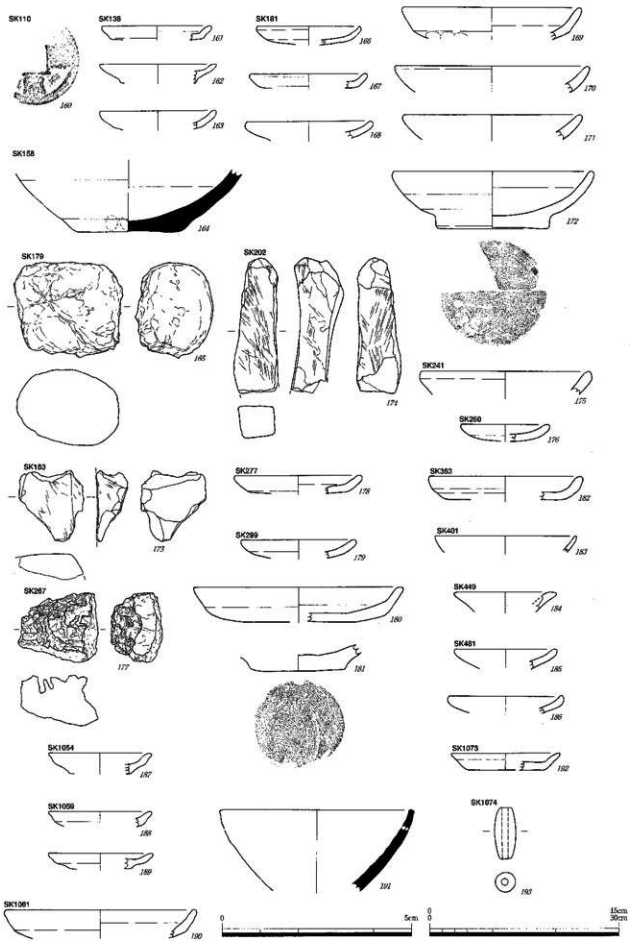
200は中世土師器の皿である。体部を強くナデ、口縁端部に面取りを施している。

1236号土坑（ＳＫ1236、第133図）

201～204は中世土師器の皿である。201～203は非ロクロ成形。201は体部にナデを施しているが、底部は丸く、体部から口縁まで緩やかに内弯する。202は口縁端部に面取りを施している。203は体部に強いナデを施し屈曲させている。204はロクロ成形で底部に回転糸切り痕が残る。

1247号土坑（ＳＫ1247、第133図）

205～207はＳＫ1247から出土した遺物である。205は中世土師器の皿。非ロクロ成形で底部は平らで口縁端部に面取りを施している。206・207は鉄滓である。



第132図　遺物実測図（*160* 1/1、*161*～*190*・*192*・*193* 1/3、*191* 1/6）

SK110（*160*）　SK138（*161*～*163*）　SK158（*164*）　SK179（*165*）　SK181（*166*～*172*）　SK183（*173*）　SK202（*174*）　SK241（*175*）　SK260（*176*）　SK267（*177*）　SK277（*178*）　SK299（*179*～*181*）　SK363（*182*）　SK401（*183*）　SK449（*184*）　SK481（*185*・*186*）　SK1054（*187*）　SK1059（*188*・*189*）　SK1061（*190*・*191*）　SK1073（*192*）　SK1074（*193*）

1254号土坑（ＳＫ1254、第133図、図版62・63）

208～214は中世土師器の皿である。208はロクロ成形で立ち上がりは短く外傾している。209～214は非ロクロ成形。209は底部は平らで立ち上がりは短い。210～212は体部をナデ、口縁端部に面取りを施している。213はその大きいタイプ。214は器厚が厚く口縁端部には緩い面取りを施す。

1305号土坑（ＳＫ1305、第133図）

215は中世土師器の皿である。体部に強いナデを施し屈曲させている。

2256号土坑（ＳＫ2256、第133図）

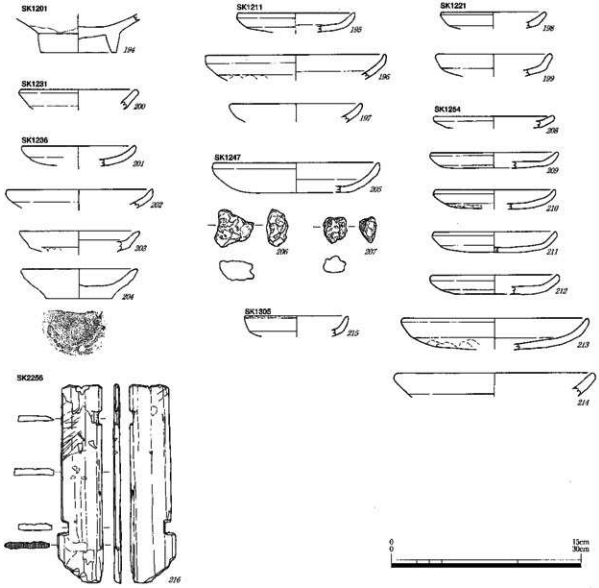
216は板材である。２カ所に四角い穴が開けられている。用途は不明。

鍛冶関連遺構

1002－①号鍛冶関連遺構（ＳＸ1002－①、第134図）

217～220はＳＸ1002－①から出土した遺物である。217～219は鉄滓である。他の鍛冶関連遺構から出土した鉄滓に比べ、やや小ぶりである。220は叩き石である。

1272－①号鍛冶関連遺構（ＳＸ1272－①、第134図、図版77）



第133図　遺物実測図（*194～215* 1/3、*216* 1/6）
SK1201（*194*）　SK1211（*195～197*）　SK1221（*198・199*）　SK1231（*200*）　SK1236（*201～204*）
SK1247（*205～207*）　SK1254（*208～214*）　SK1305（*215*）　SK2256（*216*）

221～228は鉄滓である。

1272－②号鍛冶関連遺構（ＳＸ1272－②、第134図、図版77）

229は鉄滓である。

1273－①号鍛冶関連遺構（ＳＸ1273－①、第134図、図版78）

230～232は鉄滓である。

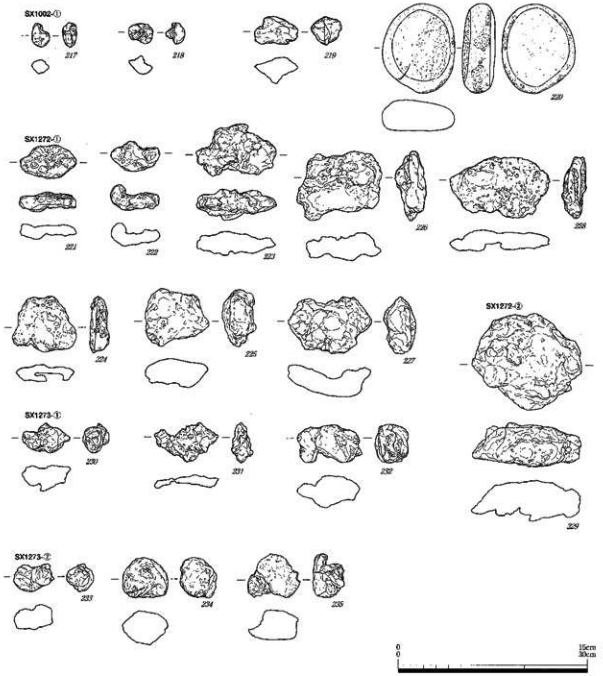
1273－②号鍛冶関連遺構（ＳＸ1273－②、第134図、図版78）

233～235は鉄滓である。

C　中世後期

溝

03号溝（ＳＤ03、第135図、図版63・64・66・79）



第134図　遺物実測図（*217～219、221～235* 1/3、*220* 1/6）
SX1002－①（*217～220*）　SX1272－①（*221～228*）　SX1272－②（*229*）
SX1273－①（*230～232*）　SX1273－②（*233～235*）

236～249はＳＤ03から出土した遺物である。236～240は中世土師器の皿である。236は器厚はやや厚く、平らな底部から緩く内弯し立ち上がる。237は器厚はやや厚めで体部は直線的に開く。238も体部は直線的に開くが器厚は薄い。239・240は煤が付着している。241・242は青磁の碗である。241は外面が櫛状のもので施文されている。太宰府分類の同安窯系の碗Ⅰ－１・ｂ類に相当する。242は外面に剣頭がなく細線のみが描かれるもので16世紀の製品である。243～247は珠洲で243は叩き壺の口縁でⅠ期である。244は甕の口縁でⅠ２期である。245は鉢でⅣ期以降。246も鉢で口縁端部は平坦面が内傾し、波状文が入るものでⅤ期以降。247は鉢の底部である。248は八尾の甕の底部である。249は砥石で使用面は２面みられる。

96号溝（ＳＤ96、第135図）

250は珠洲の鉢である。

119号溝（ＳＤ119、第135図、図版64）

251は珠洲の鉢である。Ⅰ期の製品である。

121号溝（ＳＤ121、第135図）

252は土師器の坏である。

125号溝（ＳＤ125、第135図）

253は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で口縁端部はやや尖る。

134号溝（ＳＤ134、第135図）

254は須恵器の坏である。受部は短く断面は四角である。６世紀後半の製品。

2034号溝（ＳＤ2034、第135図、図版79）

255～258はＳＤ2034から出土した遺物である。255は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で、平らな底部から直立するコースター型である。口縁端部は断面が三角形で内側にやや平坦な面を持つ。256・257は珠洲の鉢で、ともにⅣ１期である。258は硯である。

2139号溝（ＳＤ2139、第136図、図版64）

259～261はＳＤ2139から出土した遺物である。259・260は珠洲の鉢である。259はⅣ期以降で包含層出土のものと接合する。260は底部でＳＤ2140出土、包含層出土のものと接合する。261は石製品で用途は不明。

2140号溝（ＳＤ2140、第136図）

262は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で体部から口縁部にかけて直線的にのびる。

2164号溝（ＳＤ2164、第136図、図版66）

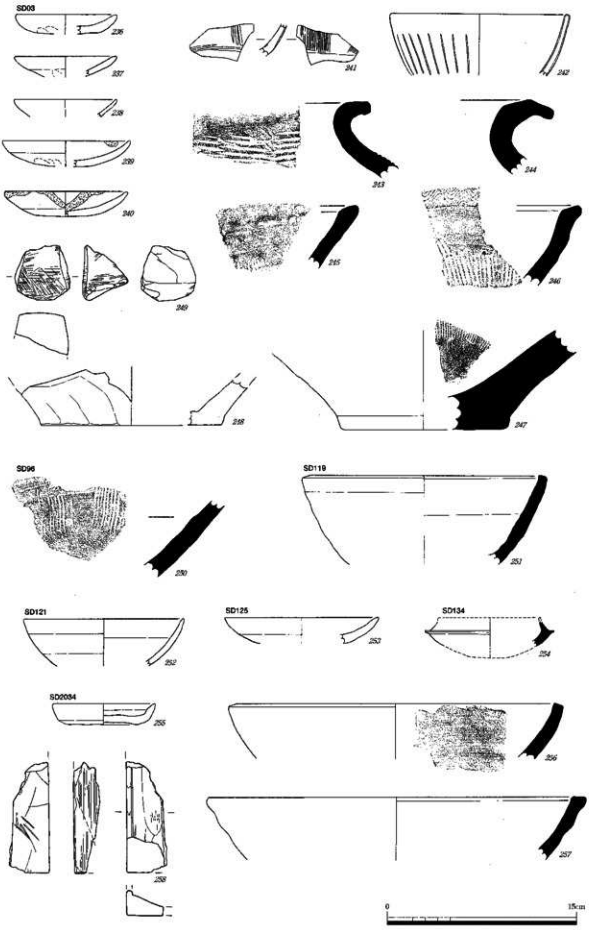
263～265はＳＤ2164から出土した遺物である。263・264は非ロクロ成形の中世土師器の皿である。263は小型で器厚は薄くわずかに内弯しながら立ち上がる。264は器厚は厚く大型である。265は青磁の碗で見込みに「王」の字がみられる。

2165号溝（ＳＤ2165、第136図）

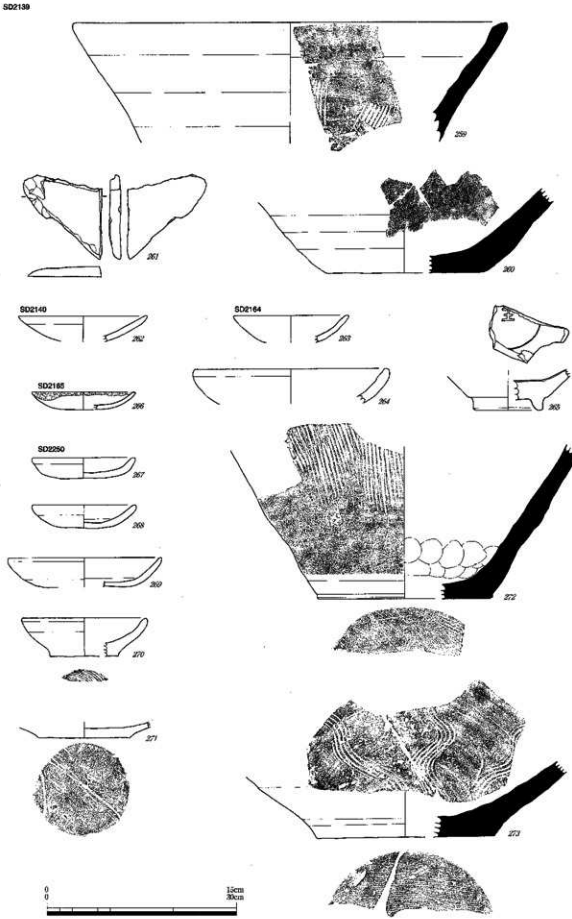
266は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は薄く緩く内弯し、端部は丸い。内外面の口縁部に煤が付着している。

2250号溝（ＳＤ2250、第136図、図版59）

267～273はＳＤ2250から出土した遺物である。267～271は中世土師器の皿である。267・268は非ロクロ成形で体部にナデを施し、口縁端部に面取りをしている。269も非ロクロ成形である。中型で器厚は薄く平らな底部から直線的に体部がのびる。270はロクロ成形で厚い底部から内弯し口縁にのび



第135図　遺物実測図（1/3）
SD03（*236～249*）　SD96（*250*）　SD119（*251*）　SD121（*252*）　SD125（*253*）　SD134（*254*）
SD2034（*255～258*）



第136図　遺物実測図（*259・260・262～273* 1/3，*261* 1/6）
SD2139（*259～261*）　SD2140（*262*）　SD2164（*263～265*）　SD2165（*266*）　SD2250（*267～273*）

るタイプである。271もロクロ成形で底部に回転糸切り痕がみられる。272は珠洲の壺である。273は珠洲の鉢で卸目は曲線である。底部には静止糸切り痕が残る。Ⅱ期の製品である。

2251号溝（ＳＤ2251、第137～142図、図版59・61・63・68～75・79）

274～379はＳＤ2251から出土した遺物である。274～289は中世土師器の皿である。274～282は非ロクロ成形である。274は底部は丸く体部を弱くナデ、口縁端部を面取りしている。275は底部は平らで体部を強くナデ、口縁端部を面取りしている。276は平らな底部から短い立ち上がりでコースター型である。277は丸い底部から直線的に口縁にのびている。器厚は薄く、口縁端部はやや尖る。278～280は器厚が厚く口縁端部は丸い。281は器厚は厚く体部にやや強いナデを施している。283～289はロクロ成形である。283・284・287は底部から直立または斜めに立ち上がってから体部へのびる高台風のものがみられる。290～295は珠洲である。290は甕の胴部である。291～294は甕の口縁部で291・292はⅠ期、293・294はⅠ期～Ⅱ期である。295は鉢でⅠ期である。296～377は木製品である。296～301は漆器である。296～298は皿、299～301は椀ですべて内外面とも黒漆である。文様はない。302～304は曲物の底板だと思われる。305～307はへら状のものである。305は一方は平面形が三角でもう一方の先は細くなっている。三角形の方では途中で厚さが薄くなっている。斎串である可能性もある。308～332は板状加工材である。310は板の上部中央に四角い穴が開けられているが、この形は道場Ⅰ遺跡の井戸の部材でみられる。313～316は折敷などの部材と思われる。313は木釘がみられる。333～348は棒状加工材である。338は端から３㎝程のところを半周削り、もう一方の端は細くなっている。一乗谷朝倉氏遺跡では半周削った部分を首に見立て、その上に目と口の切り込みを入れて顔を表現している遺物が出土しているが、338にそのような加工はみられない。349～374は箸である。折れているものが多いが、両端が残っているものの長さは16.5～25.1㎝で平均すると約20㎝である。375は櫛である。部分的に炭化している。376・377は舟形である。376は長方形に中が刳られており底は丸い。船首の下から上に向かって穴が穿ってあるが、貫通はしていない。船尾は折れており、残存長15.4㎝、幅2.3㎝で船首の一番厚いところで1.5㎝、底の厚さは約６㎜である。377は上面は平らで中は刳られていないが船首近くと船尾近くに横線が一本ずつ引かれており、刳る際の目安としてつけたものと思われる。断面の形は上面も底も平らであるため四角である。これも船尾は折れており、残存長25.6㎝、幅3.6㎝、厚さ2.2㎝である。378・379は砥石である。

井戸

04号井戸（ＳＥ04、第143図）

380～383はＳＥ04から出土した遺物である。380は珠洲の壺である。ＳＤ03出土のものと接合する。381～383は曲物である。同一個体と思われる。

23号井戸（ＳＥ23、第143図）

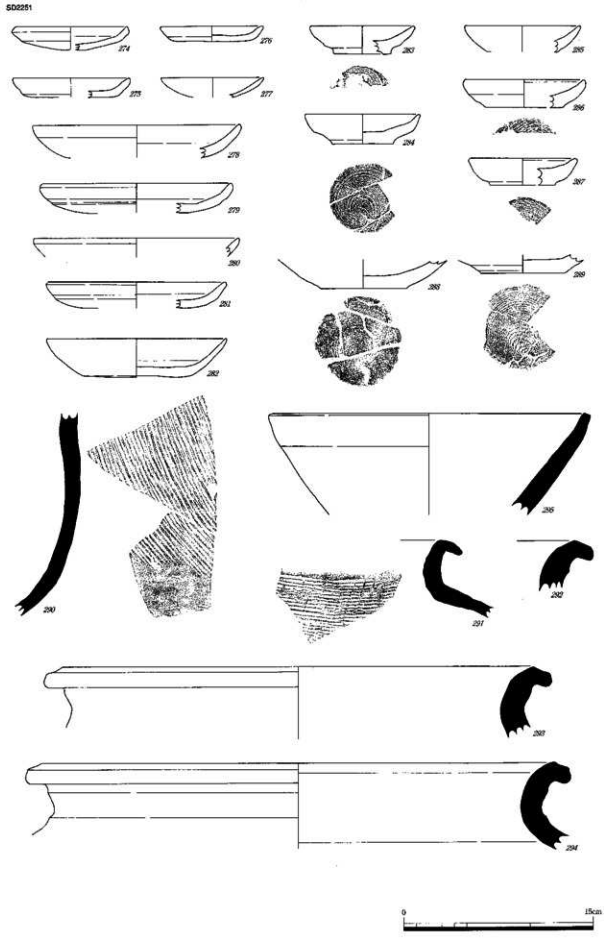
384は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は薄く、体部に弱いナデを施している。口縁はやや立ち上がるが面取りはされていない。

133号井戸（ＳＥ133、第143図、図版64）

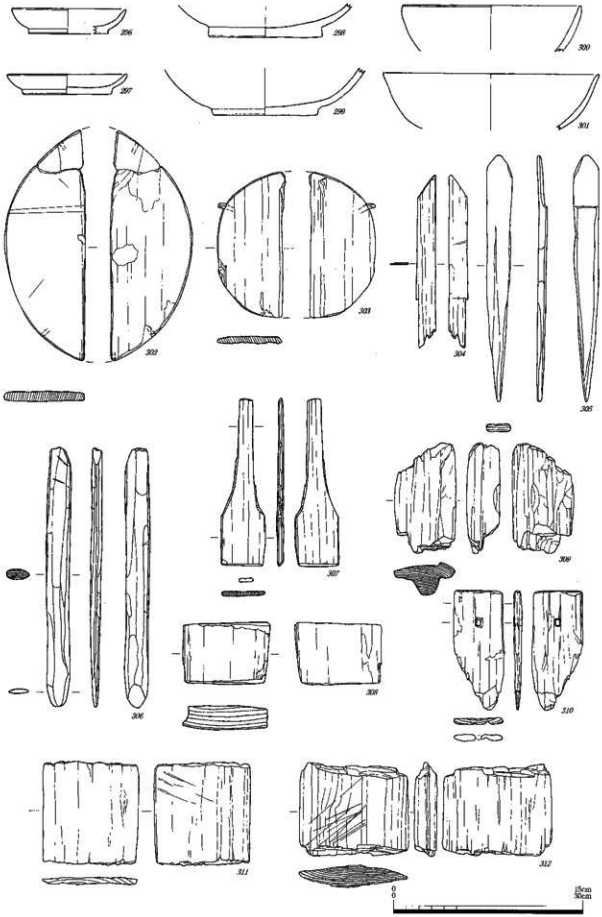
385～387はＳＥ133から出土した遺物である。385は珠洲の鉢である。卸目は直線と曲線のものがみられる。386・387は曲物である。同一個体と思われる。

2100号井戸（ＳＥ2100、第143図、図版63）

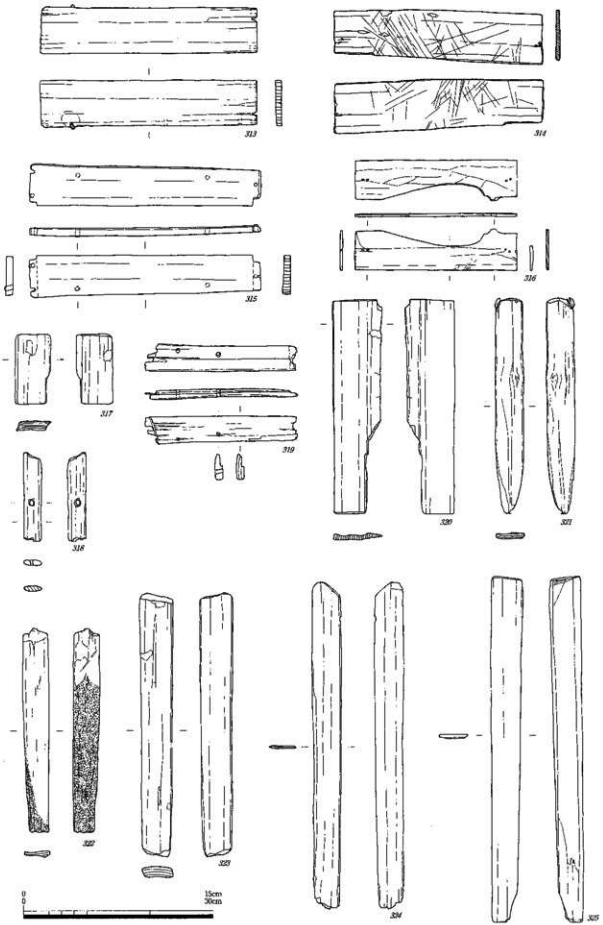
388・389はＳＥ2100から出土した遺物である。388は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は薄く、口縁端部はやや尖る。口縁部の内外面に煤が付着する。389は珠洲の壺である。



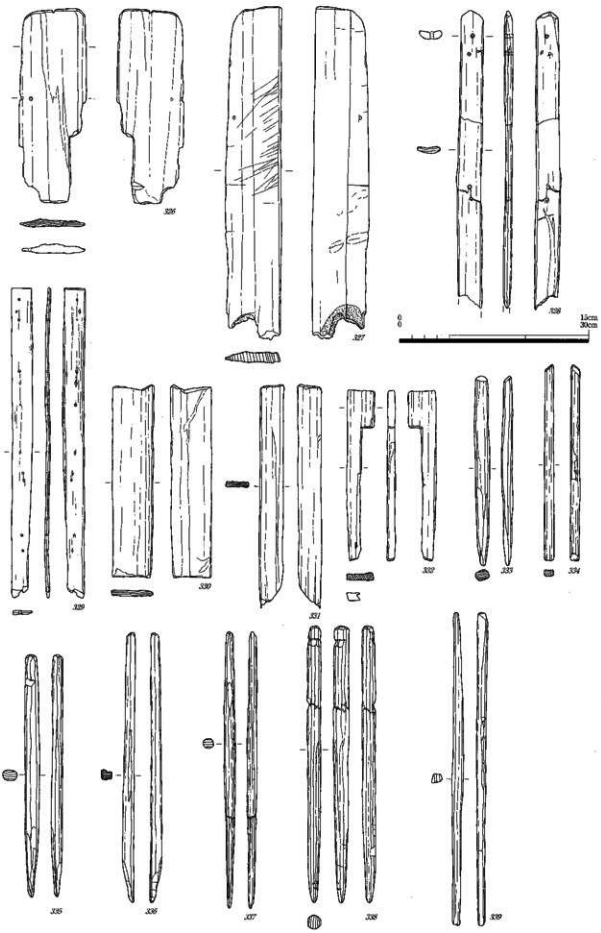
第137図　遺物実測図（1/3）
SD2251（274～294）



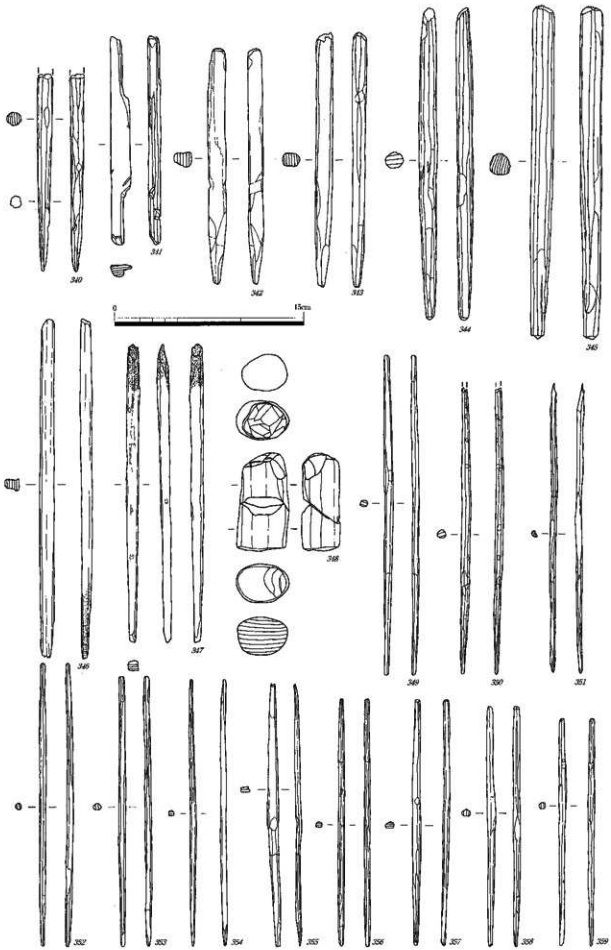
第138図　遺物実測図（*296～306・308*　1/3，　*307・309～312*　1/6）
SD2251（*296～312*）



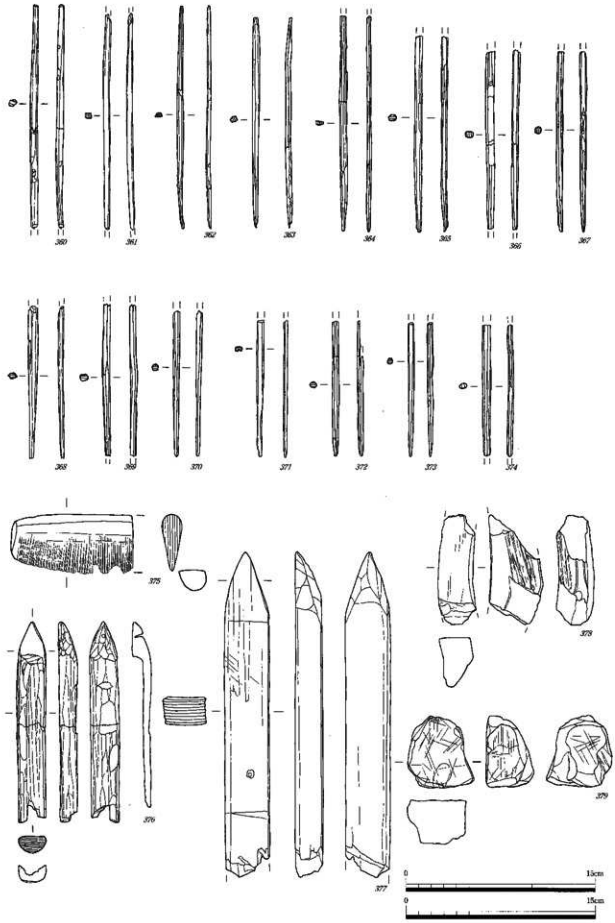
第139図　遺物実測図（*313・315・317～325*　1/3、*314・316*　1/6）
SD2251（*313～325*）



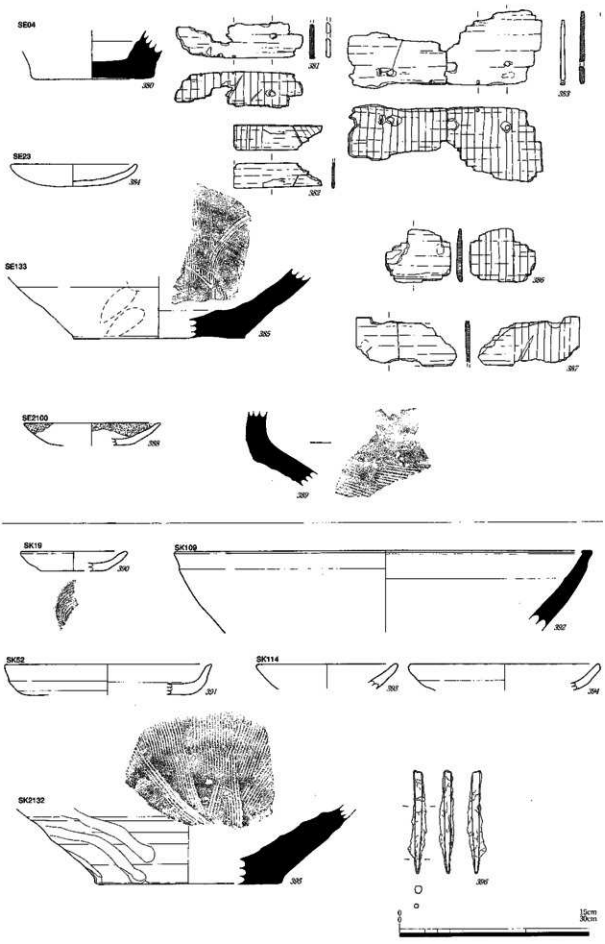
第140図　遺物実測図（*326～328*　1/3、*329～339*　1/6）
SD2251（*326～339*）



第141図　遺物実測図（1/3）
SD2251（340～359）



第142図　遺物実測図（*375*　1/1，*360～374・376～379*　1/3）
SD2251（*360～379*）



第143図　遺物実測図（*380・384・385・388～396*　1/3、*381～383・386・387*　1/6）

SE04（*380～383*）　SE23（*384*）　SE133（*385～387*）　SF2100（*388・389*）　SK19（*390*）
SK52（*391*）　SK109（*392*）　SK114（*393・394*）　SK2132（*395・396*）

土坑

19号土坑（ＳＫ19、第143図）

390は中世土師器の皿である。ロクロ成形で底部には回転糸切り痕が残る。

52号土坑（ＳＫ52、第143図）

391は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で体部に強いナデを施し屈曲させ、口縁端部はやや尖っている。底部は器厚が厚く平らである。

109号土坑（ＳＫ109、第143図）

392は珠洲の鉢である。Ⅰ期の製品である。

114号土坑（ＳＫ114、第143図）

393・394は中世土師器の皿である。393は器厚が厚く体部から口縁部まで直線的で口縁端部は丸い。423は体部にやや強いナデを施している。口縁端部は丸い。

2132号土坑（ＳＫ2132、第143図、図版64・76）

395・396はＳＫ2132から出土した遺物である。395は珠洲の鉢である。卸目は稠密である。外面は取り上げ指頭痕が目立つ。396は釘状の金属製品である。断面は四角い。

2133号土坑（ＳＫ2133、第144図）

397は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は薄く、体部は平らな底部から直線的に伸びる。口縁端部はやや尖る。

2135号土坑（ＳＫ2135、第144図）

398は石製品で、一部被熱している部分があり暖房具であった可能性がある。

2136号土坑（ＳＫ2136、第144図）

399は珠洲の擂鉢である。卸目が稠密であるためⅣ期以降の製品であると思われる。

2145号土坑（ＳＫ2145、第144図）

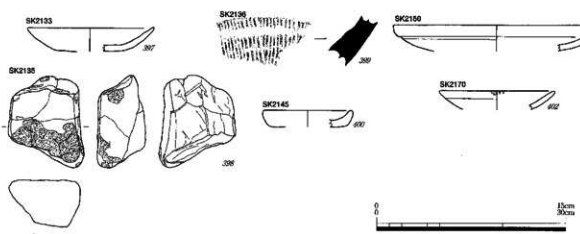
400は中世土師器の皿である。器厚は厚く平らな底部から短く立ち上がり、口縁端部は丸い。

2150号土坑（ＳＫ2150、第144図）

401は中世土師器の皿である。器厚は薄く、口縁端部はつまみ上げられ、面取りが施されている。内面には板状の工具によるハケメがあり、外面には沈線が一本みられる。

2170号土坑（ＳＫ2170、第144図）

402は中世土師器の皿である。器厚は薄く体部から口縁部は直線的で、口縁端部はやや尖る。口縁



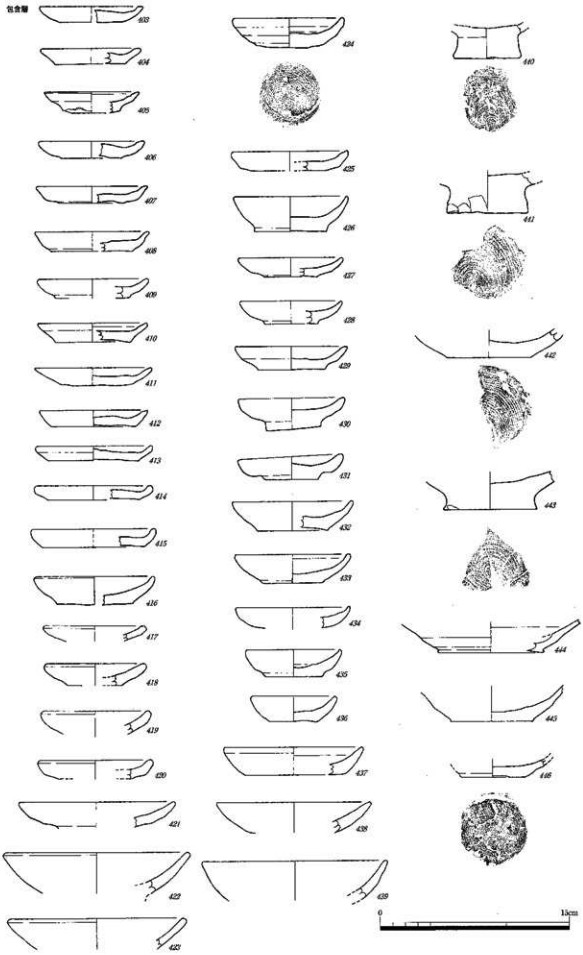
第144図　遺物実測図（*397・399～402* 1/3, *398* 1/6）
SK2133（*397*） SK2135（*398*） SK2136（*399*） SK2145（*400*） SK2150（*401*）
SK2170（*402*）

の内外面に煤が付着している。

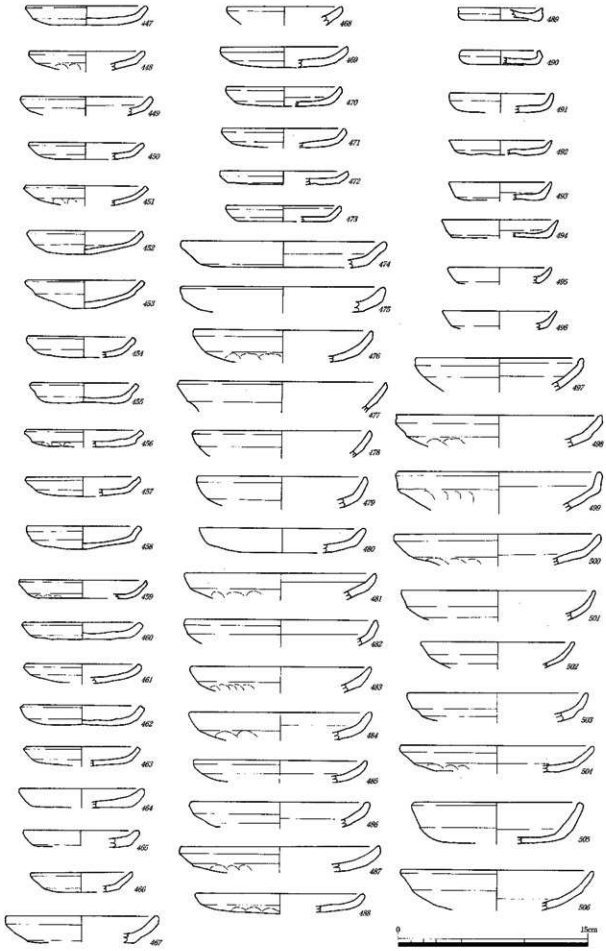
包含層（第145～154図、図版60～64・66・76～79）

包含層の遺物は中世前期・後期を一括して記載する。

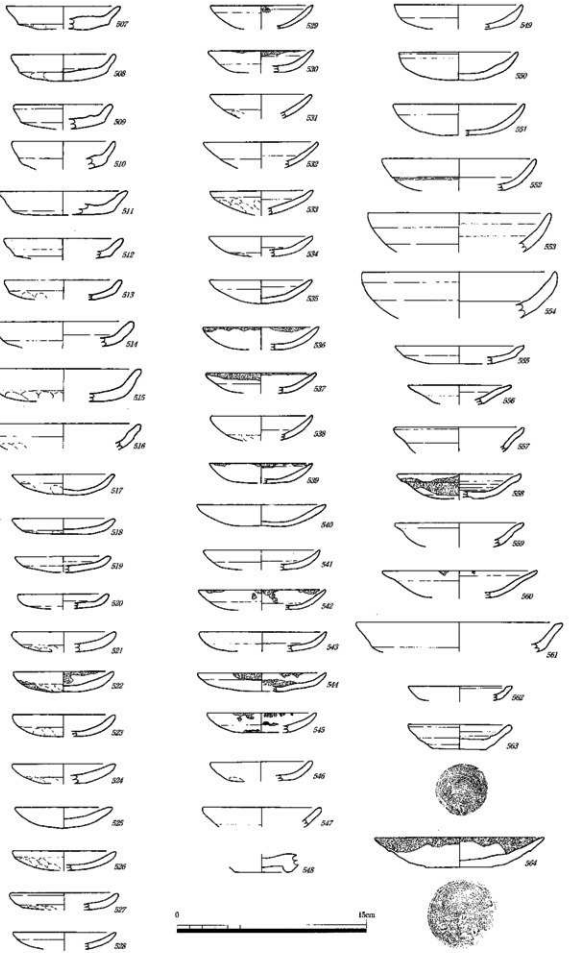
403～446はロクロ成形の中世土師器の皿である。403～407は厚い底部から体部がのび、口縁端部は内傾する面取りを施すタイプである。底部と体部の境が高台風に立ち上がる405と、そのままなめに伸びる403の様なタイプに細分できる。408～412は体部の立ち上がりが短く、やや外反している。413～415は408～412よりもさらに体部の立ち上がりが短い。416～423は口縁端部を外傾に面取りし、断面が四角くなる。体部内面はやや内弯している。体部に比べ口縁端部の器厚がやや薄くなる416・421～423と、厚いままの417～420がある。424は体部のナデが強く、口縁端部が丸い。425は体部のナデは強いが424より立ち上がりが短い。426～432は底部から体部への立ち上がりがややみられ、体部は緩く内弯しながら伸び、口縁端部は丸く仕上げている。434・435は口縁端部をつまみ上げるタイプである。436～439は厚い体部から口縁部にむかって先細りしている。440・441は底部しか残存していないが、柱状の高台をもつものである。447～561は非ロクロ成形の中世土師器の皿である。447～480は体部にナデを施し、口縁端部に面取りをするものである。489～496は底部は平らで体部の立ち上がりが短いタイプである。直立するもの（489・491）、内傾するもの（490）、外傾するもの（492～496）がある。497・498は体部にナデを施し、口縁端部をつまみ上げるタイプである。505・506は深さが深く、碗のような形である。507～516は底部が丸く体部に強いナデを施し屈曲させている。517～520は器厚が比較的薄く、体部にナデによる屈曲がやや認められるタイプ。521～528は器厚が厚く、底部から口縁部へ緩く内弯している。529～533は器厚が薄く、底部から口縁部へ直線的にのび、口縁端部がやや尖るタイプである。529・530は口縁部分に煤が付着している。534～545は529～533よりも体部が内弯し、底部が平らになる。536・537・539・542・544・545の口縁部内外面には煤が付着している。549～554は丸い底部で碗形である。555・556・560は口縁部を外反させるタイプ。557～559・561は口縁部を外反させ、端部をつまみ上げるタイプである。558には外面に煤が付着している。562～564はロクロ成形の中世土師器の皿である。562は口縁端部内側を面取りしている。563は体部から口縁部までの器厚は厚く、口縁端部を丸く仕上げている。564は体部から口縁部にむかって先細りするタイプである。口縁部内外面に煤が付着している。565・566は瀬戸美濃である。565は袴腰型の香炉である。三足が付き、底部には糸切り痕が残る。566は底部のみしかない。三足が付いており、緑釉がかかっている。釉が内面中心にかかっていないため、香炉であると思われる。567～572は白磁である。567～571は碗である。567は内面に4カ所の重ね焼き痕がみられる。568～570は太宰府分類のV類で口縁は外反している。568・569は内面体部に沈線が入れられている。572は皿である。底部はやや上げ底である。573～583は青磁である。573～581は碗である。573は龍泉窯系で2本の沈線によって体部内面を5分割し、その中に飛雲文を描く、太宰府分類のⅠ－4類である。575は龍泉窯系で太宰府分類のⅠ－2類である。576～578は口縁が外反している。579は見込みに草花文が描かれる。581は片彫りで文様を描いている。582・583は皿である。582は龍泉窯系で見込みに櫛状のもので文様が描かれている。583は同安窯系でやはり櫛状のものでジグザグ文様が描かれている。584～610は珠洲である。584～591は壺である。584はT種の口縁で漆接ぎがみられる。Ⅰ期。586は胴部でヘラ描きがされている。587はV期の製品で肩部に波状文が施されている。588はT種でⅠ2期。589もT種でⅠ2期の製品である。590は肩部に波状文が施され、その上部には耳がとれた痕がある。Ⅰ～Ⅱ期の製品である。591は胴部から底部である。E1地区の包含層出土のものとE2地区包含層、SⅠ424覆土出土のもの



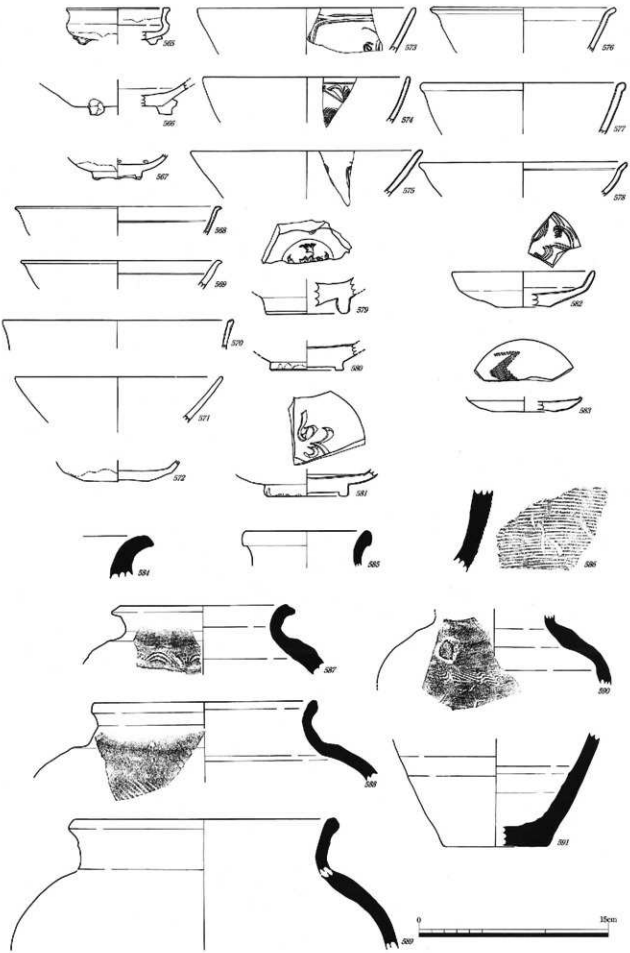
第145図　遺物実測図（1/3）
包含層



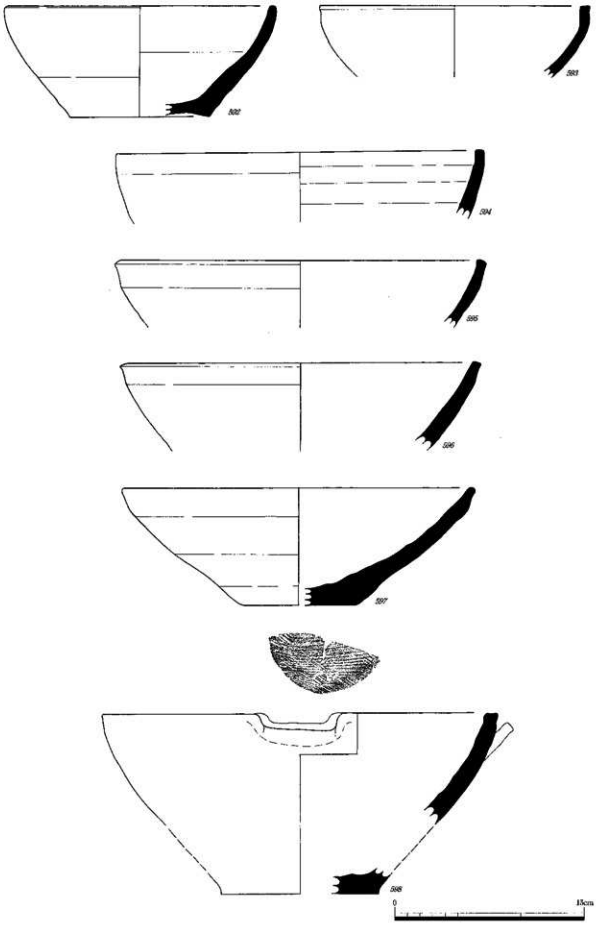
第146図　遺物実測図（1/3）
包含層



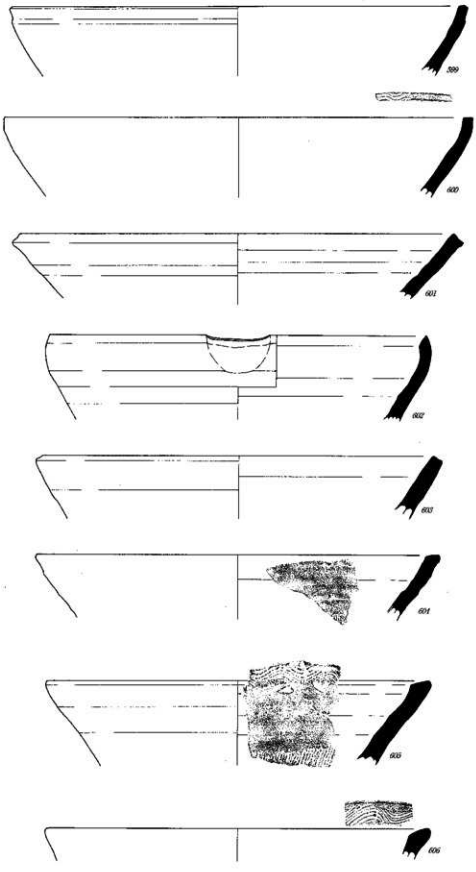
第147図　遺物実測図（1/3）
包含層



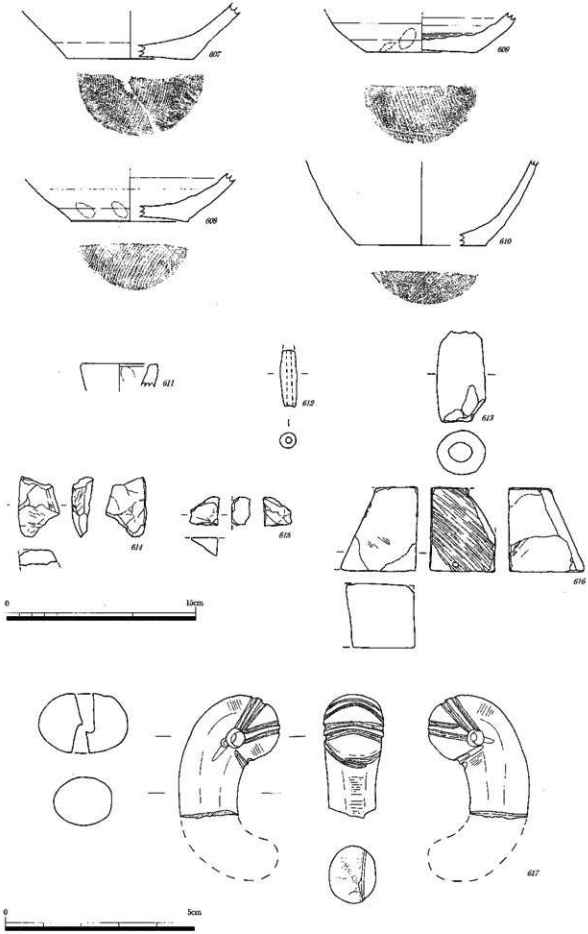
第148図　遺物実測図（1/3）
包含層



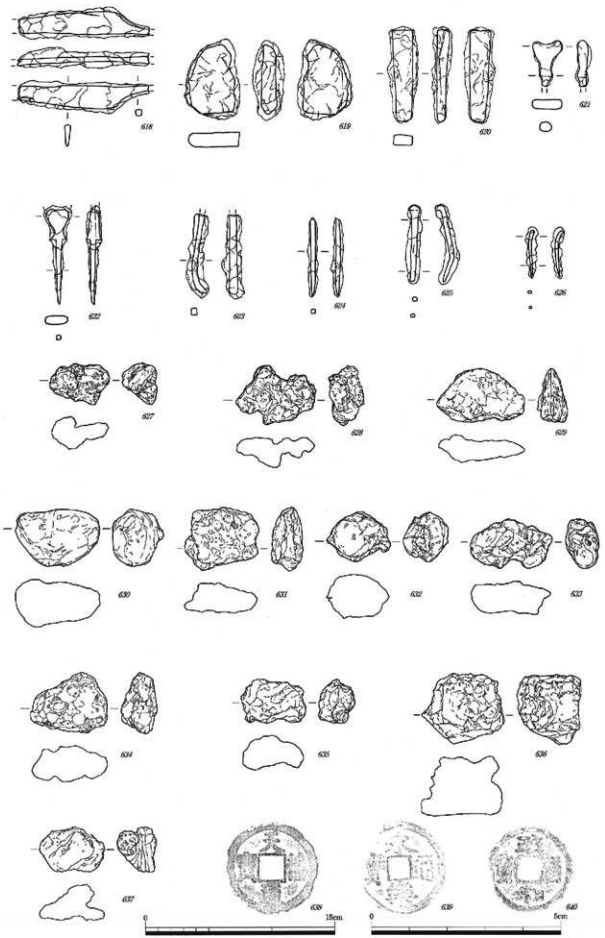
第149図　遺物実測図（1/3）
包含層



第150図　遺物実測図（1/3）
包含層

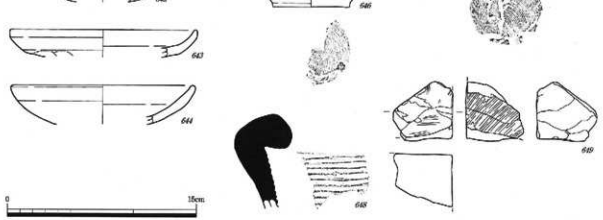


第151図　遺物実測図（*617* 1/1, *607*～*616* 1/3）
包含層



第152図　遺物実測図（*638～640*　1/1，*618～637*　1/3）
包含層

が接合している。592～610は鉢である。592～595はⅠ期の製品で内面に卸目はない。592は口縁端部が方形で角がやや丸い。593は口縁が直立し、端部はやや外側に突出した方形で水平である。594も口縁は直立し、端部は方形で水平である。595は口縁端部が内側に突出した方形で外傾である。596はⅠ～Ⅱ期で内面に卸目はなく、口縁端部は方形で外傾している。597はⅡ2期で内面に卸目はなく、口縁端部は外側がやや細くなる方形である。598は片口が付いている。厚手で内側にやや突出する口縁端部は水平である。599も内面に卸目がなく、口縁端部は水平である。器壁は口縁で段をつけ、体部よりも薄くしている。600も内面に卸目がなく、口縁端部は方形で水平である。水平部分には波状文が入る。601はⅢ期で口縁端部は方形で外側がやや突出し、外傾している。602は片口鉢で片口周辺しか口縁部が残っていなかったため、図では口縁部が内弯している。603は口縁端部は方形で外傾している。Ⅲ～Ⅳ期である。604は内面に卸目がみられ、口縁端部は外面が突出する方形で水平である。Ⅳ期である。605は口縁は三角頭で内傾しており、そこに波状文がつけられている。Ⅴ期である。606も内傾した口縁部に波状文がつけられている。Ⅴ期以降の製品である。611は製塩土器である。口縁端部は方形でやや内傾している。色調は橙色で胎土には長石が含まれる。肌あれは内外面にみられる。612・613は土錘である。612は細いタイプ、613は太いタイプである。614～616は砥石である。617は丁字頭勾玉である。緑色の硬玉製である。2本1セットで頭部4本、頸部2本の溝が彫り込まれている。穿孔は通ってはいるが、両側から施されておりずれている。固い材質のためか穿孔する際、穴が定まらずにできたと思われる浅い穴が横にみられる。先の部分は擦り切りで切り込みがいれられ、折られている。折られた先は他の装飾具に転用されたのであろうか。残存長は3.2cm、20.1gである。全長は推定5cmで、大型の部類に属する。SD137東の中世包含層の出土であるが、古墳時代の製品である。618～640は金属製品である。618は刀子である。619は鍋と思われる。620は板状であるが、くさびのようなものであろうか。621・622は鏃である。623～626は釘である。627～637は鉄滓である。638～640は銭である。638は天禧通寶で初鋳は1017年である。639は永楽通寶で初鋳は1587年である。640は政和通寶で初鋳は1111年である。639と640は重なって出土した。641～649は層位不明の包含層出土遺物である。641～647は中世土師器の皿である。641～644は非ロクロ成形である。641は器厚が厚く立ち上がりが短い。口縁端部は丸く仕上げている。642は器厚は厚く体部に強いナデを施し屈曲させている。643は641の大きいタイプである。644は器厚が厚く底部から口縁部までやや内弯しなが



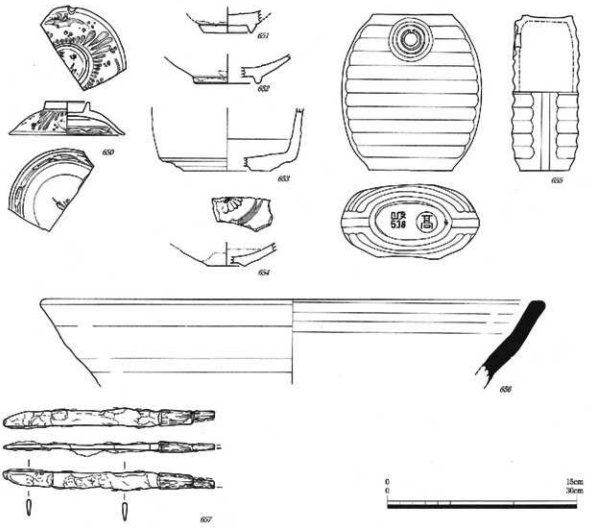
第153図　遺物実測図（1/3）
包含層

ら伸びる。口縁端部は丸く仕上げている。645～647はロクロ成形である。645は器厚は薄く、底部から口縁部へ内弯しながら伸びる。646・647は底部から一度上に立ち上がり、体部から口縁部へと伸びる。器厚は体部の厚さに比べ口縁部では薄くなり、口縁端部は尖り気味に仕上げる。648は珠洲の甕である。Ⅳ期の製品である。649は砥石である。

D　近世・近現代（第154図）

近世・近現代の遺物はおもにＦ１地区の遺構と包含層、Ｅ２地区ＳＢ19北の攪乱から出土している。

650～653は伊万里である。650は蓋である。内面の縁には横線の間に横鎖線を巡らし、見込みには寿の字が書かれている。外側はつまみを中心にして、花であろうか涙形の文様で菱形が描かれ、菱形の外側にも文様が描かれる。つまみの内側には後から書き加えられた赤色の二行の文字がみられる。右側の行は中ノ口（名か？）という字が読みとれるため持ち主の住所であろうと思われる。左側の一行は続きの住所か名前を記したのであろうか。652は皿で見込みは蛇の目釉剥ぎが施されている。653は香炉で蛇の目高台である。654は越中瀬戸の皿である。見込みに菊の押印がみられる。655は岐阜産の陶器の湯たんぽでＥ２地区の攪乱から出土した。戦時下のものである。656は珠洲の鉢でⅣ期である。657は金属製品で刀子である。656・657は近現代の溝から出土しているため古い時代のものが紛れ込んだものであると思われる。（青山　裕子）



第154図　遺物実測図（*650～654*、*656・657* 1/3、*655* 1/6）
包含層

第14表　建物一覧

No.	規模	桁長(m)	梁長(m)	面積(㎡)	棟方向	方位	柱形式	時代	備考	挿図番号	図版番号
1	1×1		2.4	6.0	南北	N－4°－E	側柱	中世前期		79	
2	2×1	3.9	1.9	7.4	東西	N－10°－W	側柱	中世前期		79	
3	2×?	5.0				N－9°－W		中世前期		80	
4	3×3～	8.0	7.5			N－9°－W	総柱	中世前期		81	48
5	2×1～	6.0	2.2			N－20°－W	総柱	中世前期		80	48
6	2×1～	4.9	2.9			N－15°－W	総柱	中世前期		82	48
7	2×?	4.9				N－7°－W		中世前期		82	
8	3×1～	7.5	1.9			N－7°－W		中世前期		83	48
9	5?×4	11.9	11.3			N－7°－W	総柱	中世前期		84	49・50
10	5×4	11.3	10.3	116.4	東西	N－4°－W	総柱	中世前期		86	49・50
11	3×2?	6.4	4.8			N－6°－W		中世前期		88	
12	1×1	2.7	2.5	6.8	東西	N－0°－W	側柱	中世前期		88	
13	2×1	4.9	2.2	10.8	東西	N－0°－W	側柱	中世前期		89	
14	2×1	5.8	2.7	15.7	東西	N－2°－E	側柱	中世前期		89	
15	2?×2～	4.2	3.9			N－12°－E	総柱	中世前期		90	
16	2?×1～	4.3	2.1			N－0°－W	総柱	中世前期		90	
17	3×?	6.6				N－22°－W		中世前期		91	
18	2×?	4.6				N－27°－W		中世前期		91	
19	3×?	7.8				N－28°－W		中世後期		107	
20	2×?	4.6				N－24°－W		中世後期		107	
21	2×?	7.2				N－23°－W		中世後期		108	
22	2×1	3.2	3.0			N－8°－W		中世後期		108	
23	2×1	4.9	4.3	21.1	南北	N－18°－W		中世後期		109	
24	3×2	6.9	4.8	33.1	東西	N－20°－W		中世後期		110	57

第15表　柱穴一覧（1）

遺構番号	遺物番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	挿図番号	図版番号
SP412	SB01	円	33	27	27		中世前期	79	
SP416	SB01	円	39	30	44		中世前期	79	
SP421	SB01	円	41	35	29		中世前期	79	
SP478	SB01	円	32	27	13		中世前期	79	
SP413	SB02	円	29	23	27	中世土師器	中世前期	79	
SP414	SB02	円	39	31	40		中世前期	79	
SP417	SB02	円	30	26	24		中世前期	79	
SP420	SB02	円	50	38	35		中世前期	79	
SP430	SB02	円	30	—	16		中世前期	79	
SP374	SB03	楕円	41	38	12		中世前期	80	
SP375	SB03	円	47	45	9		中世前期	80	
SP377	SB03	円	49	47	21		中世前期	80	
SP333	SB04	円	49	43	39		中世前期	81	
SP334	SB04	円	45	42	36		中世前期	81	
SP339	SB04	円	57	49	11		中世前期	81	
SP342	SB04	円	48	45	33		中世前期	81	
SP344	SB04	円	40	35	40		中世前期	81	
SP346	SB04	円	40	35	37		中世前期	81	
SP352	SB04	円	42	39	34		中世前期	81	
SP356	SB04	不整	77	53	52		中世前期	81	
SP359	SB04	円	47	44	17		中世前期	81	
SP362	SB04	円	50	40	41		中世前期	81	
SP365	SB04	円	46	40	44		中世前期	81	
SP369	SB04	円	54	48	43		中世前期	81	
SP372	SB04	円	43	42	38		中世前期	81	
SP284	SB05	楕円	43	(29)	13	中世土師器	中世前期	80	
SP286	SB05	円	53	47	24		中世前期	80	
SP300	SB05	楕円	60	48	39	中世土師器	中世前期	80	
SP312	SB05	円	62	44	26		中世前期	80	
SP313	SB05	楕円	73	38	32	中世土師器	中世前期	80	
SP315	SB05	楕円	50	33	23		中世前期	80	
SP444	SB06	円	46	44	42		中世前期	82	
SP453	SB06	円	38	34	42		中世前期	82	
SP456	SB06	円	53	37	38		中世前期	82	
SP460	SB06	不整	60	59	36		中世前期	82	
SP474	SB06	円	62	40	44		中世前期	82	
SP470	SB07	楕円	45	30	26		中世前期	82	
SP471	SB07	楕円	44	30	28		中世前期	82	

第15表　柱穴一覧（2）

遺構番号	遺物番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	挿図番号	図版番号
SP472	SI807	楕円	50	42	23		中世前期	82	
SP171	SB08	円	58	52	30		中世前期	83	
SP174	SB08	円	50	41	37		中世前期	83	
SP178	SB08	円	52	48	46		中世前期	83	
SP186	SB08	楕円	47	41	44		中世前期	83	
SP1269	SB09	円	38	(22)	26		中世前期	84・85	
SP1201	SB09	円	56	47	29	中世土師器	中世前期	84・85	
SP1203	SB09	楕円	72	(70)	13		中世前期	84・85	
SP1207	SB09	楕円	48	40	47	中世土師器	中世前期	84・85	
SP1209	SB09	不整形	64	55	28	中世土師器、古墳、鉄滓	中世前期	84・85	
SP1214	SB09	円	43	40	36	中世土師器、鉄滓	中世前期	84・85	
SP1218	SB09	楕円	56	(50)	34	中世土師器	中世前期	84・85	
SP1222	SB09	楕円	55	46	42	中世土師器	中世前期	84・85	
SP1232	SB09	楕円	76	52	50	中世土師器、古墳、鉄滓	中世前期	84・85	
SP1234	SB09	円	54	49	36	中世土師器、鉄滓	中世前期	84・85	
SP1235	SB09	円	46	40	58		中世前期	84・85	
SP1238	SB09	円	61	51	28	中世土師器	中世前期	84・85	
SP1250	SB09	円	48	40	40	土師器、中世土師器	中世前期	84・85	
SP1255	SB09	楕円	70	56	55	中世土師器、鉄刀子	中世前期	84・85	
SP1260	SB09	楕円	56	46	38	中世土師器	中世前期	84・85	
SP1264	SB09	楕円	111	102	53	中世土師器、鉄滓	中世前期	84・85	
SP180	SB09	円	32	31	44		中世前期	84・85	
SP1206	SB10	楕円	81	55	22		中世前期	86・87	
SP1208	SB10	楕円	60	47	38		中世前期	86・87	
SP1210	SB10	円	46	44	48	中世土師器、礫石、鉄滓	中世前期	86・87	
SP1212	SB10	円	47	46	38	中世土師器	中世前期	86・87	
SP1213	SB10	円	58	47	34	柱	中世前期	86・87	
SP1215	SB10	円	73	70	39		中世前期	86・87	
SP1219	SB10	不整形	50	48	39	土師器、中世土師器	中世前期	86・87	
SP1223	SB10	円	52	45	37	中世土師器、鉄滓	中世前期	86・87	
SP1230	SB10	円	62	50	50	中世土師器、鉄滓	中世前期	86・87	
SP1233	SB10	方	46	37	22		中世前期	86・87	
SP1237	SB10	円	45	44	47	中世土師器	中世前期	86・87	
SP1242	SB10	楕円	108	59	51		中世前期	86・87	
SP1245	SB10	楕円	67	48	53		中世前期	86・87	
SP1252	SB10	楕円	77	47	46	中世土師器、柱	中世前期	86・87	51
SP1257	SB10	楕円	54	47	47	土師器、須恵器、中世土師器、柱	中世前期	86・87	51
SP1258	SB10	円	38	30	47	中世土師器	中世前期	86・87	
SP1262	SB10	円	41	39	44	中世土師器、鉄滓	中世前期	86・87	
SP1315	SB11	円	18	15	27		中世前期	88	
SP1318	SB11	円	17	14	4		中世前期	88	
SP1319	SB11	楕円	27	18	10	柱	中世前期	88	
SP1320	SB11	円	17	13	9		中世前期	88	
SP1321	SB11	円	24	23	7		中世前期	88	
SP1325	SB11	円	17	15	37		中世前期	88	
SP1326	SB11	円	15	11	17		中世前期	88	
SP1331	SB11	円	16	13	—		中世前期	88	
SP1086	SB12	円	30	24	26		中世前期	88	
SP1100	SB12	円	30	27	34		中世前期	88	
SP1148	SB12	楕円	37	30	29		中世前期	88	
SP1156	SB12	円	29	26	27		中世前期	88	
SP1313	SB13	円	28	23	9		中世前期	89	
SP1094	SB13	円	31	31	26		中世前期	89	
SP1096	SB13	円	30	25	35		中世前期	89	
SP1099	SB13	円	36	28	30		中世前期	89	
SP1110	SB13	円	30	28	44		中世前期	89	
SP1114	SB13	円	30	29	53		中世前期	89	
SP1087	SB14	楕円	42	29	35		中世前期	89	
SP1098	SB14	円	27	24	40		中世前期	89	
SP1112	SB14	円	38	30	32		中世前期	89	
SP1117	SB14	楕円	(50)	39	36		中世前期	89	
SP1151	SB14	円	29	26	33		中世前期	89	
SP1007	SB15	不整形	33	31	34		中世前期	90	
SP1017	SB15	円	76	66	28	中世土師器	中世前期	90	
SP1034	SB15	円	43	37	21		中世前期	90	
SP1056	SB15	楕円	37	(31)	28		中世前期	90	
SP1134	SB15	円	46	40	22		中世前期	90	
SP1141	SB15	円	33	30	23		中世前期	90	
SP1010	SB16	楕円	30	29	29	中世土師器	中世前期	90	
SP1024	SB16	楕円	49	28	31		中世前期	90	
SP1030	SB16	円	47	46	32	中世土師器	中世前期	90	

第15表　柱穴一覧（3）

遺構番号	建物番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	掲図番号	図版番号
SP1045	SB16	円	38	32	13		中世前期	90	
SP1126	SB16	円	36	30	28		中世前期	90	
SP2227	SB17	円	56	46	84		中世前期	91	
SP2240	SB17	楕円	(68)	54	44		中世前期	91	
SP2271	SB17	楕円	37	28	36		中世前期	91	
SP2276	SB17	楕円	45	39	24		中世前期	91	
SP2239	SB18	楕円	51	33	32		中世前期	91	
SP2241	SB18	楕円	53	35	37		中世前期	91	
SP2242	SB18	楕円	45	32	43	中世土師器	中世前期	91	
SP49	SB19	円	45	(22)	29		中世後期	107	
SP62	SB19	円	47	35	12		中世後期	107	
SP70	SB19	円	32	29	33		中世後期	107	
SP82	SB19	円	62	32	33		中世後期	107	
SP48	SB20	円	47	38	6		中世後期	107	
SP60	SB20	円	18	14	14		中世後期	107	
SP89	SB20	円	72	31	46		中世後期	107	
SP40	SB21	円	41	40	18		中世後期	108	
SP57	SB21	円	82	70	37	中世土師器	中世後期	108	
SP71	SB21	楕円	65	48	4		中世後期	108	
SP69	SB22	円	27	26	63		中世後期	108	
SP14	SB22	不整	43	32	29	中世土師器、鉄製品	中世後期	108	
SP17	SB22	円	(40)	35	54	中世土師器	中世後期	108	
SP20	SB22	円	26	23	46	中世土師器	中世後期	108	
SP22	SB22	円	30	30	59	中世土師器	中世後期	108	
SP104	SB22	円	48	21	10	中世土師器	中世後期	108	
SP2004	SB23	円	49	39	20		中世後期	109	
SP2012	SB23	円	39	35	12		中世後期	109	
SP2144	SB23	円	72	51	20	珠洲	中世後期	109	
SP2149	SB23	楕円	40	29	18		中世後期	109	
SP2161	SB23	楕円	89	45	49		中世後期	109	
SP2203	SB24	楕円	64	47	57		中世後期	110	
SP2205	SB24	円	50	47	54	中世土師器	中世後期	110	
SP2208	SB24	円	38	37	37		中世後期	110	
SP2223	SB24	円	57	50	3		中世後期	110	
SP2224	SB24	円	35	34	25		中世後期	110	
SP2260	SB24	円	50	48	33		中世後期	110	
SP2251	SB24	円	46	40	9		中世後期	110	
SP2262	SB24	円	40	37	40		中世後期	110	
SP2263	SB24	円	62	52	40		中世後期	110	
SP2264	SB24	円	37	34	43	珠洲	中世後期	110	
SP2272	SB24	円	49	49	53		中世後期	110	
SP220	SA01	円	36	33	44		中世後期	92	
SP229	SA01	円	40	35	47	中世土師器	中世後期	92	
SP246	SA01	円	42	30	24		中世後期	92	

第16表　溝一覧（1）

遺構番号	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	掲図番号	図版番号
SD03	340	64	中世土師器、珠洲、八尾、瀬戸、白磁、青磁、唐津、砥石	中世～近世	112	
SD46	29	4		中世後期		
SD96	115	27	須恵器、中世土師器、珠洲	中世後期	111	
SD98	52	9		中世後期	111	
SD99	66	10	中世土師器、珠洲	中世後期	111	
SD119	56	13	中世土師器、珠洲	中世後期	111	
SD120	32	19	中世土師器	中世後期	111	
SD121	102	13	中世土師器、珠洲	中世後期	111	
SD123	35	8		中世後期	111	
SD124	30	3		中世後期	111	
SD125	31	5	中世土師器	中世後期	111	
SD126	27	3		中世後期	111	
SD134	51	11	須恵器、中世土師器	中世後期	112	
SD135	53	5		中世後期	112	
SD136	81	14	土師器、中世土師器、珠洲、中国製青磁	中世前後期	94・112	56
SD137	101	51	中世土師器、加工材、種子	中世前期	94	
SD143	50	11		中世前期	95	
SD153	47	19		中世前期	95	
SD154	50	8		中世前期	95	
SD156	60	6		中世前期	95	
SD157	41	6		中世前期	95	

第16表　溝一覧（2）

遺構番号	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	掲図番号	同版番号
SD164	40	3		中世前期	95	
SD165	90	9		中世後期	95	
SD169	116	8		中世前期	95	
SD296	105	12		中世前期	94	
SD355	33	7		中世前期	93	
SD368	63	6		中世前期	93	
SD380	50	10		中世前期	93	
SD382	33	6		中世前期	93	
SD385	106	18	中世土師器	中世前期	93	
SD386	117	30	中世土師器、珠洲	中世前期	93	
SD388	23	10		中世前期	93	
SD389	161	34	珠洲	中世前期	93	
SD392	81	8		中世前期	93	
SD395	140	15	中世土師器	中世前期	93	
SD411	144	8	中世土師器	中世前期	93	
SD435	126	47	木製品、鉄滓、礫石、製塩土器	中世前期	94	
SD437	238	10		中世前期	94	
SD438	130	8		中世前期	94	
SD463	56	9		中世前期	94	
SD473	58	13		中世前期	94	
SD1001	24	28	中世土師器	中世前期	96	
SD1101	100	19	珠洲	中世前期	96	
SD1158	180	55	中世土師器、珠洲	中世前期	96	
SD1159	180	67	中世土師器、珠洲、鉄滓、釘、棒状加工木、折敷、曲材	中世前期	96	49・50
SD1160	220	80	陶器、中世土師器、羽口、鉄滓、叩石、折敷、櫛、動物歯、箸器、棒状加工材、板状加工材、曲材	中世前期	96	49・50
SD1267	36	15	中世土師器、青磁	中世前期	96	
SD1268	59	15	中世土師器	中世前期	96	
SD1274	131	4		中世前期	96	
SD1301	235	12	中世土師器	中世前期	96	
SD1306	35	20		中世前期	96	
SD1324	50	28		中世前期	96	
SD1327	44	10		中世前期	96	
SD1328	36	13		中世前期	96	
SD1329	36	14		中世前期	96	
SD1330	37	13		中世前期	96	
SD1401	170	60	中世土師器	古代	77	47
SD2031	40	6		近世	123	
SD2032	33	5		中世後期	113	
SD2034	104	18	中世土師器、珠洲、唐津、伊万里、瓦	中世後期	113	
SD2035	143	30	中世土師器、珠洲、磁器	中世後期	113	
SD2036	70	17	珠洲	中世後期	113	
SD2038	40	5		近世	123	
SD2039	50	11		近世	123	
SD2040	(135)	21		中世後期	113	
SD2041	80	13	伊万里	近世	123	
SD2139	100	17	中世土師器、珠洲、加工石	中世後期	113	
SD2140	86	20	中世土師器、珠洲	中世後期	113	
SD2154	21	2		中世後期	113	
SD2155	31	7		中世後期	113	
SD2156	22	4		中世後期	113	
SD2157	25	4		中世後期	113	
SD2158	25	5		中世後期	113	
SD2159	17	4		中世後期	113	
SD2160	25	3		中世後期	113	
SD2164	115	25	須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、越中瀬戸	中世後期	113	
SD2165	72	25	須恵器、中世土師器、珠洲	中世後期	113	
SD2229	77	15	中世土師器	中世後期	113	
SD2230	1051	16	中世土師器	中世後期	113	
SD2231	901	9		中世後期	113	
SD2232	46	5		中世後期	113	
SD2233	51	17	中世土師器	中世前期	97	
SD2234	170	25		中世前期	97	
SD2235	107	27	珠洲	中世前期	97	
SD2236	182	61	中世土師器	中世前期	97	
SD2237	(106)	50	中世土師器、白磁	中世後期	114	
SD2245	41	13		中世前期	97	

第16表　溝一覧（3）

遺構番号	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	挿図番号	図版番号
SD2246	(191)	16		中世後期	114	
SD2247	96	17		中世後期	114	
SD2249	233	75	珠洲	中世前後期	97	52・53
SD2250	380	101	中世土師器、珠洲、八尾、越中瀬戸、内黒	中世前後期	97	52・53
SD2251	1010	111	土師器、中世土師器、珠洲、白磁、青磁、越中瀬戸、伊万里、砥石、箸、板、底板、へら、杭、櫛、漆器、舟形、加工材	中世前後期	97	52・53
SD2257	161	57	中世土師器	中世前期	97	
SD2273	22	24		中世前期		
SD2274	202	56	中世土師器、珠洲、白磁	中世前期	97	

第17表　土坑一覧（1）

遺構番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	挿図番号	図版番号
SK06	円	43	(32)	6	中世土師器	中世後期	117・118	54
SK07	円	49	(49)	10		中世後期	117・118	54
SK08	楕円	80	78	13	中世土師器、珠洲	中世後期	117・118	54
SK10	円	23	(21)	41	中世土師器	中世後期	117・118	54
SK16	方	291	219	28	中世土師器	中世後期	117・118	
SK18		61	54	48	中世土師器	中世後期	108	
SK19	楕円	180	105	14	中世土師器	中世後期	117・118	
SK25	円	50	46	14	中世土師器	中世後期	117・118	
SK26	楕円	124	84	31	中世土師器	中世後期	117・118	
SK42	円	36	31	18	中世土師器	中世後期	117・118	
SK43		(81)	137	18	中世土師器	中世後期	117・118	
SK44		159	(24)	19		中世後期	117・118	
SK45	円	31	(18)	27		中世後期	117・118	
SK50	円	(68)	64	11		中世後期	107	
SK52	隅丸	131	108	46	中世土師器	中世後期	117・118	
SK54	円	75	(57)	13	中世土師器	中世後期	117・118	
SK58	円	70	(33)	25	中世土師器	中世後期	117・118	
SK61	円	40	31	19		中世後期	107	
SK72	円	22	20	68		中世後期	117・118	
SK100	方	117	83	5		中世後期	117・118	54
SK101	方	239	85	36		中世後期	117・118	54
SK105	方	(111)	(75)	25	中世土師器、珠洲	中世後期	117・118	54
SK106	不整	149	116	10	中世土師器	中世後期	117・118	54
SK107	方	350	136	41	中世土師器、白磁	中世後期	117・118	54
SK109	方	(192)	164	20	中世土師器、珠洲	中世後期	117・118	54
SK113	方	173	82	17	中世土師器、白磁	中世後期	117・118	54
SK114	方	(198)	198	14	中世土師器、鉄製品	中世後期	117・118	54
SK116	不整	403	219	29	中世土師器	中世後期	117・118	
SK118	隅丸	72	66	17	中世土師器、鉄製品	中世後期	117・118	
SK138	不整	240	155	17	中世土師器	中世前期	101	
SK139	楕円	—	62	14		中世前期	101	
SK140	楕円	203	124	13		中世前期	101	
SK179	円	47	37	49		中世前期	102	
SK181	円	61	44	41	中世土師器	中世前期	83	
SK183	円	(145)	175	109	中世土師器、砥石	中世前期	102	
SK184	円	50	49	39	中世土師器	中世前期	102	
SK194	円	103	(47)	33		中世前期	102	
SK202	円	45	43	27	砥石	中世前期	102	
SK228	円	28	24	31		中世前期	99・100	
SK230	円	27	(19)	17		中世前期	92	
SK241	円	34	30	34	中世土師器	中世前期	99・100	
SK245	円	29	(14)	14		中世前期	92	
SK250	不整	69	47	49	中世土師器	中世前期	99・100	
SK267	楕円	75	58	49	中世土師器、鉄滓	中世前期	99・100	
SK277	楕円	71	51	59	中世土師器	中世前期	99・100	
SK283	楕円	41	31	13	中世土師器	中世前期	99・100	
SK287	円	(70)	64	26	中世土師器	中世前期	99・100	
SK298	楕円	55	35	25	中世土師器	中世前期	99・100	
SK299	不整	288	147	14	中世土師器、珠洲	中世前期	80	
SK322	円	21	17	15	中世土師器	中世前期	99・100	

第17表　土坑一覧（2）

遺構番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	挿図番号	図版番号
SK353	円	44	(40)	4		中世前期	81	
SK363	円	42	35	51	中世土師器	中世前期	98	
SK370	円	40	32	36		中世前期	98	
SK381	円	105	81	29		中世前期	98	
SK396	円	60	50	36		中世前期	98	
SK401	楕円	55	35	15	中世土師器	中世前期	98	
SK404	楕円	76	51	18		中世前期	98	
SK405	楕円	53	42	10		中世前期	98	
SK406	円	60	58	22		中世前期	98	
SK407	円	91	86	29		中世前期	98	
SK418	円	82	43	27		中世前期	98	
SK435	楕円	(161)	56	8	中世土師器	中世前期	101	
SK440	楕円	86	(56)	27	鉄滓、種子	中世前期	101	
SK441	不整	133	56	29		中世前期	101	
SK449	円	30	27	9	中世土師器	中世前期	101	
SK476	円	37	(24)	23	白磁	中世前期	98	
SK481	方	625	112	60	中世土師器	中世前期	102	
SK482	円	25	21	13	土師器、須恵器	古代	78	
SK483	円	29	27	23		中世前期	99・100	
SK1011	楕円	40	23	30	中世土師器	中世前期	104	
SK1028	円	31	31	27	中世土師器	中世前期	104	
SK1039	円	40	33	33	中世土師器	中世前期	104	
SK1043	楕円	51	45	19	中世土師器	中世前期	104	
SK1047		68	(24)	37	中世土師器、珠洲	中世前期	104	
SK1063	楕円	39	28	19	中世土師器	中世前期	104	
SK1064	楕円	47	31	23	中世土師器	中世前期	104	
SK1069	楕円	(40)	32	28	中世土師器	中世前期	104	
SK1061	楕円	48	42	14		中世前期	104	
SK1070	楕円	58	36	24	中世土師器	中世前期	104	
SK1073	楕円	45	35	15	中世土師器	中世前期	104	
SK1074	楕円	53	31	16	土錘	中世前期	104	
SK1080	楕円	34	27	25	中世土師器	中世前期	104	
SK1118	楕円	(70)	60	14		中世前期	96	
SK1119		53	(30)	30		中世前期	96	
SK1128	楕円	45	41	25	中世土師器	中世前期	104	
SK1147		20	(11)	15		中世前期	88	
SK1201		131	(30)	14	白磁	中世前期	103	
SK1205	円	35	45	49		中世前期	87	
SK1211	楕円	86	70	29	中世土師器	中世前期	103	
SK1216	円	62	39	18		中世前期	84・85	
SK1217	不整形	80	62	48		中世前期	84・85	
SK1220	円	(60)	59	7		中世前期	103	
SK1221	円	33	29	22	中世土師器	中世前期	103	
SK1236	楕円	65	60	12	中世土師器、鉄滓、刀子	中世前期	103	
SK1239		43	(24)	20		中世前期	84・85	
SK1246		(50)	56	26		中世前期	86・87	
SK1247		30	24	8	中世土師器、鉄滓	中世前期	103	
SK1251	円	47	45	37		中世前期	84・85	
SK1254	不整形	(118)	85	14	中世土師器、炉壁	中世前期	103	
SK1259		34	(28)	17	中世土師器	中世前期	103	
SK1261		50	(21)	34		中世前期	84・85	
SK1263	円	36	30	10	珠洲	中世前期	103	
SK1305		37	(10)	29	中世土師器	中世前期	103	
SK1400	不整形	407	150	22		古代	78	47
SK1500	円	140	83	56		古代	78	47
SK2005	隅丸	54	44	15	青磁	中世後期	119	
SK2011	隅丸	92	79	27		中世後期	124	
SK2015	円	37	34	18		中世後期	124	
SK2024	楕円	64	45	45		中世後期	124	
SK2043	不整形	—	(218)	40	磁器	中世後期	121	
SK2132	円	52	48	22	珠洲、金属製品	中世後期	121	
SK2133	円	197	172	35	中世土師器	中世後期	121	
SK2135	不整形	(500)	403	68	中世土師器、珠洲、加工石、木製品、刀	中世後期	120	

第17表　土坑一覧（3）

遺構番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	挿図番号	図版番号
SK2136	楕円	192	155	9	珠洲	中世後期	119	
SK2145	楕円	49	32	51	中世土師器	中世後期	119	
SK2146	楕円	33	20	7	中世土師器	中世後期	119	
SK2150	円	33	30	23	中世土師器	中世後期	119	
SK2153	方	(298)	215	21	中世土師器	中世後期	119	
SK2167	方	271	132	24		中世後期	122	
SK2159	方	323	26	20		中世後期	122	
SK2170	方	173	81	19	中世土師器	中世後期	122	
SK2252	円	105	(84)	29		中世前期	105	
SK2253	円	81	68	29		中世前期	105	
SK2256	円	94	85	41	加工材	中世前期	105	

第18表　井戸一覧

遺構番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	挿図番号	図版番号
SE04	円	200	204	123	中世土師器、珠洲、曲物	中世後期	115	
SE23	円	270	256	121	中世土師器、珠洲、木製品	中世後期	116	57
SE133	円	180	174	107	中世土師器、珠洲、曲物	中世後期	115	
SE2100	円	221	220	140	中世土師器、珠洲、曲物	中世後期	116	57

第19表　木製品一覧（1）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	建物	出土地点	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
127	50	67	SP1213	SB10		杭	12.6	15.1	13.9	
	76	67	SP1252	SB10		杭	29.8	15.9	16.5	
	78	67	SP1257	SB10		杭	33.4	15.2	14.9	
128	83	73	SP1319	SB11		板状加工材	11.2	10.4	7.5	
129	99		SD137			板状加工材	208.4	8.8	1.0	
130	120		SD1159			板状加工材	6.4	6.1	3.1	
	121	71	SD1159		X71Y26	箸	(13.1)	0.6	0.5	
	122		SD1159			棒状加工材	14.8	4.0	4.6	
	123		SD1159			板状加工材	26.1	5.2	0.7	
	133	68	SD1160			漆皿	8.9	1.4	0.3	底径 6.0
	134	73	SD1160		X74Y25	くさび	6.9	2.5	1.1	
	135	73	SD1160		X73Y27	板状加工材	10.7	3.2	0.4	
	136		SD1160			板状加工材	12.3	4.1	0.5	
	137		SD1160		X74Y25	板状加工材	6.4	3.6	2.9	
	138		SD1160			板状加工材	7.0	3.8	1.5	
	139	70	SD1160		X75Y26	曲物の蓋	16.5	3.6	0.7	
	140	74	SD1160			板状加工材	14.2	4.0	0.9	
	141		SD1160			板状加工材	19.8	4.7	1.1	
131	142	74	SD1160		X75Y26	板状加工材	13.1	1.5	0.5	
	143	74	SD1160			板状加工材	12.2	1.2	0.6	
	144	74	SD1160		X74Y25	板状加工材	16.8	2.5	0.4	
	145		SD1160			板状加工材	25.8	2.8	0.5	
	146		SD1160			板状加工材	32.0	1.4	0.4	
133	216		SK2256			板状加工材	30.9	7.1	0.9	
138	296		SD2251			漆皿	9.0	2.0	0.8	底径6.3
	297	68	SD2251		X66Y73	漆皿	9.4	1.6	0.7	
	298		SD2251			漆皿	13.7	2.5	1.4	
	299		SD2251		X67Y73	漆椀	(15.8)	(3.5)	1.0	底径 8.0
	300		SD2251			漆椀	14.0	(3.6)	(0.5)	
	301	68	SD2251			漆椀	17.0	(4.4)	(0.5)	
	302	70	SD2251			底板	18.0	6.4	0.8	
	303	70	SD2251			底板	11.4	5.3	0.6	
	304	75	SD2251			底板	27.2	3.0	0.2	
	305	73	SD2251		X68Y72	へら？	19.4	2.0	0.8	
	306		SD2251			へら？	20.4	1.9	0.8	
	307	70	SD2251			へら	26.3	6.9	0.8	
	308		SD2251			板状加工材	7.0	4.9	1.9	
	309	73	SD2251			板状加工材	17.3	9.6	5.2	
	310	73	SD2251			板状加工材	18.3	8.0	0.9	
	311	73	SD2251			板状加工材	16.4	15.0	1.0	
	312	73	SD2251			板状加工材	14.8	17.4	3.5	

第19表　木製品一覧（2）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物	出土地点	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
139	313	74	SD2251			折敷	17.1	3.7	0.5	
	314	75	SD2251			板状加工材	32.7	8.6	0.6	
	315	70	SD2251			折敷	18.2	3.4	0.7	端部に穿孔あり
	316	70	SD2251		X65Y73	折敷	25.5	6.5	0.5	
	317		SD2251			板状加工材	5.5	2.8	0.8	
	318		SD2251			板状加工材	7.0	1.5	0.4	
	319		SD2251			板状加工材	12.0	2.1	0.7	2ヶ所に穿孔あり
	320	74	SD2251			板状加工材	16.8	3.9	0.4	
	321	74	SD2251			板状加工材	17.0	2.2	0.5	
	322	72	SD2251			板状加工材	16.1	2.1	0.5	
	323	75	SD2251			板状加工材	20.7	2.7	0.8	
	324		SD2251			板状加工材	25.8	2.3	0.2	
	325	75	SD2251			板状加工材	27.3	2.5	0.4	
140	326	75	SD2251			板状加工材	15.3	5.2	0.6	
	327	75	SD2251			板状加工材	25.9	4.5	0.8	
	328		SD2251			板状加工材	23.4	2.0	0.4	
	329	75	SD2251			板状加工材	48.7	3.5	0.6	径3mmの穿孔11個あり
	330	75	SD2251		X70Y66	板状加工材	29.9	6.6	0.9	
	331	75	SD2251			板状加工材	35.0	3.8	0.7	
	332	75	SD2251			板状加工材	26.5	4.3	1.3	
	333		SD2251			棒状加工材	29.7	2.4	1.6	
	334	72	SD2251			棒状加工材	30.5	1.6	0.9	
	335		SD2251			棒状加工材	37.8	2.3	1.7	
	336	72	SD2251			棒状加工材	42.2	1.8	1.5	
	337	72	SD2251			棒状加工材	43.4	1.7	1.4	
	338	72	SD2251			棒状加工材	43.3	2.1	2.5	
	339	72	SD2251		X67Y74	棒状加工材	48.9	1.8	1.6	
141	340	72	SD2251			棒状加工材	15.5	1.2	1.1	
	341		SD2251			棒状加工材	16.4	1.6	0.9	
	342	72	SD2251		X69Y74	棒状加工材	18.5	1.4	1.2	
	343	72	SD2251		X69Y74	棒状加工材	20.0	1.2	1.3	
	344	72	SD2251		X70Y66	棒状加工材	24.5	1.4	1.3	
	345	72	SD2251			板状加工材	26.2	1.8	1.8	
	346		SD2251		X65Y73	棒状加工材	26.7	1.2	0.9	
	347		SD2251		X66Y73	棒状加工材	23.4	1.1	0.9	
	348		SD2251		X69Y73	棒状加工材	7.8	4.0	3.0	
	349	71	SD2251			箸	25.1	0.7	0.5	
	350	71	SD2251			箸	(22.5)	0.7	0.6	
	351		SD2251 底			箸	22.8	0.5	0.5	
	352	71	SD2251		X65Y73	箸	22.3	0.5	0.5	
	353	71	SD2251		X66Y72	箸	21.3	0.6	0.5	
	354	71	SD2251		X66Y72	箸	21.0	0.5	0.4	
	355		SD2251 掘十中			箸	20.7	0.9	0.4	
	356	71	SD2251		X65Y73	箸	19.5	0.6	0.4	
	357	71	SD2251			箸	19.4	0.7	0.5	
	358	71	SD2251		X65Y73	箸	18.9	0.7	0.5	
	359		SD2251		X70Y73	箸	17.8	0.5	0.5	
142	360		SD2251			箸	(17.5)	0.6	0.6	
	361	71	SD2251		X65Y73	箸	(16.9)	0.6	0.4	
	362	71	SD2251			箸	17.5	0.4	0.3	
	363	71	SD2251			箸	16.5	0.5	0.4	
	364	71	SD2251			箸	(16.9)	0.6	0.3	
	365	71	SD2251			箸	(15.4)	0.6	0.5	
	366	71	SD2251			箸	(14.1)	0.7	0.5	
	367	71	SD2251			箸	(14.2)	0.6	0.5	
	368		SD2251		X66Y72	箸	(12.1)	0.8	0.4	
	369	71	SD2251			箸	(11.9)	0.7	0.5	
	370		SD2251			箸	(11.5)	0.5	0.5	
	371	71	SD2251			箸	(10.8)	0.6	0.3	
	372		SD2251		X66Y72	箸	(10.6)	0.5	0.5	
	373		SD2251			箸	(10.5)	0.4	0.4	
	374		SD2251			箸	(10.3)	0.7	0.5	
	375	70	SD2251 掘十中			楔	13.0	6.4	2.2	
	376	69	SD2251 底		X69Y73	舟形木製品	15.4	2.3	1.5	
	377	69	SD2251			舟形木製品	25.6	3.6	2.2	

第19表　木製品一覧（3）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物	出土地点	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
143	381		SI204			曲物	20.1	5.6	0.6	
	382		SE04			曲物	14.0	4.0	0.2	
	383		SE04			曲物	30.5	12.5	0.8	
	386		SE133			曲物	10.3	8.4	0.8	
	387		SE133			曲物	7.7	15.8	0.6	

第20表　石製品一覧

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物	座標	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	材質	備考
127	58		SP1210	SB10		磨石？	21.2	18.3	6.7	3,660		
131	149		SD1160			叩き石	8.9	6.8	4.4	390		
132	173	79	SK183			砥石	5.6	5.1	2.0	58.5		
	174	79	SK202			砥石	10.8	3.5	2.5	176.4		
134	220		SX1002-①			叩き石	14.2	11.5	4.9	1,230		
135	249	79	SD03			砥石	4.4	4.3	3.1	60.7		
	268	79	SD2004		X62Y57	磨	8.8	3.2	1.9	32.6		
136	261		SD2139		X61Y44	切石	13.5	12.3	1.7	305.3		
142	378	79	SD2251		X70Y74	砥石	8.7	3.0	3.9	118.2		
	379	79	SD2251		X69Y71　底	砥石	5.6	5.3	3.5	50.4		
144	398		SK2135		X60Y45　軸土中	加工石	14.5	12.0	7.5	480.8		
151	614	79			X79Y18　Ⅲa	砥石	4.7	3.2	1.1	22.9		
	615				X61Y35　Ⅲa	砥石	2.3	2.2	1.4	7.4		
	616	79			X102Y27　Ⅱ	砥石	6.6	5.9	6.0	270.6		
	617				X100Y16　SD137の土手	勾玉	3.2		1.6	20.1	碧玉	Ⅰ字頭勾玉
153	649	79				砥石	4.7	4.7	4.1	97.1		

第21表　金属製品一覧（1）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物	座標	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
126	22		SP1209	SB09		鉄滓	2.6	2.0	1.8	9.4	
	23		SP1209	SD09		鉄滓	2.8	1.9	0.6	2.97	
	30		SP1214	SB09		鉄滓	2.3	2.1	1.3	9.92	
	39		SP1232	SB09		鉄滓	3.0	2.9	1.4	13.21	
	40		SP1234	SB09		鉄滓	3.0	2.5	1.4	19.66	
	49		SP1255	SB09	X80Y20	刀子	3.5	1.3	0.5	3.95	
127	66	77	SP1230	SB10		鉄滓	3.3	2.7	1.3	14.36	
	67	77	SP1230	SB10		鉄滓	2.6	2.4	1.7	9.21	
	68	77	SP1230	SB10		鉄滓	4.0	3.2	2.0	22.33	
	69	77	SP1230	SB10		鉄滓	3.2	2.8	0.8	6.84	
	70		SP1230	SB10		鉄滓	2.5	2.3	1.2	9.34	
	71	77	SP1230	SB10		鉄滓	3.8	3.1	2.0	23	
	72	77	SP1230	SB10		鉄滓	3.4	2.7	3.1	12.81	
	73	77	SP1230	SB10		鉄滓	3.9	2.6	1.9	23.54	
	74	77	SP1230	SB10		鉄滓	5.8	3.6	2.1	27.42	
	82		SP1262	SB10		鉄滓	2.6	2.1	2.1	6.74	
129	117		SD1159			鉄滓	2.5	2.2	1.9	13.9	
	118		SD1159			鉄滓	2.5	2.0	0.9	6.74	
	119		SD1159			鉄滓	1.9	1.7	1.1	3.18	
131	147		SD1160			鉄滓	3.5	2.9	2.2	27.12	
	148		SD1160		X74Y18	鉄滓	3.3	2.8	1.8	23.83	
132	160	76	SK110			銭	2.6	—	0.1	0.5	皇朝通寶
	165	76	SK179			鉄滓	8.5	7.5	5.9	423	
	177	76	SK267			鉄滓	6.4	5.5	3.9	168.5	
133	206		SK1247			鉄滓	3.1	2.9	1.5	15.01	
	207		SK1247			鉄滓	2.0	1.8	1.3	6.03	
134	217		SX1002-①			鉄滓	1.9	1.3	1.0	1.98	
	218		SX1002-①			鉄滓	1.9	1.6	1.4	2.47	
	219		SX1002-①			鉄滓	3.4	2.2	2.0	8.03	
	221		SX1272-①			鉄滓	4.4	2.6	1.0	18.42	
	222		SX1272-①			鉄滓	3.8	2.4	1.3	12.82	
	223	77	SX1272-①			鉄滓	6.3	4.2	1.9	43.28	
	224	77	SX1272-①			鉄滓	5.1	4.5	1.0	33.55	
	225	77	SX1272-①			鉄滓	5.0	4.6	2.0	53.18	
	226	77	SX1272-①			鉄滓	6.7	5.2	2.0	56.43	

第21表　金属製品一覧（2）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	建物	座標	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
	227	77	SX1272-①			鉄滓	6.6	4.3	2.2	59.97	
	228	77	SX1272-①			鉄滓	7.9	4.8	1.7	57.58	
	229	77	SX1272-②			鉄滓	8.6	7.6	3.2	188.39	
	230	78	SX1273-①			鉄滓	3.8	2.3	1.7	8.35	
	231	78	SX1273-①			鉄滓	5.1	3.1	0.8	15.43	
	232		SX1273-①			鉄滓	5.1	3.0	2.5	36.08	
	233	78	SX1273-②			鉄滓	3.2	2.1	1.8	12.03	
	234		SX1273-②		X77Y19	鉄滓	3.5	3.2	2.5	34.34	
	235	78	SX1273-②		X77Y19	鉄滓	4.1	3.1	2.3	15.93	
143	396	76	SK2132			棒状	8.0	0.6	0.5	11.8	
152	618	76			X78Y17 Ⅲa	刀子	10.3	1.8	0.5	29.76	
	619				X80Y16 Ⅲa	鋲?	5.5	3.7	1.1	65.2	
	620				X98Y18 Ⅱ	板状	7.2	1.6	0.9	43	
	621	76			X95Y15	鏃	3.6	2.3	0.8	8.5	
	622	76			X98Y19 Ⅲ	鏃	7.5	1.8	1.1	9.1	
	623	76			X78Y17 Ⅲa	釘	6.2	0.7	0.5	9.33	
	624	76			X101Y19 Ⅲ	釘	6.0	0.4	0.3	4.6	
	625	76			X64Y35 Ⅱ	釘	6.1	0.5	0.3	8.17	
	626				X60Y47 Ⅱ	釘	3.7	0.3	0.2	2.9	
	627	78			X71Y28 Ⅲb	鉄滓	4.7	3.2	2.5	40.2	
	628	78			X73Y25 Ⅲb	鉄滓	6.2	4.7	2.2	35.67	
	629	78			X77Y21 Ⅲb	鉄滓	6.9	4.3	2.0	51.73	
	630	78			X79Y20 Ⅲb	鉄滓	6.7	4.5	3.8	114.32	
	631	76			X95Y17 Ⅲb	鉄滓	5.7	5.0	2.3	84.7	
	632	78			X79Y18 Ⅲa	鉄滓	5.0	3.9	3.4	49.14	
	633	78			X81Y15 Ⅲa	鉄滓	6.5	3.8	2.5	63.1	
	634	78			X103Y33 Ⅲa	鉄滓	6.0	4.8	2.7	75.8	
	635	78			X101Y19 Ⅲ	鉄滓	5.1	3.5	2.4	74.2	
	636	76			X113Y30-40 Ⅲ	鉄滓	6.5	5.5	4.5	270.6	
	637				X64Y61 Ⅱa	鉄滓	5.1	3.6	2.8	48.5	
	638	76			X105Y38 Ⅲ	鉄	2.4	—	0.1	2.1	大輪通寶
	639	76			X71Y51 Ⅱb	鉄	2.5	—	0.2	3.7	永乗通寶
	640	76			X71Y51 Ⅱb	鉄	2.3	—	0.1	1.67	政和通寶
154	657	76			X67Y50	刀子	11.1	1.5	0.6	15.7	

第22表　土器・陶磁器一覧（1）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物	座標	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	色調(記号)	色調	年代	備考
125	1	58	SI424		拡張	土師器	坏	12.0	4.4	3.6	0.7	5YR6/6	橙色	古代	煤付着
	2	58	SI424		拡張	土師器	坏	13.2	3.9	5.3	0.8	7.5YR7/6	橙色	古代	
	3		SI424		拡張	土師器	坏	12.8	2.5		0.4	10YR8/3	浅黄橙色	古代	
	4		SI424		拡張	土師器	坏	13.8	(3.5)		0.4	10YR8/2	灰白色	古代	
	5	58	SI424			土師器	坏	12.8	3.5	5.4		10YR7/3	にぶい黄橙色	古代	
	6		SI424			土師器	坏	12.0	(2.5)		0.4	7.5YR6/4	にぶい橙色	古代	内面煤付着
	7	58	SI424			土師器	坏	11.8	4.8		0.3	10YR7/4	にぶい黄橙色	古代	
	8		SI424		拡張	土師器	坏	12.8	(4.2)		0.6	10YR6/3	にぶい黄橙色	古代	内外面煤付着
	9		SI424		拡張	土師器	坏	15.8	(3.4)		0.5	7.5YR7/4	にぶい橙色	古代	
	10	58	SI424			土師器	坏	16.0	5.1		0.5	10YR6/4	にぶい黄橙色	古代	ロクロ土師器
	11	58	SI424		X128Y38	須恵器	坏	12.6	5.7	5.9	1.0	N6/0	灰色	古代	
	12				X130Y34・35 Ⅲ層	土師器	坏	13.8	(3.7)		0.6	7.5YR7/4	にぶい橙色	古代	
	13				X101・102Y18・19 重層下層	土師器	埦	15.0	(2.6)		0.4	10YR7/3	にぶい黄橙色	古代	内外面に煤付着
	14				X77Y25 Ⅲ層b	土師器	甕	13.7	(1.7)		0.4	5YR7/3	にぶい橙色	古代	
	15				X68Y24 Ⅳ層	須恵器	坏	10.0	(2.8)		(0.9)	5Y7/2	灰白色	古代	
	16				X61Y35 Ⅳ層	須恵器	坏		(1.9)	7.6	(0.8)	N6/0	灰色	古代	
126	17		SP284・SD385	SB05		中世土師器	皿	9.6	2.2	5.7	1.1	10YR5/1	褐灰色		
	18		SP1202	SB09		中世土師器	皿	7.8	(1.1)		0.5	10YR7/4	にぶい黄橙色		端部やや面取ぎみ、占い一段ナデ
	19		SP1202	SB09		中世土師器	皿	8.4	1.3		0.4	10YR7/4	にぶい黄橙色	12C～13C	
	20		SP1202	SB09		中世土師器	皿	9.4	1.5		0.4	5YR7/6	橙色	12C～13C	
	21		SP1209	SB09		中世土師器	皿	7.2	1.9	3.6	1.0	7.5YR8/4	浅黄橙色		
	24		SP1214	SB09		中世土師器	皿	9.0	1.4		0.5	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	25		SP1214	SB09	No.2	中世土師器	皿	9.0	1.5		0.5	2.5Y6/1	黄灰色	12C～13C	
	26		SP1214	SB09	No.3	中世土師器	皿	9.0	1.5		0.5	2.5Y7/1	灰白色		
	27		SP1214	SB09		中世土師器	皿	9.6	1.4		0.4	2.5Y4/1	黄灰色		
	28		SP1214	SB09		中世土師器	皿	14.0	(1.9)		0.6	10YR7/4	にぶい黄橙色		
	29		SP1214	SB09		中世土師器	皿	15.0	(1.6)		0.6	10YR7/3	にぶい黄橙色		面取
	31		SP1218	SB09		中世土師器	皿	8.4	1.55		0.4	2.5Y5/1	黄灰色		
	32	62	SP1218	SB09		中世土師器	皿	8.5	1.7		0.5	10YR5/2	灰黄褐色		口縁端部面取
	33		SP1222	SB09		中世土師器	皿	8.8	(1.3)			10YR7/3	にぶい黄橙色		端部面取
	34		SP1232	SB09		中世土師器	皿	9.4	1.7		0.4	10YR5/1	褐灰色		一部火を受け焼けている
	35		SP1232	SB09		中世土師器	皿	8.0	1.5		0.7	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	36		SP1232	SB09		中世土師器	皿	10.0	(1.35)		0.5	10YR6/2	灰黄褐色		面取
	37		SP1232	SB09	X79Y19	中世土師器	皿	9.6	(1.7)		0.6	5YR6/6	橙色		端部面取
	38		SP1232	SB09		中世土師器	皿	13.0	(1.4)		0.7	2.5Y8/2	灰白色		面取
	41		SP1238	SB09		中世土師器	皿	8.0	1.4		0.6	7.5YR7/4	にぶい橙色	14C～15C	
	42		SP1256	SB09	X80	中世土師器	皿	7.0	(1.3)		0.4	10YR7/3	にぶい黄橙色		端部面取
	43		SP1255	SB09	X80Y20	中世土師器	皿	9.2	1.5		0.6	7.5YR7/4	にぶい橙色	12C～13C	
	44		SP1255	SB09		中世土師器	皿	8.6	1.4		0.6	10YR6/3	にぶい黄橙色		端部面取、一段ナデ
	45		SP1255	SB09		中世土師器	皿	9.4	(1.4)		0.5	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	46	63	SP1256	SB09		中世土師器	皿	13.6	2.5		0.6	10YR5/2	灰黄褐色	12C～13C	
	47	63	SP1255	SB09	X80Y20	中世土師器	皿	12.7	2.6		0.5	7.5YR7/4	にぶい橙色	12C～13C	
	48		SP1256	SB09	X80Y20	中世土師器	皿	14.2	(3.5)		0.6	10YR7/2	にぶい黄橙色	12C～13C	
	50		SP1264	SB09		中世土師器	皿	9.0	1.75		0.5	2.5Y5/1	黄灰色	14C～15C	
	51		SP1264	SB09		中世土師器	皿	8.9	1.9		0.4	5Y7/1	灰白色		
	52		SP1264	SB09		中世土師器	皿	14.4	(2.95)		0.8	10YR7/2	にぶい黄橙色	12C～13C	
	53		SP1264	SB09		中世土師器	皿	13.3	(2.0)		0.7	10YR8/3	浅黄橙色		
	54	59	SP1264	SB09		中世土師器	皿	7.5	2.1	4.2	1.3	10YR6/2	灰黄褐色		
127	55		SP1210	SB10		中世土師器	皿	8.2	1.5		0.5	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	56		SP1210	SB10		中世土師器	皿	15.0	(2.1)		0.7	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	57		SP1210	SD10		珠洲	鉢		(6.5)	11.6	(2.9)	2.5Y8/2	灰白色		
	60		SP1219	SB10	X77Y19	中世土師器	皿	8.0	(1.9)		0.6	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	61		SP1223	SB10		中世土師器	皿	8.8	(1.2)		0.5	2.5YR7/2	灰黄色		端部面取

第22表　土器・陶磁器一覧（2）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	建物	座標	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	色調(記号)	色調	年代	備考
127	62		SP1223	SB10		中世土師器	皿	7.6	(1.3)		0.6	2.5Y7/2	灰黄色		
	63	62	SP1223・1254	SB10		中世土師器	皿	9.2	2.1		0.9	2.5Y7/2	灰黄色	14C～15C	
	64		SP1230	SB10		中世土師器	皿	8.8	(1.4)		0.5	10YR5/1	褐灰色		
	65		SP1230	SB10		中世土師器	皿	14.0	(1.5)		0.6	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	75		SP1237･SK1236	SB10		中世土師器	皿	8.3	(1.8)		0.5	2.5YR6/4	にぶい橙色		
	77		SP1252	SB10	X77Y21 SK1252の北東 Ⅲb層	中世土師器	皿		(2.4)	4.7		2.5Y7/1	灰白色	15C末～16C前	高台内滑縁面取り
	79		SP1257	SB10		須恵器	坏	11.6	(3.1)		(0.7)	N7/0	灰白色	9C	
	80		SP1258	SB10		中世土師器	皿	8.0	1.3		0.7	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	81		SP1262	SB10		中世土師器	皿		(1.75)	5.0	0.7	2.5Y7/2	灰黄色	15C末～16C前	付高台
128	84		SP1010	SB16		中世土師器	皿	11.8	(1.3)		0.7	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	85		SP1030	SB16	X81	中世土師器	皿	9.0	1.4		0.5	10YR6/3	にぶい黄橙色		端部面取
129	86		SD136		X103Y26	中世土師器	皿	7.0	1.5		0.4	10YR7/3	にぶい黄橙色	13C	口縁面取、一段ナデ
	87		SD136			中世土師器	皿	8.0	1.2		0.5	10YR7/3	にぶい黄橙色	13C	口縁面取、一段ナデ
	88		SD136			中世土師器	皿	8.4	(1.3)		0.6	10YR8/3	浅黄橙色		
	89		SD136			中世土師器	皿	10.0	(1.5)		0.6	2.5Y8/2	灰白色		
	90		SD136		X103Y26	中世土師器	皿	7.6	(1.6)		0.7	10YR6/3	にぶい黄橙色		
	91		SD136		X103Y26	中世土師器	皿	8.0	1.9	4.0	0.8	10YR7/3	にぶい黄橙色	13C	
	92		SD136			中世土師器	皿	7.5	1.7	5.5	1.1	10YR7/2	にぶい黄橙色	12C末～	
	93	39	SD136			中世土師器	皿	13.6	4.1	6.8	1.2	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	94		SD136			中世土師器	皿	16.0	(3.7)		0.7	2.5Y7/2	灰黄色	13C	
	95	65	SD136		X85Y15 Ⅲ層　他		[illegible]茶碗	17.0			1.2	5Y4/4	暗オリーブ色	13C～14C	あめ釉、内面釉掛け残り、持用I-A(1点)、F1(2点)、E1(5点)
	96		SD137			中世土師器	皿	8.0	(1.3)		0.5	2.5Y7/2	灰黄色		
	97		SD137			中世土師器	皿	10.7	(1.9)		0.5	10YR6/2	灰黄褐色		
	98		SD137			中世土師器	皿	8.0	1.5		0.9	10YR6/2	灰黄褐色		
	100		SD385			中世土師器	皿	15.6	(2.3)		0.8	7.5YR8/4	浅黄橙色		
	101		SD386			中世土師器	皿	11.6	(1.6)		0.5	10YR6/2	灰黄褐色		
	102		SD386		X127Y36	中世土師器	皿		(2.0)	6.0	1.3	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	103		SD395		X125Y35	中世土師器	皿	9.6	(1.9)		0.7	10YR5/2	灰黄褐色		
	104	61	SD411			中世土師器	皿	7.3	1.6		0.6	2.5Y7/2	灰黄色		
	105	61	SD411			中世土師器	皿	7.6	1.7		0.6	2.5Y7/2	灰黄色		
	106	61	SD411			中世土師器	皿	7.6	1.4		0.5	2.5Y6/2	にぶい黄色		
	107	61	SD411			中世土師器	皿	8.1	.6		0.6	2.5Y7/2	灰黄色		
	108		SD435			製塩土器			(1.7)(長さ)	6.2(幅)					
	109		SD435		X104・105Y28・33Ⅲ層	製塩土器			(4.2)(長さ)	7.2(幅)	0.8				
	110		SD1158			中世土師器	皿	13.6	(1.6)		0.4	10YR8/3	浅黄橙色		
	111		SD1159		X71Y25	中世土師器	皿	7.8	(1.5)		0.6	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	112		SD1159		X71Y30	中世土師器	皿	8.3	(1.2)		0.5	7.5YR7/6	橙色		
	113		SD1159		X71Y30	中世土師器	皿	9.2	1.6		0.5	10YR6/2	灰黄褐色		
	114		SD1159		X72Y26	中世土師器	皿	14.0	(2.3)		0.8	7.5YR7/4	にぶい橙色		面取
	115		SD1159			中世土師器	皿	12.6	(2.4)		0.7	10YR8/4	浅黄橙色		
	116		SD1159・1160			珠洲	鉢？		(5.8)	11.0	2.5	N6/0	灰色		
130	124		SD1160		X74Y25	中世土師器	皿	9.0	(1.1)		0.4	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	125		SD1160			中世土師器	皿	12.3	(1.5)		0.5	2.5Y7/1	灰白色		
	126		SD1160			中世土師器	皿	14.0	(2.2)			10YR7/3	にぶい黄橙色		二段ナデ
	127		SD1160			中世土師器	皿	14.0	(2.3)		0.55	2.5Y8/2	灰白色		二段ナデ
	128		SD1160		X74	中世土師器	皿	14.8	(2.45)		0.7	2.5Y7/2	灰黄色		
	129	62	SD1160			中世土師器	皿	7.9	2.6	5.2	0.6	10YR5/1	褐灰色		貼付高台
	130		SD1160		X74Y22	中世土師器	皿	8.2	(1.5)		0.6	7.5YR7/6	橙色		
	131		SD1160			中世土師器	皿	7.8	1.7	5.0	1.1	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	132	62	SD1160		X75Y21	中世土師器	皿	8.3	2.5	5.2	0.8	7.5YR7/6	橙色		貼付高台
131	150		SD1267			中世土師器	皿	14.0	(1.8)		0.6	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	151		SD1267			中世土師器	皿	14.0	(2.0)		0.7	2.5Y7/1	灰白色		面取
	152	66	SD1267			青磁	皿		(1.0)	4.5	0.7	5GY6/1	オリーブ灰色		

第22表　土器・陶磁器一覧（3）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物	座標	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	色調(記号)	色調	年代	備考
131	153		SD2235		X68Y68 ①	珠洲	擂鉢	26.0	(7.6)			5Y6/1	灰色	III期	
	154		SD2236		X65Y69 ①	中世土師器	皿	8.8	26			5YR6/6	橙色		
	155	61	SD2257		X62Y57 ⑤	中世土師器	皿	7.8	1.65			5YR7/6	橙色		
	156	66	SD2274		X66Y69	白磁	碗	13.5	(2.7)			7.5Y7/2	灰白色	12C	
	157	63	SD2274・2249		X67Y69 ② No.1 X68Y69 ⑫	珠洲	壺	19	(10.7)			N6/0	灰色		
	158		SD2274		X64・72Y69・79 II層	珠洲	鉢	25.0	(7.4)			N6/0	灰色	I～II期	
	159		SD2274		X65Y65 ③	珠洲	鉢	28.0	(7.0)			N5/0	灰色	I期	
132	161		SK138			中世土師器	皿	8.2	(1.1)		0.4	10YR6/1	褐灰色		
	162		SK138			中世土師器	皿	9.0	(1.4)	5.8	0.7	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	163		SK138			中世土師器	皿	9.0	(1.4)		0.5	2.5Y5/2	暗灰黄色		
	164		SK158		X104Y28 III層	珠洲	鉢		(4.8)	8.0	1.8	N6/0	灰色		
	166		SK181			中世土師器	皿	8.0	1.4		0.4	10YR7/3	にぶい黄橙色	12C～13C	口縁面取、一段ナデ
	167		SK181			中世土師器	皿	8.8	(1.1)		0.5	2.5YR6/2	灰赤色		
	168		SK181			中世土師器	皿	10.0	(1.5)		0.5	10YR6/3	にぶい黄橙色		
	169		SK181			中世土師器	皿	13.7	2.4		0.7	10YR7/3	にぶい黄橙色	12C～13C	
	170		SK181			中世土師器	皿	15.0	(2.0)		0.7	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	171		SK181			中世土師器	皿	13.6	(1.9)		0.7	10YR8/3	浅黄橙色		
	172		SK181			中世土師器	皿	15.2	4.5	8.5	1.7	2.5Y7/2	灰黄色		
	175		SK241			中世土師器	皿	13.0	(1.3)		0.8	7.5YR6/4	にぶい橙色		
	176		SK260			中世土師器	皿	6.6	1.3		0.6	10YR7/4	にぶい黄橙色		端部面取
	178		SK277			中世土師器	皿	9.4	(1.4)		0.6	7.5YR6/4	にぶい橙色		
	179		SK299			中世土師器	皿	8.8	(1.)		0.6	10YR6/3	にぶい黄橙色		
	180		SK299			中世土師器	皿	16.0	2.7		1.3	7.5YR7/6	橙色		
	181		SK299			中世土師器	皿		(2.0)	7.6	1.3	10YR6/3	にぶい黄橙色		
	182		SK363			中世土師器	皿	11.6	(1.8)		0.7	7.5YR7/4	にぶい橙色		二段ナデ、下段のナデに沈線3本
	183		SK401			中世土師器	皿	11.0	(1.2)		0.3	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	184		SK449			中世土師器	皿	8.0	(1.5)			10YR6/3	にぶい黄橙色		
	185		SK481			中世土師器	皿	7.6	(1.6)		0.6	10YR7/4	にぶい黄橙色		
	186		SK481			中世土師器	皿	8.8	(1.3)		0.6	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	187		SK1064			中世土師器	皿	7.8	1.6		0.7	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	188		SK1059			中世土師器	皿	8.0	(1.2)		0.65	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	189		SK1059			中世土師器	皿	8.0	(1.2)		0.8	2.5Y7/2	灰黄色		
	190		SK1061			中世土師器	皿	14.7	(2.2)		0.7	10YR8/3	浅黄橙色		
	191		SK1061			珠洲	鉢	28.8	(12.6)		(1.6)	N6/0	灰色	I期	SK61、包含層接合
	192		SK1073			中世土師器	皿	8.4	1.3	6.0	0.7	10YR6/2	灰黄褐色		
	193		SK1074			土製品	土錘	4.0(長さ)	1.6(幅)	0.5(孔径)	0.6	2.5Y7/2	灰黄色		
133	194	66	SK1201			白磁	碗		(3.0)	5.8		5Y7/2	灰白色		
	195		SK1211			中世土師器	皿	9.0	1.5		0.5	2.5Y7/3	浅黄色		
	196		SK1211			中世土師器	皿	13.8	(2.0)		0.5	10YR7/2	にぶい黄橙色		煤付着
	197		SK1211			中世土師器	皿	10.0	(1.4)		0.5	2.5Y7/2	灰黄色		面取
	198		SK1221			中世土師器	皿	8.0	(1.2)		0.5	10YR7/2	にぶい黄橙色		面取
	199		SK1221			中世土師器	皿	8.8	(1.7)		0.5	10YR6/3	にぶい黄橙色		
	200		SK1231			中世土師器	皿	9.0	(1.57)		0.6	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	201		SK1236			中世土師器	皿	8.6	(1.5)		0.5	2.5YR6/6	橙色		
	202		SK1236			中世土師器	皿	11.4	(1.4)		0.5	2.5YR6/6	橙色		
	203		SK1236			中世土師器	皿	9.2	(1.6)		0.7	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	204		SK1236			中世土師器	皿	8.8	2.3	5.0	1.0	2.5Y8/2	灰白色		
	206		SK1247		X80Y17 IIIa層	中世土師器	皿	12.8	2.3		0.5	10YR8/2	灰白色		
	208		SK1254			中世土師器	皿	9.2	(0.9)		0.5	10YR7/4	にぶい黄橙色		
	209		SK1254・SP1255		X80	中世土師器	皿	9.8	(1.2)		0.5	2.5Y6/2	灰黄色		端部面取
	210		SK1254			中世土師器	皿	9.2	1.5		0.5	10YR6/2	灰黄褐色	12C～13C	
	211		SK1254			中世土師器	皿	9.3	1.6		0.4	2.5Y7/2	灰黄色	12C～13C	断面熱を受け滓状となっている
	212		SK1234		X78・79Y19 III層a	中世土師器	皿	9.6	1.5			5YR6/6	橙色		端部面取、一応二段ナデ、内面ハケメ

第22表　土器・陶磁器一覧（4）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物	座標	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	色調(記号)	色調	年代	備考
133	213	63	SK1254			中世土師器	皿	14.2	2.4		0.6	10YR8/3	浅黄橙色	12C～13C	
	214		SK1254・SP1255			中世土師器	皿	15.2	(1.8)		0.7	10YR6/3	にぶい黄橙色	12C～13C	
	215		SK1305			中世土師器	皿	8.0	(1.6)		0.5	10YR6/2	灰黄褐色		面取
135	236		SD 03			中世土師器	皿	7.8	1.5		0.7	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	237		SD 03			中世土師器	皿	8.0	(1.6)		0.5	2.5Y7/3	浅黄色		
	238		SD 03			中世土師器	皿	8.0	(1.4)		0.3	5YR6/6	橙色		
	239		SD 03			中世土師器	皿	9.8	2.0		0.6	5YR7/4	にぶい橙色	16C	煤付着
	240		SD 03			中世土師器	皿	9.5	1.9		1.6	10YR7/2	にぶい黄橙色	16C～	内外面に煤付着
	241	66	SD 03			青磁	碗		(2.5)		0.7	5Y6/3	オリーブ黄色	13C	
	242	66	SD 03			青磁	碗	14.0	(4.7)		0.3	7.5GY7/2	くすんだ黄緑色	16C～	
	243	63	SD 03			珠洲	T甕	42.0？	(6.0)		1.4	5PB5/1	青灰色	I期	
	244		SD 03			珠洲	甕		(5.7)			N6/0	灰色	I 2期	
	245	64	SD 03			珠洲	鉢	30.0	(5.0)		1.3	10Y6/1	灰色	IV期～	
	246	64	SD 03			珠洲	鉢		(6.2)		1.2	10Y6/1	灰色	V期～	波状文あり
	247		SD 03			珠洲	擂鉢		(7.8)	13.0		N6/0	灰色		
	248		SD 03			八尾	壺		(2.9)	14.0					
	250		SD 96		X123Y34	珠洲	擂鉢		(5.9)			N5/0	灰色		おろし目10条
	251	64	SD119		X17Y37　III層	珠洲	鉢	19.0	(6.8)		1.0	2.5Y3/1	黒褐色	I期	
	252		SD121			土師器	坏	12.4	(3.7)		0.5	10YR7/3	にぶい黄橙色	古代	
	253		SD125			中世土師器	皿	11.8	2.0		0.7	10YR6/2	灰黄褐色		
	254		SD134			須恵器	坏	10.0	(2.0)			N5/0	灰色	6C	
	255		SD2034		X75Y48　①	中世土師器	皿	8.6	1.6		0.5	2.5Y7/3	浅黄色		
	256		SD2034		X63Y58　①	珠洲	片口鉢	24.6	(4.3)		1.0	N6/0	灰色	IV1期	
	257		SD2034		X68Y53　①	珠洲	鉢	29.6	(5.0)			N6/0	灰色	IV1期	
136	259	64	SD2139		X63・65Y44・50　II a層	珠洲	擂鉢	34.0	(9.4)			5Y6/1	灰色	IV期～	
	260		SD2139・2140		X63・61Y44・42 ② ①	珠洲	擂鉢		(6.5)	11.8		5Y7/1	灰白色		内面は磨滅して滑らかになっている
	262		SD2140		X62Y43　①	中世土師器	皿	10.0	(2.0)			10YR8/2	灰白色		
	263		SD2164		X68Y50	中世土師器	皿	8.8	(2.1)			10YR8/3	浅黄橙色		煤付着
	264		SD2164		X66　③	中世土師器	皿	15.0	(2.7)		0.8	5YR6/6	橙色		
	265	66	SD2164			青磁	碗		(3.1)	5.0	2.4	10Y5/2	オリーブ灰色	14C前半	見込みに「王」の字
	266		SD2165		X66　⑥	中世土師器	皿	7.9	(1.4)			7.5YR7/4	にぶい橙色		煤付着
	267	59	SD2250			中世土師器	皿	7.8	1.6			2.5Y8/2	灰白色		
	268		SD2250		X65Y73	中世土師器	皿	7.8	1.7		0.5	2.5Y8/1	灰白色		端部面取
	269		SD2250		X69Y69	中世土師器	皿	11.8	2.3			2.5Y8/2	灰白色		
	270		SD2250			中世土師器	皿	9.6	3.0	5.2		7.5YR7/3	にぶい橙色		
	271		SD2250		X69Y70　㉘	中世土師器	皿		(1.25)	7.0		7.5YR7/4	にぶい橙色	15C末～16C前	
	272		SD2250		X67Y71　㊳	珠洲	壺		(11.8)	13.4		N6/0	灰色		
	273		SD2250			珠洲	擂鉢		(5.7)	13.8		5Y7/1	灰白色		
137	274		SD2251			中世土師器	皿	8.8	1.8	3.0	0.4	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	275		SD2251		X67Y72　底	中世土師器	皿	9.0	1.5		0.65	10YR8/2	灰白色		古い　段ナデ
	276		SD2251		X68Y73　⑮	中世土師器	皿	7.8	1.2			10YR6/2	灰黄褐色		
	277		SD2251		X68Y73　⑤	中世土師器	皿	8.0	(1.5)			5YR7/6	橙色		
	278		SD2251			中世土師器	皿	16.0	2.5			2.5Y7/2	灰黄色		古いタイプ
	279	63	SD2251			中世土師器	皿	14.6	2.3			10YR7/3	にぶい黄橙色		
	280		SD2251		X68Y73	中世土師器	皿	15.9	(1.4)			7.5YR7/4	にぶい橙色		
	281		SD2251		X68Y73　底	中世土師器	皿	13.7	2.0			2.5Y7/2	灰黄色		
	282	59	SD2251		X66・68Y75　㊽	中世土師器	皿	13.8	.0			10YR7/3	にぶい黄橙色		
	283	61	SD2251		X65Y72	中世土師器	皿	8.0	2.2	4.4	1.1	2.5Y7/2	灰黄色		
	284	61	SD2251			中世土師器	皿	8.8	2.3	4.6		2.5Y7/2	灰黄色		
	285		SD2251			中世土師器	皿	8.9	(2.0)			2.5Y7/2	灰黄色		
	286		SD2251			中世土師器	皿	9.6	(2.2)	6.0	1.1	2.5Y6/1	黄灰色		
	287	61	SD2251			中世土師器	皿	8.0	2.1	5.0	1.4	2.5Y7/2	灰黄色		
	288		SD2251			中世土師器	皿		(2.4)	6.8		2.5Y7/2	灰黄色		

第22表　土器・陶磁器一覧（5）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物	座標	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	色調(記号)	色調	年代	備考
137	289		SD2251		X66Y73	中世土師器	皿		(1.4)	6.4		2.5Y7/2	灰黄色		
	290		SD2251		X69Y74	珠洲	甕		(15.9)		1.3	10Y6/1	灰色		
	291	63	SD2251		№135	珠洲	甕	56.6	(6.0)			N6/0	灰色	Ⅰ期	
	292		SD2251		X68Y73 ㊴ か底	珠洲	甕	57.0	(3.9)			N5/0	灰色	Ⅰ期	
	293		SD2251		X69Y74	珠洲	甕	37.0	(3.6)			N5/0	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	
	294	63	SD2251		X68Y73 ㊴	珠洲	甕	40.0	(6.8)			N5/0	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	
	295		SD2251		X69Y73 [illegible]	珠洲	鉢	25.0	(7.85)			N5/0	灰色	Ⅰ期	
143	380		SE 04・SD 03			珠洲	壺		(2.5)	9.0		N7/0	灰白色		
	384		SE 23			中世土師器	皿	10.0	1.7		0.5	10YR8/2	灰白色	15C～	
	385	64	SE133			珠洲	鉢		(5.4)	13.0		N5/0	灰色		内面ハケ目
	388		SE2100		X63Y51 ⑤	中世土師器	皿	10.6	1.7			2.5Y7/2	灰黄色		外面、被熱によりﾊｹﾞている
	389	63	SE2100		X47Y50 ⑤	珠洲	壺	(5.7)			1.8	N5/0	灰色		
	390		SK 19			中世土師器	皿	8.0	1.5	5.0	0.7	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	391		SK 52			中世土師器	皿	16.0	2.3		1.1	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	392	64	SK109		X110Y41	珠洲	鉢	32.0	(6.3)		1.3	N6/0	灰色	Ⅰ期	
	393		SK114			中世土師器	皿	10.6	(1.9)		0.7	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	394		SK114			中世土師器	皿	14.7	(2.0)			10YR6/3	にぶい黄橙色		
	395	64	SK2132		X60Y50 ①	珠洲	鉢		(6.0)	14.0	3.6	N6/0	灰色		
144	397		SK2133		X60Y49 ③	中世土師器	皿	9.8	1.85			7.5YR7/4	にぶい橙色		被熱し内外面剥離している
	399		SK2136		X62Y45 ①	珠洲	擂鉢		(4.0)		1.2	N5/0	灰色	Ⅳ期～	
	400		SK2145		X60 ③	中世土師器	皿	6.8	1.3			10YR7/4	にぶい黄橙色		
	401		SK2150			中世土師器	皿	16.0	(2.0)		0.5	10YR8/3	浅黄橙色		端部面取、一応二段ﾅﾃﾞ
	402		SK2170		X67Y81 ①	中世土師器	皿	9.0	(1.4)			10YR8/2	灰白色		煤付着
145	403				X80Y19 Ⅲb層	中世土師器	皿	7.9	1.2	4.6	0.9	7.5Y7/1	灰白色		
	404				X60Y37 Ⅲb層	中世土師器	皿	7.8	12	3.5	0.8	10YR8/3	浅黄橙色		
	406				X100Y19 Ⅲb層	中世土師器	皿	7.2	1.6	2.9	0.8	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	406				X79Y17 Ⅲa層	中世土師器	皿	8.0	1.3	4.6	1.0	2.5Y8/2	灰白色		
	407				X80Y16 Ⅲa層	中世土師器	皿	8.4	1.3	5.0	0.7	2.5Y8/2	灰白色		
	408				X61Y35 Ⅲb層	中世土師器	皿	8.8	1.5	6.4	0.8	2.5Y8/2	灰白色		
	409				X113Y40・41Ⅲ層	中世土師器	皿	8.4	1.4	5.4	0.9	2.5Y8/2	灰白色		
	410				X105Y44 Ⅲ層	中世土師器	皿	8.4	1.5	5.8	0.8	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	411				X84Y17 Ⅲb層	中世土師器	皿	9.0	1.4	4.3	0.8	10YR6/2	灰黄褐色		
	412				X105Y35 Ⅲ層	中世土師器	皿	8.3	1.3	6.5	0.7	2.5Y7/2	灰黄色		
	413				X76Y21 Ⅲa層	中世土師器	皿	8.8	1.1	6.8	0.8	7.5YR8/4	浅黄橙色		
	414				X81Y13 Ⅲa層	中世土師器	皿	8.8	1.1	7.0	0.7	10YR4/1	褐灰色		
	415				X78Y19 Ⅲa層	中世土師器	皿	9.4	1.4	7.8	(0.7)	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	416				X61Y34 Ⅲb層	中世土師器	皿	9.0	2.2	5.8	0.8	7.5YR6/4	にぶい橙色		
	417				X94Y17 Ⅲb層	中世土師器	皿	7.8	(1.2)		0.5	10YR6/2	灰黄褐色		
	418				X103Y31 Ⅲa層	中世土師器	皿	7.6	1.7	4.2	0.9	2.5Y7/3	浅黄色		
	419				X94Y17 Ⅲb層	中世土師器	皿	8.0	1.8		0.7	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	420				X94Y14 Ⅲb層	中世土師器	皿	8.7	1.5	5.7	0.7	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	421				X62Y34 Ⅲb層	中世土師器	皿	12.0	(2.0)		0.7	10YR5/2	灰黄褐色		
	422				X121Y38 Ⅲb層	中世土師器	皿	14.2	(3.2)		0.9	2.5Y7/2	灰黄色		
	423				X83Y31 Ⅱa層	中世土師器	皿	13.6	(2.4)		0.5	10YR6/2	灰黄褐色		
	424	60			X80Y17 Ⅱb層	中世土師器	皿	8.4	2.3	4.7	1.1	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	425				X106Y32 Ⅱ層	中世土師器	皿	8.8	1.5	5.8	0.7	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	426				X63Y36 Ⅱb層	中世土師器	皿	8.6	2.7	5.6	1.2	7.5YR7/6	橙色		
	427				X62Y36 Ⅱb層	中世土師器	皿	8.0	1.5	4.0	0.7	2.5Y7/2	灰黄色		
	428				X63Y36 Ⅱb層	中世土師器	皿	7.8	1.8	4.2	2.1	10YR8/2	灰白色		
	429				X79Y17 Ⅱa層	中世土師器	皿	8.6	1.8	5.1	0.8	2.5Y8/2	灰白色		
	430	61			X80Y17 Ⅱb層	中世土師器	皿	8.0	2.5	4.1	1.5	2.5Y8/2	灰白色		
	431				X84Y12 Ⅱ層	中世土師器	皿	8.2	1.8	4.1	1.2	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	432				X64Y33 Ⅱa層	中世土師器	皿	9.3	2.3	5.4	1.1	7.5YR7/6	橙色		

第22表　土器・陶磁器一覧（6）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物	座標	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	色調(記号)	色調	年代	備考
145	433				X99Y16 Ⅲ層	中世土師器	皿	8.8	2.2			10YR7/4	にぶい黄橙色		
	434				X81Y15 Ⅲ層a	中世土師器	皿	8.6	(1.6)		0.8	2.5Y7/2	灰黄色		
	435				X84Y14 Ⅲ層	中世土師器	皿	7.2	2.1	4.3	1.0	7.5YR6/4	にぶい橙色		
	436				X110Y39 Ⅲ層	中世土師器	皿	6.4	2.0	3.6	1.0	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	437				X61Y24・34 Ⅲ層a	中世土師器	皿	10.6	2.1	7.6	1.1	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	438				X80Y16 Ⅲ層a	中世土師器	皿	11.8	(2.4)		0.9	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	439				X126・127Y34・35 Ⅱ～Ⅲ層	中世土師器	皿	14.2	(2.8)		0.7	10YR7/4	にぶい黄橙色		
	440				X60Y36 Ⅲb層	中世土師器	皿		(2.6)	5.0		10YR7/4	にぶい黄橙色		
	441				X73Y27 Ⅲb層	中世土師器	皿		(3.1)	6.0		2.5Y8/2	灰白色		高台端部打欠いている
	442				X103Y28 Ⅲ層	中世土師器	皿		(2.2)	6.4	1.4	2.5Y5/1	黄灰色		
	443				X60Y35 Ⅱa層	中世土師器	皿		(2.9)		(2.1)	10YR7/4	にぶい黄橙色		
	444				X77Y21 Ⅲ層a	中世土師器	皿		(2.5)	8.0	1.3	10YR7/4	にぶい黄橙色		
	445				X77Y23 Ⅲa層	中世土師器	皿		(2.7)	6.4	1.1	10YR6/2	灰黄褐色		
	446				X129・130Y33・34 Ⅲ層	中世土師器	皿		(1.4)	4.8	0.9	5YR7/6	橙色		
146	447				X95Y15 Ⅲb層 排土	中世土師器	皿	9.2	1.5		0.6	10YR5/1	褐灰色		端部面取
	448				X83Y14 Ⅲ層	中世土師器	皿	9.0	14.0		0.5	2.5Y6/1	黄灰色	13C	口縁面取、一段ナデ
	449				X90Y11 Ⅲ層	中世土師器	皿	10.0	(1.4)		0.5	10YR6/2	灰黄褐色		端部面取
	450				X80Y17 Ⅲ層b	中世土師器	皿	8.8	1.3		0.4	10YR7/3	にぶい黄橙色		端部面取→内外ナデ
	451				X80Y17 Ⅲb層	中世土師器	皿	9.2	(1.3)			2.5Y7/1	灰白色		端部面取り
	452	62			X80Y17 Ⅲb層	中世土師器	皿	8.6	1.8		0.4	7.5YR7/3	にぶい橙色		
	453	62			X80Y17 Ⅲb層	中世土師器	皿	8.8	1.7		0.5	7.5YR7/3	にぶい橙色		
	454				X80Y17 Ⅲ層b	中世土師器	皿	8.6	(1.6)		0.5	10YR7/3	にぶい黄橙色		端部ナデ→内外面ナデ
	455				X80Y17 Ⅲb層	中世土師器	皿	8.0	1.6		0.5	7.5Y8/4	浅黄橙色		
	456	62			X80Y17 Ⅲb層	中世土師器	皿	8.8	1.3		0.6	7.5YR8/4	浅黄橙色		
	457				X80Y17 Ⅲ層b	中世土師器	皿	8.6	1.5		0.5	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	458	62			X80Y17 Ⅲb層	中世土師器	皿	8.5	1.8		0.5	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	459				X80Y17 Ⅲ層b	中世土師器	皿	9.8	1.4		0.4	10YR7/3	にぶい黄橙色		端部面取
	460				X80Y17 Ⅲb層	中世土師器	皿	9.0	13		0.6	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	461				X81Y18 Ⅲb層	中世土師器	皿	8.8	(1.5)		0.5	2.5Y6/1	黄灰色		端部面取り
	462				X79Y19 Ⅲa層	中世土師器	皿	9.0	1.6		0.5	10YR8/3	浅黄橙色		
	463	62			X80Y17 Ⅲa層	中世土師器	皿	8.6	1.5		0.4	7.5YR8/4	浅黄橙色		
	464				X95Y12 Ⅲb層	中世土師器	皿	9.4	1.4		0.9	7.5YR7/6	橙色		
	465				X115Y39・40 Ⅱ層	中世土師器	皿	8.8	1.3		0.7	10YR6/2	灰黄褐色	13C中～	ゆるい一段ナデ、面取ナシ、全体に厚め、底面は平ら
	466				X80Y19 Ⅲ層a	中世土師器	皿	7.7	1.5		0.6	10YR6/3	にぶい黄橙色		端部面取
	467				X130Y34・35 Ⅲ層	中世土師器	皿	11.4	2.0		0.8	10YR8/3	浅黄橙色		
	468				X85Y14 Ⅲ層	中世土師器	皿	8.8	(1.4)		0.7	2.5YR6/6	橙色		端部面取、古い
	469				X82Y17 Ⅲ層a	中世土師器	皿	9.8	(1.6)		0.6	7.5YR6/4	にぶい橙色		端部面取、一応二段ナデ
	470				X80Y17 Ⅲ層a	中世土師器	皿	9.0	1.5		0.5	10YR7/3	にぶい黄橙色		端部面取
	471				X90Y10 Ⅱ層	中世土師器	皿	9.3	1.5		0.5	2.5Y7/2	灰黄色	13C	口縁面取、一段ナデ
	472				X86Y13 Ⅱ層	中世土師器	皿	10.0	1.0		0.4	7.5YR6/3	にぶい褐色	13C	口縁面取、一段ナデ
	473				X80Y17 Ⅲ層b	中世土師器	皿	9.0	1.2		0.4	10YR7/2	灰白色		端部面取
	474	63			X77Y21 Ⅲ層b	中世土師器	皿	16.0	2.0		0.65	10YR6/2	灰黄褐色		端部面取、煤付着
	475				X94Y17 Ⅲb層	中世土師器	皿	15.6	2.0		0.8	2.5Y7/2	灰黄色		
	476				X95Y15 Ⅲa層	中世土師器	皿	14.0	3.5		0.6	10YR8/3	浅黄橙色	12C	二段ナデ
	477				X76Y24 Ⅲ層a	中世土師器	皿	16.0	(2.3)		0.4	10YR8/3	浅黄橙色		二段ナデ、端部シャープ
	478				X104・106Y26・38 Ⅲ層	中世土師器	皿	13.6	(2.0)		0.5	2.5Y7/2	灰黄色		端部面取
	479				X77Y21 Ⅲa層	中世土師器	皿	13.0	(2.3)		0.6	7.5YR8/4	浅黄橙色		
	480				X61Y34 Ⅲ層a	中世土師器	皿	12.4	(1.9)		0.6	2.5Y8/4	淡黄色		古いタイプ
	481				X115Y40 Ⅲ層	中世土師器	皿	14.8	1.9		0.6	10YR8/3	浅黄橙色	12C～13C	
	482				X111Y40 Ⅲ層	中世土師器	皿	14.6	1.9		0.6	10YR8/4	浅黄橙色	13C	口縁面取、一段ナデ
	483				X103Y27 Ⅲ層	中世土師器	皿	13.8	2.0		0.7	10YR7/4	にぶい黄橙色	13C	
	484	63			X63Y35 Ⅲ層	中世土師器	皿	14.0	(2.1)		0.7	10YR8/3	浅黄橙色		
	485				X118Y38 Ⅲ層	中世土師器	皿	13.5	1.7		0.5	2.5Y6/2	灰黄色	13C	口縁面取、一段ナデ

第22表　土器・陶磁器一覧（7）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	建物	座標	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	色調(記号)	色調	年代	備考
146	486				X105Y35 Ⅲ層	中世土師器	皿	13.7	2.0		0.6	10YR8/3	浅黄橙色	12C	二段ナデ
	487				X79Y18 Ⅲa層	中世土師器	皿	15.4	(1.9)		0.7	2.5Y6/1	黄灰色		
	488				X106Y38 Ⅱ層	中世土師器	皿	12.8	1.5		0.5	7.5YR7/4	にぶい橙色	13C	ゆるい一段ナデ、面取ナシ
	489	60			X80Y18 Ⅲa層	中世土師器	皿	6.4	1.0		0.7	10YR5/1	褐灰色		
	490	60			X67Y65 Ⅲa層	中世土師器	皿	5.8	1.1	3.2	0.5	10YR8/3	浅黄橙色		
	491				X128Y34 Ⅱ～Ⅲ層	中世土師器	皿	8.0	1.5		0.5	2.5Y6/2	灰黄色	12C末～13C	
	492				X76Y19 Ⅲ層a	中世土師器	皿	8.0	1.2		0.5	10YR8/4	浅黄橙色		コースター
	493				X63・60Y56・43 Ⅲ・Ⅱb層	中世土師器	皿	7.8	1.4			7.5YR8/4	浅黄橙色		
	494				X65Y68 Ⅲ層	中世土師器	皿	8.9	1.4	7.4	0.5	10YR8/3	浅黄橙色		
	495				X65Y39 Ⅲa層	中世土師器	皿	7.9	1.3		0.4	10YR8/3	浅黄橙色		
	496				X65Y39 Ⅲa層	中世土師器	皿	8.8	(1.4)		0.5	10YR8/3	浅黄橙色		
	497				X83Y14 Ⅲ層	中世土師器	皿	13.0	2.5		0.5	2.5Y6/1	黄灰色	12C～13C	二段ナデ
	498				X87Y15 Ⅲ層	中世土師器	皿	15.8	2.5		0.7	2.5Y7/2	灰黄色	12C～13C	二段ナデ
	499				X85Y14 Ⅲ層	中世土師器	皿	15.7	3.0		0.6	10YR7/3	にぶい黄橙色	13C	口縁面取、一段ナデ
	500	63			X80Y16 Ⅲa層	中世土師器	皿	15.8	(2.4)		0.6	10YR8/3	浅黄橙色		
	501	63			X78Y20 Ⅱa層	中世土師器	皿	14.8	(2.3)		0.5	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	502				X130Y34・35 Ⅲ層	中世土師器	皿	11.4	2.0		0.4	2.5Y7/3	浅黄色	12C～13C	二段ナデ？
	503	63			X76Y24 Ⅱa層	中世土師器	皿	13.8	(2.2)		0.7	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	504	63			X81Y18 Ⅱb層	中世土師器	皿	14.8	(2.0)		0.5	10YR6/2	灰黄褐色		
	505				X78Y19 Ⅱa層	中世土師器	皿	12.8	(3.2)	6.0	0.8	10YR7/3	にぶい黄橙色		端部面取り
	506	63			X67Y63 Ⅱa層	中世土師器	皿	14.8	(3.1)			10YR8/3	浅黄橙色		
147	507	62			X80Y17 Ⅱb層	中世土師器	皿	8.8	1.8		1.0	10YR6/1	褐灰色		
	508	62			X80Y15 Ⅱb層	中世土師器	皿	7.8	2.1		0.8	7.5YR6/4	にぶい橙色		
	509	62			X103Y23 Ⅲa層	中世土師器	皿	7.6	1.9		0.9	2.5Y4/1	黄灰色	13C中～	強い一段ナデ
	510	62			X76Y22 Ⅱa層	中世土師器	皿	7.8	(2.1)		0.9	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	511	62			X80 Ⅲ層a	中世土師器	皿	9.6	(1.8)		0.8	2.5Y8/3	淡黄色		
	512				X64Y61 Ⅱa層	中世土師器	皿	9.0	1.5		0.7	7.5YR7/6	橙色		接合、内面に砂粒付着、内外面に煤付着
	513				X59Y41 Ⅱa層	中世土師器	皿	9.0	(1.5)		0.6	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	514				X65Y34 Ⅲ層a	中世土師器	皿	10.8	1.5		0.7	10YR7/3	にぶい黄橙色		占い一段ナデ
	515				X101Y20 Ⅱ層	中世土師器	皿	11.8	2.5		0.8	10YR8/3	浅黄橙色	12C～13C	
	516				X95Y12 Ⅲa層	中世土師器	皿	11.8	2.0		0.6	7.5YR6/4	にぶい褐色	12C～13C	
	517				X109Y40 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.8	1.6		0.4	10YR8/3	浅黄橙色		
	518				X90Y14 Ⅲ層	中世土師器	皿	7.8	1.2		0.6	2.5Y7/2	灰黄色		
	519				X108Y42 Ⅲ層	中世土師器	皿	7.5	1.2		0.5	2.5Y7/3	浅黄色	13C	
	520				X85Y14 Ⅲ層	中世土師器	皿	7.0	1.1		0.4	2.5Y7/2	灰黄色	13C	
	521				X102Y34 Ⅲa層	中世土師器	皿	7.8	1.5		0.6	2.5Y6/2	灰黄色		
	522				X96Y14 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.6	1.5		0.6	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	523				X69Y70 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.9	(1.7)			7.5YR7/4	にぶい橙色		
	524				X90Y10 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.9	1.5		0.7	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	525				X69Y39	中世土師器	皿	7.6	1.6		0.6	7.5YR7/6	橙色		
	526				X88Y13 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.8	1.5		0.5	2.5Y8/2	灰白色		
	527				X95Y15 Ⅱ層	中世土師器	皿	8.5	1.2		0.5	2.5Y6/3	にぶい黄色	13C	
	528				X105Y38 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.8	1.3		0.4	10YR6/3	にぶい黄橙色	16C～	
	529				X61Y71 Ⅱa層	中世土師器	皿	8.0	(1.8)		0.3	5YR7/6	橙色		煤付着
	530				X71Y82 Ⅱa層	中世土師器	皿	8.0	(1.7)		0.6	7.5YR7/4	にぶい橙色		煤付着
	531				X93Y17 Ⅱ層	中世土師器	皿	7.8	(1.8)		0.4	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	532				X90Y12 Ⅱ層	中世土師器	皿	8.8	(2.0)		0.4	10YR8/3	浅黄橙色		
	533				X95Y10 Ⅱ層	中世土師器	皿	8.0	(1.8)		0.5	10YR7/2	にぶい黄橙色		
	534				X88Y13 Ⅱ層	中世土師器	皿	8.0	1.6		0.5	2.5Y7/2	灰黄色		
	535				X65Y51 Ⅱa層	中世土師器	皿	7.8	1.8			10YR8/2	灰白色		
	536				X60・61・72Y50・48・73 Ⅱa層	中世土師器	皿	9.0	(1.7)			2.5YR6/8	橙色		煤付着
	537				X60Y50 Ⅱa層	中世土師器	皿	8.4	(1.6)		0.4	7.5YR7/4	にぶい橙色		煤付着
	538				X126・127Y34・35 Ⅱ～Ⅲ層	中世土師器	皿	7.8			0.4	7.5YR7/4	にぶい橙色		

第22表　土器・陶磁器一覧（8）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	建物	座標	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	色調(記号)	色調	年代	備考
147	539				X64Y51 Ⅱa層	中世土師器	皿	8.0	1.5		0.5	7.5YR8/4	浅黄橙色		被熱外面、煤付着
	540				X69Y70 ⅡC層	中世土師器	皿	9.9	(1.65)			2.5Y8/2	灰白色		
	541				X65Y40 Ⅱa層	中世土師器	皿	9.0	1.5		0.4	2.5Y7/2	灰黄色		被熱外面
	542				X104Y23 Ⅱ層	中世土師器	皿	9.8	1.5		0.4	10YR8/3	浅黄橙色	16C～	煤付着
	543				表採	中世土師器	皿	9.8	(1.3)		0.5	10YR8/2	灰白色		
	544				X61Y49 ⅡC層	中世土師器	皿	9.9	(1.4)			5Y8/1	灰白色		煤付着
	545				X67Y68 Ⅱ層	中世土師器	皿	8.4	1.5			10YR8/3	浅黄橙色		内外面に炭化物付着
	546				X103～104Y42 Ⅲ層	中世土師器	皿	7.8	1.5		0.5	2.5Y8/2	灰白色		
	547				X80Y17	中世土師器	皿	9.0	(1.3)		0.5	7.5YR6/4	にぶい橙色		
	548				X78Y18 Ⅲa層	中世土師器	皿		(1.4)	4.0	0.7	2.5Y8/2	灰白色		貼付高台
	549				X88Y13 Ⅱ層	中世土師器	皿	9.8	1.9		0.6	2.5Y8/2	灰白色	16C	
	550	60			X60Y46 Ⅱ層	中世土師器	皿	8.9	2.15	2.4	0.7	10YR8/4	浅黄橙色		完形
	551				X104・105Y38・40 Ⅲ層	中世土師器	皿	10.0	2.4		0.6	10YR8/2	灰白色		
	552				X95Y10 Ⅱ層	中世土師器	皿	11.8	2.5		0.5	2.5Y8/2	灰白色	14C～	
	553				X59・105Y10・35 Ⅲ層	中世土師器	皿	14.0	(2.9)		0.7	5YR7/4	にぶい橙色		
	554				X80・81Y18 Ⅲa層・Ⅲb層	中世土師器	皿	14.8	(3.6)		(1.0)	2.5Y7/1	灰白色		
	555				X75Y22 Ⅲ層a	中世土師器	皿	10.0	(1.4)		0.5	10YR7/3	にぶい黄橙色		変な端部つまみ上げ
	556				X61Y51 ⅡC層	中世土師器	皿	7.9	(1.45)			5Y7/1	灰白色		
	557				X69Y70 Ⅱ層	中世土師器	皿	10.0	(1.9)		0.4	10YR8/2	灰白色		
	558				X100Y200 Ⅱ層	中世土師器	皿	9.5	1.9		0.5	10YR7/3	にぶい黄橙色	16C	底部内、内外面煤付着
	559				X105Y35 Ⅰb層	中世土師器	皿	9.8	1.9		0.5	10YR7/4	にぶい黄橙色	16C	内面煤付着
	560				X114Y36 Ⅰ層	中世土師器	皿	12.0	2.0		0.4	10YR8/2	灰白色	16C	一部煤付着
	561				X125Y33・34 Ⅱ～Ⅲ層	中世土師器	皿	13.8	(2.3)		0.7	7.5YR7/4	にぶい橙色		
	562				X99Y19	中世土師器	皿	8.0	(1.1)		0.5	2.5Y7/2	灰黄色		
	563	60			X80Y17	中世土師器	皿	7.9	2.0	4.1	0.8	7.5YR4/1	褐灰色		
	564				X67Y52 ⅡC層	中世土師器	皿	13.0	2.3	5.2	0.9	10YR8/4	浅黄橙色	15C末～16C	口縁部煤付着
148	565				X87Y13 Ⅱ層	瀬戸美濃	香炉	8.0	2.8		1.0	10YR2/2	黒褐色		揺釉(暗黒茶褐色)
	566				X67Y47 Ⅱa層	瀬戸美濃	香炉？		(2.6)	9.0		7.5Y5/3	灰ｵﾘｰﾌﾞ色	近世	
	567	66			X105Y30 Ⅱ層	白磁	碗		(1.9)	3.8	1.1	5Y9/1	灰白色	15C	
	568	66			X106Y42 Ⅰ層	白磁	碗	16.0	(2.2)		0.3	2.5GY7/1	明ｵﾘｰﾌﾞ灰色		
	569	66			X75Y21 Ⅲb層	白磁	碗	16.0	(2.3)		0.4	7.5Y7/2	灰白色		
	570	66			X117Y37 Ⅲ層	白磁	碗	16.0	(2.2)		0.4	5GY7/2	緑灰色	13C～	
	571	66			X67Y31 Ⅲa層	白磁	碗	16.	(3.5)		0.4	5GY8/1	灰白色		
	572	66			X70Y29 Ⅲ層	白磁	皿		(1.6)	4.6	0.8	7.5Y7/1	灰白色		
	573	66			X85Y15 Ⅲ層	青磁	碗	17.0	(3.4)		0.5	7.5Y6/3	灰ｵﾘｰﾌﾞ色	14C～	
	574	66			X111Y41 Ⅲ層	青磁	碗	16.0	(3.5)		0.4	7.5Y6/3	灰ｵﾘｰﾌﾞ色	13C	
	575	66			X78Y22 Ⅲa層	青磁	碗	17.8	(3.5)		0.5	5Y6/3	ｵﾘｰﾌﾞ黄色		
	576	66			X64Y42 Ⅱa層	青磁	碗	14.0	(3.4)			5GY6/1	ｵﾘｰﾌﾞ灰色		
	577	66			X67Y68 Ⅱa層	青磁	碗	15.4	(4.0)			2.5GY7/2	灰色		
	578	66			X77Y21 Ⅲa層	青磁	碗	15.9	(2.6)		0.4	5Y5/2	灰ｵﾘｰﾌﾞ色		
	579	66			X64Y51 Ⅱa層	青磁	碗		(2.7)	6.2	2.3	7.5GY7/2	くすんだ青白色	14C前半	見込みに花のｽﾀﾝﾌﾟ・龍泉窯
	580				X66Y68 Ⅱa層	青磁	碗		(2.0)	5.4	1.9	10Y5/2	ｵﾘｰﾌﾞ灰色		龍泉窯系
	581	66			X94Y18 Ⅲb層	青磁	碗		(2.1)	6.5	1.5	7.5GY6/3	くすんだ黄緑色	14C～	龍泉
	582	66			X111・113・117Y40・41・35 Ⅲ層	青磁	皿	11.0	2.7	4.2	1.0	7.5Y6/3	灰ｵﾘｰﾌﾞ色	14C～	龍泉
	583	66			X97Y81 Ⅲb層	青磁	皿	5.0	(1.1)		0.8	10Y7/3	くすんだ黄緑色	13C	同安、釉ﾊｹﾞ
	584	63			X87Y10 Ⅱ層	珠洲	T壺		(3.2)		1.6	2.5GY4/1	暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色	Ⅰ期	漆接ぎあと
	585	63			X105Y38 Ⅲ層	珠洲	壺	9.5	(2.7)			N5/0	灰色		
	586				X64Y54 Ⅱb層	珠洲	壺		(6.1)		1.4	N5/0	灰色		ﾍﾗ描き
	587	63			X71Y29 Ⅲb層	珠洲	壺	12.8	(4.5)		(1.5)	N6/0	灰色	Ⅴ期	肩部に櫛描波状文
	588	63			X115・118Y38・37 Ⅲ層 X125～127Y33～35 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	17.0	(6.2)		1.0	N4/0	灰色	Ⅰ2期	
	589				X62・61Y35・34 Ⅲb層	珠洲	擂鉢	20.4	(10.4)		1.4	N6/0	灰色	Ⅰ2期	
	590	63			X86Y12 Ⅲ層	珠洲	壺	18.0	(5.5)		1.3	N3/0	暗灰色	Ⅰ～Ⅱ期	
	591				X80Y15・16 Ⅲ層b・a	珠洲	甕		(8.8)	8.0	2.0	N7/0	灰白色		R1とR2接合 R2（X84・85Y13・15Ⅲ層 SK424 №424.8)

第22表　土器・陶磁器一覧（9）

挿図	挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物	座標	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	色調(記号)	色調	年代	備考
149	592	64			X107Y42～43 Ⅲ層	珠洲	鉢	21.0	9.5	11.0	2.3	N4/0	灰色	Ⅰ期	
	593	64			X84・85Y14 Ⅲ層	珠洲	鉢	21.0	(5.5)		0.6	N6/0	灰色	Ⅰ期	
	594				X76Y19 Ⅲa層	珠洲	鉢	27.6	(5.4)		1.0	N5/0	灰色	Ⅰ2期	
	595				X79Y19 Ⅲb層 X73Y24 Ⅲ層	珠洲	鉢	28.0	(5.3)		0.8	N5/0	灰色	Ⅰ3期	
	596				X91Y13 Ⅲ層X93Y47～50 Ⅱ層 東西トレンチ	珠洲	鉢	26.8	6.7		1.2	N6/0	灰色	Ⅰ期	
	597				X103・105Y35 Ⅲ層 X106Y34 Ⅲa層	珠洲	鉢	27.6	9.2	9.0	2.5	N7/0	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	
	598				X64Y35 Ⅲb層 X64Y32 Ⅲa層	珠洲	鉢	31.0	4.2	12.4	1.4	5PB5/1	青灰色		
150	599				X90Y12 Ⅲ層 X80Y13 Ⅲa層	珠洲	鉢	36.0	(5.5)		1.0	N5/0	灰色		E1＋E2接合
	600				X95Y12 Ⅲ層	珠洲	鉢	32.0？	6.4		0.9	N5/0	灰色		口縁に波状文(部分的)
	601				X65Y51 Ⅱa層　X65Y65 Ⅲa層	珠洲	鉢	34.0	(5.1)			N5/0	灰色	Ⅲ期	
	602				X67Y81 Ⅲa層	珠洲	片口鉢	29.4	(6.5)			N6/0	灰色		
	603				X84Y13 Ⅲ層	珠洲	鉢	32.0	(4.9)		1.2	N6/0	灰色	Ⅲ～Ⅳ期	
	604				X122Y35?　Ⅱ～Ⅲ層	珠洲	鉢	32.0	(5.1)		1.0	10GY6/1	緑灰色	Ⅳ期	外面に布痕
	605	64			X70Y75 Ⅲa層	珠洲	擂鉢	29.8	(6.4)			5B5/1	青灰色	Ⅴ期	口縁部に波状文
	606				X67Y68 Ⅱ層	珠洲	擂鉢	29.7	(2.3)			N5/0	灰色	Ⅴ期～	
151	607				X84Y13 Ⅲ層 X103Y17 Ⅲb層	珠洲	鉢		(4.2)	10.0	1.7	5Y7/1	灰白色		
	608				X73Y23 Ⅲ層b	珠洲	鉢		(3.8)	9.0	1.8	N5/0	灰色		
	609				X107Y42・43 Ⅲ層　耕土中	珠洲	鉢		(3.1)	8.6	1.5	N7/0	灰白色		
	610				X63Y60 X66Y56 ⅡC層	珠洲	鉢?		(6.5)	10.0		10Y7/1	灰白色		
	611				X113Y39・40 Ⅲ層	製塩土器		5.8	(1.7)		1.1				
	612				X79Y22 Ⅲb層	土製品	土錘	(4.4)(長さ)	1.3(幅)	0.4	0.5	5YR5/3	にぶい赤褐色		
	613				X68Y74 Ⅱa層	土製品	土錘	7.0 (長さ)	3.8 (幅)			2.5Y7/3	浅黄色		
153	641				排土	中世土師器	皿	7.4	1.2			10YR8/2	灰白色		
	642	62			X107Y42	中世土師器	皿	8.4	(2.0)		0.8	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	643				X80Y18	中世土師器	皿	14.4	(2.1)		0.7	7.5YR8/4	浅黄橙色		
	644					中世土師器	皿	14.0	(3.0)		0.7	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	645				X94Y15	中世土師器	皿	8.2	1.6	4.9	0.6	2.5Y7/3	浅黄色		
	646	61			X106Y43	中世土師器	皿	8.6	2.5	5.8	1.5	2.5Y7/2	灰黄色		
	647				X117Y38 撹乱	中世土師器	皿	9.0	2.2	5.8	1.2	10YR7/3	にぶい黄橙色		
	648	63			X103Y40	珠洲	甕		(7.2)		2.5	N5/0	灰色		
134	650				X75Y44　近・現代の溝から	伊万里	蓋	8.8	2.6	3.4	0.2～0.5	10Y8/1	灰白色	幕末～明治	染付(5PB2/4 暗い青色)
	651				X72Y48 Ⅱb層	伊万里	碗		(1.65)	3.8	1.0	5GY8/1	灰白色		透明釉
	652				X74Y50 Ⅱb層	伊万里	皿		4.8		0.3～0.8	2.5GY8/1	灰白色		蛇の目釉はぎ
	653				X71Y50 Ⅱb層	伊万里	香炉		(4.9)	6.8		5GY7/1	明オリーブ灰色		青磁釉
	654				X64Y54 Ⅱa層	越中瀬戸	皿		(1.7)	3.0	0.8	7.5Y8/1	灰白色(灰釉)	16C	見込みに菊のスタンプ・錆釉(5YR4/4 にぶい赤褐色)
	655				X117Y38 撹乱	美濃焼	湯たんぽ	24.4(長さ)	21.6	10.2		7.5YR4/4	褐色	近代	鉄釉
	656	64	SD 02		X61Y40 ③	珠洲	擂鉢	39.0	(6.7)			10Y6/1	灰色	Ⅳ期	

第Ⅴ章　持田Ⅰ遺跡

1　調査の概要

A　概　　要

持田Ⅰ遺跡は婦負郡婦中町持田地内に所在する。標高23.00mを測るが、北に向かってやや低くなる。現況は水田である。富山平野の中央を流れる神通川の扇状地の扇央部には、幾筋もの谷地形と微高地が南北に連なっており、この高台状に立地する遺跡の内の一つである。調査区は、ほぼ遺跡の全域に及んでいる。

遺跡の時期は、中世後期と中世末期～近世の2期に分かれる。

中世後期では、掘立柱建物や溝、井戸、土坑、墓が見つかっている。遺物は、中世土師器や珠洲、青磁等の土器・陶磁器類、曲物、箸といった木製品、鋏、刀子などの金属製品が出土している。

中世末期～近世では、掘立柱建物、溝、さく状遺構、井戸、土坑、構列が見つかっている。遺物は、中世土師器、珠洲、八尾、瀬戸といった土器類、硯、火輪などの石製品、キセル、釘などの金属製品が出土している。

B　調査経過

平成7年度から富山農地林務事務所の委託を受けて、公害防除特別土地改良事業に伴う発掘調査が行われている。

持田Ⅰ遺跡の調査は、平成8年度に実施された。県道舘本郷添島線から南をA地区、北をB地区とし、調査はA地区が平成8年5月14日から、B地区は平成8年9月24日から始まった。

A地区では、当初約2,500㎡を調査する予定であったが、上層面の調査が進むと南側へも遺構が続くことが判り、約950㎡拡張した。調査区の西側は谷と推定されていたが、この谷の中からも遺構が検出された。しかし、これらの遺構は工事の影響を受けないため、盛り土保存することになり、検出のみにとどめた。これにより、遺跡の範囲は、東西・南方向へ一回り大きくなった。A地区の調査面積は、3,429㎡である。B地区の調査対象面積は、当初約2,700㎡であったが、調査区南東隅約190㎡で工事の影響を受けない箇所が確認された。この部分は遺構の検出のみで盛り土保存した。このため、その部分を除く2,557㎡が調査された。

発掘調査は各地区とも、重機による表土除去後、手掘りによる包含層の掘り下げと、

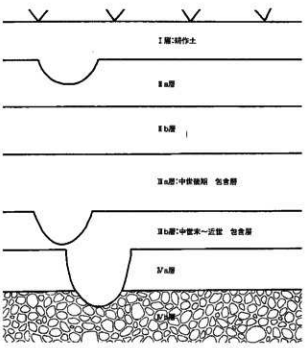
第155図　持田Ⅰ遺跡地区割図（1：2000）

遺構上面での検出および発掘を行い、写真撮影と遺構実測・測量を実施した。遺構実測・測量は手測りと、ラジコンヘリによる写真測量を外注して実施した。

C 土層

基本層序は上から、Ⅰ層：黄灰色粘土質シルト（耕土）、Ⅱa層：灰黄色砂質シルト・Ⅱb層：明黄褐色砂質シルト（近世、近代の包含層）、Ⅲa層：黄灰色粘土質シルト（中世後期の包含層）・Ⅲb層：暗灰黄色粘土質シルト（中世末期～近世の包含層）、Ⅳa層：浅黄色砂質シルト・Ⅳb層：砂礫層（地山）である。

遺構検出面は、Ⅱa層、Ⅲb層、Ⅳa・Ⅳb層である。Ⅱ・Ⅲ層はA地区の東西端の谷部に厚く堆積する。Ⅲa層はA地区中央部では薄く、SD09で区画された一帯にはこれの代わりに整地土（Ⅲa層と礫の混ざったもの）が見られる。B地区ではⅡa層がなく、Ⅲb層も一部検出できない箇所がある。また、Ⅳa層がにぶい黄色シルト・Ⅳb層が浅黄色粗砂という違いがある。



第156図 持田Ⅰ遺跡土層模式図

2 遺構

A 中世後期

中世後期の遺構には、掘立柱建物12棟、柵列3条、井戸12基、墓5基、溝、土坑多数がある。

掘立柱建物

1号掘立柱建物（SB01、第157・158図、図版80）

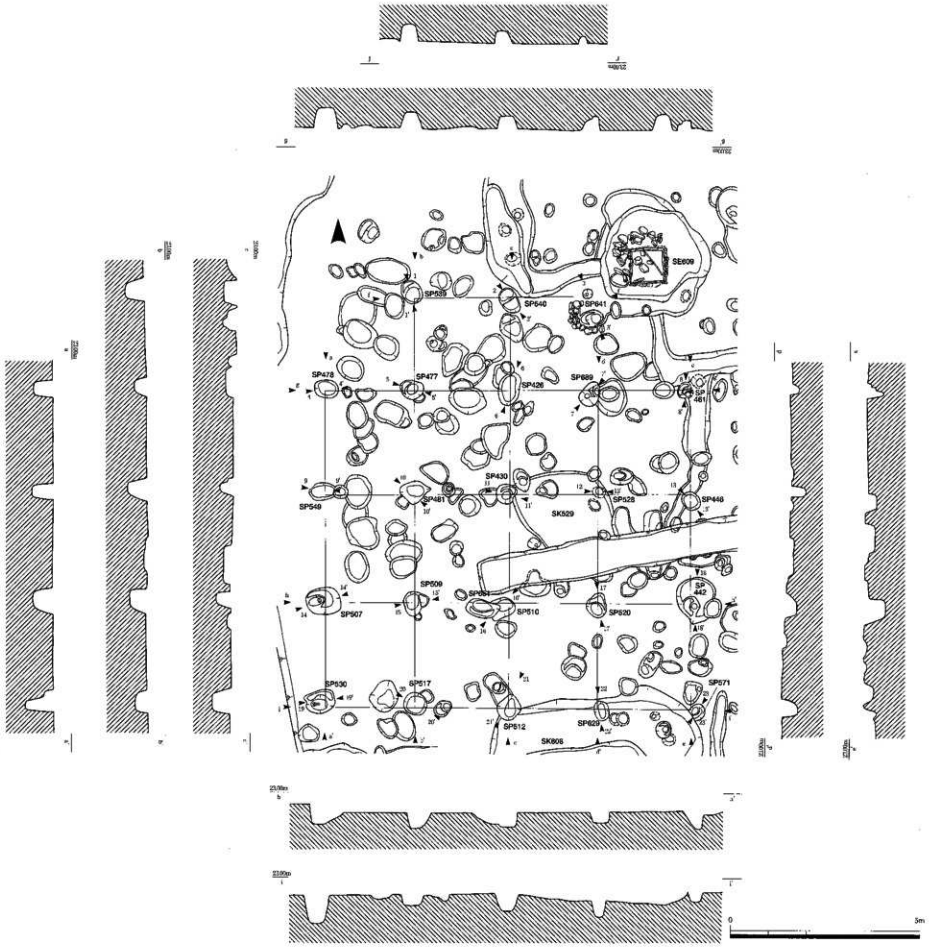
A地区北側調査区に位置する。4間×3間で、北面の中央に張出を持つ総柱建物である。向きは東西棟。桁行9.8m×梁行8.4m、平面積82.32㎡、建物主軸の方位はW－1°－Sである。柱穴の大きさは直径30～130cmとばらつきがあるが、西側の1列は大きめで深い柱穴をもつ。中でもSP507・530からは、礎盤と思われる加工木が出土している。遺物は、SP426から中世土師器、SP461から中世土師器と砥石、SP520から珠洲、SP629から中世土師器、SP571からは加工木が出土している。柱穴の切り合いから、SB03・SB04・SB05よりも古い建物であることが判る。

2号掘立柱建物（SB02、第159図）

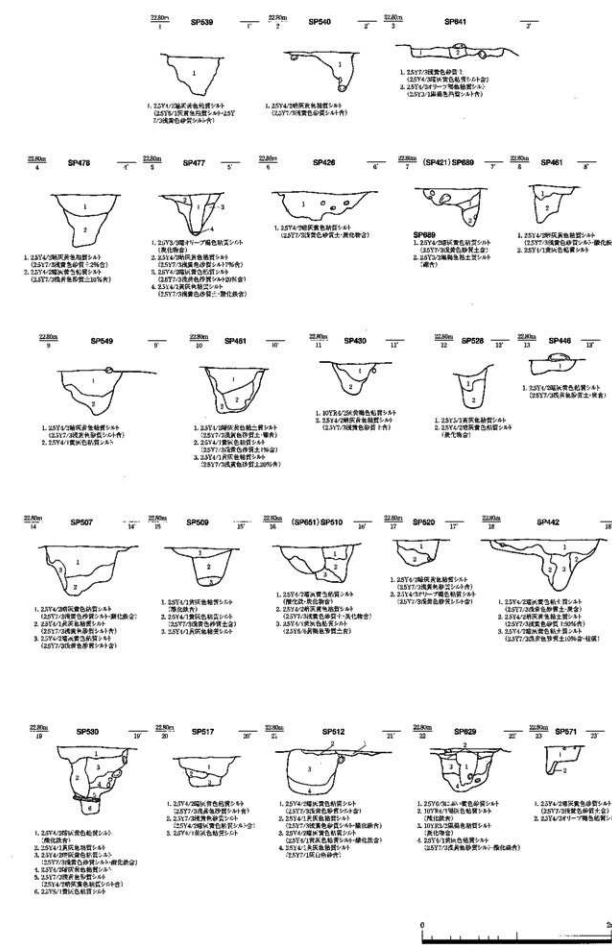
1号掘立柱建物の東に並んで立つ2間×2間の総柱建物。桁行5.2m×梁行5.0m、平面積は26㎡。東西棟で、建物主軸の方位はW－2°－Sである。主軸方位が1号掘立柱建物とほぼ同じであり、同時期と思われる。遺物は、SP679から珠洲のT壺が出土している。

3号掘立柱建物（SB03、第160図、図版80）

A地区北側調査区の中央部に位置する。2間×4間で東西棟の総柱建物である。桁行8.6m×梁行4.3m、平面積は36.93㎡。建物主軸の方向はW－11°－S。SP659の周りに弧を描く石組があるが、柱穴・建物に伴うものかは不明である。SP424は柱根の腐敗により、空洞化していた。遺物は、S

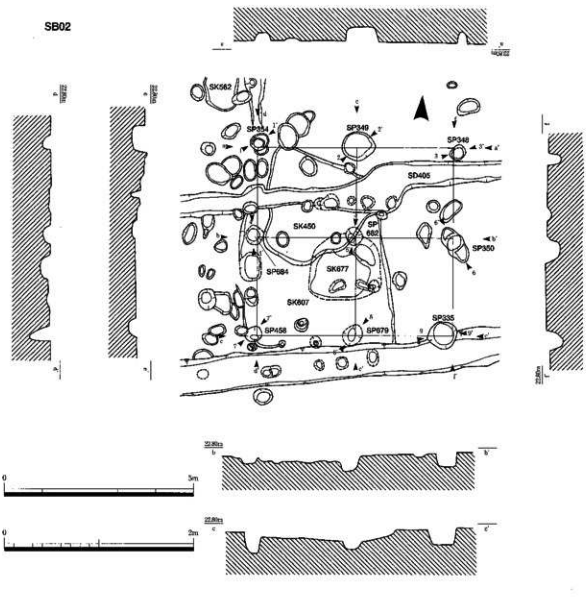


第157図　遺構実測図（中世後期）
SB01



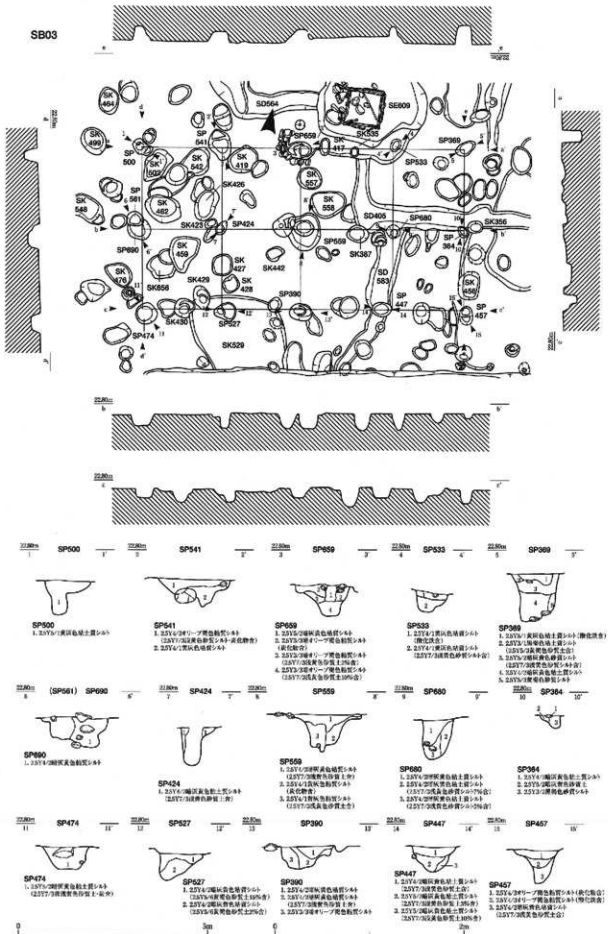
第158図　遺構実測図（中世後期）

SP539　SP540　SP541　SP178　SP477　SP426　SP689　SP461　SP549　SP481　SP430　SP528
SP446　SP507　SP509　SP510　SP520　SP442　SP530　SP517　SP512　SP629　SP571



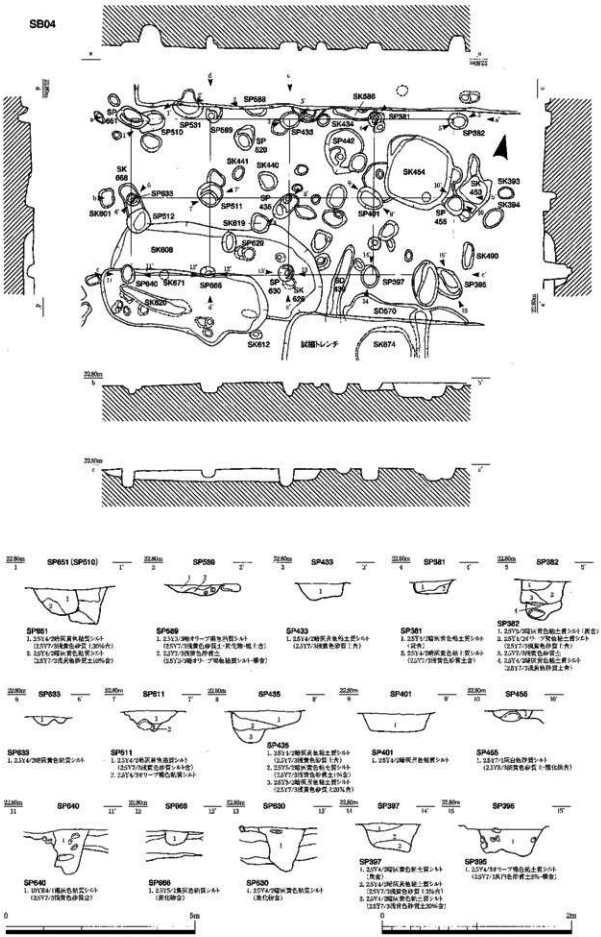
第159図　遺構実測図（中世後期）

SB02　SP354　SP349　SP348　SP684　SP682　SP350　SP458　SP679　SP335



第160図　遺構実測図（中世後期）

SB03　SP500　SP541　SP659　SP533　SP369　SP690　SP424　SP559　SP680　SP364　SP474　SP527　SP390　SP447　SP457



第161図　遺構実測図（中世後期）

SB04　SP395　SP381　SP382　SP397　SP401　SP433　SP435　SP455　SP511　SP589
SP630　SP633　SP640　SP651　SP666

P500から木製品と中世土師器、SP390・SP559・SP659からは中世土師器、SP474から青磁が出土している。柱穴の切り合いから、SB01より新しく、SB05より古い建物であることが判る。

4号掘立柱建物（SB04、第161図、図版80）

3号掘立柱建物の南側に建つ建物。SB03とは平行に並んでおり、同時期のものと思われる。2間×4間で東西棟の総柱建物である。桁行8.6m×梁行4.1m、平面積は35.26㎡。主軸方向はW－10°－S。遺物は、SP381・SP401・SP433・SP455から中世土師器、SP382からは八尾が出土している。北東隅に不整形な土坑SK454があるが、この建物に付属するものであるかは不明である。

5号掘立柱建物（SB05、第162図、図版80）

SB01・SB03に重なって建つ建物。2間×4間で東西棟の総柱建物である。南面に短い櫂SA01を伴う。桁行7.9m×梁行3.7m、平面積は29.23㎡。南側の梁間がやや狭い。建物主軸はW－7°－Sである。SP429は柱が腐ったために空洞化している。遺物は、SP449・SP675から中世土師器、SP429から加工木が出土している。柱穴の切り合いから、A地区北側調査区にある5棟の建物の中では最も新しい。

6号掘立柱建物（SB06、第163図）

SB07と一部重なって立つ1間×2間の掘立柱建物。桁行4.6m×梁行2.6m、平面積は11.96㎡。南北棟で、主軸はN－9°－W。遺物の出土は見られない。

7号掘立柱建物（SB07、第163図）

A地区南側調査区の東端中央部に立つ掘立柱建物。3間×2間の側柱建物に、1間×2間の張出が付いており、南北棟である。桁行5.9m×梁行4.3m、平面積は25.37㎡。建物主軸はN－4°－W。遺物はSP957から中世土師器が出土している。

8号掘立柱建物（SB08、第164・165図、図版81）

A地区南側調査区北端中央部に立つ掘立柱建物。4間×3間の総柱建物で、南北棟である。桁行10.3m×梁行6.8m、平面積は70.04㎡。建物主軸はN－11.5°－W。桁行の柱間は北から、2.1m・2.9m・2.9m・2.4mとなっており、中央が広い。梁間は、西から2.2m・2.0m・2.6mで不揃いである。遺物は、SP701から中世土師器・珠洲、SP705から加工木、SP706・SP707から中世土師器、SP1152から土師器・中世土師器、SP1185から中世土師器と珠洲、SP1277から珠洲が出土している。

9号掘立柱建物（SB09、第166図、図版81）

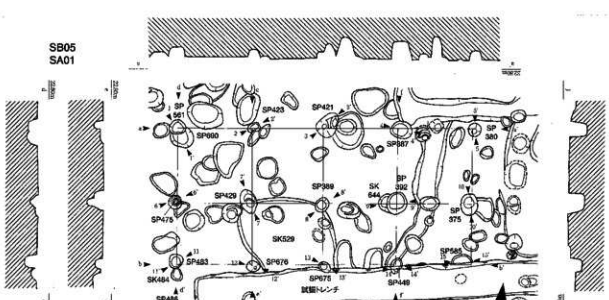
SB08に重なって立つ建物。東北隅の一部の柱穴を検出することができなかったため建物の全体的な構造は不明であるが、検出できた部分から、4間×2間の東西棟の建物が考えられる。桁行は6.8m、梁行4.4m、平面積29.92㎡。建物の主軸方向は、W－11°－S。柱穴の大きさ、並び方共に不揃いである。

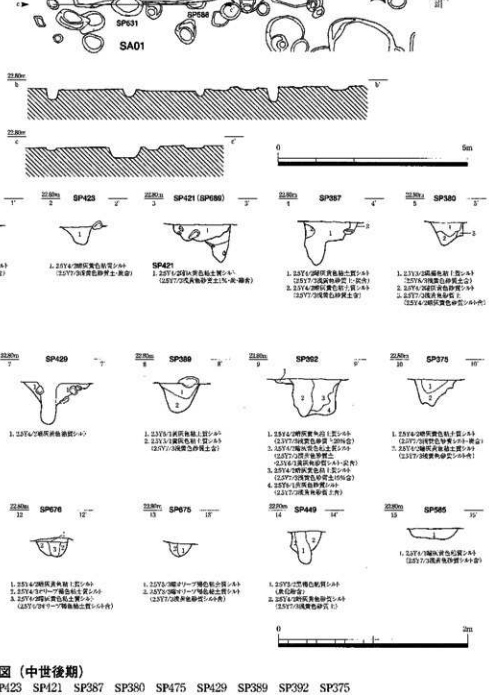
10号掘立柱建物（SB10、第166図、図版81）

SB08・09に重なって立つ掘立柱建物。東西棟と思われるが、西側の2列と南側の1列しか検出できなかった。SB08と向きがほぼ同じため、SB08の建て替え等に伴う遺構と考えられる。遺物の出土は見られない。

11号掘立柱建物（SB11、第167・168図、図版81）

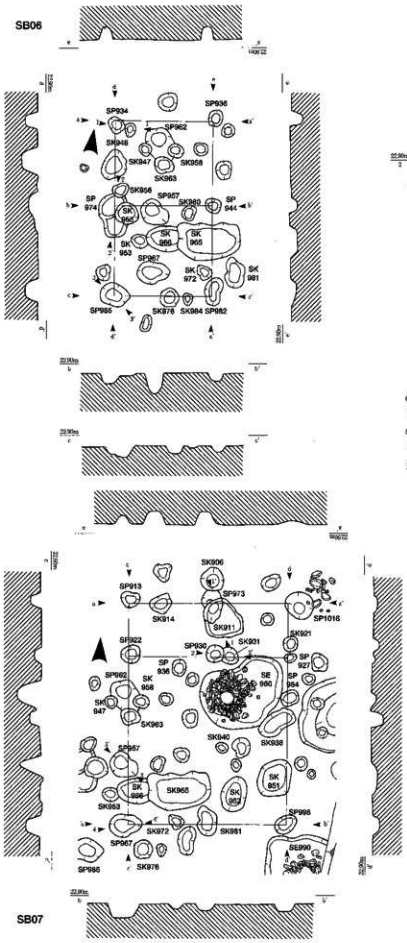
A地区南側調査区の南端に位置する掘立柱建物。5間×4間の総柱建物で、東西に櫂SA02・03を持つ。南北棟で、桁行は13.5m、梁行9.7m、平面積は130.95㎡である。持田Ⅰ遺跡内では最大の建物である。桁間は北から、2.5m・2.8m・2.8m・2.8m・2.6mで中央部が広い。梁間は西から、2.5m・

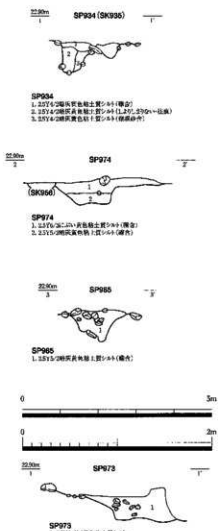




第162図　遺構実測図（中世後期）

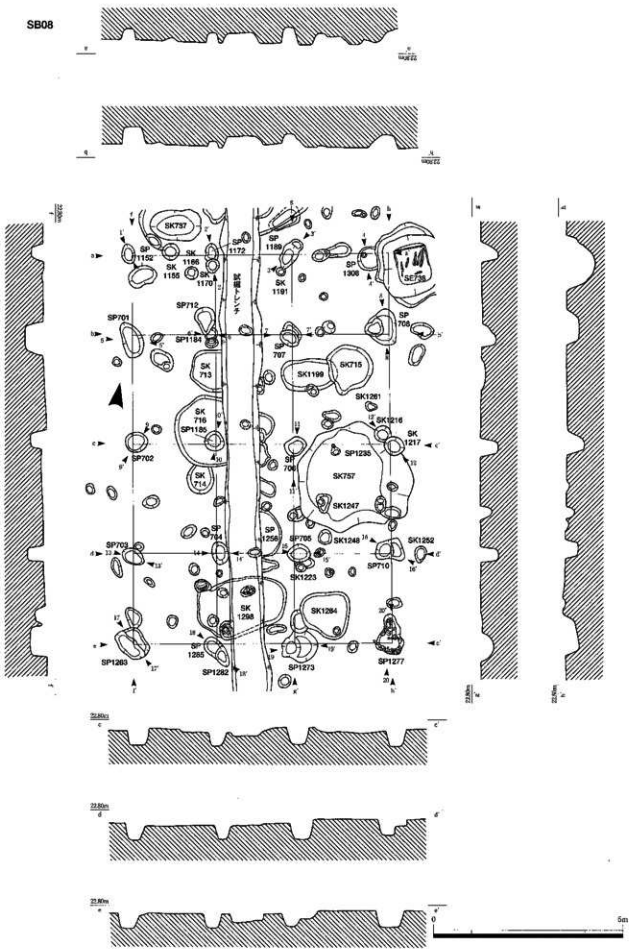
SB05 SP561 SP423 SP421 SP387 SP380 SP475 SP429 SP389 SP392 SP375
SP483 SP676 SP675 SP449 SP585 SA01



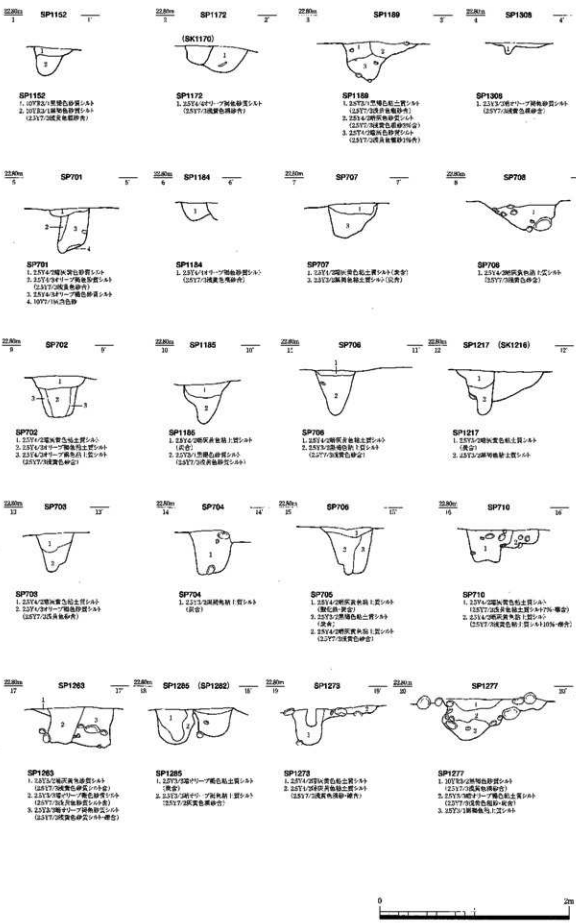


第163図　遺構実測図（中世後期）

SB06　SP934　SP974　SP985
SB07　SP973　SP930　SP957　SP967

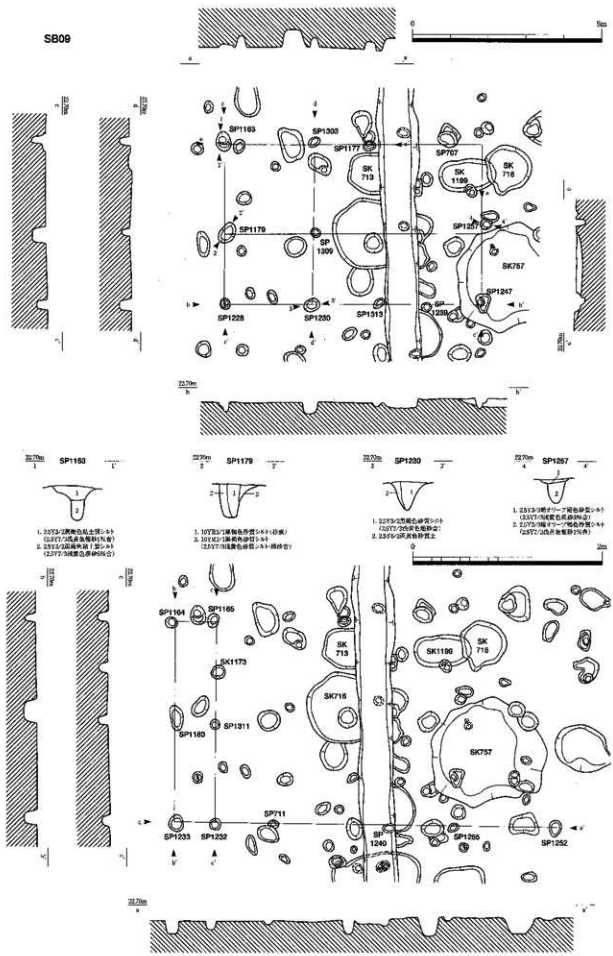


第164図　遺構実測図（中世後期）
SB08

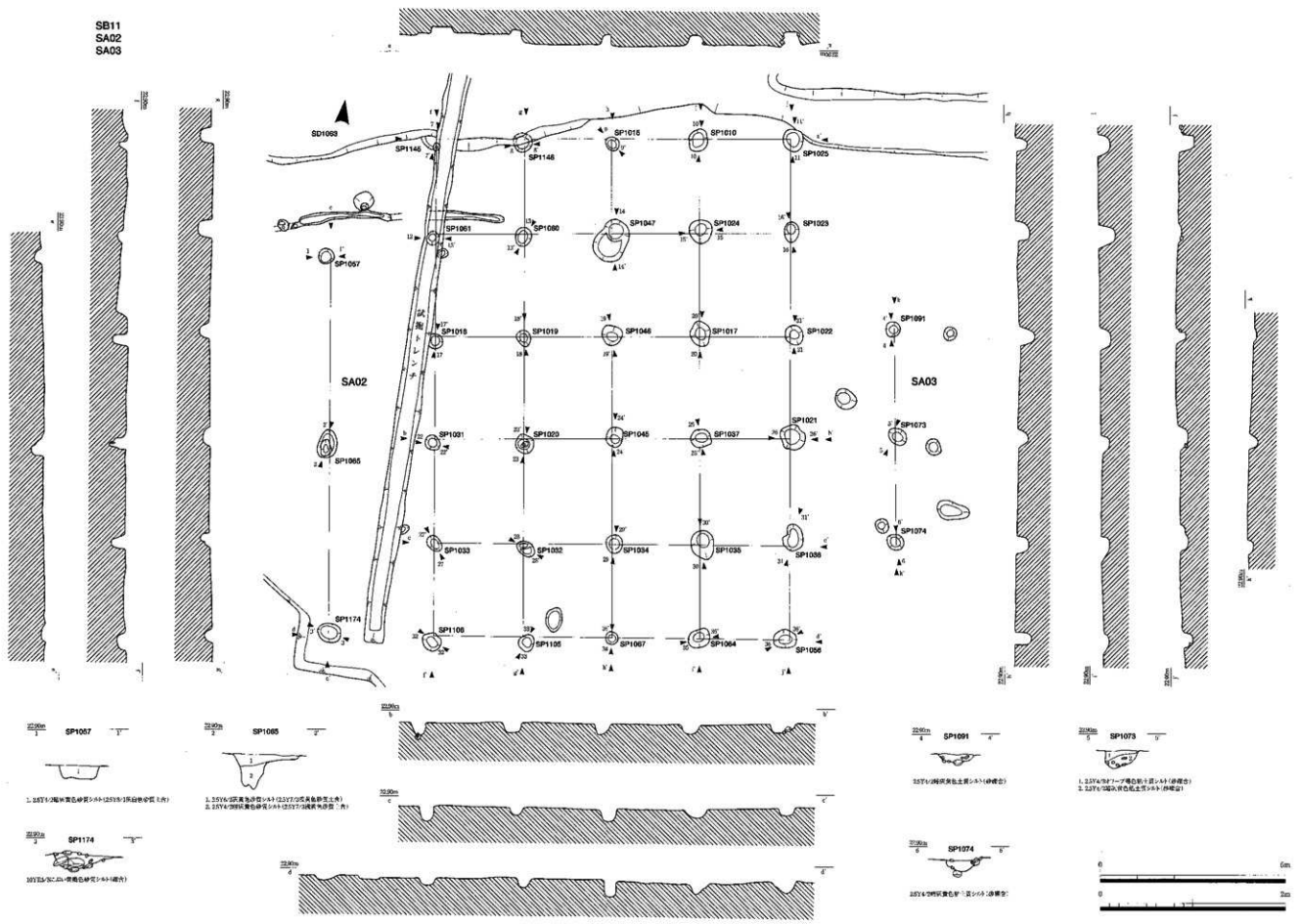


第165図　遺構実測図（中世後期）

SP1152　SP1172　SP1189　SP1308　SP701　SP1184　SP708　SP707　SP702　SP1185　SP706　SP1217　SP703　SP704　SP705　SP710　SP1263　SP1285　SP1273　SP1277

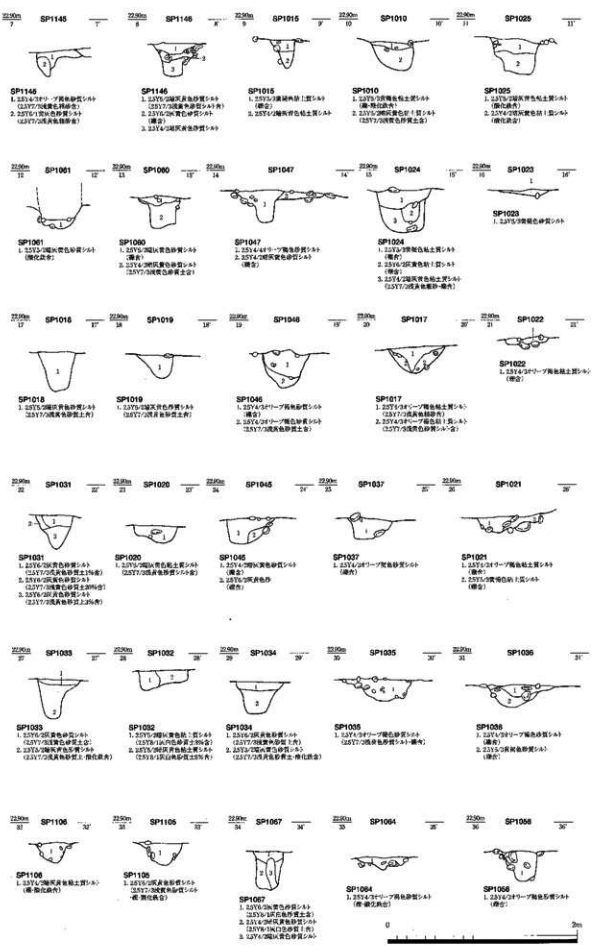


第166図　遺構実測図（中世後期）
SB09　SP1163　SP1179　SP1230　SP1257　SB10



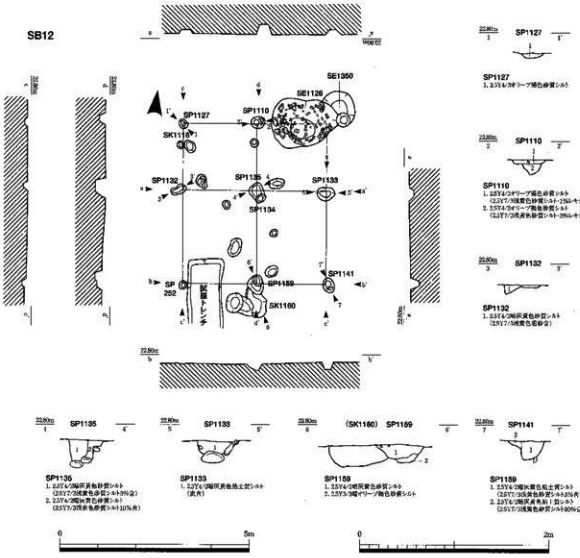
第167図　遺構実測図（中世後期）

SB11　SA02　SP1057　SP1065　SP1174　SA03　SP1091　SP1098　SP1074



第168図　遺構実測図（中世後期）

SP1145　SP1146　SP1015　SP1010　SP1025　SP1060　SP1061　SP1047　SP1024　SP1023　SP1018
SP1019　SP1017　SP1031　SP1020　SP1045　SP1021　SP1022　SP1032　SP1033　SP1034　SP1035
SP1036　SP1037　SP1046　SP1056　SP1064　SP1067　SP1105　SP1106



第169図　遺構実測図（中世後期）

SB12　SP1127　SP1110　SP1132　SP1135　SP1133　SP1159　SP1141

2.4m・2.4m・2.4mである。遺物は、ＳＰ1010から中世土師器と加工木、ＳＰ1020・1037・1047・1060から中世土師器、ＳＰ1024から土師器、ＳＰ1031から柱根が出土している。

12号掘立柱建物（ＳＢ12、第169図）

北東隅を井戸ＳＥ1126に切られる２間×２間の総柱建物。南北棟で、桁行は4.2m、梁行は3.8m、平面積は15.96㎡である。建物主軸はＮ－９°－Ｗ。遺物の出土は見られない。

溝

2177号溝（ＳＤ2177、第170図）

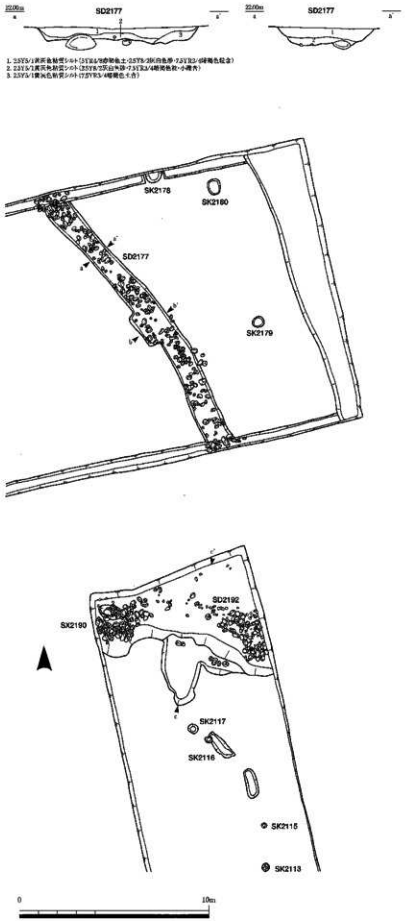
Ｂ地区の東側を横切る南北溝。最大幅177cm、深さ18cm。覆土中に小円礫を多く含む。珠洲が出土している。

2192号溝（ＳＤ2192、第170図、図版82）

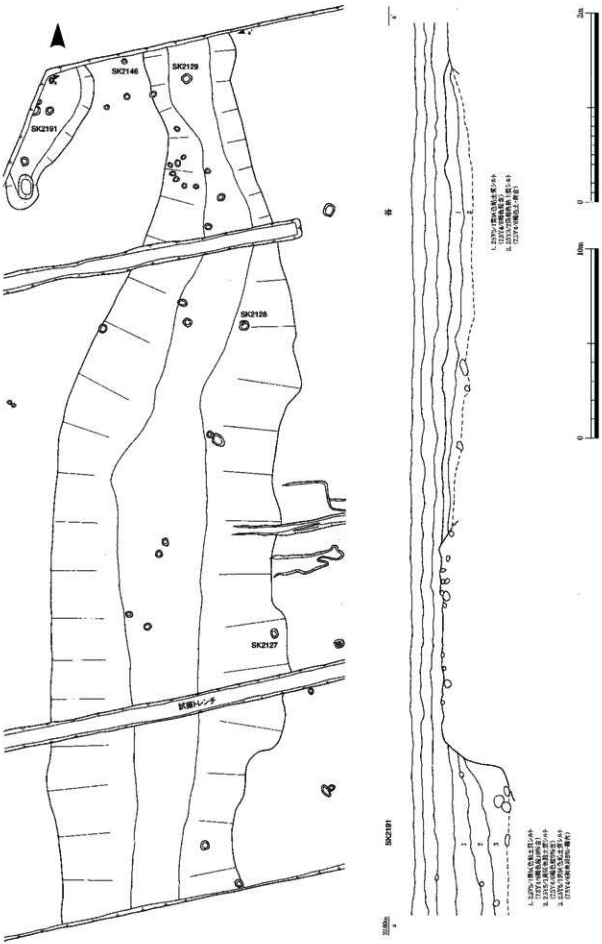
Ｂ地区の北端に位置する。長さ・幅共に、調査区外に延びるために不明である。西側の肩に石組ＳＸ2190を持つ。中世土師器が出土している。

谷（第171図）

Ｂ地区の中央を南北に走る谷。最大幅1024cm。中世土師器・瀬戸・白磁・青磁・珠洲・金属製品が



第170図　遺構実測図（中世後期）
SD2117　SP2192



第171図　遺構実測図（中世後期）
谷

出土している。

2109号溝（ＳＤ2109、第172図）

ＳＤ2016と直行するような南北の溝。調査区外に延びるため、詳細は不明である。遺物は出土していない。

2106号溝（ＳＤ2106、第172図）

Ｂ地区のほぼ中央を東西に流れる溝。遺物は出土していない。

2032号溝（ＳＤ2032、第173図）

Ｂ地区の南東の一画を囲むようにして廻る溝。墓群ＳＺ2038・2039・ＳＸ2040・2119・2120より古い。最大幅350cm、深さ27cm。中世土師器が出土している。

2047号溝（ＳＤ2047、第173図）

ＳＤ2032に切られる溝。北西から南東へ流れる。最大幅57cm、深さ18cm。遺物は出土していない。

2033号溝（ＳＤ2033、第173図）

ＳＤ2032を切る東西溝。調査区外へ延びるため詳細は不明。遺物は出土していない。

2076号溝（ＳＤ2076、第173図、図版82）

逆コの字状に巡る溝。区画溝と思われる。最大幅44cm、深さ24cm。遺物は出土していない。

565号溝（ＳＤ565、第174図）

Ａ地区北側調査区の北西隅に位置する溝。南側調査区のＳＤ739・ＳＤ741のどちらかと繋がり、区画溝を形成すると思われる。最大幅290cm、深さ10cm。土師器・中世土師器・珠洲が出土している。

658号溝（ＳＤ658、第174図）

Ａ地区北側調査区の北壁でＳＤ565と接する溝。東西方向に流れる。最大幅218cm、深さ19cm。中世土師器が出土している。

564号溝（ＳＤ564、第174図）

ＳＥ609から西へ延び、ついで直角に曲がって北へ流れ、また壁際で西に向きを変える溝。ＳＥ609に切られている。最大幅106cm、深さ17cm。中世土師器・珠洲が出土している。

409号溝（ＳＤ409、第174図）

ＳＢ02の北西隅から北上し、東へ直角に曲がってＳＤ658の一部を切って流れる溝。最大幅140cm、深さ13cm。中世土師器・珠洲が出土している。

405号溝（ＳＤ405、第174図）

ＳＥ609から北へ流れ、東に向かって直角に曲がって延びる溝。ＳＤ564と同一の溝と思われる。出土遺物は見られない。

583号溝（ＳＤ583、第174図）

ＳＤ405が東へ曲がる箇所から南へ延びる溝。最大幅70cm、深さ７cm。ＳＢ01・ＳＢ03の柱穴に切られており、掘立柱建物群よりも以前の遺構と考えられる。珠洲が出土している。

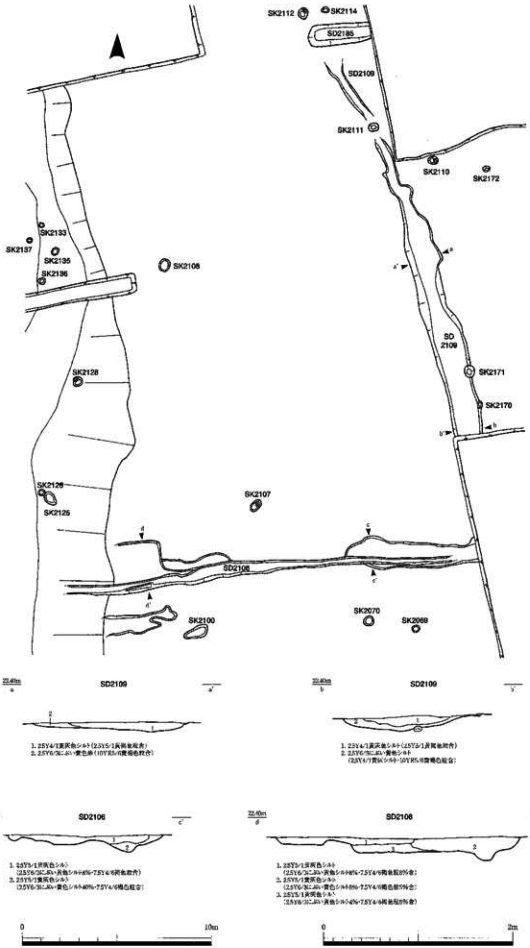
611号溝（ＳＤ611、第174図）

Ａ地区北側調査区の西壁から東へ延びる溝。東側の端は、はっきりとは検出できなかった。最大幅190cm、深さ14cm。青磁が出土している。

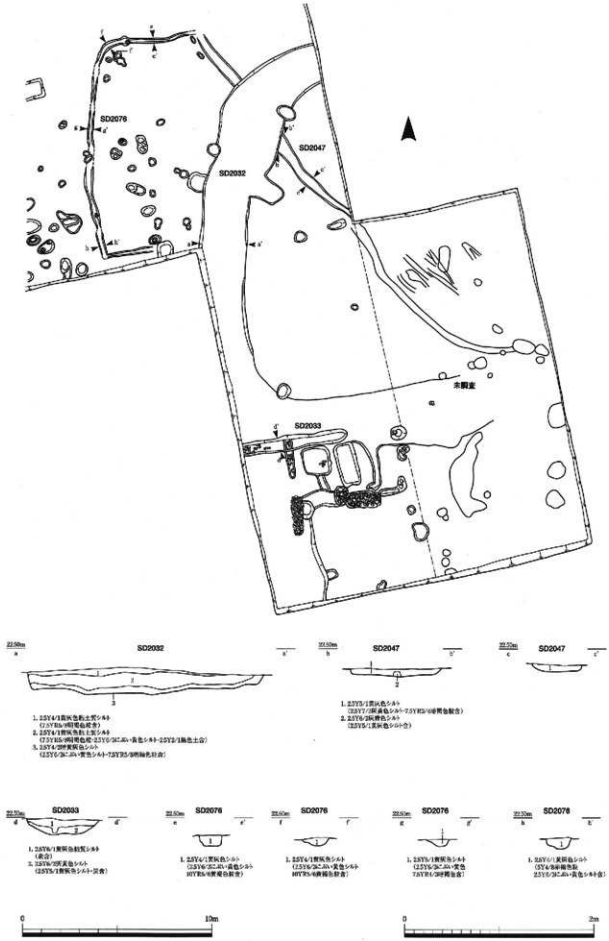
439号溝（ＳＤ439、第174図）

ＳＫ608とＳＤ570に挟まれる南北の溝。最大幅38cm、深さ16cm。中世土師器・珠洲が出土している。

618号溝（ＳＤ618、第174図）



第172図　遺構実測図（中世後期）
SD2109　SD2106



第173図　遺構実測図（中世後期）
SD2032　SD2047　SD2033　SD2076

第174図　遺構実測図（中世後期）

SD565　SD658　SD564　SD409　SD405　SD583　SD611　SD439　SD618　SD570

ＳＤ570に切られる溝。南北溝であるが、調査区外に延びており、全体は不明である。幅60㎝、深さ28㎝。中世土師器が出土している。

570号溝（ＳＤ570、第174図）

Ａ地区北側調査区の南端に位置する東西溝。試掘トレンチに切られており、全体の形状は不明である。中世土師器・八尾が出土している。

741号溝（ＳＤ741、第175図）

Ａ地区南側調査区の北東隅に位置する溝。最大幅277㎝、深さ36㎝。北側調査区の掘立柱建物群を区画する溝と思われる。土師器・中世土師器が出土している。

739号溝（ＳＤ739、第175図）

調査区北壁のＸ54Ｙ51付近から南北に延びる溝。最大幅147㎝、深さ11㎝。遺物は出土していない。

736号溝（ＳＤ736、第175図）

ＳＤ739を切って東西に延びる溝。北は調査区外に続く。最大幅138㎝、深さ８㎝。遺物の出土は見られない。

721号溝（ＳＤ721、第175図）

南側調査区の北壁に沿って位置する不整形な溝。中世土師器・珠洲が出土している。

1292号溝（ＳＤ1292、第175図）

調査区北壁から南東に向かって延びるＳＤ722に切られる溝。最大幅243㎝、深さ16㎝。中世土師器が出土している。

1112・1130・1295・1296号溝（ＳＤ1112・1130・1295・1296、第176図）

Ｘ38～42Ｙ40～45の範囲に点在する、浅く短い溝。上層で検出されたＳＤ03・04・06・08・10等と同じさく状遺構ではないかと考えられる。出土遺物はいずれの遺構でも見られない。

1319号溝（ＳＤ1319、第176図）

Ｘ40～45Ｙ47～48付近の南北溝。途中を試掘トレンチで切られる。覆土中に少量の焼土を含む。出土遺物は見られない。

1063号溝（ＳＤ1063、第176図）

ＳＢ11の北側を東西に流れる溝。ＳＢ11の柱穴を切っており、建物よりも新しい。中世末期～近世面で検出したＳＤ221の掘り残しの可能性がある。中世土師器・珠洲が出土している。

井戸

609号井戸（ＳＥ609、第177図、図版83）

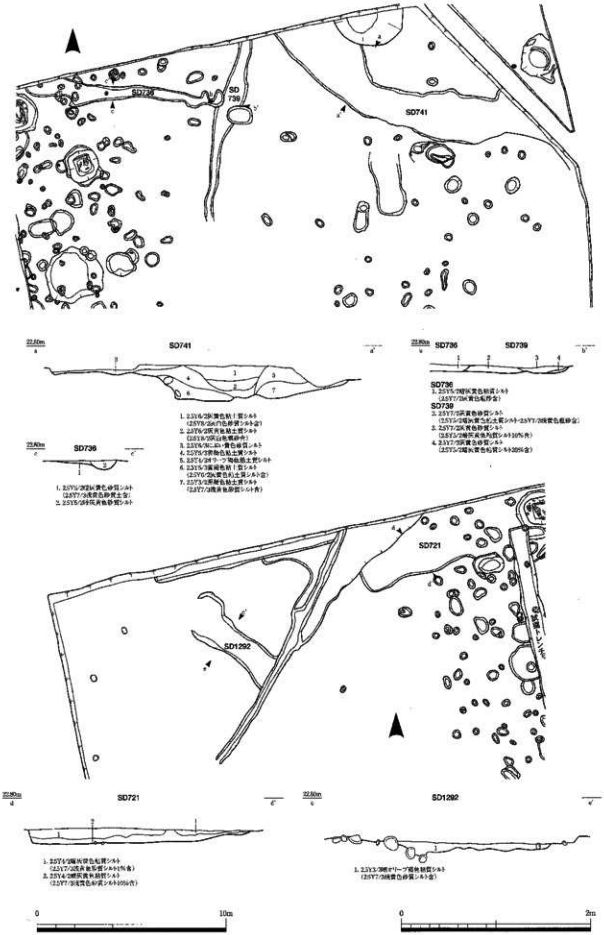
Ａ地区北側調査区ＳＢ01の北に位置する井戸。長径295㎝、短径249㎝、深さ110㎝で、92㎝四方の縦板組横桟留めの井戸側を持つ。出土遺物には、中世土師器・珠洲・八尾・白磁・木製品がある。覆土中から骨・昆虫の羽が見つかっている。

738号井戸（ＳＥ738、第177図、図版83）

ＳＢ08の北東隅を切る木組井戸。井戸側の残存は悪く、縦板が半分程度しか残っていなかった。井戸側内から角柱状の木製品が出土しており、縦板組横桟留めであったとも考えられる。水溜めには曲物が据えられていた痕跡があった。金属製品が出土している。

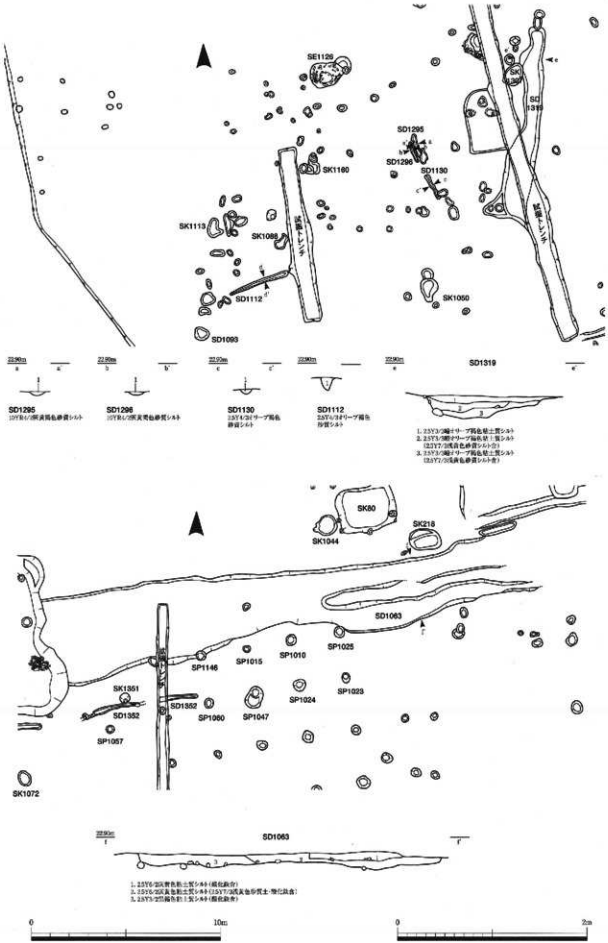
575号井戸（ＳＥ575、第177図、図版83）

Ａ地区北側調査区の南端に位置する素掘の井戸。長径268㎝、短径184㎝、深さ88㎝。覆土の堆積状況から、廃棄する際に石が抜かれたのではなく、元々素掘であったと思われる。中世土師器・種子（桃）



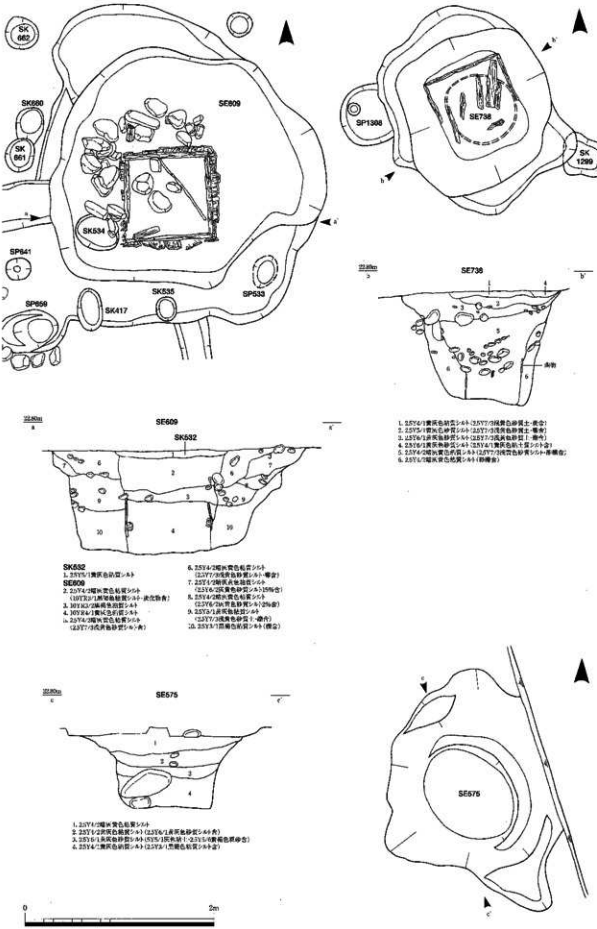
第175図　遺構実測図（中世後期）

SD741　SD739　SD736　SD721　SD1292

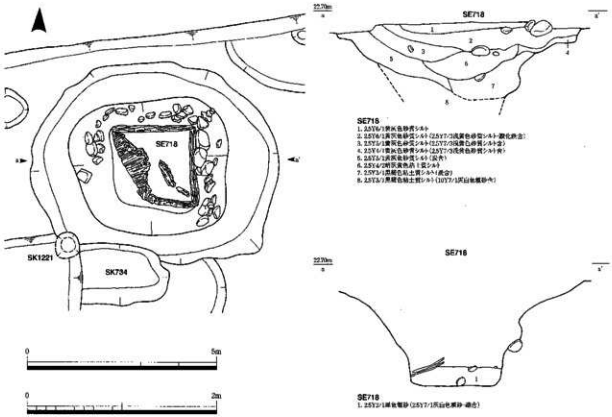


第176図　遺構実測図（中世後期）

SD1295　SD1296　SD1130　SD1112　SD1319　SD1063



第177図　遺構実測図（中世後期）
SE609　SE738　SE575



第178図　遺構実測図（中世後期）

SE718

が出土している。底に大きな石が投げ込まれており、井戸を埋めた際の祭祀ではないかと考えられる。

718号井戸（ＳＥ718、第178図）

Ａ地区南側調査区の北端に位置する木組井戸。長径260cm、短径209cm、深さ95cm。井戸側の西半分が内側に向かって倒れていた。縦板組横桟留めの井戸側と思われる。出土遺物には、中世土師器・珠洲・木製品がある。

895号井戸（ＳＥ895、第179図、図版83）

長径245cm、短径226cm、深さ134cmの石組井戸。ＳＥ870より新しい。石組の断面形は、やや漏斗形を呈す。水溜めに曲物を持つ。出土遺物には、珠洲・木製品（曲物底板など）がある。

870号井戸（ＳＥ870、第179図、図版84）

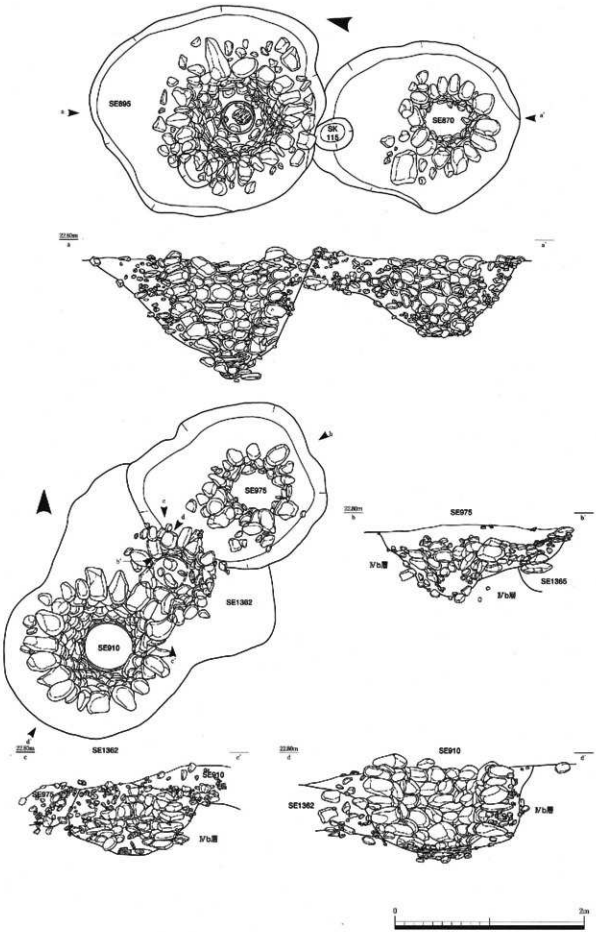
ＳＥ895に切られる石組井戸。長径260cm、短径180cm、深さ82cm。掘形は、北側がやや広くなり、小円礫で充填される。ＳＥ895に比べると、石の組み方は雑である。底に水溜めが入っていた痕跡は見られない。遺物は出土していない。

910号井戸（ＳＥ910、第179図、図版84）

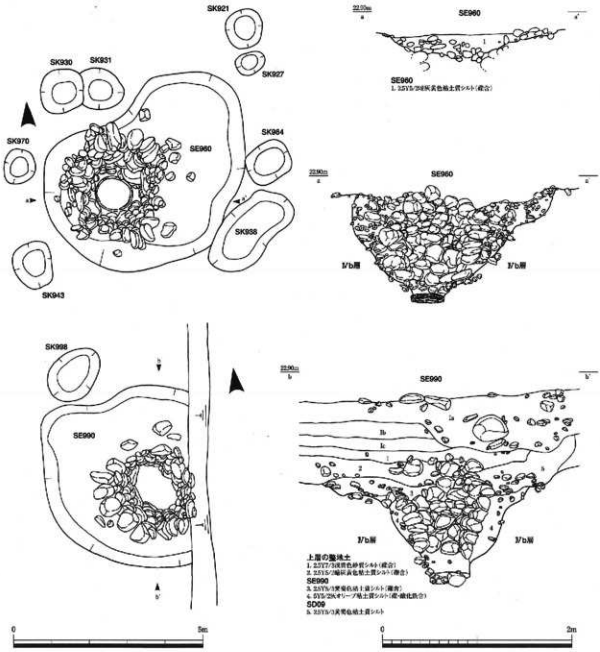
ＳＥ1362を切る石組井戸。長径240cm、短径184cm、深さ96cm。底部に直径50cmの曲物が水溜めとして据えられていた。掘形は小さく、石も大きさの揃ったものが使われている。珠洲・石製品が出土している。

975号井戸（ＳＥ975、第179図、図版84）

ＳＥ910の北側でＳＥ1362を切る石組井戸。長径210cm、短径180cm、深さ76cm。掘形は浅い漏斗形を呈し、石組は２～３段程度しかない。遺物の出土は見られない。



第179図　遺構実測図（中世後期）
SE895　SE870　SE975　SE1362　SE910



第180図　遺構実測図（中世後期）
SE960　SE990

1362号井戸（ＳＥ1362、第179図、図版84）

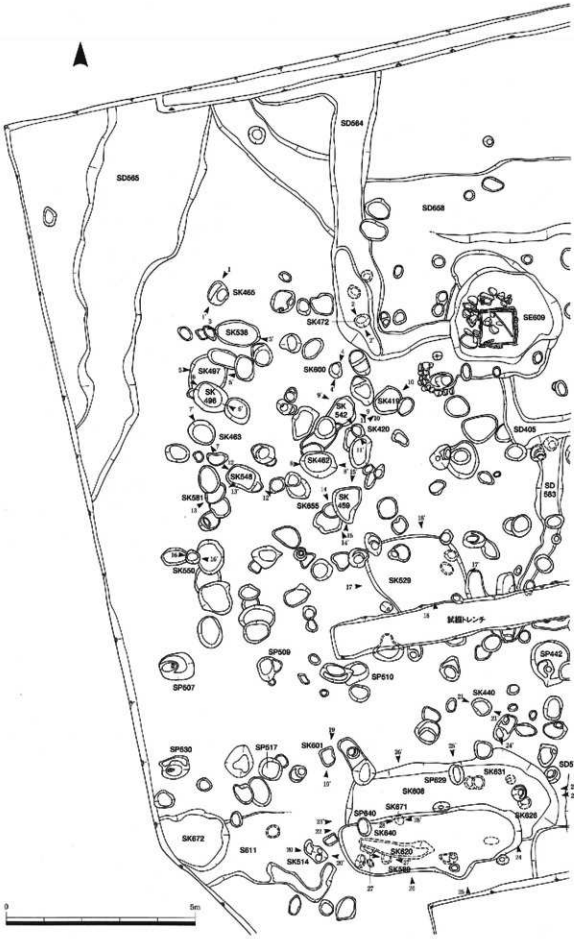
ＳＥ910・ＳＥ975に切られる石組井戸。深さ76cm。石組の上部は、前記の井戸に壊されており、2～6段が残っていた。水溜めの曲物があるが、残存状態は悪い。中世土師器・珠洲・土錘・曲物の底板が出土している。

960号井戸（ＳＥ960、第180図、図版85）

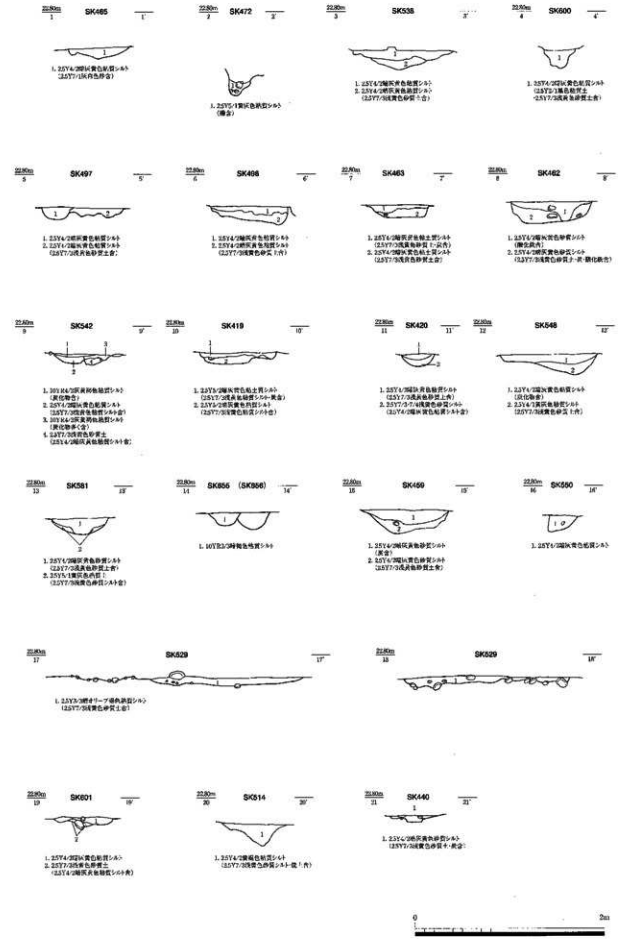
ＳＢ06の内側に位置する石組井戸。長径236cm、短径180cm、深さ122cm。掘形が大きく、石組も隙間のある雑な組み方である。水溜めに曲物を持つ。中世土師器が出土している。

990号井戸（ＳＥ990、第180図、図版85）

Ａ地区南側調査区の東壁に掘形の一部を切られる石組井戸。長径192cm、現存幅150cm、深さ110cm。水溜め部分には曲物が据えられていたと思われる。木製品が出土している。

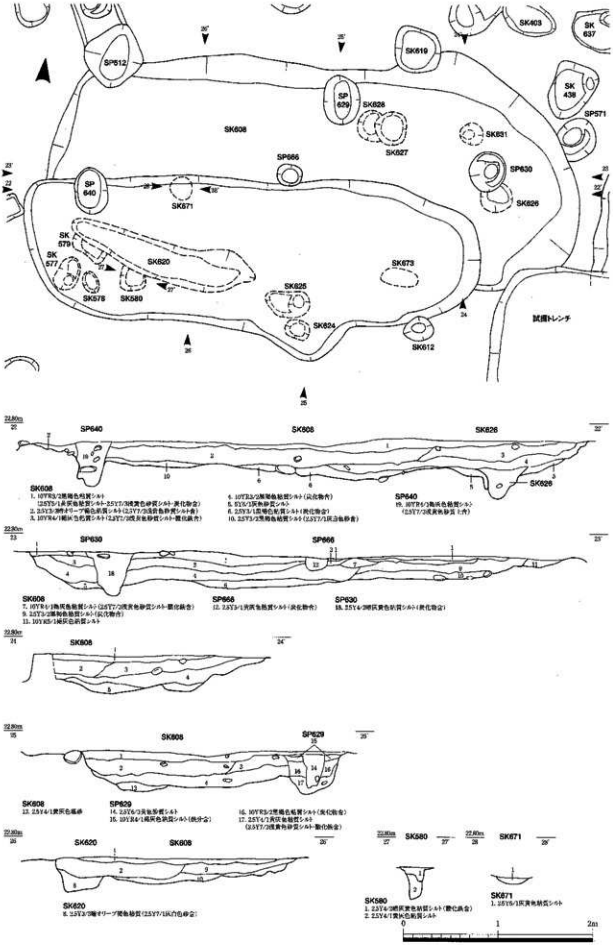


第181図　遺構実測図（中世後期）



第182図　遺構実測図（中世後期）

SK465　SK472　SK538　SK600　SK497　SK496　SK463　SK462　SK542　SK419　SK420　SK548
SK581　SK655　SK459　SK550　SK529　SK601　SK514　SK440

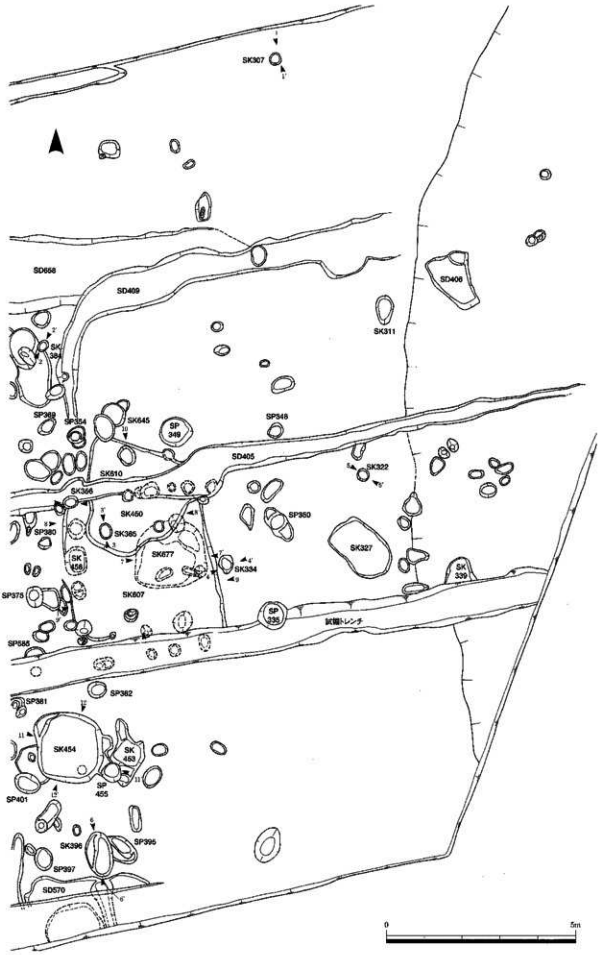


第183図　遺構実測図（中世後期）

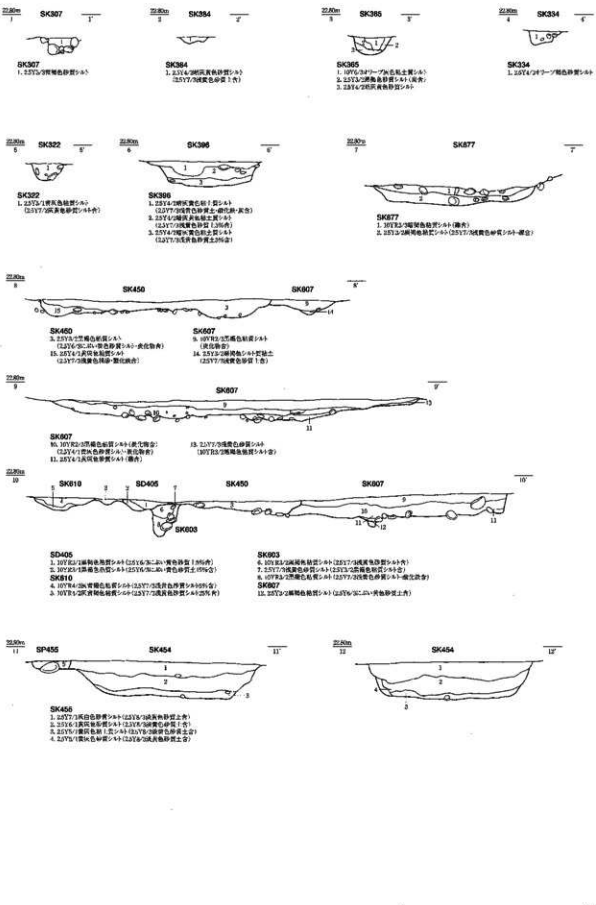
SK608　SP640　SK626　SP630　SP666　SP629　SK620　SK580　SK671

土坑

465号土坑（ＳＫ465、第181・182図）
Ａ地区北側調査区Ｘ64Ｙ56に位置する土坑。中世土師器が出土している。
472号土坑（ＳＫ472、第181・182図）
ＳＤ564の底面から検出された土坑。中世土師器が出土している。
538号土坑（ＳＫ538、第181・182図）
Ｘ63Ｙ57に位置する楕円形の土坑。中世土師器が出土している。
600号土坑（ＳＫ600、第181・182図）
Ｘ63Ｙ85に位置する土坑。中世土師器・珠洲が出土している。
497号土坑（ＳＫ499、第181・182図）
Ｘ62Ｙ57に位置する楕円形の土坑。ＳＫ496に切られる。中世土師器が出土している。
496号土坑（ＳＫ496、第181・182図）
Ｘ63Ｙ56に位置する楕円形の土坑。珠洲が出土している。
463号土坑（ＳＫ463、第181・182図）
Ｘ62Ｙ56に位置する楕円形の土坑。中世土師器が出土している。
462号土坑（ＳＫ462、第181・182図）
Ｘ63Ｙ85に位置する楕円形の土坑。中世土師器が出土している。
542号土坑（ＳＫ542、第181・182図）
Ｘ62Ｙ58に位置する楕円形の土坑。ＳＫ543に切られる。中世土師器が出土している。
419号土坑（ＳＫ419、第181・182図）
Ｘ62Ｙ59に位置する土坑。中世土師器が出土している。
420号土坑（ＳＫ420、第181・182図）
Ｘ62Ｙ58に位置する土坑。中世土師器が出土している。
548号土坑（ＳＫ548、第181・182図）
Ｘ62Ｙ57に位置する土坑。中世土師器が出土している。
581号土坑（ＳＫ581、第181・182図）
Ｘ61Ｙ56に位置する土坑。中世土師器が出土している。
655号土坑（ＳＫ655、第181・182図）
Ｘ61Ｙ58に位置する土坑。ＳＫ459に切られる。中世土師器が出土している。
459号土坑（ＳＫ459、第181・182図）
Ｘ61Ｙ58に位置する土坑。中世土師器が出土している。
550号土坑（ＳＫ550、第181・182図）
Ｘ60Ｙ56に位置する土坑。中世土師器が出土している。
529号土坑（ＳＫ529、第181図・182図）
Ｘ60Ｙ59に位置する土坑。ＳＢ05の柱穴に切られており、方形を呈す。ＳＢ05に伴う土坑かどうかは不明である。中世土師器が出土している。
601号土坑（ＳＫ601、第181・182図）
Ｘ58Ｙ58に位置する土坑。中世土師器が出土している。
514号土坑（ＳＫ514、第181・182図）

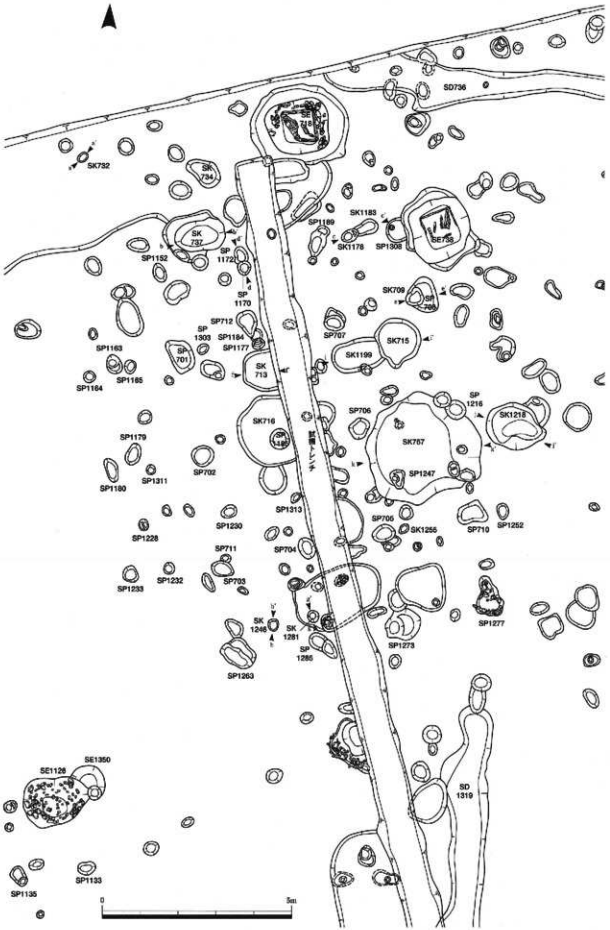


第184図　遺構実測図（中世後期）

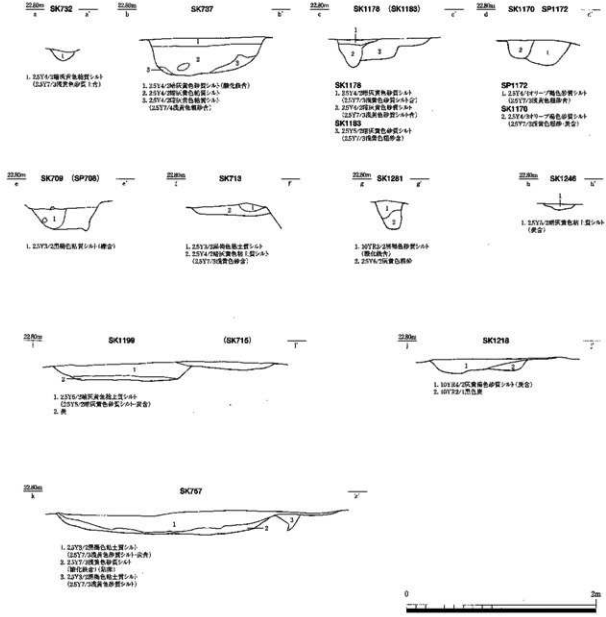


第185図　遺構実測図（中世後期）

SK307　SK384　SK365　SK334　SK322　SK396　SK677　SK450　SK607　SK610　SD405　SK603
SP455　SK454



第186図　遺構実測図（中世後期）



第187図　遺構実測図（中世後期）

SK732　SK737　SK1178　SK1183　SK1170　SK1172　SK709　SK713　SK1281　SK1246　SK1199　SK1218　SK757

X57Y58に位置する土坑。中世土師器が出土している。

440号土坑（ＳＫ440、第181・182図）

X58Y60に位置する土坑。中世土師器が出土している。

608号土坑（ＳＫ608、第183図）

ＳＢ01・04の柱穴に切られる土坑。覆土の堆積から２期に分けられる。中世土師器・珠洲・白磁・青磁・土師器・石製品・金属製品が出土している。

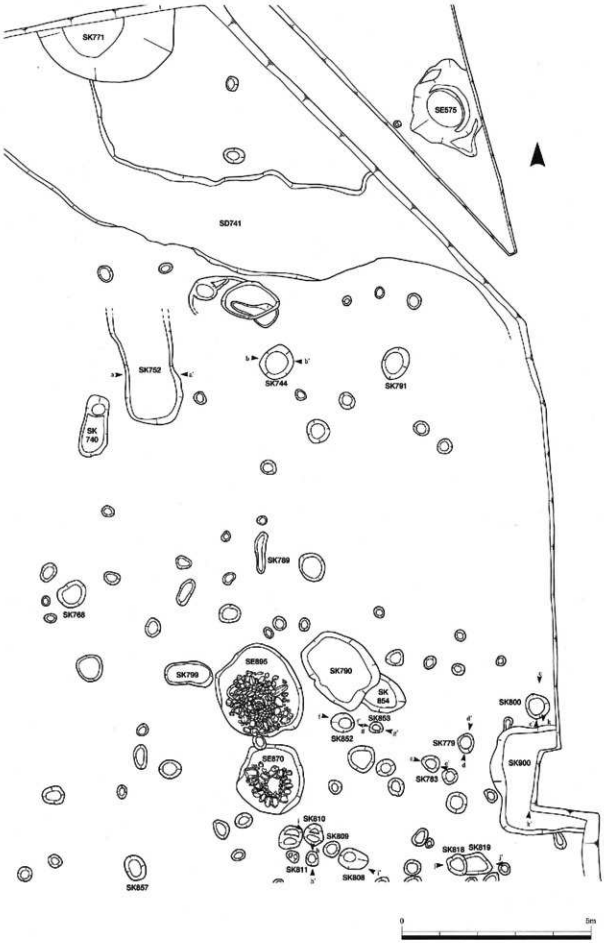
631号土坑（ＳＫ631、第183図）

ＳＫ608の底面から検出された土坑。中世土師器が出土している。

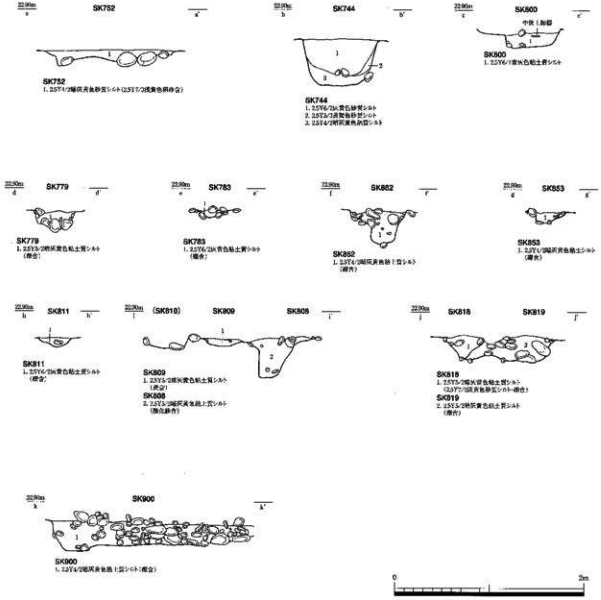
580号土坑（ＳＫ580、第183図）

ＳＫ608の底面から検出された土坑。ＳＫ620に切られる。中世土師器が出土している。

671号土坑（ＳＫ671、第183図）



第188図　遺構実測図（中世後期）



第189図　遺構実測図（中世後期）

SK752　SK744　SK800　SK779　SK783　SK852　SK853　SK811　SK809　SK808　SK818　SK819　SK900

ＳＫ608の底面から検出された土坑。中世土師器が出土している。

307号土坑（ＳＫ307、第184・185図）

Ｘ68Ｙ65に位置する土坑。礫層から検出された。中世土師器が出土している。

384号土坑（ＳＫ384、図184・185図）

Ｘ64Ｙ62に位置する土坑。中世土師器が出土している。

365号土坑（ＳＫ365、図184・185図）

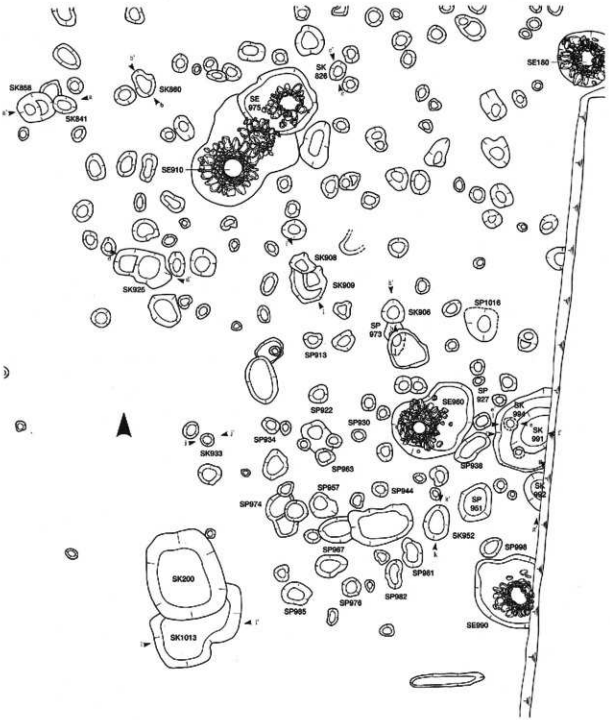
Ｘ62Ｙ62に位置する土坑。中世土師器が出土している。

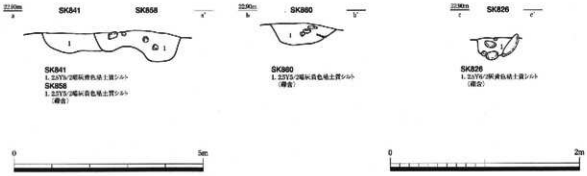
334号土坑（ＳＫ334、図184・184図）

Ｘ61Ｙ64に位置する土坑。中世土師器・青磁が出土している。青磁は碗の底部で、ＳＫ607出土のものと接合した。

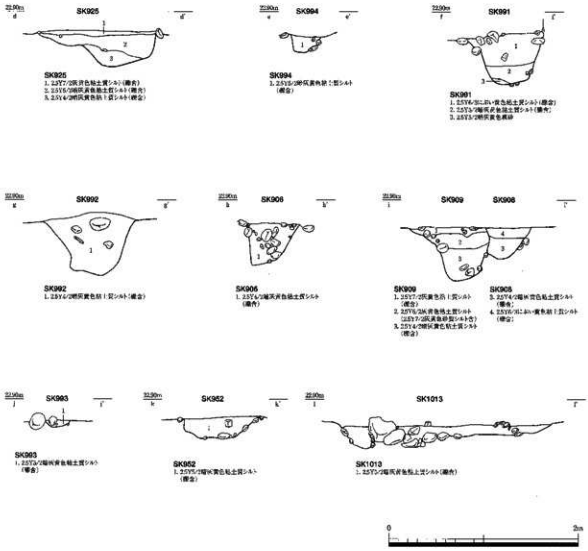
332号土坑（ＳＫ322、図184・185図）

Ｘ63Ｙ66に位置する土坑。中世土師器が出土している。





第190図　遺構実測図（中世後期）
SK841　SK858　SK860　SK826



第191図　遺構実測図（中世後期）

SK925　SK994　SK991　SK992　SK906　SK909　SK908　SK993　SK952　SK1013

396号土坑（ＳＫ396、図184・185図）

Ｘ58Ｙ62に位置する土坑。中世土師器が出土している。

677号土坑（ＳＫ677、図184・185図）

Ｘ62Ｙ63に位置する土坑。ＳＫ607の底面から検出した。

450号土坑（ＳＫ450、第184・185図）

ＳＤ405に切られる土坑。ＳＢ02の柱穴ＳＰ682を切るため、建物に伴う土坑ではないと思われる。土師器・中世土師器・珠洲・八尾・青磁が出土している。八尾はＳＫ607出土のものと接合する。

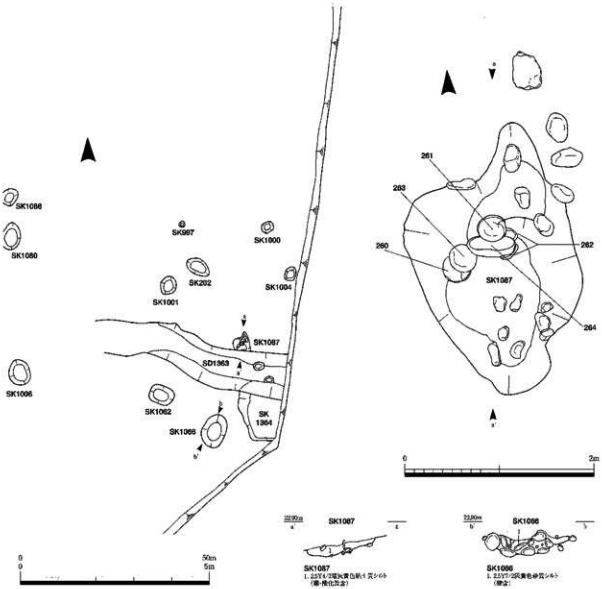
607号土坑（ＳＫ607、図184・185図）

ＳＫ450に切られる土坑。中世土師器・珠洲・八尾・瀬戸・青磁・金属製品が出土している。

454号土坑（ＳＫ454、図184・185図、図版85）

ＳＢ04の柱穴に切られる土坑。方形を呈し、ＳＢ04に伴うとも考えられるが、覆土に堅い貼床状の土層は見られない。中世土師器が出土している。

732号土坑（ＳＫ732、第186・187図）



第192図　遺構実測図（中世後期）
SK1087　SK1066

X52Y43に位置する土坑。中世土師器・珠洲が出土している。
737号土坑（SK737、第186・187図）
X51Y44に位置する楕円形の土坑。中世土師器が出土している。
1178号土坑（SK1178、第186・187図）
X51Y46に位置する土坑。SK1183を切る。中世土師器が出土している。
1170号土坑（SK1170、第186・187図）
SB08の柱穴SP1172を切る土坑。中世土師器が出土している。
709号土坑（SK709、第186・187図）
SB08の柱穴SP708を切る土坑。白磁が出土している。
713号土坑（SK713、第186・187図）
X49Y45に位置する土坑。試掘トレンチに切られている。珠洲と青磁が出土している。
1281号土坑（SK1281、第186・187図）

X46Y46に位置する土坑。中世土師器が出土している。

1246号土坑（SK1246、第186・187図）

X46Y45に位置する土坑。浅い円形を呈し、鉄滓が出土している。

1199号土坑（SK1199、第186・187図）

X50Y47に位置する土坑。底面に炭化物層が見られる。珠洲が出土している。

1218号土坑（SK1218、第186・187図）

X48Y48に位置する土坑。底面に炭化物の堆積が見られる。遺物の出土は見られない。

757号土坑（SK757、第186・187図、図版85）

SB08・09の柱穴に切られる土坑。底面に酸化鉄を含む堅く締まった面がある。SB08に伴う土坑の可能性がある。中世土師器が出土している。

752土坑（SK752、第188・189図）

中世末期～近世の溝SD09に切られる長方形の土坑。中世土師器が出土している。

744号土坑（SK744、第188・189号土坑）

X51Y57に位置する土坑。中世土師器が出土している。

800号土坑（SK800、第188・189図）

X46Y60に位置する土坑。中世土師器が出土している。

779号土坑（SK779、第188・189図）

X46Y60に位置する土坑。珠洲が出土している。

783号土坑（SK783、第188・189図）

X45Y59に位置する浅い土坑。中世土師器が出土している。

852号土坑（SK852、第188・189図）

X46Y58に位置する土坑。中世土師器が出土している。

853号土坑（SK853、第188・189図）

X46Y59に位置する土坑。中世土師器が出土している。

811号土坑（SK811、第188・189図）

X44Y57に位置する土坑。中世土師器が出土している。

808号土坑（SK808、第188・189図）

X44Y58に位置する楕円形の土坑。青磁が出土している。

819号土坑（SK819、第188・189図）

X44Y59に位置する土坑。SK818に切られる。中世土師器が出土している。

900号土坑（SK900、第188・189図）

調査区東壁に切られる方形の土坑。覆土は単層で礫を多く含む。珠洲が出土している。

858号土坑（SK858、第190・191図）

SK841に切られる土坑。青磁が出土している。

860号土坑（SK860、第190・191図）

X43Y55に位置する不整形な土坑。珠洲が出土している。

826号土坑（SK826、第190・191図）

X43Y57に位置する土坑。中世土師器・八尾が出土している。

925号土坑（SK925、第190・191図）

X40Y54に位置する土坑。中世土師器が出土している。

994号土坑（SK994、第190・191図）

X39Y59に位置する土坑。珠洲が出土している。

991号土坑（SK991、第190・191図）

X38Y60に位置する土坑。木製品が出土している。

992号土坑（SK992、第190・191図）

X37Y60に位置する土坑。中世土師器が出土している。

906号土坑（SK906、第190・191図）

X40Y58に位置する土坑。中世土師器が出土している。

908号土坑（SK908、第190・191図）

X40Y57に位置する土坑。SK909に切られる。中世土師器が出土している。

933号土坑（SK933、第190・191図）

X38Y55に位置するごく浅い土坑。珠洲が出土している。

952号土坑（SK952、第190・191図）

X37Y58に位置する土坑。珠洲が出土している。

1013号土坑（SK1013、第190・191図）

中世末期～近世の遺構SK200に切られる土坑。遺物の出土は見られない。

1087号土坑（SK1087、第192図、図版86）

SD1363に切られる土坑。形状は、不整形で南北に長い。完形の中世土師器が5枚出土した。中世土師器は、大1枚・小4枚のセットであったが、これは梅原胡摩堂の土壙墓から出土したものと同じである。しかし、大きさ・深さから墓壙とは考えにくい。

1060号土坑（SK1060、第192図）

X29Y58に位置する楕円形の土坑。中世土師器が出土している。

墓壙

2038号土壙墓（SZ2038、第193図、図版86）

B地区南側SD2032に囲まれた一画に位置する。長さ156cm、幅149cm、深さ33cmの方形の土坑。南北を主軸方向とする。珠洲が出土している。

2039号土壙墓（SZ2039、第193図、図版86）

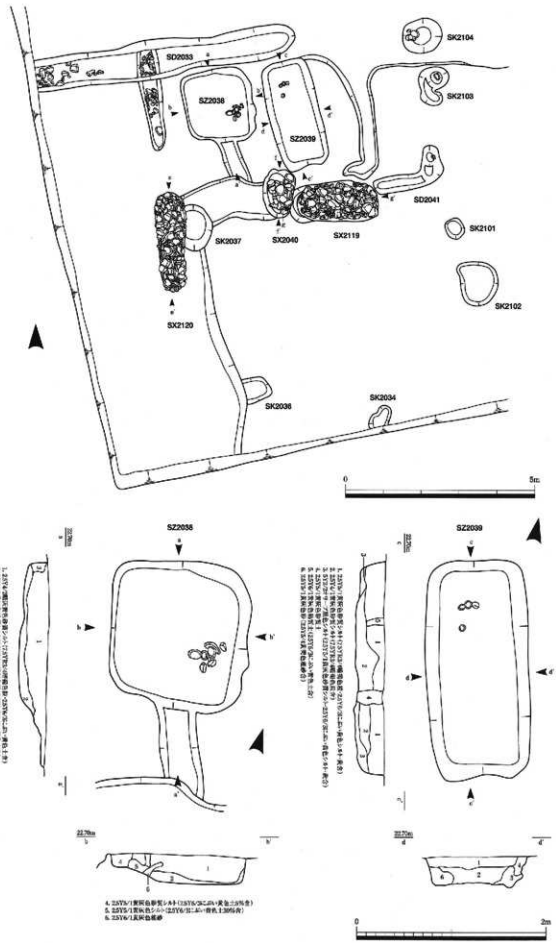
SZ2038の東に並ぶ土壙墓。長さ231cm、幅109cm、深さ36cmの長方形を呈する土坑。主軸方向は南北。土壙内の北側、床面から少し浮いた状態で中世土師器の皿が完形で4枚出土している。この内3枚は東西に1列に並び、1枚は南に少し離れて出土した。木質遺物・釘などの木棺がおかれていた形跡はないが、堆積の状況から見て木棺墓の可能性もある。墓壙内に中世土師器が副葬される例は、富山県福岡町梅原胡摩堂遺跡でも見られる。

2040号集石墓（SX2040、第193・194図、図版86）

SZ2039の南西隅に接するように位置する楕円形の土坑。長さ105cm、幅67cm、深さ14cm。主軸方向は南北。覆土表面に礫が貼り付けられている。遺物の出土は見られない。

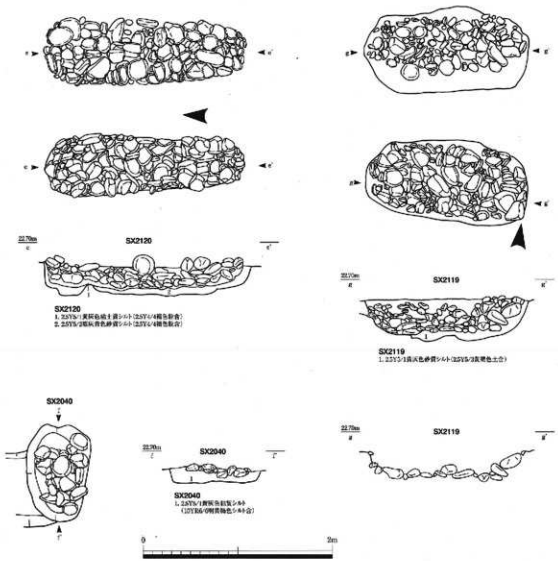
2119号集石墓（SX2119、第194図、図版87）

SZ2039の南側に位置する集石墓。長さ174cm、幅84cm、深さ22cmを測る細長い楕円形を呈す。主軸は、東西方向。土坑内の床面・壁面には直径10cm前後の扁平な円礫を貼り、内部を円礫で充填する。



第193図　遺構実測図（中世後期）

SZ2038　SZ2039



第194図　遺構実測図（中世後期）
SX2120　SX2119　SX2040

珠洲・八尾が出土している。また、微量ではあるが骨片も出土している。

2120号集石墓（ＳＸ2120、第194図、図版87）

ＳＸ2040の西側に位置する集石墓。長さ209cm、幅63cm、深さ28cmの細長い楕円形の土坑。主軸は南北方向。ＳＸ2119と同じく、土坑内を礫で囲い、充填する。ＳＸ2120は、ＳＸ2119に比べて土坑の縁を意識して造られており、土坑の壁面には円礫が立てて貼り付けられている。中世土師器・珠洲・八尾が出土している。

B　中世末期～近世

中世末期～近世からは、掘立柱建物６棟、土台建物、柵列２条、溝、井戸３基、土坑多数が見つかっている。

掘立柱建物

13号掘立柱建物（ＳＢ13、第195図、図版88）

Ａ地区北側調査区の東北隅に位置する２間×２間の側柱建物。南北棟で、主軸方向はＮ－17°－Ｗ。桁行4.7m×梁行4.0mで、平面積は18.8㎡である。北西隅と南西隅の柱穴を欠く。柱穴の大きさは、

直径20～60cm、深さは10～20cmである。建物内に不整形で浅い土坑ＳＫ343・310を持つ。柱穴ＳＰ312から中世土師器が出土している。

14号掘立柱建物（ＳＢ14、第196図、図版88）

ＳＤ09に囲まれる区画の北西隅に位置する掘立柱建物。２間×３間の南北棟で、主軸方向はＮ－7°－Ｅ。桁行5.5m×梁行3.4mで、平面積は18.7㎡である。遺物の出土は見られない。

15号掘立柱建物（ＳＢ15、第197図、図版88）

Ａ地区南側調査区のＸ37～41Ｙ56～58に位置する２間×４間の掘立柱建物。南面に１間×１間の張り出しを持つ。桁行6.76m、梁行4.04m。平面積は27.3㎡になる。

16号掘立柱建物（ＳＢ16、第197図）

ＳＢ15と重なって建つ１間×１間の掘建柱建物。桁行4.0m×梁行3.22mで、主軸はＮ－0°－Ｗ。

17号掘立柱建物（ＳＢ17、第198図、図版89）

Ａ地区南側調査区のＸ34～38Ｙ49～51に位置する。２間×３間の南北棟で、北面に１間×１間の張り出し、建物内に土坑ＳＫ80を持つ。主軸方向は、Ｎ－6.5°－Ｗ。桁行は7.3m、梁行3.3mで、建物の平面積は24.09㎡になる。建物内にある土坑ＳＫ80は、3.1m×2.4mの長方形で、柱穴を含む。柱間寸法は、桁行が北張り出しから1.5m、3.5m、1.7m、2.1m、梁行が東から1.7m、1.6mである。南辺の柱穴ＳＰ243・244・245は、柱間が不規則であり、穴自体も他のものに比べると浅い。このため、建物の柱穴ではなく、庇や棚といったものも考えられる。ＳＫ80から中世土師器が出土している。この掘立柱建物は、柱の立て方から見て近世と思われる。

18号掘立柱建物（ＳＢ18、第199図、図版89）

Ａ地区南側調査区のＸ40～42Ｙ40～44に位置する掘立柱建物。土坑とそれに伴う１間×３間の西棟、小さな柱穴が不規則に並ぶ東棟で構成される。西棟は南北棟で、主軸方向は、Ｎ－10°－Ｗである。桁行3.1m×梁行３mで、平面積は9.3㎡。桁行の柱間は北から1.6m、1.5m。土坑ＳＫ26の中央部を南北に試掘トレンチが通っており、このため梁の柱穴が検出できなかった可能性がある。ＳＫ26は、3.4m×2.8mの南北に長い土坑。東棟は、４間×２（３）間の南北棟に張り出し・土坑が付く。建物北面が３間、南面が２間になっており、平面形は台形を呈す。東棟の母屋部分の平面積は18.55㎡。周辺に小さな土坑が散り、これらも立て替え等に伴う柱穴かと考えられる。ＳＫ26から中世土師器・珠洲・八尾、ＳＰ30・ＳＫ32・ＳＫ49から珠洲が出土している。

土台建物

915・977・978・983号土台建物（ＳＸ915・977・978・983、第200図、図版90）

Ｘ40Ｙ60付近にある重なり合った遺構群で、調査区東壁に切られる。長方形を呈し、貼り床と思われる堅く締まった覆土を持つ。ＳＸ915は西側に30cm大の礫が一列に並ぶ。ＳＸ977は調査区外に延びる方形の遺構で、外周に礫が並べられ、土台建物の基礎と考えられる。

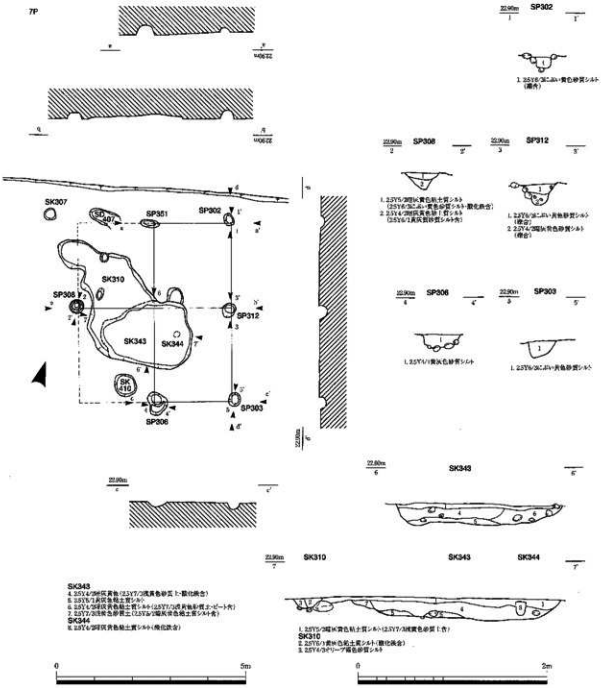
溝

12号溝（ＳＤ12、第201図）

Ａ地区南側調査区の東北隅を東西に流れる溝。ＳＤ09の北辺を平行に走る。ＳＤ09・219と併せて道の側溝と考えられる。中世土師器・珠洲が出土している。

９号溝（ＳＤ09、第201図、図版90）

Ａ地区南側調査区の東端を逆コの字形に巡り、北側で鉤状に曲がる溝。区画溝と考えられ、その内側には掘立柱建物・井戸・土坑等が密に存在する。北でＳＤ219、南でＳＤ90を切っている。中世土



第195図　遺構実測図（中世末期～近世）
SB13　SP302　SP308　SP312　SP306　SP303　SK343　SK310

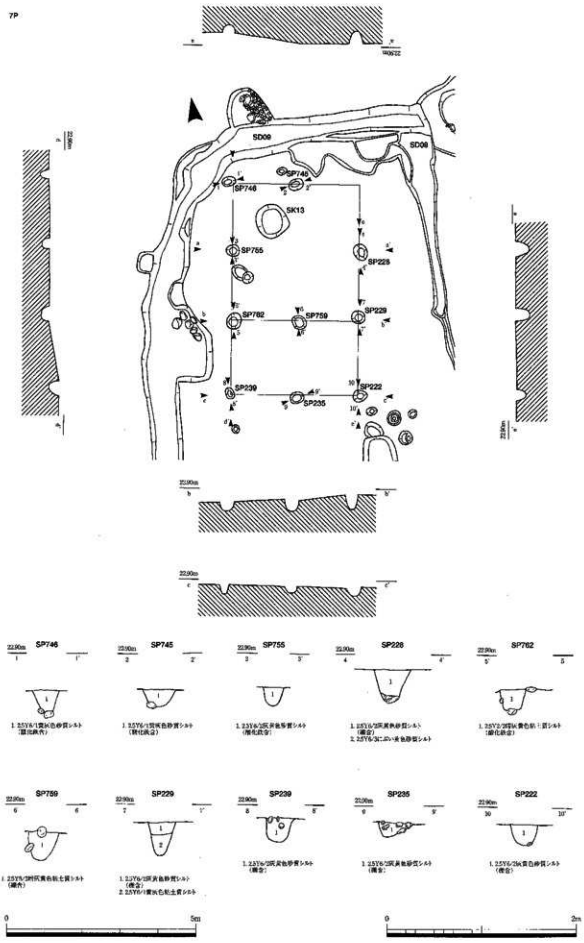
師器・珠洲・瀬戸・越中瀬戸が出土している。

219号溝（ＳＤ219、第201図）

Ａ地区南側調査区の東壁からＳＤ09に向かって東西に流れる溝。西端をＳＤ09・ＳＫ215に切られる。出土遺物は見られない。

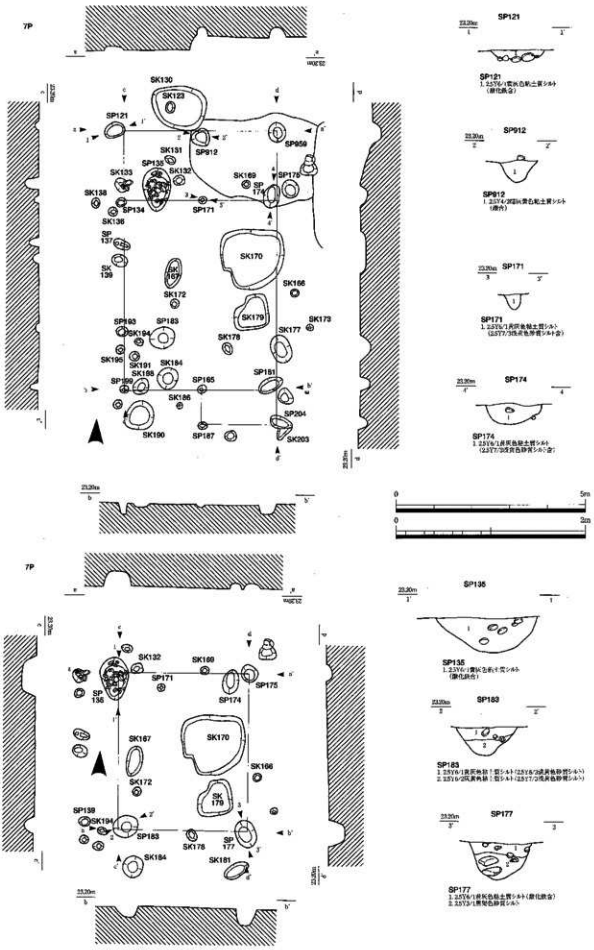
90号溝（ＳＤ90、第201図）

ＳＤ09の南辺に一部重なり東西を流れる溝。ＳＤ09より古く、ＳＤ220・221よりは新しい。集落と低地（ＳＤ241）を分ける区画溝と考えられる。中世土師器・珠洲・瀬戸・伊万里が出土している。珠洲には、ＳＤ09出土遺物と接合するものがある。



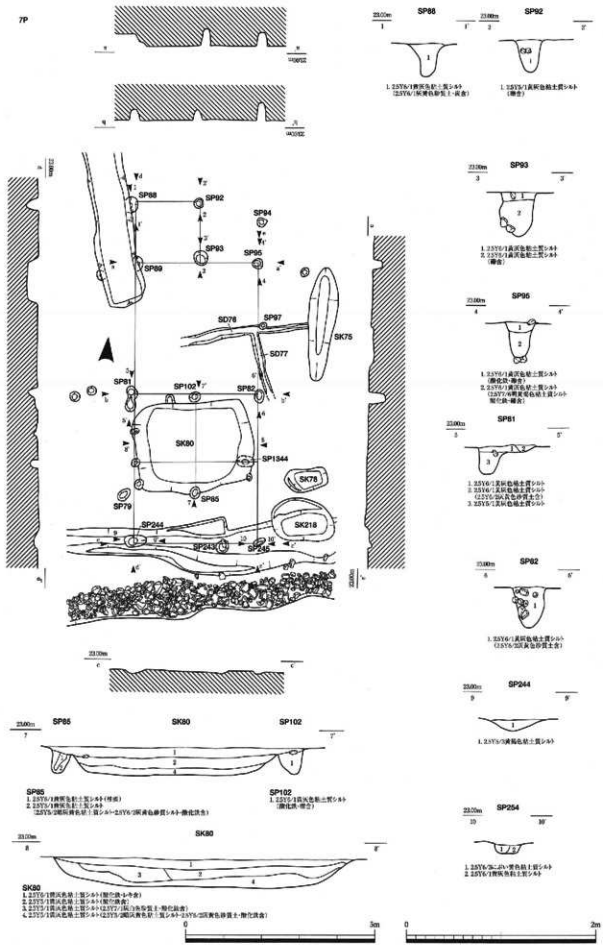
第196図　遺構実測図（中世末期～近世）

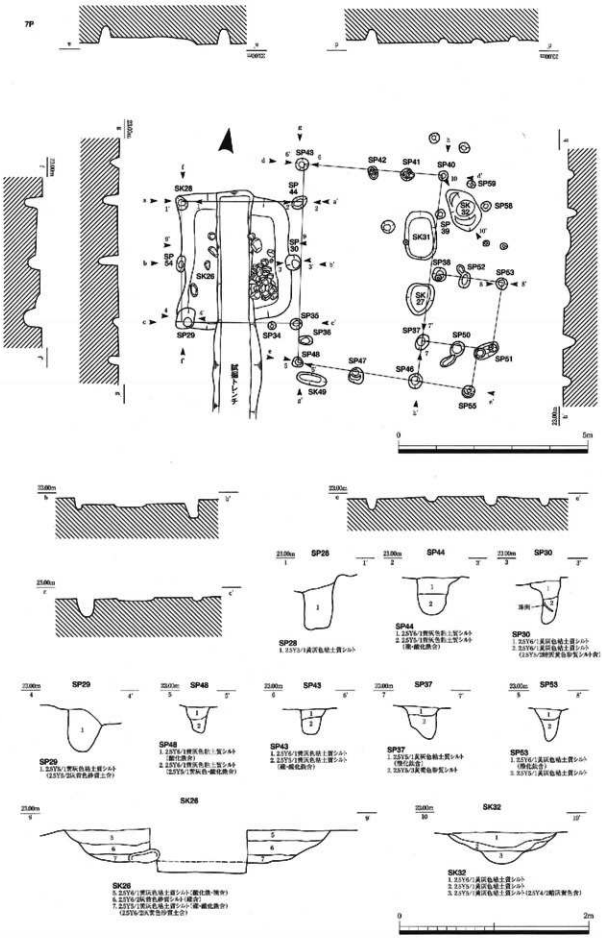
SB14　SP746　SP745　SP755　SP228　SP762　SP759　SP229　SP239　SP235　SP222



第197図　遺構実測図（中世末期～近世）

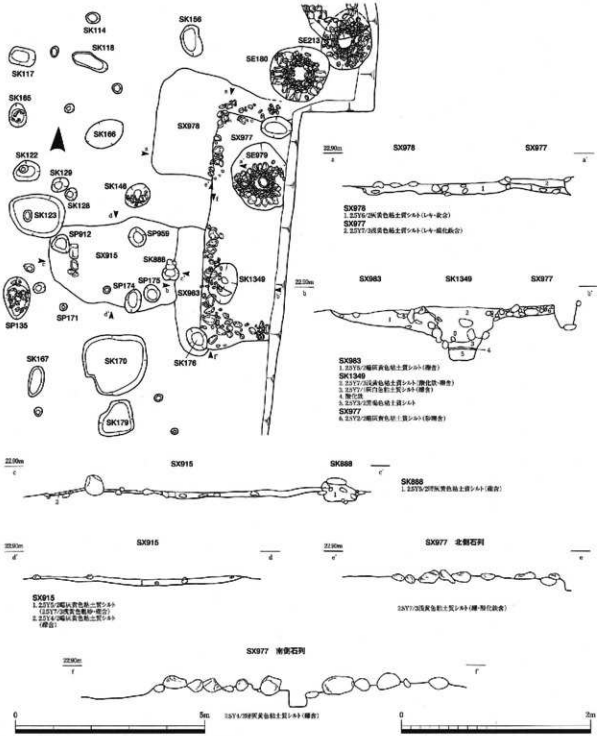
SB15　SP121　SP912　SP171　SP174　SB16　SP135　SP183　SP177


7P
SP88
SP92
SP94
SP93
SP95
SP89
SD76
SP97
SK75
SD77
SP81
SP102
SP82
SK80
SP1344
SK78
SP85
SP79
SP244
SK218
SP243
SP245
SP86
SP83
SP84
SP87
SP91
SP90
SP96
SP98
SP99
SP100
SP101
SP103
SP104
SP105
SP106
SP107
SP108
SP109
SP110
SP111
SP112
SP113
SP114
SP115
SP116
SP117
SP118
SP119
SP120
SP121
SP122
SP123
SP124
SP125
SP126
SP127
SP128
SP129
SP130
SP131
SP132
SP133
SP134
SP135
SP136
SP137
SP138
SP139
SP140
SP141
SP142



第199図　遺構実測図（中世末期～近世）

SB18　SP28　SP44　SP30　SP29　SP48　SP43　SP37　SP53　SK26　SK32



第200図　遺構実測図（中世末期～近世）
SX978　SX977　SX983　SX915

220号溝（ＳＤ220、第201図）

ＳＤ90と重なって東西に流れる溝。ＳＤ09より古く、ＳＤ221より新しい。覆土中に多量の小円礫を含む。珠洲が出土している。

221号溝（ＳＤ221、第201図）

ＳＤ90と平行に流れる溝。ＳＤ90と同じく区画溝と思われる。切り合うＳＤ09・90・220・221の中では一番古い溝である。溝の肩に礫が並ぶ。中世土師器・珠洲が出土している。

6号溝（ＳＤ06、第202図）

A地区南側調査区の北辺中央部に位置する溝。南北に流れる。一部検出できなかった部分があるが、全長14m程度になると思われる。幅30cm、深さ3cmと浅い。遺物の出土は見られない。

8号溝（SD08、第202図）

SD06の1m西側を平行に流れる溝。全長13m、幅27cm、深さ5cm。中世土師器が出土している。

3号溝（SD03、第202図）

SD08の西側を平行に流れる溝。一部検出できなかった部分があるが、全長14m程度と思われる。幅33cm、深さ3cmと浅い。遺物の出土は見られない。

4号溝（SD04、第202図）

SD03の西側を平行に流れる溝。幅21cm、深さ3cm。遺物の出土は見られない。

10号溝（SD10、第202図）

SD04の西側2.5mに位置する南北溝。全長6m、幅40cm、深さ5cmで、SD03・04・06・08に比べ幅はやや広いが浅い溝である。遺物の出土は見られない。

14号溝（SD14、第202図）

SD10の西側2.3mに位置する南北溝。全長8m、幅20～94cm、深さ4cm。土師器・中世土師器・珠洲が出土している。

15号溝（SD15、第202図）

SD14の西2.5mを走る南北溝。全長9.5m、幅34cm、深さ4cm。遺物の出土は見られない。

16号溝（SD16、第202図）

SD15の南東に位置する短く浅い溝。全長1.7m、幅17cm、深さ5cm。遺物の出土は見られない。

17号溝（SD27、第202図）

SD15の西側1mに位置する溝。一部検出できない箇所があった。全長7.5m、幅23cm、深さ4cm。遺物の出土は見られない。

SD03・04・06・08・10・14～17は、いずれも浅い溝で、ほぼ平行に南北を流れている。必ずしも等間隔ではないが、非常に浅い溝であるために検出できなかった可能性もある。これら9条の溝はさく状（畝状）遺構ではないかと考えられる。これらの遺構の周辺には、土坑・掘立柱建物等の遺構が少なく、A地区南側調査区の北辺中央部16m×17mの範囲は畑地として利用されていたのではないかと思われる。

65・66・69号溝（SD65・66・69、第202図）

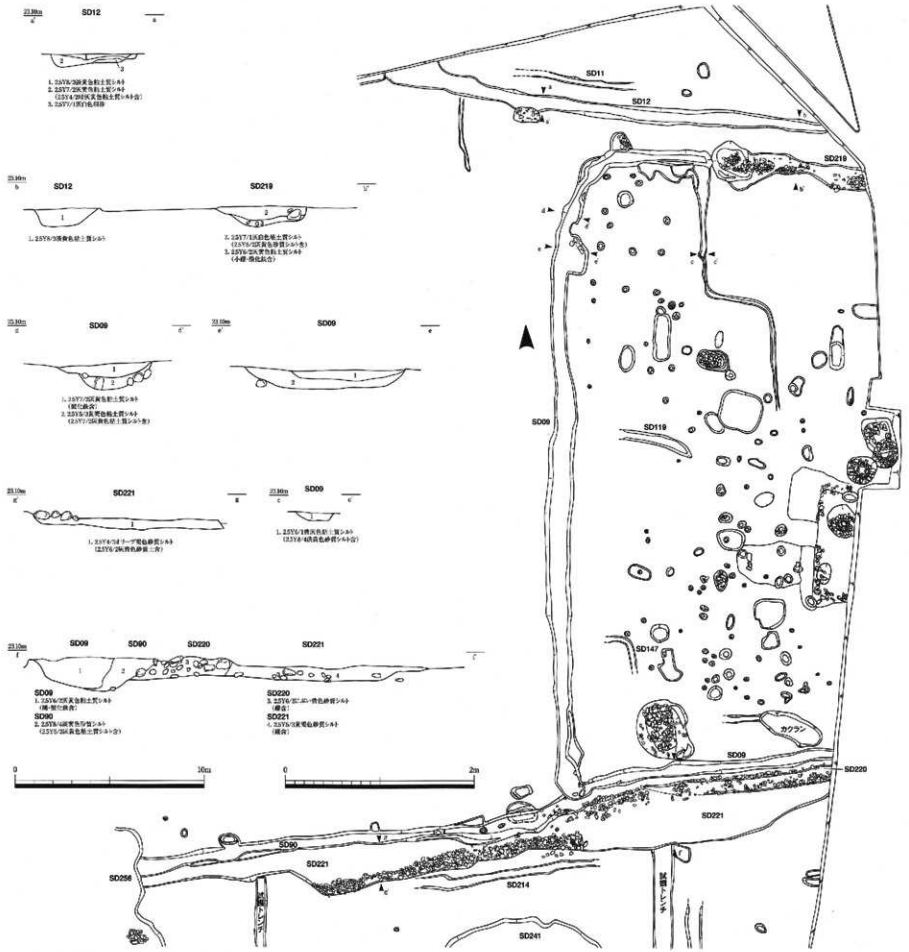
A地区南側調査区のX37Y47付近に位置する浅く短い溝。SD65は南北溝である。SD66はSD65の西側1m離れたところに位置する。SD65とは平行ではない。SD69はSD65の西2.3mに位置する溝。SD65と平行に南北に走る。遺物の出土は見られない。さく状遺構と考えられる。

241号溝（SD241、第203図）

A地区南側調査区のX31以南に広がる溝。最深部で、検出面からの深さが42cm。溝というよりも、池や湿地といったものが考えられる。地形的にこれより南は低くなっている。SD90・220・221は、これを区画するための溝と思われる。中世土師器・珠洲・八尾が出土している。

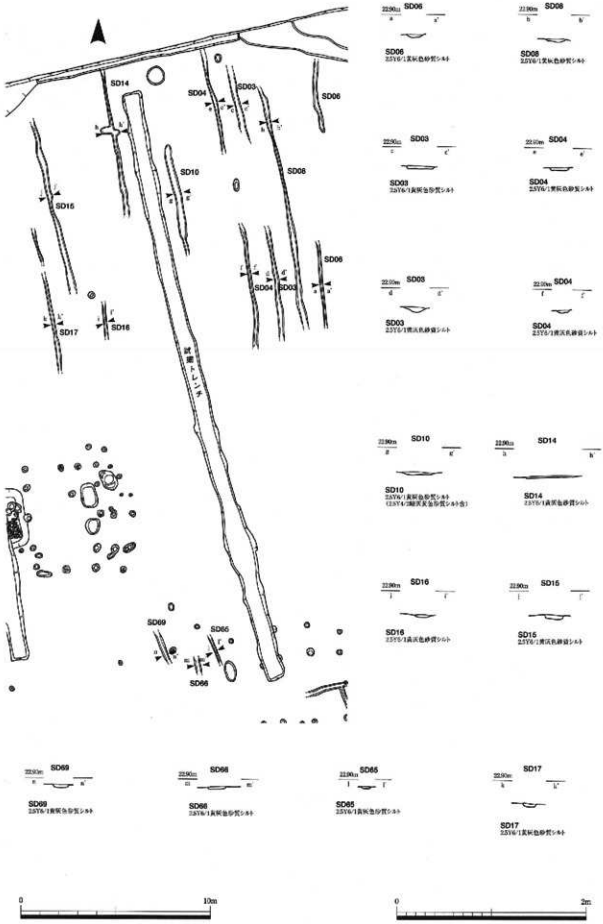
256号溝（SD256、第203図）

A地区南側調査区の西端に位置し、SD90・221を切る溝。調査区外に延びる。現存幅9.1m、深さ25cm。この溝の覆土は、浅黄色砂で他の遺構では見られない。このためSD256は遺構の性格が他とは異なり、人為的な遺構というよりも洪水などで砂が堆積したのではないかと考えられる。中世土師



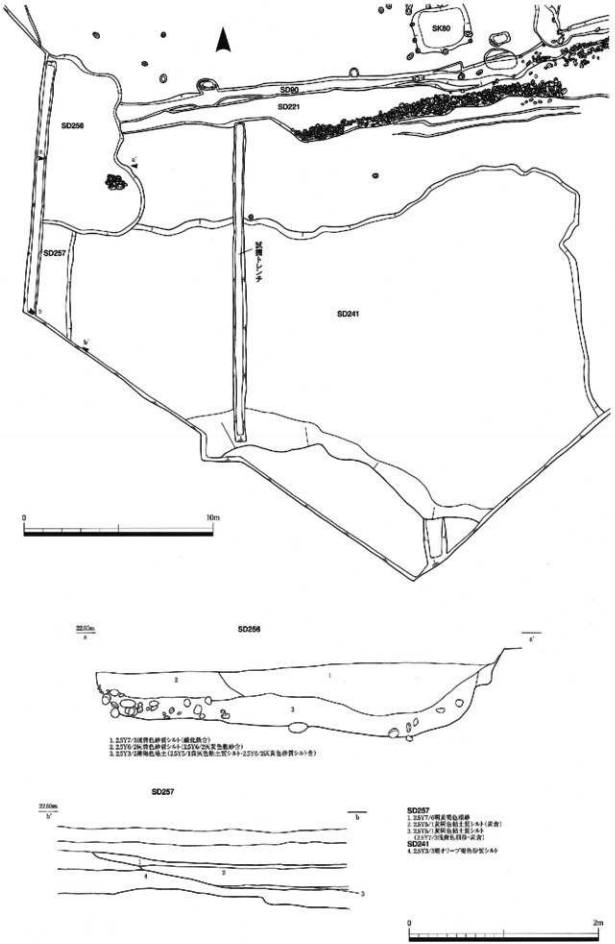
第201図　遺構実測図（中世末期～近世）

SD12　SD219　SD09　SD221　SD90　SD220

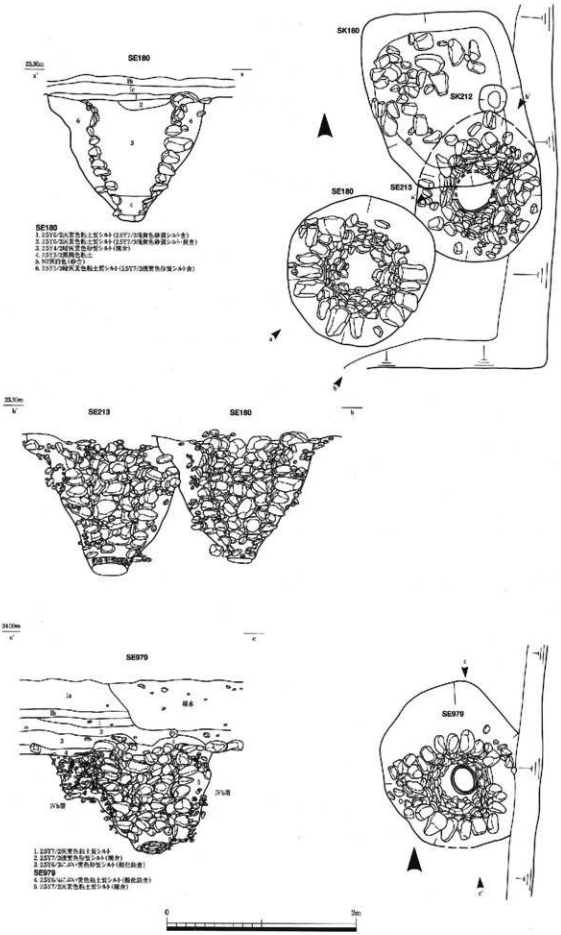


第202図　遺構実測図（中世末期～近世）

SD06　SD08　SD03　SD04　SD10　SD14　SD16　SD15　SD69　SD66　SD65　SD17



第203図　遺構実測図（中世末期～近世）
SD256　SD257　SD241



第204図　遺構実測図（中世末期～近世）
SE180　SE213　SE979

器・珠洲・瓦質土器が出土している。

井戸

180号井戸（ＳＥ180、第204図、図版90・91）

Ａ地区南側調査区の東隅際に位置する石組井戸。長径154cm、短径147cm、深さ132cm。ＳＥ213より新しい。覆土中から曲物片が出土しており、水溜めに曲物が据えられていた可能性がある。中世土師器・珠洲・曲物・漆器・加工木が出土した。また、骨・植物の種子・昆虫の羽といった動植物の遺存体も見つかっている。

213号井戸（ＳＥ213、第204図、図版90・91）

ＳＥ180とＳＫ160に切られる井戸。長径161cm、短径132cm、深さ139cmの石組井戸で、水溜め部分には曲物をもつ。曲物は半分程度の残存である。石組はＳＥ180に比べてやや粗い。出土遺物には、中世土師器・加工木・曲物がある。植物種子・昆虫の羽が覆土中から出土している。

979号井戸（ＳＥ979、第204図、図版91）

ＳＸ977を切る石組井戸。長径177cm、短径145cm、深さ97cm。水溜めに曲物をもつ。掘形の北側がやや広く、小円礫で充填される。遺物の出土はみられない。

土坑

７号土坑（ＳＫ07、第205図）

ＳＤ12を切る土坑。長軸139cm、短軸78cm、深さ39cmの楕円形である。覆土は小円礫を多量に含む。珠洲・近世の陶器が出土している。

215号土坑（ＳＫ215、第205図）

ＳＤ219を切る土坑。覆土中に礫の混入が見られる。長軸235cm、短軸146cm、深さ22cmの不整形を呈す。中世土師器・珠洲が出土している。

13号土坑（ＳＫ13、第205図）

ＳＢ14の内部に位置する、直径85cm、深さ13cmの円形の土坑。中世土師器が出土している。出土遺物から16世紀以降の遺構と思われる。ＳＢ14に伴う遺構かどうかは不明。

109号土坑（ＳＫ109、第205図）

Ｘ46～47Ｙ55に位置する長方形の土坑。長さ253cm、幅93cm、深さ32cm。出土遺物は見られない。

116号土坑（ＳＫ116、第205図）

Ｘ46Ｙ56に位置する直径49cm、深さ９cmの円形の土坑。珠洲が出土している。

115号土坑（ＳＫ115、第205図）

Ｘ46Ｙ57に位置する土坑。

210号土坑（ＳＫ210、第206・207図）

Ｘ44Ｙ56に位置する。長さ129cm、深さ30cm。珠洲が出土している。

156号土坑（ＳＫ156、第206・207図）

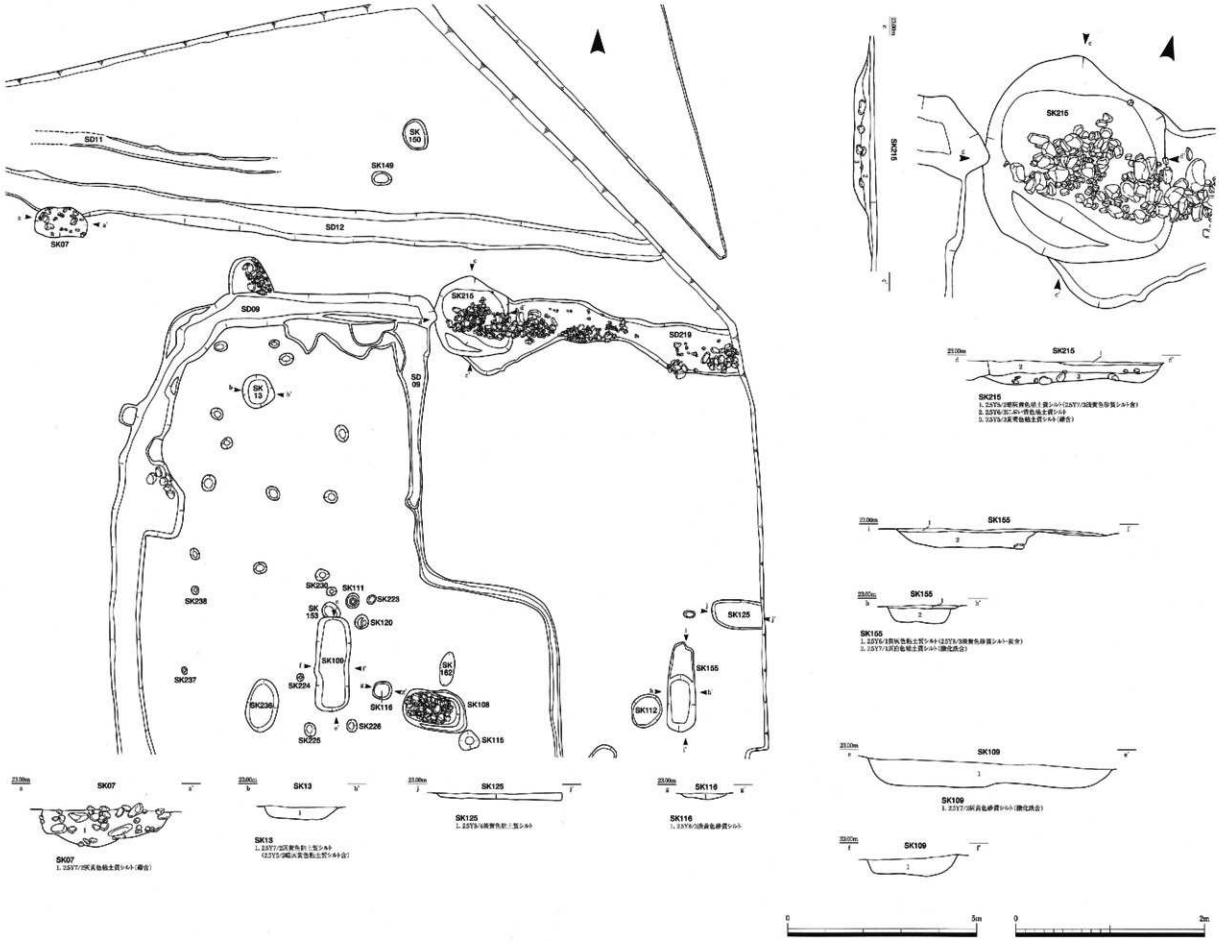
Ｘ44Ｙ59に位置する。長軸84cm、短軸53cm、深さ20cmの楕円形の土坑。遺物の出土は見られない。

165号土坑（ＳＫ165、第206・207図）

Ｘ43Ｙ57に位置する。長軸63cm、短軸48cm、深さ25cmの楕円形の土坑。15世紀末から16世紀前半の中世土師器が出土している。

166号土坑（ＳＫ166、第206・207図）

Ｘ42Ｙ58に位置する。長軸105cm、短軸48cm、深さ25cmの楕円形の土坑。中世土師器・珠洲が出土



第205図　遺構実測図（中世末期～近世）

SK07　SK13　SK125　SK116　SK215　SK155　SK109

している。珠洲はＳＤ09出土のものと接合する。

128号土坑（ＳＫ128、第206・207図）

Ｘ42Ｙ57に位置する。直径33cmの円形の土坑。中世土師器が出土している。

130号土坑（ＳＫ130、第206・209図）

ＳＫ123に切られる土坑。中世土師器が出土している。

123号土坑（ＳＫ123、第206・207図）

Ｘ41Ｙ57に位置する土坑。中世土師器・越中瀬戸が出土している。

190号土坑（ＳＫ190、第206・207図）

Ｘ37Ｙ56に位置する土坑。中世土師器が出土している。

170号土坑（ＳＫ170、第206・207図）

Ｘ39Ｙ58に位置する土坑。ＳＢ16の内側にあり、建物に伴う土坑とも考えられる。中世土師器が出土している。

200号土坑（ＳＫ200、第206・207図、図版88・91）

Ｘ36Ｙ55に位置する土坑。長径361cm、短径290cm、深さ82cmの不整形を呈する土坑。土坑の北側に石段が築かれており、排水施設と考えられる。珠洲が出土している。

構列

4・5号構列（ＳＡ04・05、第208図、図版92）

Ｂ地区南壁沿いのＸ79～81Ｙ38～49に位置する。土坑が2列、平行に並ぶ。北側のＳＡ04は12基の土坑が並び、全長19m。南側のＳＡ05は15基の土坑が並び、全長21.5mを測る。土坑は直径20～30cm、深さ3～16cmである。土坑が浅いこと、またＳＡ04とＳＡ05の土坑が対応していないことから、建物の柱穴とは考えにくい。ＳＫ2004から中世土師器が出土しているほか遺物の出土は見られない。

3　遺物

A　中世後期

掘立柱建物

1号掘立柱建物（ＳＢ01、第209図、図版106）

1はＳＰ530出土の磨盤。柱穴の底面近くで見つかった。Ｙ字状を呈し、粘質シルトの土壌で柱を固定するためのものと思われる。2～4・6は中世土師器。ＳＰ426出土の2はＢ類、3はＤ類。ＳＰ461出土の4はＥ類。ＳＰ627出土の6は、ロクロ土師器でＲＤ類である。5はＳＰ461出土の砥石。

2号掘立柱建物（ＳＢ02、第209図）

7はＳＰ349出土の土師器の甕。ＳＫ450出土のものと接合したが、いずれも古代の包含層を遺構が掘り抜いているために出土したものと思われる。8はＳＰ679から出土した珠洲。Ⅲ～Ⅳ期のＴ壺。

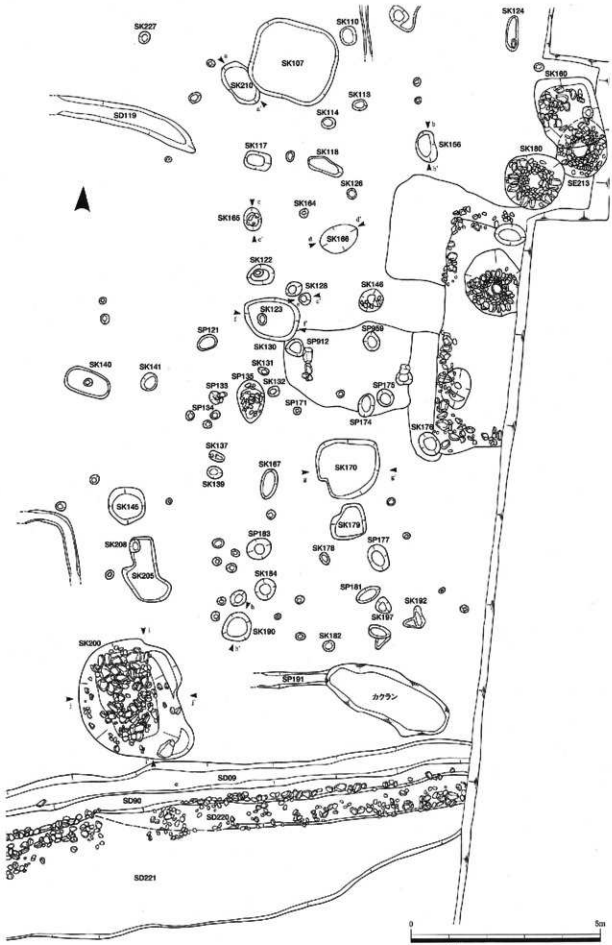
3号掘立柱建物（ＳＢ03、第209図）

柱穴から中世土師器が出土している。ＳＰ390出土の9、ＳＰ659出土の10、ＳＰ559出土の13がＢ類。ＳＰ559出土の11はＤ類、12はＥ類、14はロクロ土師器でＲＡ類である。

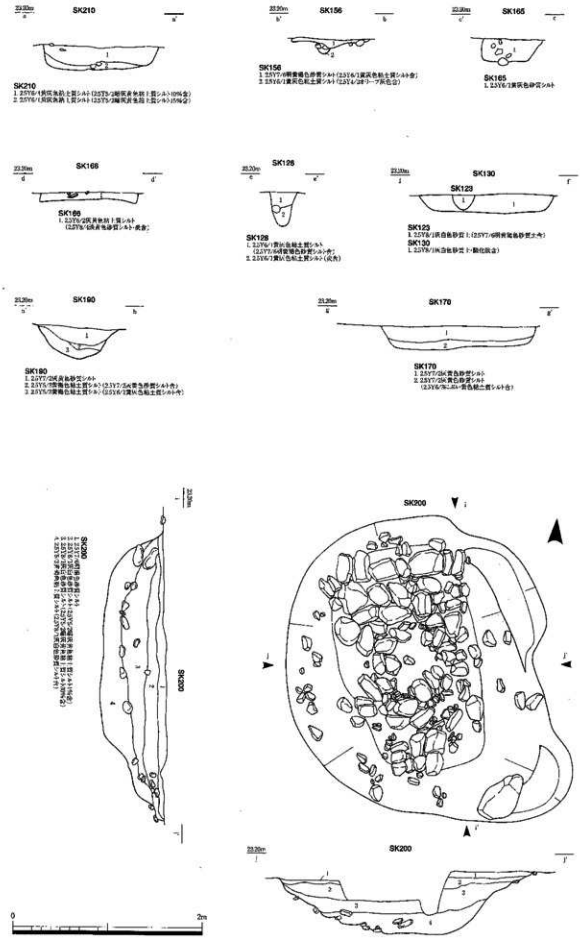
4号掘立柱建物（ＳＢ04、第209図、図版94）

柱穴から中世土師器が出土している。ＳＰ381出土の15、ＳＰ455出土の17がＤ類。ＳＰ401出土の16はＢ類である。

5号掘立柱建物（ＳＢ05、第209図）



第206図　遺構実測図（中世末期～近世）



第207図　遺構実測図（中世末期～近世）

SK210　SK156　SK165　SK166　SK128　SK123　SK130　SK190　SK170　SK200

ＳＰ449からⅠ類の中世土師器が出土している。

8号掘立柱建物（ＳＢ08、第210図）

19～22は中世土師器。ＳＰ706出土の19はＢ類。ＳＰ1152出土の20・21はロクロ土師器である。20はＲＣ類。22は表面が摩耗しており、分類できない。23・24は珠洲の鉢。23はＳＰ1185から出土した片口鉢。Ⅲ期に相当する。24はＳＰ701出土のすり鉢。Ⅰ～Ⅱ期にあたる。外傾する口縁部に波状文が施されている。

11号掘立柱建物（ＳＢ11、第210図、図版93）

25～30は中世土師器。ＳＰ1010出土の25はＢ類、26はロクロ土師器で柱状高台を持つＲＢ類、27もロクロ土師器で、回転糸切り底である。ＳＰ1020出土の28もロクロ土師器で、内面に煤の付着が見られる。29はＳＰ1060から出土したロクロ土師器で、ＲＢⅡ類。柱状高台を持ち、法量が中位のものである。ＳＰ1037出土の30はＢ類。

溝

409号溝（ＳＤ409、第211図）

31はＢ類の中世土師器。

439号溝（ＳＤ439、第211図）

32はＣ類の中世土師器。粘土の接合痕が底面に残る。

564号溝（ＳＤ564、第211図）

33～35は中世土師器。33・34はＢ類、35はＦ類。36は珠洲の鉢でⅠ～Ⅱ期。

570号溝（ＳＤ570、第211図）

37はＢ類の中世土師器。38は八尾の鉢。

618号溝（ＳＤ618、第211図）

39はＢ類の中世土師器。

658号溝（ＳＤ658、第211図）

40はＨ類の中世土師器。

721号溝（ＳＤ721、第211図）

41は中世土師器。ロクロ土師器であるが、底部しか残っていない。摩滅しているが、回転糸切り底と思われる。

741号溝（ＳＤ741、第211図）

42は土師器の杯。ＳＫ312出土の遺物と接合する。43は産地不明の葉茶壺。表面に乳白色の釉が厚く掛かる。中名Ⅱ遺跡から出土したものと同一個体と思われる。

1292号溝（ＳＤ1292、第211図）

44は中世土師器の皿。ロクロ土師器で、ＲＡ類。回転糸切り底である。

2032号溝（ＳＤ2032、第211図）

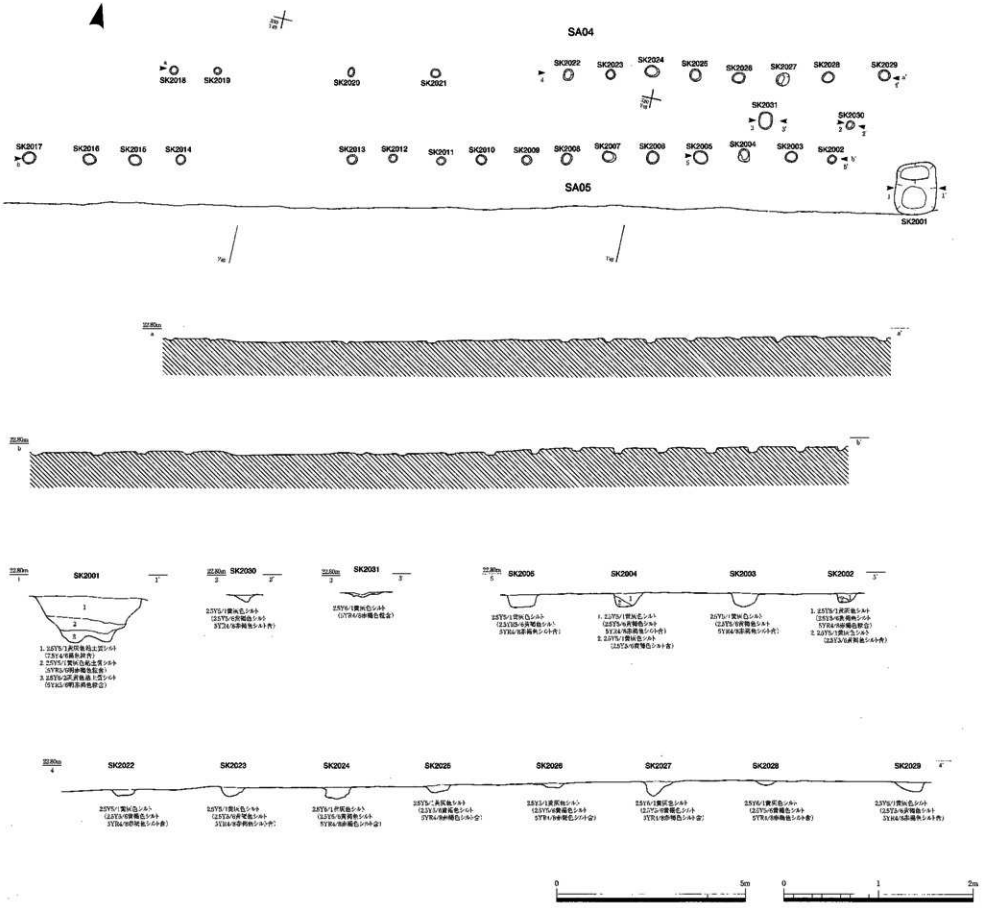
45・46共に中世土師器。45は小型のＢ類、46はＦ類。46の口縁部には煤が付着する。

2177号溝（ＳＤ2177、第211図、図版97）

47はⅢ～Ⅳ期の珠洲の壺。頸部外面に⊕印が押されている。

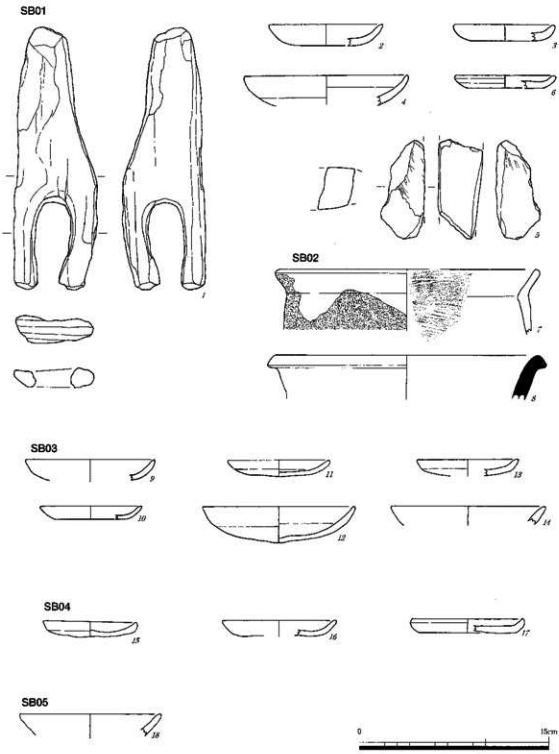
谷部（第211・212図、図版99・100・105）

48は瀬戸の小杯。鉄釉が掛けられており、底面は回転糸切り。49・50は白磁である。49は皿の底部で、底面にはヘラキリの痕が残っている。50は碗の体部。内面に櫛描文が施されている。13世紀に比



第208図　遺構実測図（中世末期～近世層）

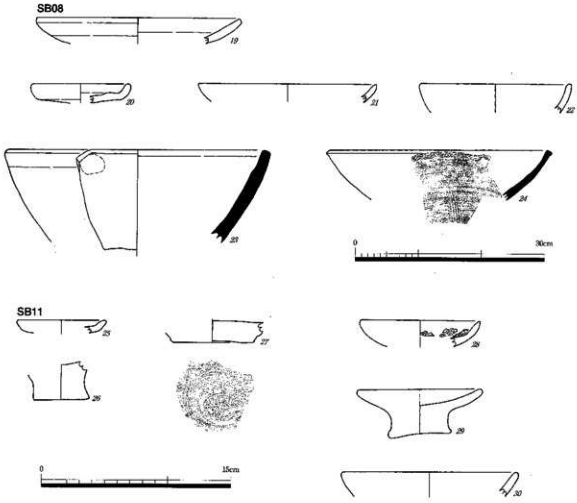
SK2001　SK2030　SK2031　SA04　SK2005　SK2004　SK2003　SK2002　SA05　SK2022　SK2023
SK2024　SK2025　SK2026　SK2027　SK2028　SK2029



第209図　遺物実測図（中世後期）（1/3）

SB01：SP530（*1*）　SP426（*2・3*）　SP461（*4・5*）　SP629（*6*）　SB02：SP349（*7*）
SP679（*8*）　SB03：SP390（*9*）　SP559（*11～14*）　SP659（*10*）　SB04：SP381（*15*）
SP401（*16*）　SP455（*17*）　SB05：SP449（*18*）

定される。51は龍泉窯系青磁の杯。内面に蓮弁が削り出されており、14世紀に比定されるものである。53は瀬戸の瓶子。体部外面に沈線が巡り、灰釉が掛けられている。53・54は珠洲の鉢。どちらもⅣ期に相当する。55～78は中世土師器の皿。55～62はＢ類に分類される。この内、62は２段ナデが施される12世紀のもの。55・56・58はやや新しく14世紀のものである。63・64はＤ類。65～70はＥ類。65はＥＩ２類で、14～15世紀後半にあたる。口縁部外面のナデ幅は狭く、体部にはユビオサエの痕が残っ



第210図　遺物実測図（中世後期）（*19～23・25～30*　1/3, *24*　1/6）
SB08：SP706（*19*）　SP1152（*20～22*）　SP1185（*23*）　SP701（*24*）　SB11：SP1010（*25～27*）
SP1020（*28*）　SP1060（*29*）　SP1037（*30*）

ている。67は被熱のため、体部外面が剥がれていた。71～73はF類で、14世紀のもの。74はI類、75はH類。76～78はロクロ土師器。77の口縁部には煤の付着が見られる。78はRA類で、回転糸切り底をもつ。79は金属製品で、釘である。

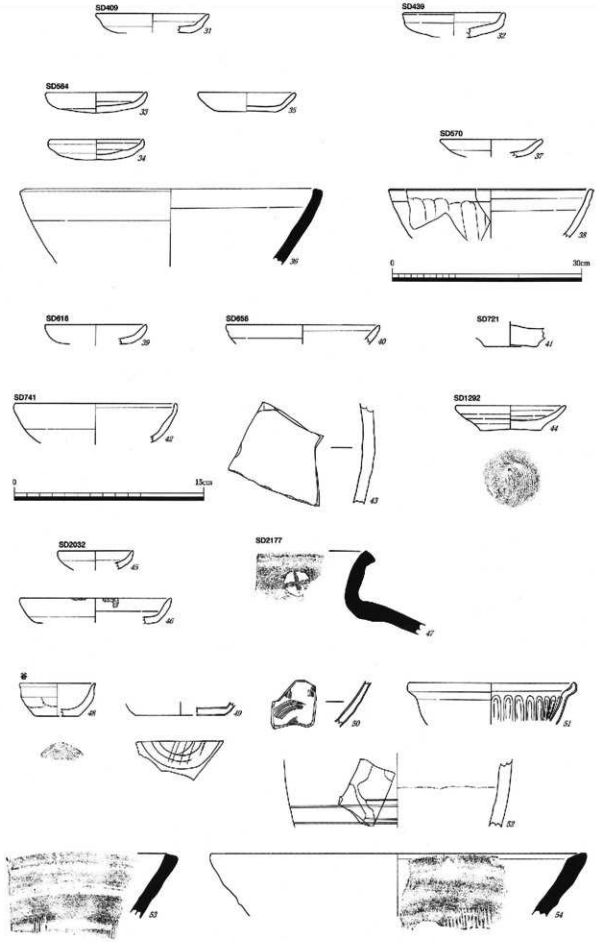
2192号溝（SD2192、第212図）

80は中世土師器の皿。H類で、14世紀に比定される。

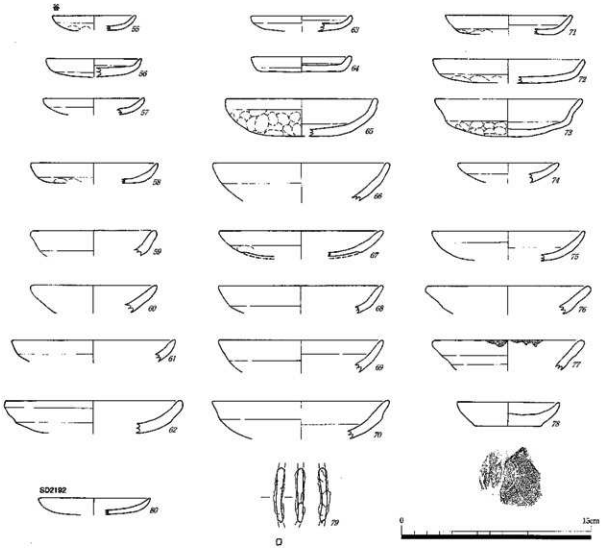
井戸

609号井戸（SE609、第213・214図、図版96・99・101・102）

81～87は中世土師器。82～84はB類。82の口縁部には煤の付着が見られる。85はH類、86・87はJ類。81はロクロ土師器である。88は珠洲の鉢で、Ⅱ～Ⅲ期にあたる。89は八尾の鉢である。外面にケズリが施される。84は白磁の合子。体部外面に花弁状の装飾がなされている。91は玉縁の口縁を持つ白磁の碗で、12世紀のものである。92～106は木製品。92は板状の加工木。両面の一部が炭化している。93は箸。一方の端が折れており、全長は不明である。95はヘラ状木製品。片面に叩打痕が残る。96は曲物の底板。3枚の板を木釘でつなぎ合わせてある。曲物に嵌め込んで固定するための釘跡が5箇所残っている。97・98・100は井戸側の縦板。101～106は井戸側の横桟。99は角柱状を呈すが、ほぞ穴は見られず、井戸側の部材とは考えられない。



第211図　遺物実測図（中世後期）（*31～37・39～54*　1/3，*38*　1/6）
SD409（*31*）　SD439（*32*）　SD564（*33～36*）　SD570（*37・38*）　SD618（*39*）　SD658（*40*）
SD721（*41*）　SD741（*42・43*）　SD1292（*44*）　SD2032（*45・46*）　SD2177（*47*）
谷部（*48～54*）



第212図　遺物実測図（中世後期）（1/3）
谷部（55～79）　SD2192（80）

718号井戸（ＳＥ718、第215図、図版96・103）

107・108は中世土師器。107はロクロ土師器で、ＲＡⅣ類。108はＡ類。外面の一部に煤が付着する。内面はハケ状の工具でなでられる。109～111は珠洲。109は壺の体部で、櫛描波状文が廻る。110は、Ⅰ～Ⅱ期の鉢。111は鉢の底部で、内面は磨り減って滑らかになっている。底面は静止糸切り。112～118は木製品。116以外は井戸側の部材と思われる。116は中央部が失われているため、全長は不明である。薄板の両端が丸くふくらむ。117は井戸側の縦板であるが、下端近くに埋め木が施されている。

895号井戸（ＳＥ895、第216図、図版98）

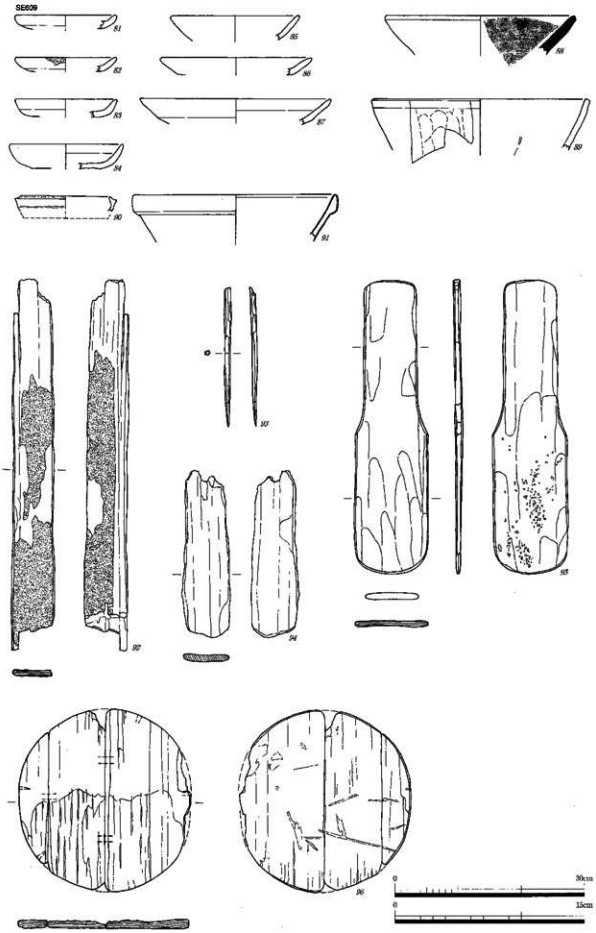
119は珠洲の鉢。10条のおろし目が放射線状にはいる。口縁は緩やかに内傾し、Ⅵ期に比定される。120は曲物の底板である。側面に釘穴は見られない。

738号井戸（ＳＥ738、第216図、図版104）

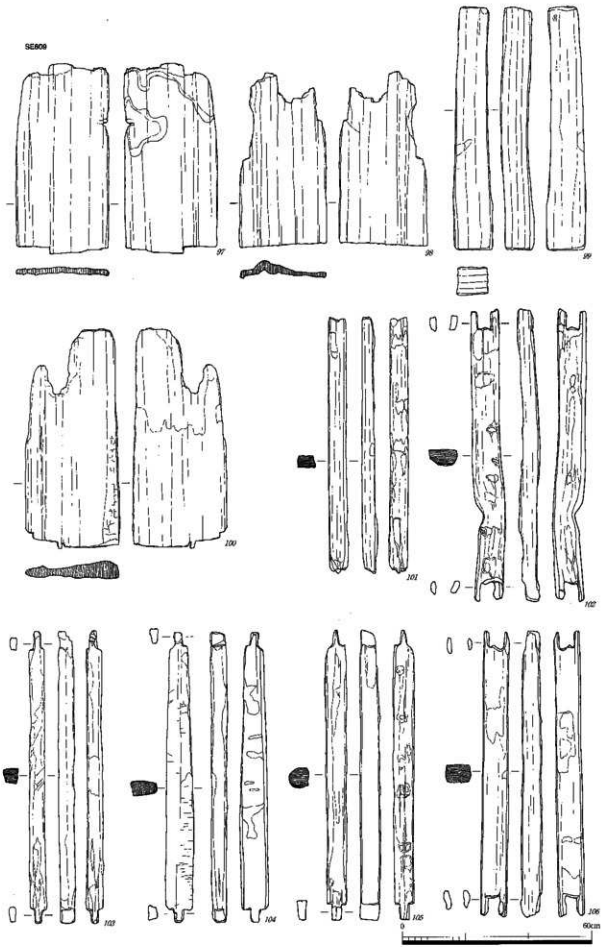
121・122は金属製品である。121は釘、122は刀子状金属製品。火打ち金の可能性も考えられる。

910号井戸（ＳＥ910、第216図）

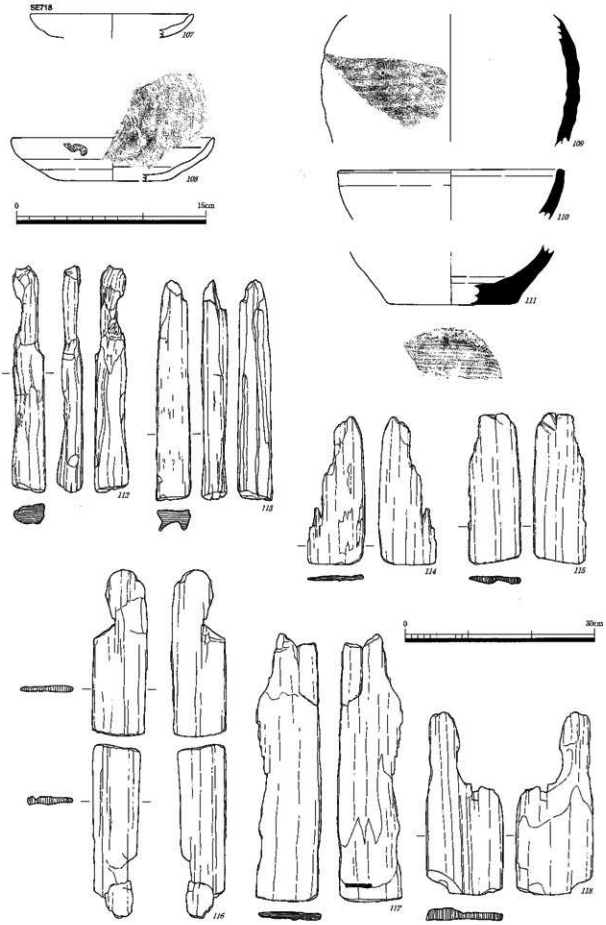
123・124共に石製品。123は井戸の石組に使われていた礫。煤の付着が見られ、側面が砥石として使用されたように滑らかであった。124は井戸の覆土中から出土した刳石。両面に煤が付着する。



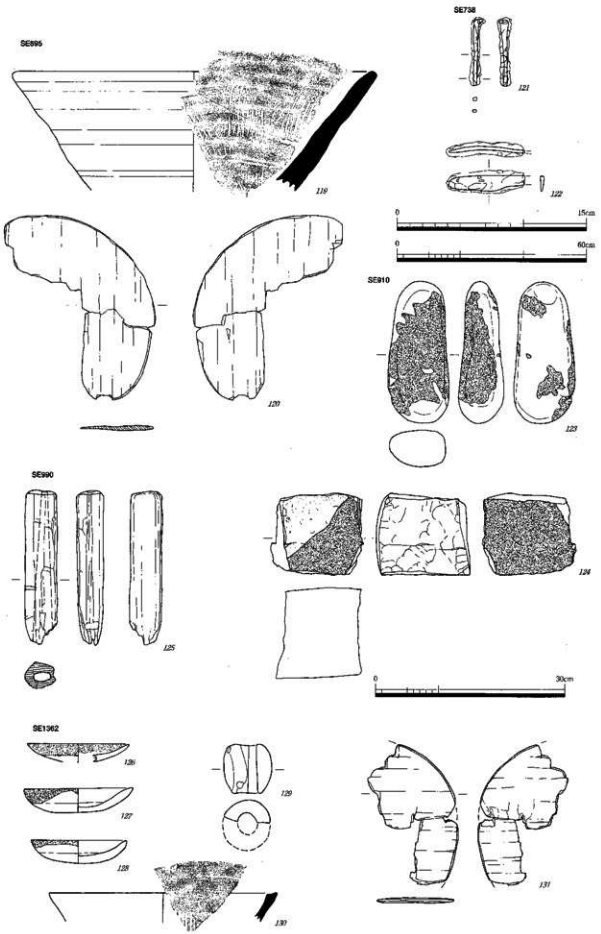
第213図　遺物実測図（中世後期）（*81～87・90～96*　1/3，*88・89*　1/6）
SE609



第214図　遺物実測図（中世後期）（*97～100*　1/3，*101～106*　1/12）
SE609



第215図　遺物実測図（中世後期）（*107～111*　1/3，*112～118*　1/6）
SE718



第216図　遺物実測図（中世後期）（*119*～*122*・*125*～*129*・*131*　1/3，*124*・*130*　1/6，*123*　1/12）
SE895（*119*・*120*）　SE738（*121*・*122*）　SE910（*123*・*124*）　SE990（*125*）　SE1362（*126*～*131*）

990号井戸（ＳＥ990、第216図、図版103）

125は木製品。中心に穴が開いており、柄の様にして使われたのではないかと思われる。

1362号井戸（ＳＥ1362、第216図、図版94・103）

126～128は中世土師器。126はＨ類。127・128はＩ類。３点とも、口縁に煤や炭化物が付着している。129は土錘。130は珠洲の鉢。Ⅳ～Ⅴ期にあたる。131は、曲物の底板である。

土坑

307号土坑（ＳＫ307、第217図）

132はＢ類の中世土師器。

332号土坑（ＳＫ332、第217図）

133は中世土師器。ロクロ土師器でＲＡ類のもの。

334号土坑（ＳＫ334、第217図、図版99）

134は中世土師器。浅いコースター状を呈すＤ類。135は龍泉窯系青磁の碗。ＳＫ607から出土した遺物と接合した。高台裏は露胎。見込みと内面にヘラ描文が施される。釉薬の色調は暗い。

365号土坑（ＳＫ365、第217図）

136～138は中世土師器の皿。136・137はＢ類。138はＦ類。

384号土坑（ＳＫ384、第217図）

139は中世土師器の皿。Ｄ類。

419号土坑（ＳＫ419、第217図）

140は中世土師器。ＢⅡ類。

420号土坑（ＳＫ420、第217図）

141はＥ類の中世土師器。

450号土坑（ＳＫ450、第217図）

142は珠洲の鉢。Ⅰ～Ⅱ期に相当する。143は八尾の鉢。体部外面は削られる。土師器の甕が出土しており、ＳＢ08の柱穴ＳＰ349出土の遺物と接合した。

454号土坑（ＳＫ454、第217図）

144～146は中世土師器。144はＤ類。145はＩ類と思われる。表面が被熱によって剥落している。146はＢ類。

459号土坑（ＳＫ459、第217図、図版94）

147～150は中世土師器。147～149の３点はＤ類。150はＢ類。

462号土坑（ＳＫ462、第217図）

151は中世土師器。ロクロ土師器で、浅いコースター状のＲＤ類。

497号土坑（ＳＫ497、第217図）

152は中世土師器の皿。Ｈ類。

465号土坑（ＳＫ465、第217図）

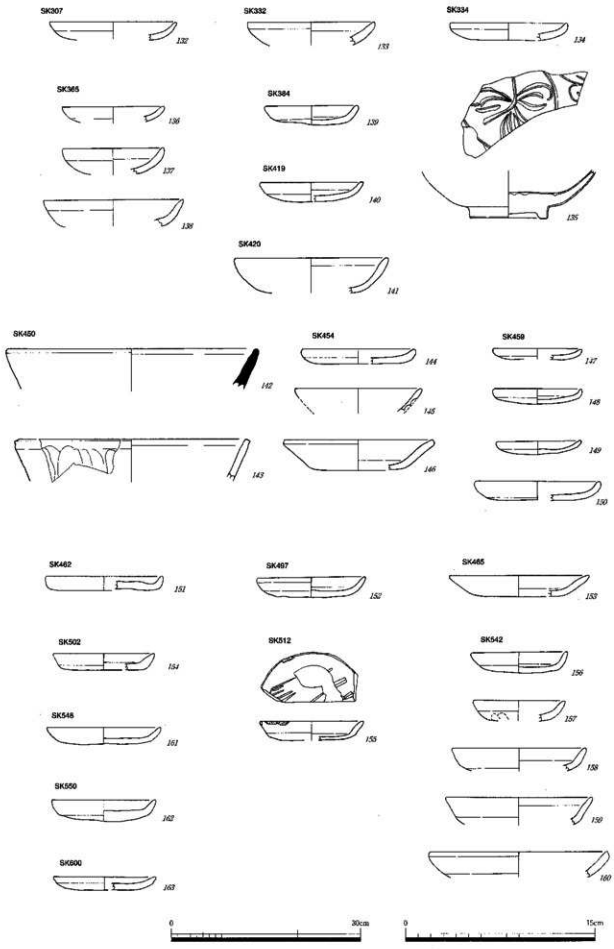
153は中世土師器の皿。Ｆ類。

502号土坑（ＳＫ502、第217図）

154はＢ類の中世土師器。

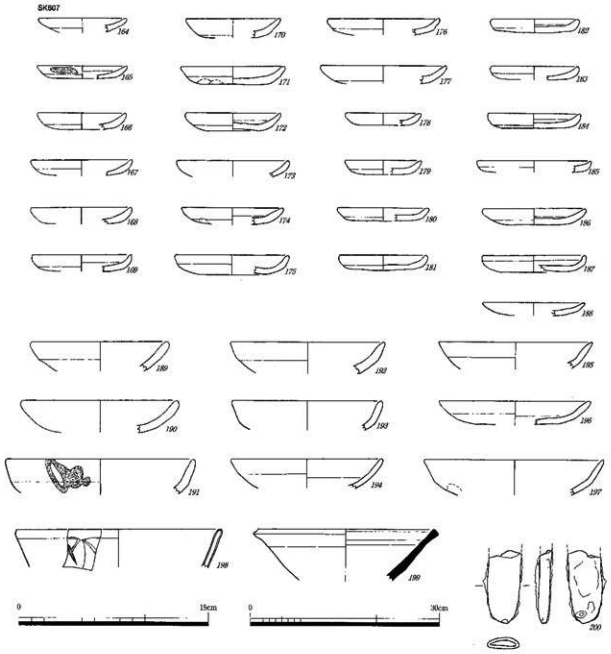
512号土坑（ＳＫ512、第217図、図版93）

155は中世土師器。Ｂ類。口縁の一部に少量の煤が付着している。黒色の胎土を用い、内面にはミ



第217図　遺物実測図（中世後期）（*132～142・144～163* 1/3, *143* 1/6）

SK307（*132*）　SK332（*133*）　SK334（*134・135*）　SK365（*136～138*）　SK384（*139*）SK419（*140*）
SK420（*141*）　SK450（*142・143*）　SK454（*144～146*）　SK459（*147～150*）SK462（*151*）　SK497（*152*）
SK465（*153*）　SK502（*154*）　SK512（*155*）　SK542（*156～160*）　SK548（*161*）　SK550（*162*）　SK600（*163*）



第218図　遺物実測図（中世後期）（*164～198・200*　1/3，*199*　1/6）

SK607

ガキの跡がある。

542号土坑（ＳＫ542、第217図、図版94）

156～160は中世土師器。156はＤ類。157・158・160はＢ類。157の体部にはユビオサエの跡が残る。159はＦ類。

548号土坑（ＳＫ548、第217図）

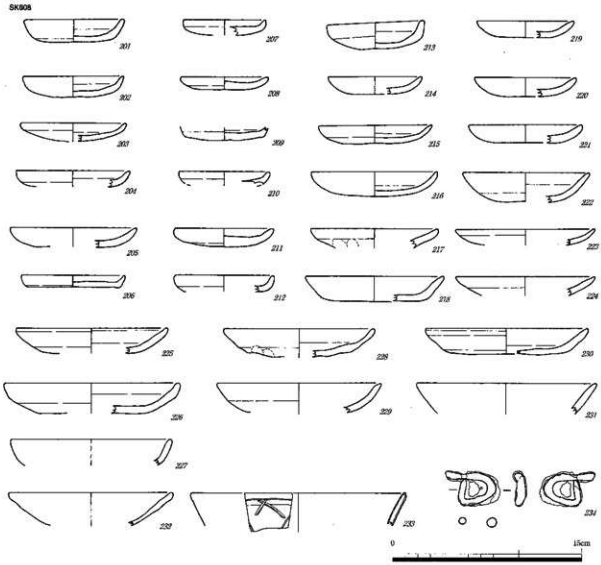
161はＤ類の中世土師器。

550号土坑（ＳＫ550、第217図）

162はＢ類の中世土師器。

600号土坑（ＳＫ600、第217図）

163はＢ類の中世土師器。



第219図　遺物実測図（中世後期）（1/3）
SK608

607号土坑（ＳＫ607、第218図、図版104）

164～197は中世土師器。164～177・189～191はＢ類。165・191の体部外面には煤が付着する。178～187はＤ類。192～197はＦ類。188はＨ類。198は青磁の碗。鎬蓮弁文が施される。199は珠洲の鉢。Ⅳ期にあたる。200は金属製品。板状を呈するが、内部にまで錆が浸透し、種類は不明である。

608号土坑（ＳＫ608、第219図、図版93・99・104）

201～230は中世土師器。225はＡ類。201～204・226はＢ類。206～212はＤ類。227～229はＥ類。213はＧ類。214～216・222～224・231はＨ類。217・218はＦ類。219～221はＩ類。232は土師器。233は青磁の碗。蓮弁が施される。234は金属製品。釘と思われる。

655号土坑（ＳＫ655、第220図）

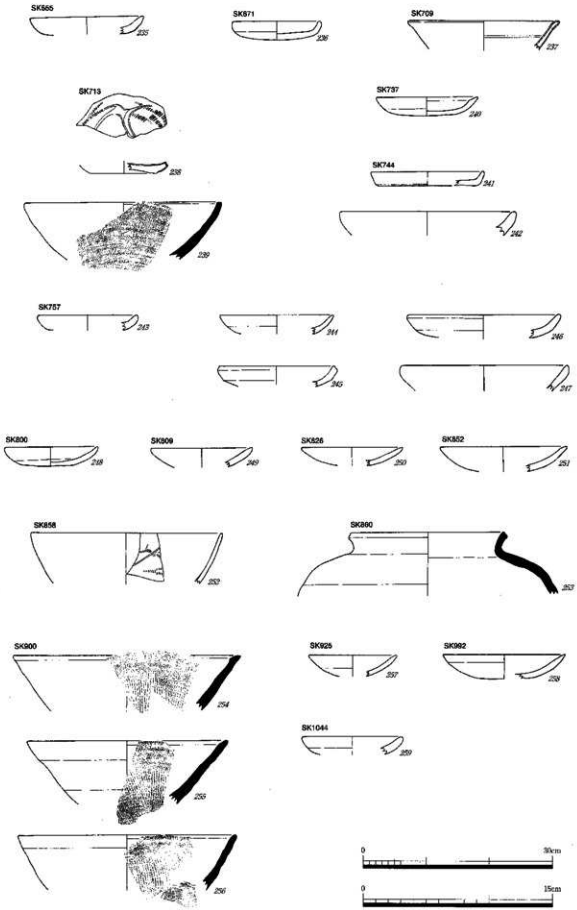
235は中世土師器。Ｂ類。

671号土坑（ＳＫ671、第220図）

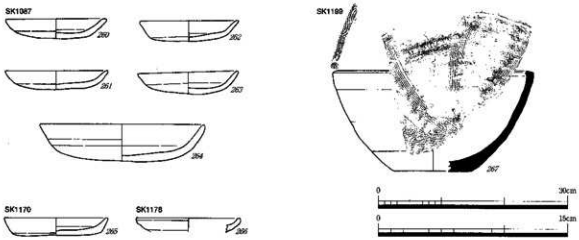
236は中世土師器。Ｄ類。

709号土坑（ＳＫ709、第220図）

237は白磁の皿。内面に沈線が廻る。



第220図　遺物実測図（中世後期）（*235～238・240～252・257～259* 1/3，*239・253～256* 1/6）
SK655（*235*）　SK671（*236*）　SK709（*237*）　SK713（*238・239*）　SK737（*240*）　SK744（*241・242*）
SK757（*243～247*）　SK800（*248*）　SK809（*249*）　SK826（*250*）　SK852（*251*）　SK858（*252*）
SK860（*253*）　SK900（*254～256*）　SK925（*257*）　SK992（*258*）　SK1044（*259*）



第221図　遺物実測図（中世後期）（260～266　1/3，267　1/6）
SK1087（260～264）　SK1170（265）　SK1178（266）　SK1199（267）

713号土坑（ＳＫ713、第220図、図版96・99）

238は同安窯系青磁の皿。見込みにヘラ・櫛描による文様をもつ。太宰府分類のⅠ類にあたり、12世紀中期～後期にかけてのものである。239は珠洲の鉢。Ⅱ期に相当し、波状のおろし目が入れられている。

737号土坑（ＳＫ737、第220図）

240は中世土師器。Ｊ類。

744号土坑（ＳＫ744、第220図）

241・242は中世土師器。241はＤ類。242はＢ類。

757号土坑（ＳＫ757、第220図）

243～247は中世土師器。243はロクロ土師器。244・245はＢ類。246はＥ類。247はＦ類。

800号土坑（ＳＫ800、第220図）

248はＨ類の中世土師器。

809号土坑（ＳＫ809、第220図）

249はＩ類の中世土師器。

826号土坑（ＳＫ826、第220図）

250はＨ類の中世土師器。

852号土坑（ＳＫ852、第220図）

251はＨ類の中世土師器。

858号土坑（ＳＫ858、第220図、図版99）

252は同安窯系青磁の碗。内面に櫛描文をもつ。太宰府分類のⅠ類２にあたり、12世紀中期～後期のものである。

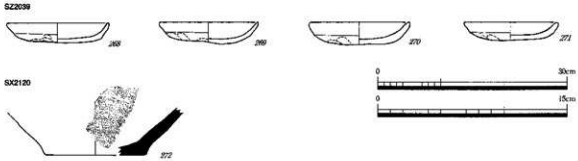
860号土坑（ＳＫ860、第220図、図版96）

253は珠洲のナデ壺。Ⅱ期にあたる。

900号土坑（ＳＫ900、第220図、図版98）

254～256は珠洲の鉢。254は内傾する口縁端部に櫛描波状文をもつ。おろし目は密に入れられており、Ⅳ期に比定される。255・256はⅤ期のものである。

925号土坑（ＳＫ925、第220図）



第222図　遺物実測図（中世後期）（*268～271*　1/3，*272*　1/6）
SZ2039（*268～271*）　2120（*272*）

257はＨ類の中世土師器。

992号土坑（ＳＫ925、第220図）

258はＨ類の中世土師器。

1044号土坑（ＳＫ1044、第220図）

259はＢ類の中世土師器。

1087号土坑（ＳＫ1087、第221図、図版95）

完形の中世土師器が５枚出土している。260～264は全てＢ類の中世土師器。

1170号土坑（ＳＫ1170、第221図）

265は中世土師器。Ｂ類。

1178号土坑（ＳＫ1178、第221図）

266は中世土師器。ロクロ成形のものである。

1199号土坑（ＳＫ1199、第221図）

267は珠洲の鉢。放射線状におろし目が入り、外傾する口縁端部に波状文が施される。Ⅲ期のもの。

墓壙

2039号土壙墓（ＳＺ2039、第222図、図版95）

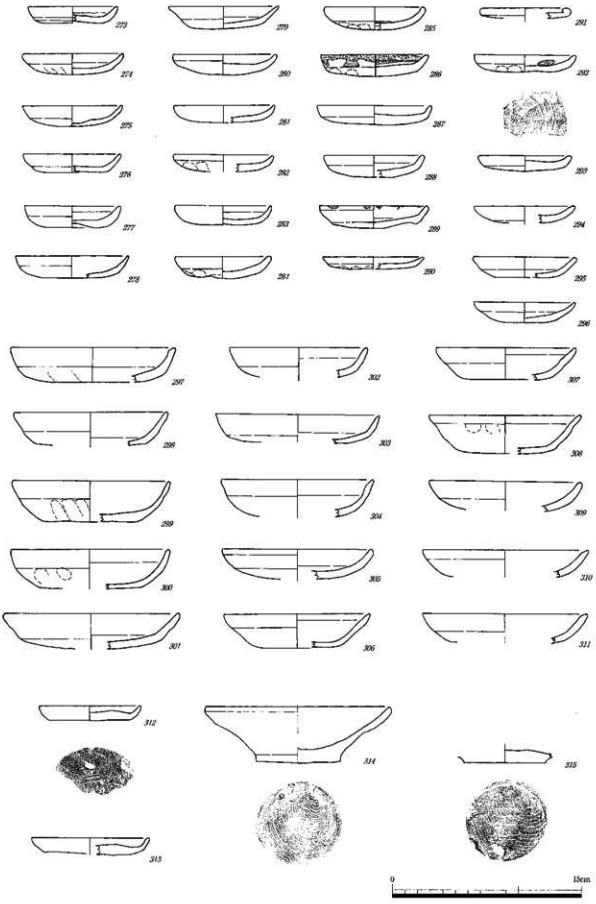
中世土師器が４枚完形で出土している。268～271は何れもＢⅡ４類で、14世紀以降の遺物である。

2120号集石墓（ＳＸ2120、第222図）

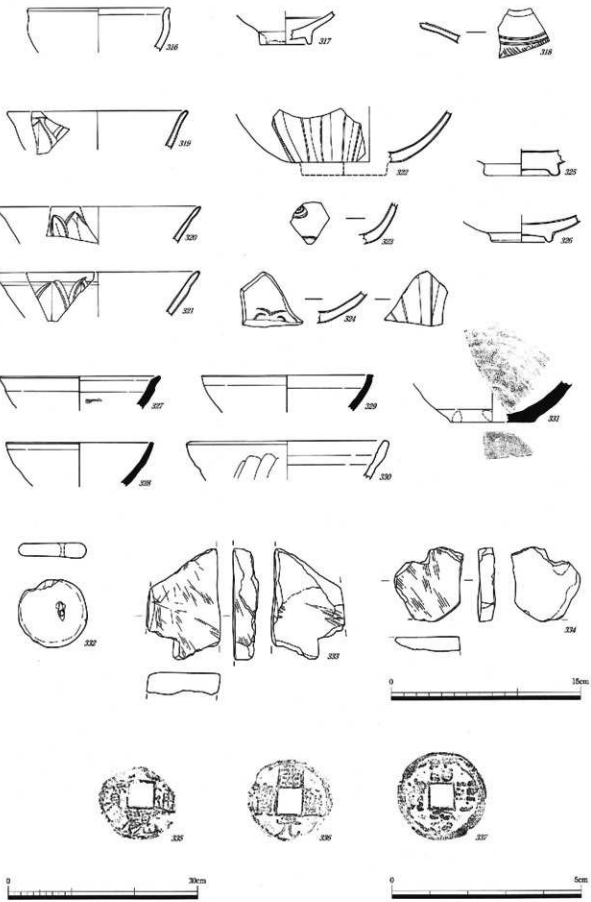
272は珠洲の鉢。おろし目が密に入る。Ⅳ期に相当する。

中世後期の包含層（第223～225図、図版93・96・99）

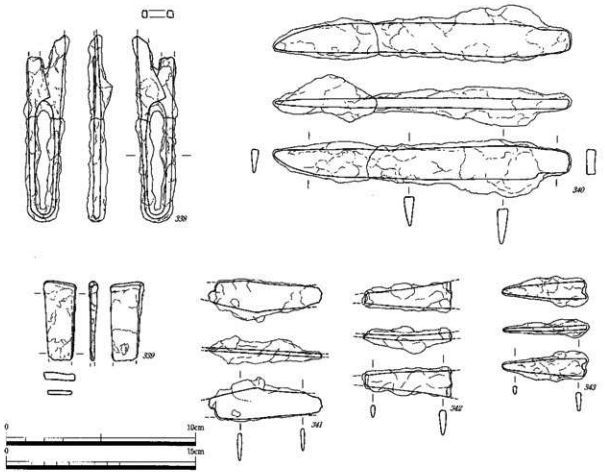
273～314は中世土師器。273～289・297・298はＢ類。277は底面中央部がへこみ、「へそⅢ」に似る。286・289は、口縁部に煤が付着する。特に286では内面にまで及ぶ。290はＨ類。291～293はＤ類。292の内面には煤が付着する。293の内面はハケ状の工具でなでられている。294～296・309はＩ類。299～305はＥ類。306・307はＦ類。308・310・311はＪ類。312～315はロクロ土師器。312・313はＲＤ類。314はＲＡＩ類。底面は回転糸切り底である。315は、底面のみの出土である。316は越中瀬戸の天目茶碗。鉄釉が掛けられている。317は中国製白磁の碗。太宰府分類のⅤ類４にあたる。12世紀中期～後期にかけてのものである。318は青白磁の梅瓶。肩部で、文様が施されている。319～326は青磁。319～321・324は鏑蓮弁文の碗である。320は13世紀、321は14世紀に比定される龍泉窯系の碗。324の内面には草花文が施されている。325・326は青磁の碗の底部。327～329・331は珠洲の鉢。327はⅤ期にあたる。口縁端部が内傾し、体部にはおろし目が入れられている。328はⅠ～Ⅱ期。331はⅡ期で、波状のおろし目が入っている。底部は静止糸切り。330は八尾の鉢。332は用途不明の土製品。



第223図　遺物実測図（中世後期）（*273～315*　1/3）
包含層



第224図　遺物実測図（中世後期）（*335～337*　1/1，*316～326・332～334*　1/3，*327～331*　1/6）
包含層



第225図　遺物実測図（中世後期）（*338* 1/2, *339*～*343* 1/3）
包含層

直径約5㎝の円盤状で、中心から少し外れたところに穴が開けられている。333・334は砥石。335～343は金属製品。335～337は銅銭。3枚が重なって出土した。335は「大觀通寶」（初鋳1107年）。336は「開元通寶」（初鋳621年）。337は「治平通寶」（初鋳1064年）。338は鉄。339は板状の金属片。片側がやや細くなっており、楔かと思われる。340は刀子。342・343も折れているが、刀子の一部と思われる。341は火打ち金。両端が折れている。

B　中世末期～近世

掘立柱建物

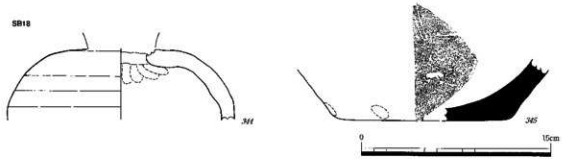
6号掘立柱建物（ＳＢ06、第226図、図版100）

344はＳＫ26から出土した瀬戸の瓶子。頸部は失われているが、内面に頸部を付けた際のナデ・ユビオサエの跡が残る。345はＳＫ49出土の珠洲。鉢の底部で、内面にはおろし目が入れられているが、中央部では磨り減っている。外面に指の跡が残る。

溝

9号溝（ＳＤ09、第227図、図版97・98）

346～349は中世土師器。346はＢ類。347～349はＨ類。350～358は珠洲。350～354は鉢。351はⅥ期。口縁端部が内傾し、波状文が施される。352はⅤ期。353も口縁部に波状文が入るが、端部の面取りは緩やかである。355はⅡ期の壺。ＳＤ90出土の遺物と接合した。356～358は甕。356はⅤ期に相当し、



第226図　遺物実測図（中世末期～近世）（1/3）
SB18：SK26（*344*）　SK49（*345*）

内面には当て具痕が残る。357はⅢ～Ⅳ期。358はⅣ期。

12号溝（ＳＤ12、第227図）

359は珠洲の鉢。10条のおろし目をもつ。内傾する口縁端部が、明確な面を失う最終段階のもの。

14号溝（ＳＤ14、第228図）

360～362は中世土師器。360・362はＥ類。362はロクロ土師器で、回転糸切り底をもつ。363は珠洲の鉢。Ⅰ～Ⅱ期にあたり、外傾する口縁端部に波状文をもつ。

90号溝（ＳＤ90、第228図、図版100）

364・365は中世土師器の皿。363はＢ類、364はＩ類。366は瀬戸の瓶子。体部外面には灰釉が掛けられ、５条の沈線が廻る。

221号溝（ＳＤ221、第228図）

367は中世土師器。Ｂ類に分類される。368は珠洲。壺の底部で、底面は静止糸切り。

241号溝（ＳＤ241、第228図）

369～375は中世土師器。369～372・374・375はＢ類。376はＦ類。373はロクロ土師器で、回転糸切り底をもつ。

256号溝（ＳＤ256、第228図、図版96）

377は瓦質土器の火鉢。外面は黒色を呈し、磨かれている。378は珠洲。Ⅲ期の鉢で、放射線状におろし目が入れられている。

井戸

180号井戸（ＳＥ180、第229図）

379は中世土師器。Ｈ類に分類される。380は漆器。高台部分のみの出土であるため、全体形は不明である。381は珠洲の鉢。９条のおろし目が入れられている。

213号井戸（ＳＥ213、第229図）

382はＨ類の中世土師器。

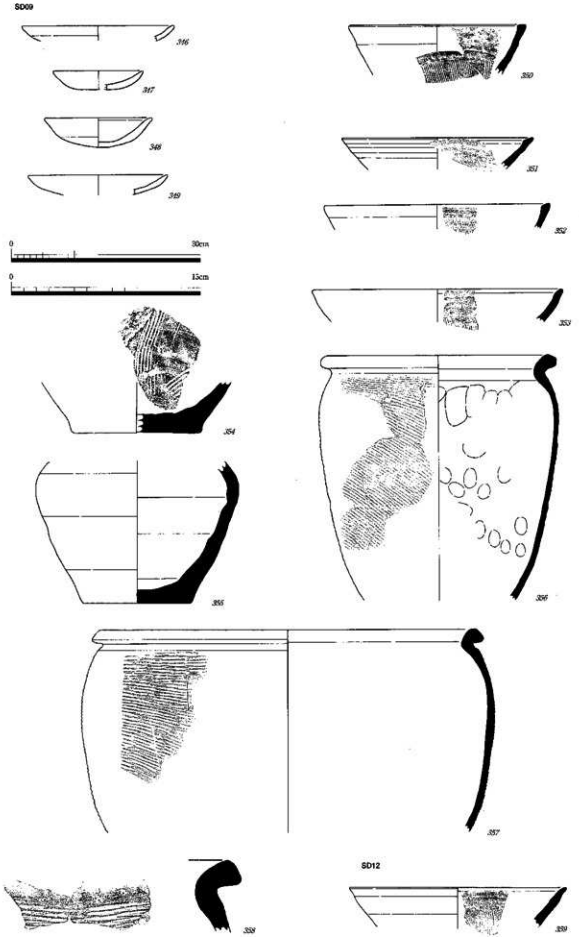
979号井戸（ＳＥ979、第229図）

383は曲物片。２箇所ある穴は、綴じ穴と思われる。表面に刻み目は見られない。

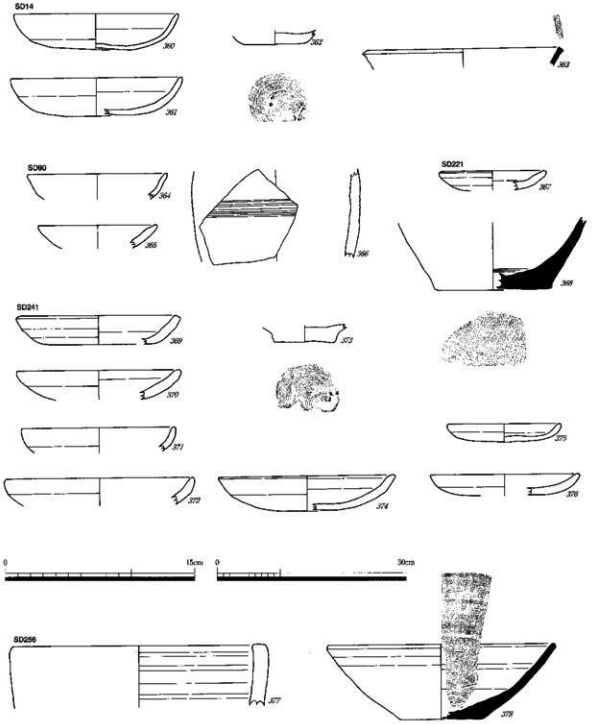
土坑

７号土坑（ＳＫ07、第230図）

384～387は珠洲。384は壺の体部で、外面に櫛描波状文が２列付けられている。385・386は鉢。385の底面近くには、成形後持ち上げた際の指跡が残っている。386はⅤ期にあたる。おろし目が密にいれられているが、見込みでは摩滅している。387はⅢ～Ⅳ期の甕。内面に当て具痕が残る。

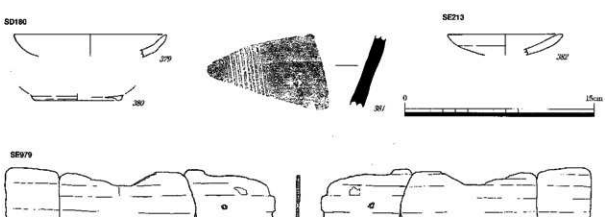


第227図　遺物実測図(中世末期～近世)(*346～349・354・355・358* 1/3, *350～353・356・357・359* 1/6)
SD09 (*346～358*)　SD12 (*359*)



第228図　遺物実測図（中世末期～近世）（*360～362・364～377*　1/3，*363・378*　1/6）
SD14（*360～363*）　SD90（*364～366*）　SD221（*367・368*）　SD241（*369～376*）　SD256（*377・378*）

13号土坑（ＳＫ13、第230図）
388はⅠ類の中世土師器。
123号土坑（ＳＫ123、第230図）
389はⅡ類の中世土師器。
125号土坑（ＳＫ125、第230図）
390はⅡ類の中世土師器。口縁の一部に煤が付着する。

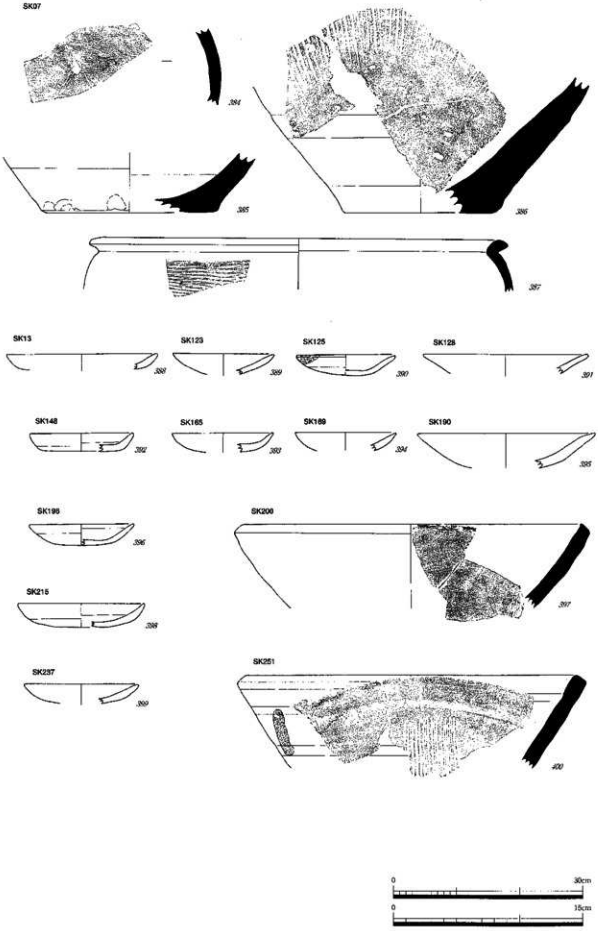


第229図　遺物実測図（中世末期～近世）（1/3）
SE180（*379～381*）　SE213（*382*）　SE979（*383*）

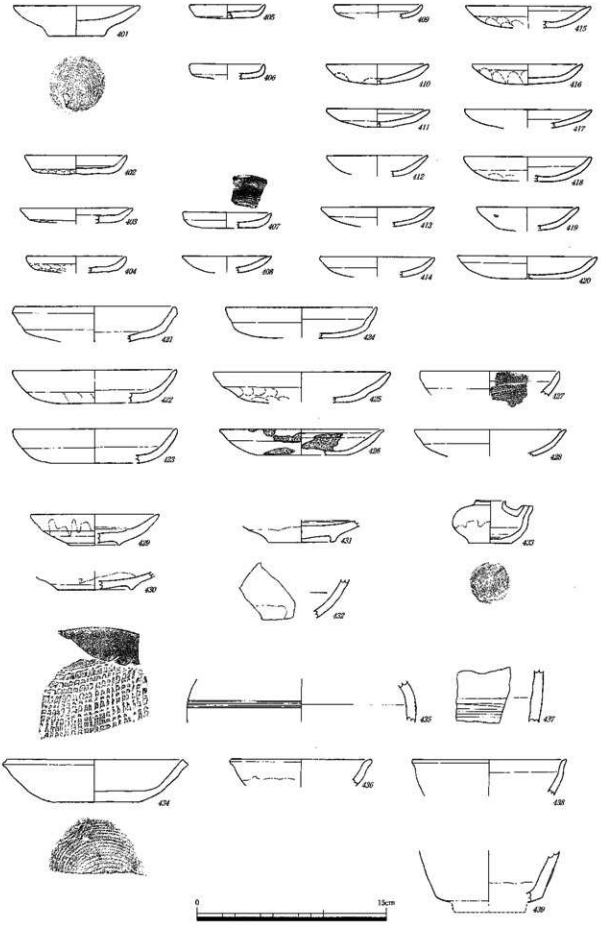
128号土坑（ＳＫ128、第230図）
391はＪ類の中世土師器。15世紀末に比定される。
148号土坑（ＳＫ148、第230図）
392はＢ類の中世土師器。
165号土坑（ＳＫ165、第230図）
303はＨ類の中世土師器。
169号土坑（ＳＫ169、第230図）
394はＩ類の中世土師器。
190号土坑（ＳＫ190、第230図）
395はＨ類の中世土師器。
196号土坑（ＳＫ196、第230図）
396はＨ類の中世土師器。16世紀に比定される。
200号土坑（ＳＫ200、第230図）
397は珠洲の鉢。Ⅰ～Ⅱ期に相当する。内面にユビナデの跡が残る。ＳＥ718出土の珠洲と接合した。
215号土坑（ＳＫ215、第230図）
398はＨ類の中世土師器。
237号土坑（ＳＫ237、第230図）
399はＩ類の中世土師器。
251号土坑（ＳＫ251、第230図、図版96）
400は珠洲の鉢。Ⅲ～Ⅳ期にあたる。体部外面の一部に煤が付着する。ＳＫ450出土遺物と接合した。

中世後期～近世の包含層（第231～235図、図版96～100）

401～428は中世土師器。401はロクロ土師器で、ＲＡ３類。底面は回転糸切り。402・403・421はＢ類。404～407はＤ類。407は内面にハケ目が見られる。408～417・427・428はＨ類。413・414は15世紀以降の遺物である。427は、内面ハケナデ。418はＩ類で、15世紀以降のもの。419・420・426はＪ類。426は内外面に煤が付着している。422・423はＥ類。424・425はＦ類。424は14世紀以降、425は16世紀代に比定される。429～433は越中瀬戸。429～431は皿。429・430の見込みには釉留めの段がある。432は天目茶碗の体部。鉄釉が掛けられており、漆継ぎの跡がある。433は水滴。口縁から肩にか



第230図　遺物実測図（中世末期～近世）（*384～386・388～400* 1/3，*387* 1/6）
SK07（*384～387*）　SK13（*388*）　SK123（*389*）　SK125（*390*）　SK128（*391*）　SK148（*392*）
SK165（*393*）　SK169（*394*）　SK190（*395*）　SK196（*396*）　SK200（*397*）　SK215（*398*）
SK237（*399*）　SK251（*400*）



第231図　遺物実測図（中世末期～近世）（1/3）
包含層